

令和5年度
豊田市男女共同参画社会に関する市民意識調査
報告書

令和6年3月

豊田市

- 目 次 -

I. 調査概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 調査対象及び調査方法.....	1
3 調査票の回収方法.....	1
4 報告書の見方.....	1
5 用語の解説.....	2
II. 総括.....	4
1 調査結果の総括.....	4
III. 調査結果（市民調査）.....	10
1 回答者の属性.....	10
2 男女平等観について.....	15
3 子どもの育て方について.....	27
4 男女の関わりについて.....	31
5 家庭や地域における男女の役割分担や考え方について.....	61
6 防災における男女共同参画について.....	79
7 職場における男女の役割分担や考え方について.....	81
8 ワーク・ライフ・バランスについて.....	93
9 女性の活躍推進について.....	100
10 DVについて.....	104
11 性的マイノリティについて.....	122
12 男女共同参画社会実現に向けた豊田市の取組について.....	130
13 その他・自由回答.....	139
IV. 調査結果（中学生調査）.....	158
1 回答者の属性.....	158
2 男女共同参画社会について.....	159
3 普段の生活について.....	162
4 仕事・将来について.....	170
5 デートDVについて.....	176
6 その他・自由回答.....	177
V. アンケート調査票（市民）.....	181
VI. アンケート調査票（中学生）.....	189

I. 調査概要

1 調査の目的

本調査は、「クローバープラン（第4次とよた男女共同参画プラン）：令和2－6年度」の計画期間終了（令和6年度）に伴い、家庭、地域、職場等における男女共同参画に関する市民の意識や男女の平等・社会参加の実態を調査したものです。本調査と過去の意識調査を比較・検証し、新プラン策定の基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査対象及び調査方法

	市民調査	中学生調査
調査対象者	市内在住の満18歳以上の男女	市内の中学校に通う男女
調査票配布数	4,000人	
調査期間	令和5年9月29日～令和5年10月20日	令和5年12月5日～令和5年12月15日
調査方法	郵送配布、回収は郵送方式及びWEB回答方式	WEB回答方式

3 調査票の回収方法

	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
市民調査	4,000	1,280	1,279	32.0%
中学生調査	504	357	357	70.8

4 報告書の見方

- ・ 本報告書では、設問ごとに全体の集計結果とクロス集計結果を記載しています。クロス集計結果では、性別等の不明・無回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。
- ・ グラフ中の「N」とは、Number of Casesの略で、各設問に該当する回答者総数を表します。
- ・ グラフ中の「%」は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つだけに○をつけるもの）であっても、合計が100%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（あてはまるものすべてに○をつけるもの等）は、「N」に対する各選択肢の回答者数の割合を示します。

5 用語の解説

●男女共同参画社会

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受し、共に責任を担う社会をいいます。（男女共同参画社会基本法第2条）

●固定的性別役割分担

男女を問わず個人の能力等によって役割の分担を決めることができることが適当であるにも関わらず、男性、女性という性別を理由として、役割を固定的に分けることをいいます。「男は仕事・女は家庭」「男性は主要な業務・女性は補助的業務」等は固定的な考え方により、男性・女性の役割を決めている例です。

●ドメスティック・バイオレンス（DV）

配偶者（事実婚、別居を含む）やパートナーなど親密な関係にある（あった）人から振るわれる暴力のことをいいます。暴力には殴る蹴るなどの暴力のみならず、威嚇する、生活費を渡さない、仕事につかせない、性行為の強要、外出や交友関係を制限して孤立させるといった精神的な苦痛や経済的な抑圧なども含まれます。また、子どもにも暴力をみせることも含まれます。親密な関係の男女間のことであっても、刑法に規定されている暴行、傷害、脅迫等の行為が行われた場合は犯罪となります。

●ワーク・ライフ・バランス

老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活などにおいて、自らが希望するバランスのとれた生活を送ることをいいます。そのような生活を実現させるためには、働き方の見直しや家庭における家族の役割分担などが必要とされています。

●性的マイノリティ（LGBTQ）

性的少数者ともいいます。LGBTQはレズビアン（女性同性愛者）・ゲイ（男性同性愛者）・バイセクシュアル（両性愛者）・トランスジェンダー（出生時の性別とは違う性別を自認している人）・クエスチョニング（自身の性自認や性的指向が定まっていない、意図的に定めていない人）の頭文字をとった言葉です。

●セクシュアル・ハラスメント

性的嫌がらせのことをいいます。相手の意に反した性的な性質の発言や行動で、身体への不必要な接触や性的関係の強要、性的な冗談やからかいなど、さまざまなものが含まれます。特に職場においては、意に反する性的な言動により、不利益を与えたり、就業環境を悪化させたりすることがあります。

●テレワーク

ICT（情報通信技術）を利用し、場所や時間を有効に活用できる柔軟な働き方を指します。家庭生活との両立による就労確保、高齢者・障がい者・育児や介護を担う人の就業促進、地域における就業機会の増加などによる地域活性化、余暇の増大による個人生活の充実、通勤混雑の緩和などの効果が期待されています。

●フレックスタイム

1週、1ヶ月等の一定の労働時間を定めておき、労働者がその範囲内で各日の始業及び終業の時刻を自分で選択して働く制度のことをいいます。

●とよた男女共同参画センター（キラッ☆とよた）

豊田市が設置・運営している男女共同参画社会実現のための拠点施設で、情報誌の発行、セミナー・講座やイベントの開催、団体活動支援などを行っています。

II. 総括

1 調査結果の総括

<①男女平等観について>

★家庭、職場、地域活動の場は改善傾向にあるものの、学校教育の場を除いて「男性優遇」の傾向は依然として強い。

○様々な分野における男女の地位の平等観については、学校教育の場においてのみ平等の割合が高く、その他の分野においては男性優遇の割合が高くなっている。特に政治においては7割が男性優遇と考えており、この割合は過去の調査からほとんど変わっていない。一方、中学生調査では家庭において平等の割合が高くなっており、学校生活や社会全体においては市民調査より女性優遇の割合が高くなっている。

○女性は男性優遇と感じていても男性は平等だと感じている、年代が上がるにつれて男性優遇と考える人が多いなど、性別や年代によっても認識に差が生じている。

○経年でみると、「家庭」「職場」「地域活動の場」で平等と感じる人が増加傾向にある一方で、「政治の場」「法律や制度」についてはほとんど変化が見られない。

<②子どもの育て方について>

★性別にとらわれず育てたいと思う人が半数以上となっている一方で、無意識のうちに女らしさ、男らしさにとらわれている。

○子どもは女らしさ、男らしさにとらわれず育てたいと考える人が半数以上となっており、特に女性や年代の若い人は性別にこだわらない育て方に賛同する人が多くなっている。

○性別に関わらず、子どもにはコミュニケーション力や優しさ・思いやりといった対人関係を円滑にする術を学んでほしいと思う人が多いものの、その他の項目をみると、女の子には明るさや素直さといった感情的なことを望み、男の子には決断力や経済力といった生きていくために必要なことを身につけてほしいと望む人が多く、性別による偏りが存在している。

○子どもは女らしさ、男らしさにとらわれず育てたいと考えている人でも、男の子、女の子に対して身につけてほしいことには差がある。

<③男女の関わりについて>

★子育てや家事については夫婦で協力して行うのが理想であるが、現状は女性が仕事を持ちながらも家族を優先させ、男性は家庭より仕事を優先させるという偏った状況となっている。

○考え方としては、子育てや家事を男性も行うことについては賛成する人が9割以上となっている。また、女性が積極的に社会に出ることについても8割前後が賛成している。一方で、男性や高齢者、共働きでない家庭において、女らしさや男らしさを求めたり、女は家事・男は仕事といった性別による固定観念を持っている人が多いが、経年比較をみると改善傾向にある。

○実際の行動については、女性が積極的に仕事を続け、かつ自分より家族を優先するという状況が多くなっている。また、40歳代以上において、男性が家庭よりも仕事を優先させたり、女性が介護をするなど性別による固定観念で行動している人が多くなっている。

<④家庭や地域における男女の役割分担や考え方について>

★家事、子育て等を夫婦共同で行うのが理想だが、現状では家事や子育て、介護は女性が、仕事や地域活動は男性が担っており、男性が家事や子育てをするためには夫婦のコミュニケーションや周囲の理解が必要である。地域活動においては男性が取り仕切る、女性がお茶くみや片付けをするなど、未だ性別による固定観念が根強く残っている。

○家事、子育て、介護、地域活動、仕事について全て夫婦共同で行うのが理想であり、経年比較をみてもその割合は増加傾向となっているが、現状では家事、子育て、介護を女性、地域活動や仕事は男性が担っていることが多い。

○夫婦や家族間でのコミュニケーションや職場の理解、男性自身の抵抗を無くすことが、男性の家事や子育てなどへの参画に必要と考えられている。また、未就学児がいる家庭からは労働時間の短縮やテレワークなどの多様な働き方が求められている。

○家庭の外での活動は約6割がしていない。活動している人について、女性はPTAの役員・委員、男性はボランティアやまちづくり活動、自治会等の地域活動を行っている人が多い。

○地域活動では男性が取り仕切って企画し決定することが多い。また、前回調査より大幅に減少したものの、女性がお茶くみや片付けをしている現状がある。女性はこの状況について改善すべきと思う人が最も多く、経年比較をみても年々増加している一方、仕方ないと諦めている人も多い。

○中学生調査において、家の手伝いをする割合は半数以上となっており、特に食事の支度や後片づけなど、性別に関わりなく手伝っている。一方で、食事の支度や後片づけ、洗濯、子どもの世話については母親、ゴミ出しやお金を稼ぐことは父親の役目と考えている人が多い。

<⑤防災における男女共同参画について>

★防災における男女共同参画を進めるためには、防災の政策や方針決定、運営の場に女性が参画し、女性の視点からの意見を取り入れる必要がある。

○防災に関する女性の視点からの意見を取り入れるためには防災の政策・方針決定の場及び避難所運営などの現場での女性の参画が必要である。

○男女共同参画の視点から見た避難所の運営について、男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置、女性と男性が共に参加し決定すること、生理用品や育児・介護用品のスムーズな配布などが必要なこととして挙げられている。

<⑥職場における男女の役割分担や考え方について>

★女性が結婚・出産に関わらず仕事を続けることに賛成する意見が増えている一方で、家事や子育てとの両立や会社への負担が懸念されており、それらを解消するため労働時間や保育の充実が求められている。職場における性別による違いについては市民調査と事業所調査で認識に差がある。

○女性が仕事を持つことについて、結婚・出産に関わらず仕事を続ける方がよいと考える人は性別に関わらず最も多い。また、豊田市は国や県よりもこの考えを持つ人が多い。中学生調査においてもこの考え方が最も多くなっているものの割合としては市民調査より低く、「子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい」が多くなっている。

○女性が仕事をしない方がよいと考える理由は、家事や子育てなど家庭のことと仕事を両立させるのは時間的・肉体的にも困難と考えるからである。また、30～60歳代では会社に負担をかけたくないという意見も多くなっている。

○結婚・出産後に女性が仕事をするために必要なこととして、在宅勤務や労働時間の変更、育児休業制度や保育所の充実が挙げられている。また、女性は放課後児童クラブなど小学生を対象とした保育の充実、男性は男性の育児休業の取得促進を求めている。

○職場での性別による違いがないと回答した割合は約4割となっている。違いがあるという意見について、若い世代では昇進や昇格、高齢層では賃金に差があるという回答が多い。また、事業所では性別による違いはないと思っていても、労働者は昇進や昇格、女性にお茶くみや雑用を割り振るといった性別による違いを感じており、認識に差がある。

<⑦ワーク・ライフ・バランスについて>

★仕事と育児・介護の両立を希望しているものの、直面した時に育児・介護のために仕事を辞めるという考えが女性に偏っている。また、育児や介護の休業制度を利用したい人は多いが、給与や昇進等への影響を懸念している。

○「産後パパ育休（出生時育児休業）制度」の認知度について、名前を知っている人は半数以上であったものの、制度の内容まで知っている人は2割以下となっている。

○仕事と育児・介護の両立については、両立を希望する人が最も多くなっているが、女性は続けたくても育児・介護のために辞めるしかないと考える人の割合が高くなっている。また、両立を希望するのは若い世代に多い。

○育児休業制度・介護休業制度の利用について、どちらも必要とする時に利用したいと考える人が7割程度と多くなっている一方で、特に20～40歳代で制度の利用によって給与や昇進・昇給等への影響が懸念する声が多くなっている。

○職場でのワーク・ライフ・バランスの推進について、支援していこうという雰囲気がある職場が4割と最も多く、経年比較をみても支援する雰囲気がある職場が増えている。一方で、支援していく雰囲気がない職場も約3割となっている。

<⑧女性の活躍推進について>

★女性に対する偏見や差別、昔の慣習やしきたりが依然として残っており、女性管理職が少ない理由についても固定的な役割分担によるものが大きい。女性の参画のためにはそれらを改善・解消していくことが必要である。

○女性の参画のためには、偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりの改善が最も重要となっている。家庭、職場、地域など様々な場所において性別による役割分担や性差別の意識をなくす必要がある。

○女性管理職が少ない理由として、家庭での役割があるため責任ある仕事をしていくのが困難であること、時間外労働・深夜業・出張・転勤等に対応できない、役職者になる前に退職する等が挙げられており、いずれも家庭での役割が男性より大きいためと考えられる。

<⑨DVについて>

★DVの相談窓口の認知度は、全国と比較して低く、特に男性や若い世代に知らない人が多いため周知していく必要がある。DV被害経験は30～50歳の女性で特に多いが、相談割合は減少傾向にあり、分かってもらえないといった諦めや家族などを巻き込みたくないといった理由から相談しないことが多い。匿名でいつでも相談できる、無料で支援を受けられる、同性の相談員の配置といった、安心して相談できる窓口の設置と同時にDV、ストーカー行為などへの対策が必要である。

○DVの相談窓口について、知らない人は6割以上で、特に男性、年代では18～20歳代で認知度が低くなっている。また、全国における認知度が7割台であるのに対し、豊田市の認知度は性別問わず3割台と非常に低くなっている。

○DVだと思いう行為について、身体的なものや精神的なものは9割以上、性的なものや経済的なものは8割以上といずれも割合が高くなっているが、70歳以上においては他の年代と比較してどの項目も低い割合となっており、DVの認識が薄い。

○デートDVについて言葉を認知している中学生は6割弱で、女性の方がやや認知度は高い。

○身体的暴力と精神的暴力の被害経験が1割以上となっている。また、全ての項目において女性、年代では30～50歳代で多くなっている。

○DV被害を受けた際に、相談しなかった人は6割以上となっており、前回調査よりも高い割合となっている。経済的暴力の被害者は他のDV被害者よりも相談する割合が高いが、それでも4割にとどまっている。

○DV被害を受けた際の相談先は友人・知人など身近な相手が多く、公的機関への相談は少ない。また、性別による差が大きくなっている。

○DV被害を受けた際に相談しなかったことについて、相談するほどのことではない、自分さえ我慢すればいいと思ったといった理由が多くなっている。また、女性は相談しても分かってもらえない、家族や他人を巻き込みたくないといった周囲に関する理由が多く、男性は世間体や自分にも悪いところがあるといった自身に関する理由が多くなっている。

○相談窓口などで配慮してほしいことは、24時間相談できる、匿名で相談できる、無料で支援が受けられるといった理由が多くなっている。また、女性は同性の相談員を希望する人が多い。

○女性に対する暴力の根絶を図るためには、配偶者や元配偶者などからのDV、ストーカー行為、性犯罪や性暴力への対策が必要と考える人が多くなっている。

<⑩ 性的マイノリティについて>

★性的マイノリティに関する言葉として、カミングアウトやLGBTQの認知度は非常に高く、特に若い世代ほど認知度が高い。また、現状、性的マイノリティの方が生活しづらい社会だと感じる人が多いものの、わずかながら改善傾向にある。また、若い世代で自身の性的指向に悩んだ経験がある人が増えており、今後のためにも法の整備や学校教育などで偏見や差別を解消していく必要がある。

○性的マイノリティに関する言葉の認知度について、カミングアウト、LGBTQの認知度が約8割～9割弱となっている一方でSOGI、アウティング、アライの認知度は半数に満たない。また、これらの言葉は年代が上がるにつれて認知度が低くなっている。一方、中学生調査ではSOGI、アウティング、アライは市民調査よりも認知度が大きく上回っており、世代による認知度の差が感じられる。

○中学生は性的少数者に関する情報を主に学校やテレビ（報道・教養番組）で見聞きしている。

○性的指向に悩んだ経験がある人は、若い世代ほど多くなっている。

○性的マイノリティの人が生活しづらいと思う割合は7割弱となっており、特に20～50歳代で高くなっている。経年比較をみると、少しずつだが生活のしづらさは改善されてきていると考えられる。

○中学生調査において、身近な人から性的少数者であることを打ち明けられても今まで通り付き合う、手助けするといった考えの人が多く、性的マイノリティに対する偏見などはあまりないと思われる。

○性的マイノリティの人が生活しやすくなるために、法律や条例等の整備によって偏見や差別を解消していく必要がある。また、学校での教育や職場で働きやすい環境づくりが求められている。

<⑪ 男女共同参画社会実現に向けた豊田市の取組について>

★妊娠や出産、子育てに関する取組は満足度が高いが、多様な働き方や男性の家事・育児参加に関する取組は不満が出ており、これらの取組を強化していくことが重要である。

○豊田市が実施している取組(事業)について、妊婦の健康や子育て支援、高齢者の健康に関する取組の満足度が高くなっている。一方、ワーク・ライフ・バランスの理解促進や男性の家事・育児参加に関しては不満を感じている人が多くなっている。

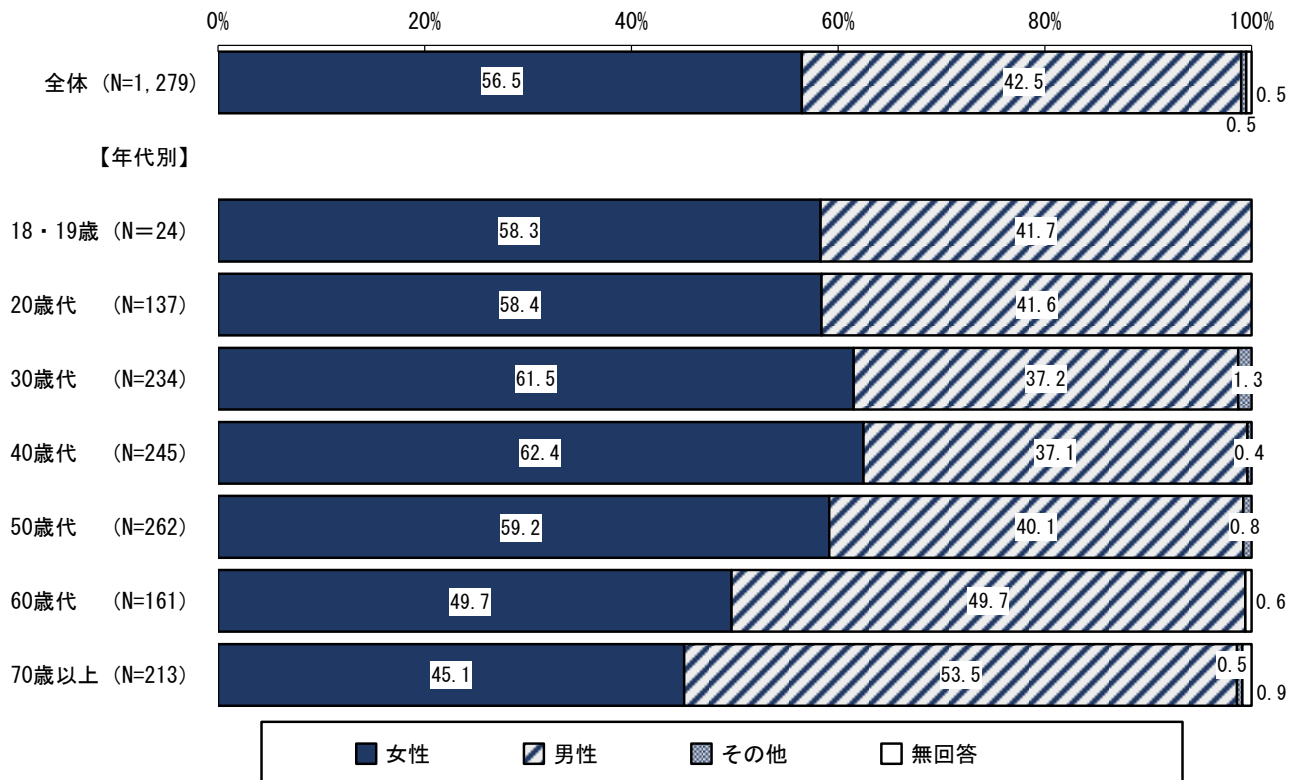
○豊田市の男女共同参画社会の実現において、子育て支援やワーク・ライフ・バランスの理解促進、女性の就労支援といった、多様な働き方に関する取組(事業)が重要である。

III. 調査結果（市民調査）

1 回答者の属性

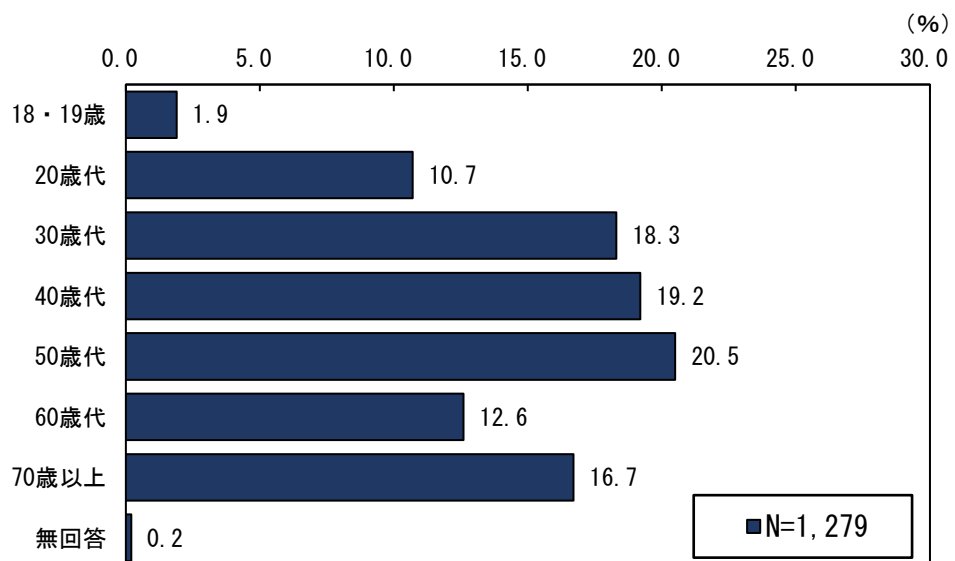
F 1 性別

図表 1 性別



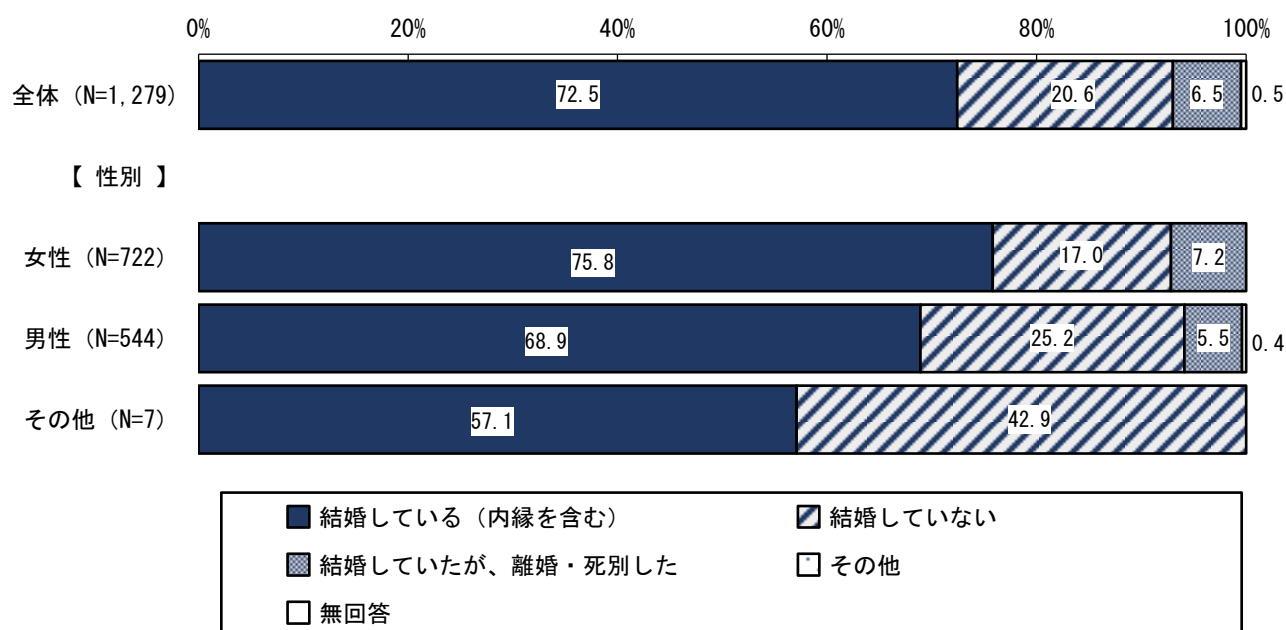
F 2 年齢

図表 2 年齢



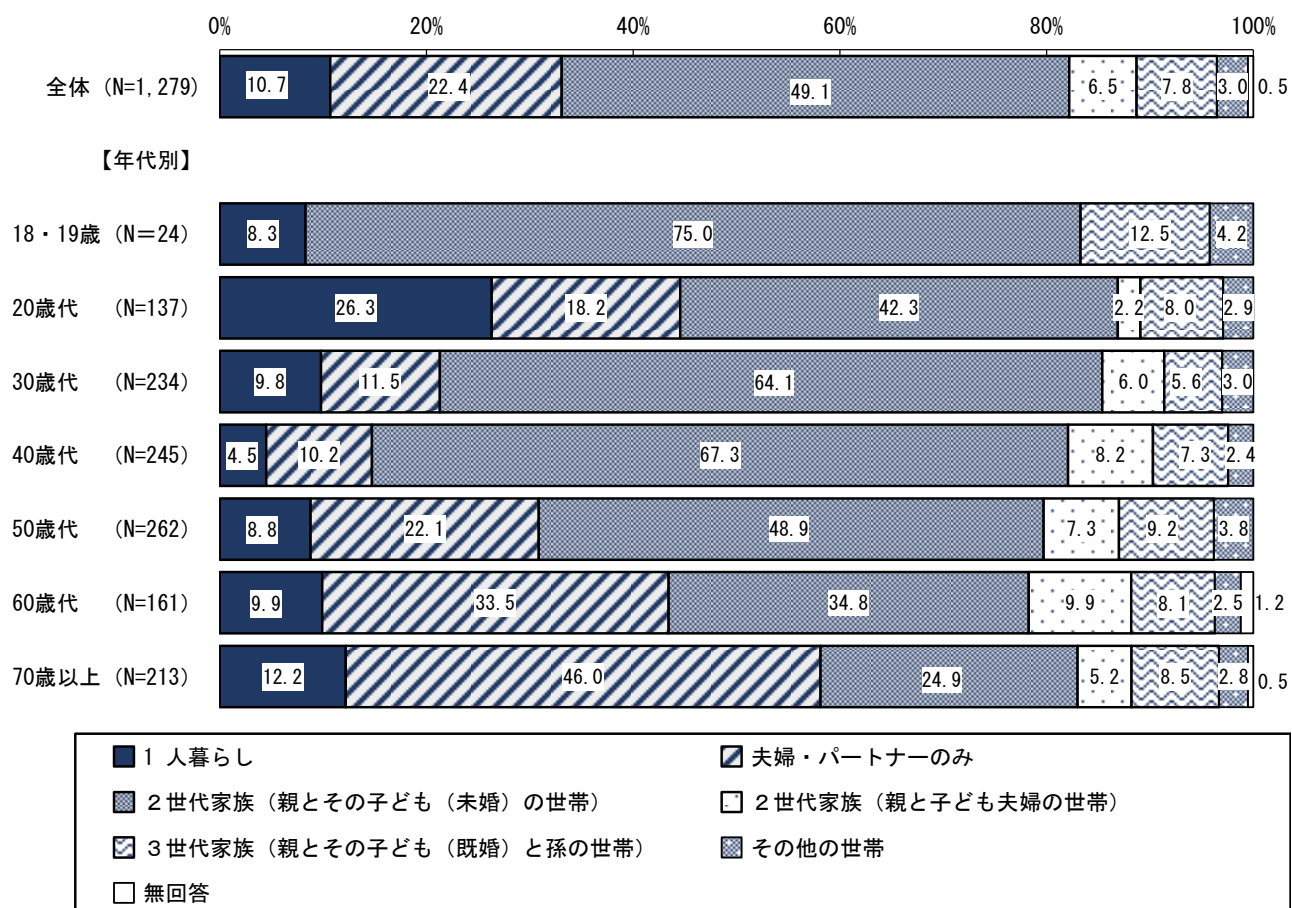
F 3 現在結婚しているか

図表 3 未婚・既婚の別



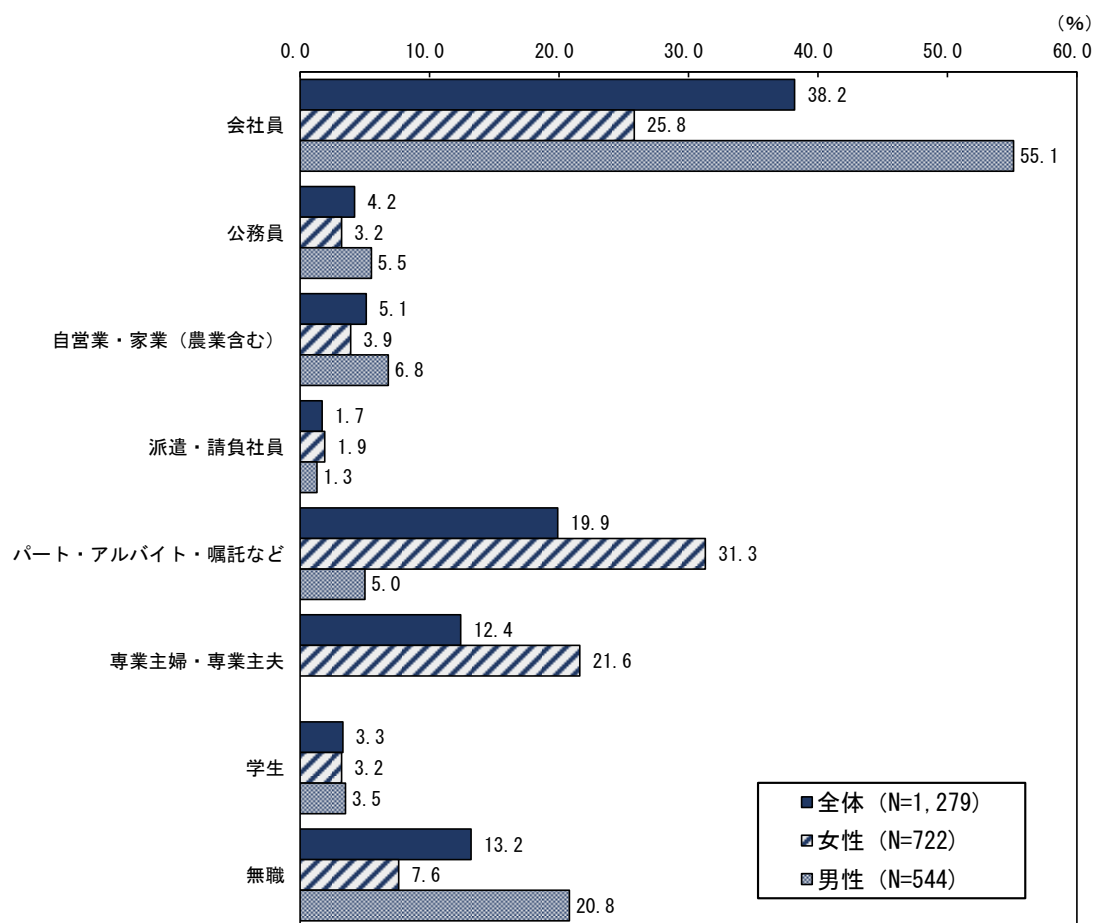
F 4 家族構成

図表 4 家族構成



F 5 回答者の職業

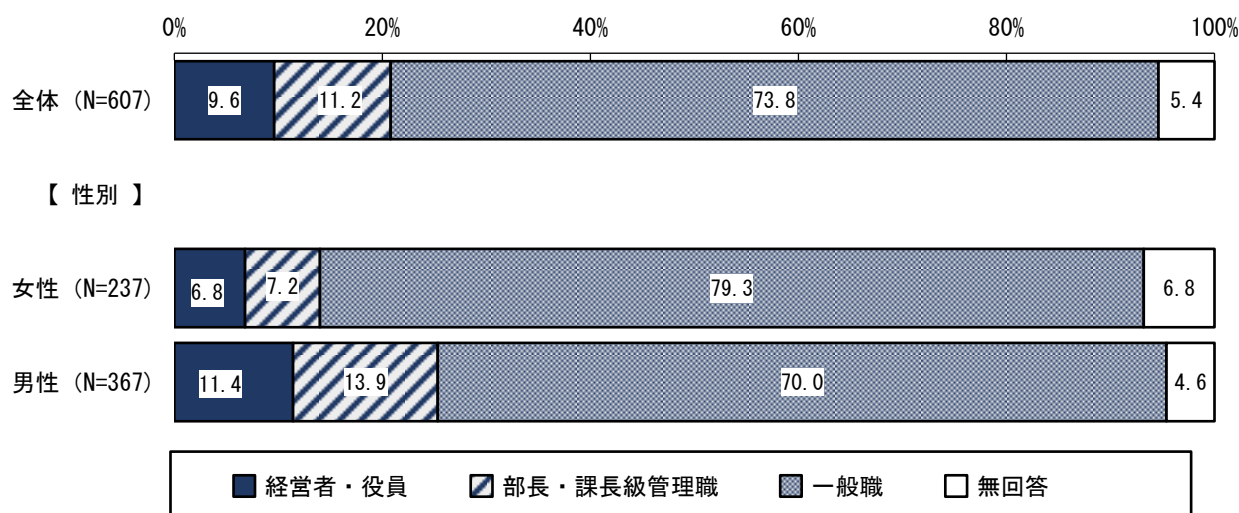
図表 5 職業



【F 5で「会社員」「公務員」「自営業・家業（農業含む）」と回答された方のみ】

F 5-2 回答者の職場における立場

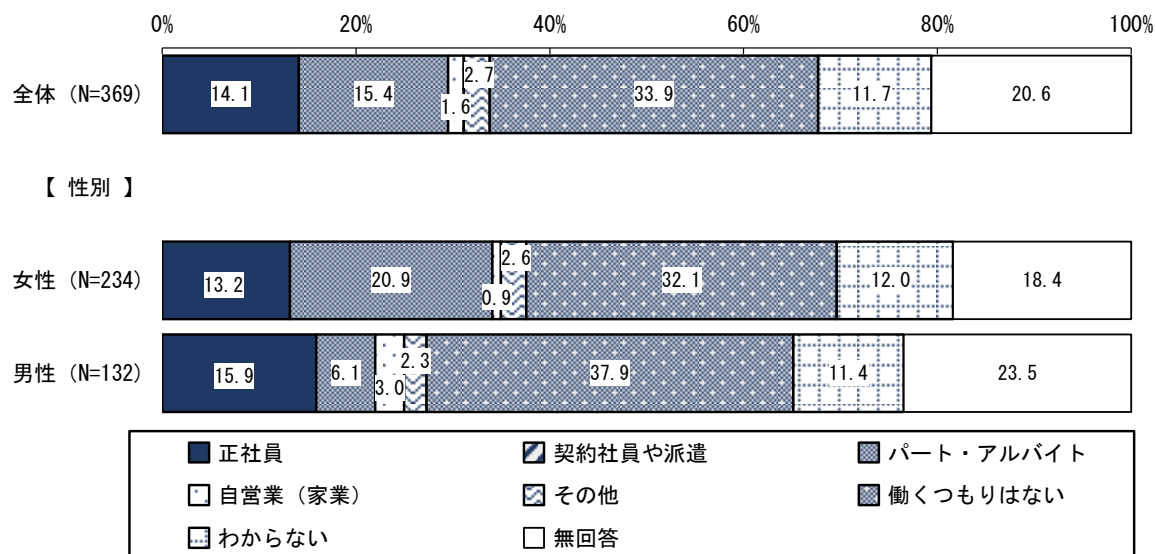
図表 6 職場における立場



【F 5で「専業主婦・専業主夫」「学生」「無職」と回答された方のみ】

F 5-3 将来どのように働きたいか

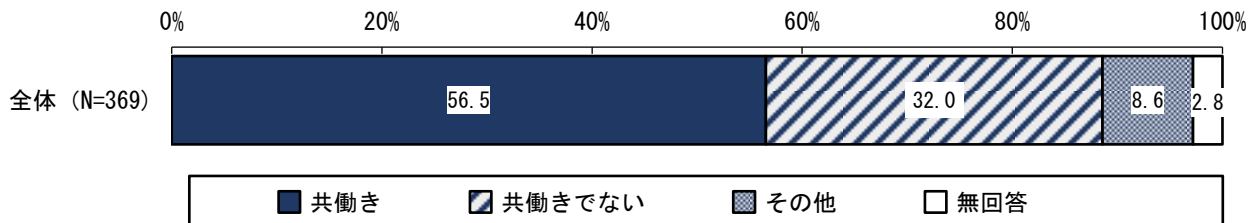
図表 7 将来どのように働きたいか



【F 3で「結婚している（内縁を含む）」と回答された方のみ】

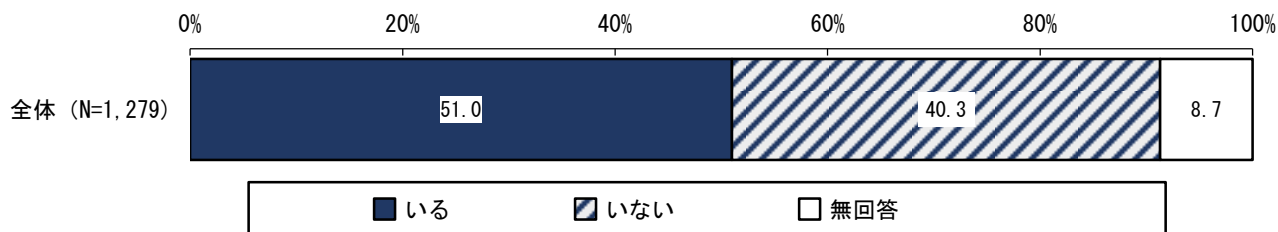
F 6 夫婦の働き方

図表 8 夫婦の働き方



F 7 同居している子どもの有無

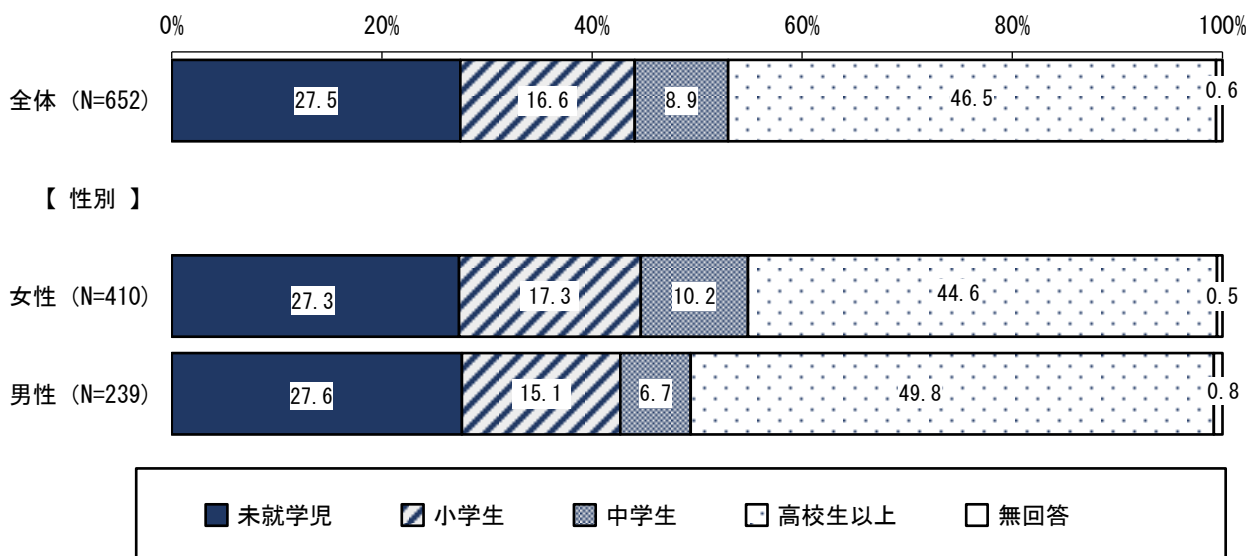
図表 9 同居している子どもの有無



【お子さんがいる方のみ】

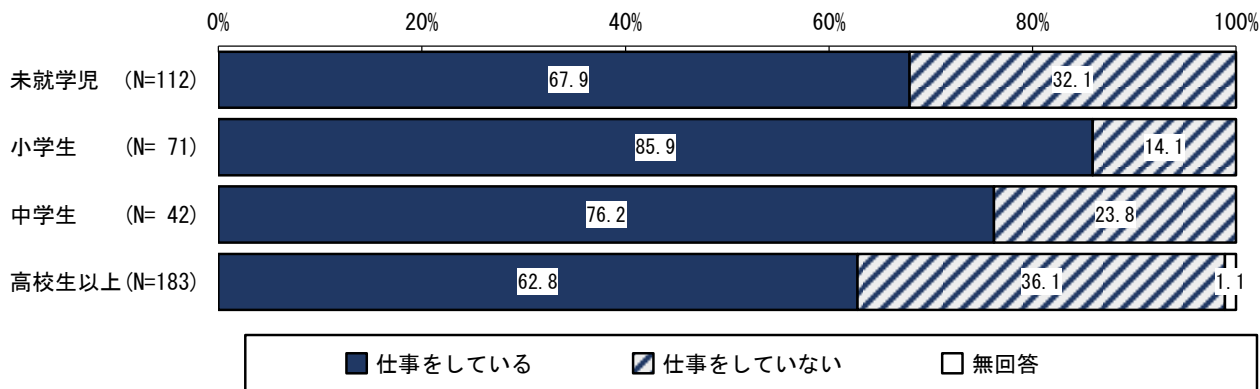
F7-2 いちばん下の子どもの年代

図表 10 いちばん下の子どもの年代

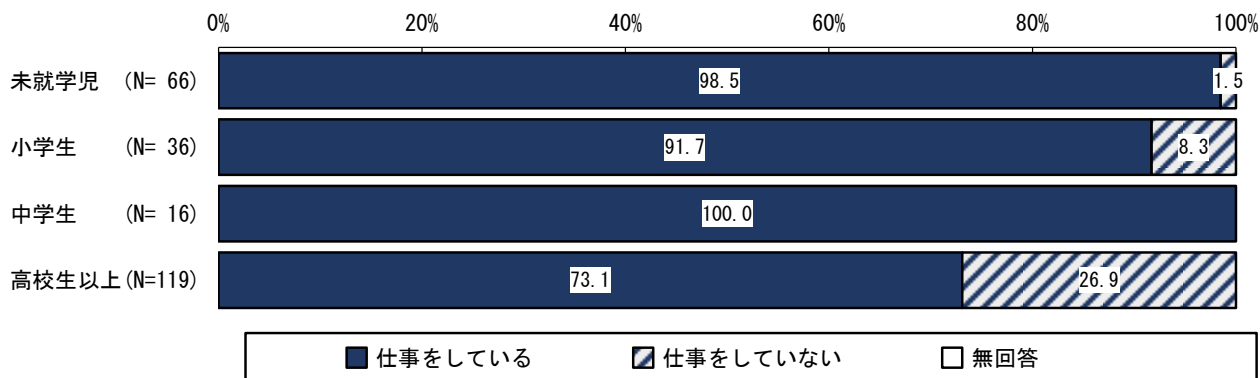


図表 11 いちばん下の子どもの年代(就労状況別)

【女性】



【男性】



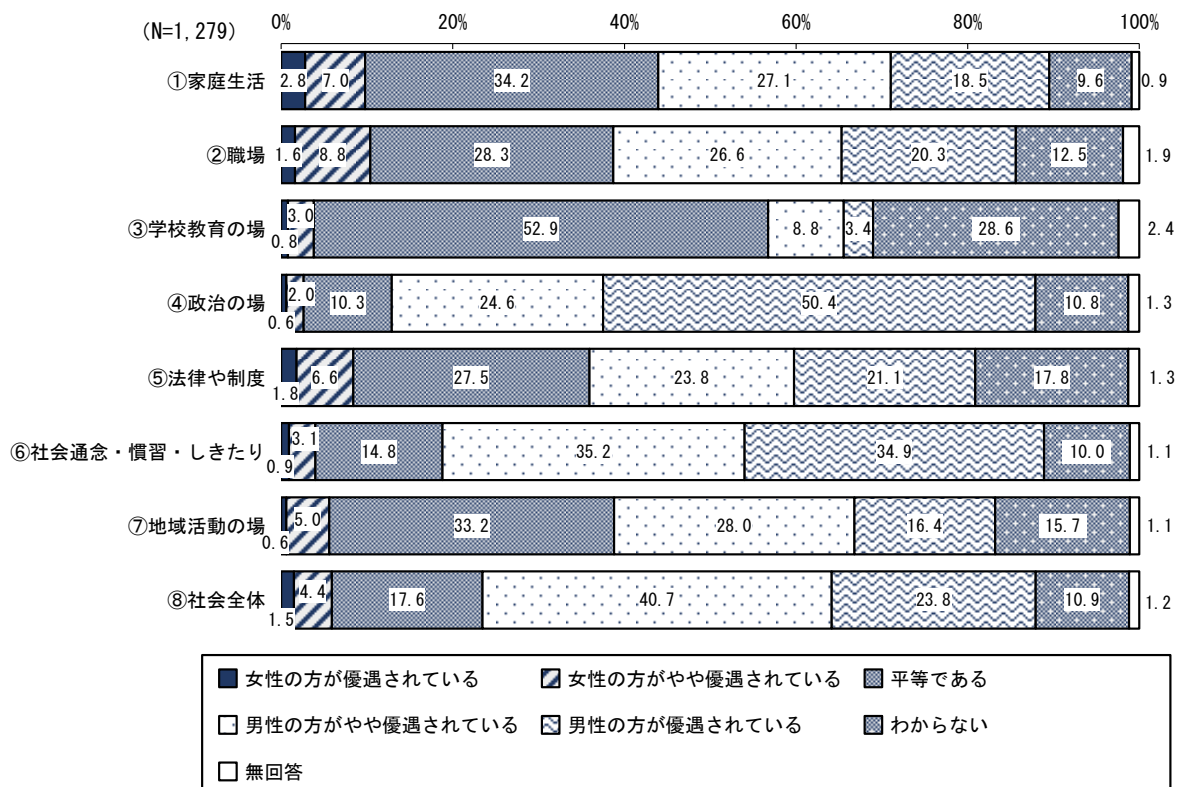
2 男女平等観について

問1 ①～⑧の分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

「③ 学校教育の場」を除く項目において男性優遇と考えられている

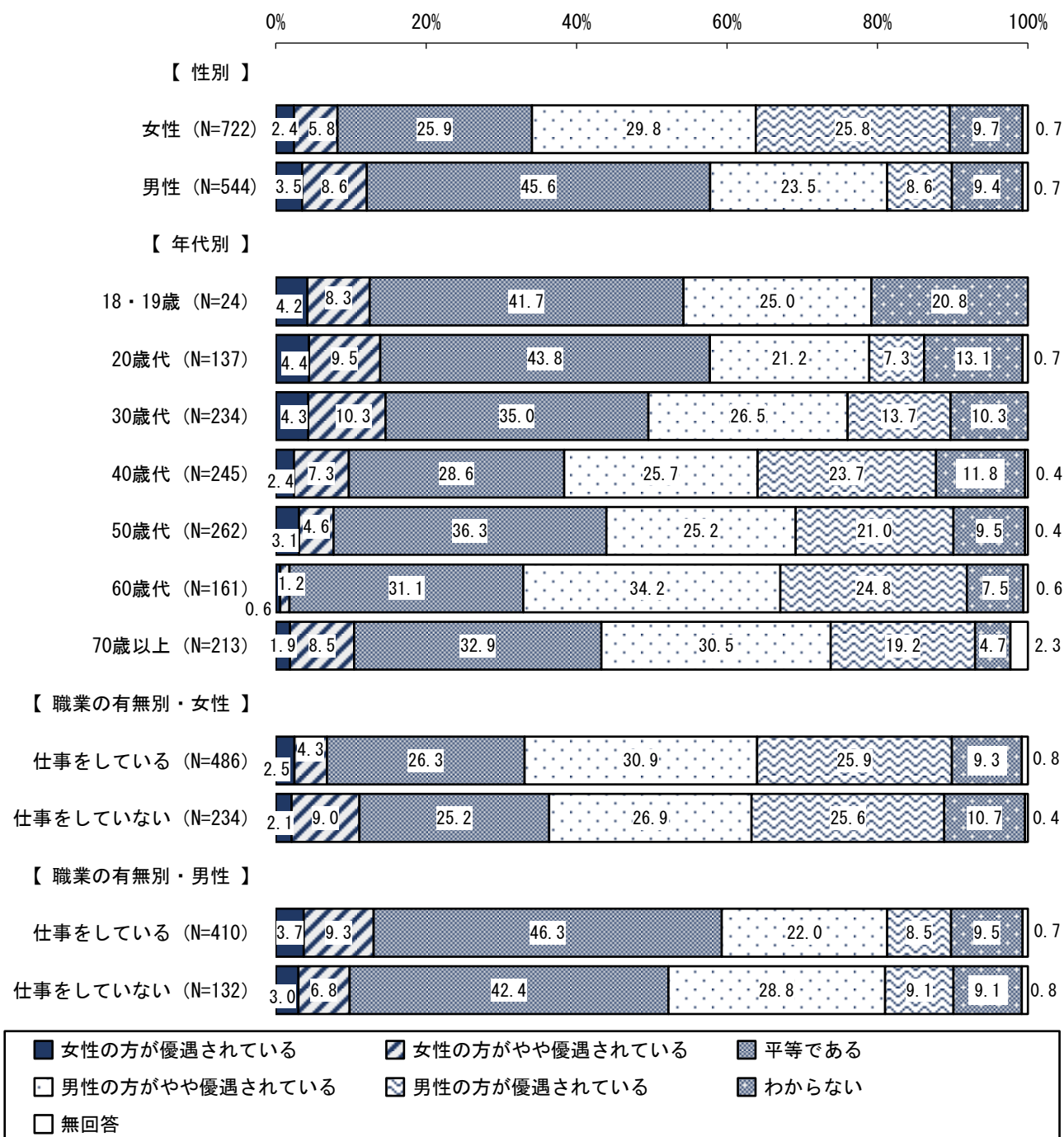
- 男性が優遇されていると思う分野は「④政治の場」が75.0%で最も多く、次いで「⑥社会通念・慣習・しきたり」が70.1%、「⑧社会全体」が64.5%となっている。
- 「③学校教育の場」は平等であると思う人が52.9%と半数を超えている。
- 女性は「③学校教育の場」を除くすべての項目で男性優遇と感じている人が最も多い。対して男性は「①家庭生活」「③学校教育の場」「⑤法律や制度」「⑦地域活動の場」では平等であると考えの人が最も多くなっている。
- 全ての項目で年代が上がるにつれて男性優遇と感じる人が多い傾向となっている。
- 「②職場」について、仕事をしている男性は平等と感じている人が多く、仕事をしていない男性は男性優遇と感じている人が多い。
- 国・県との比較をみると、「④政治の場」における男性優遇と考える人の割合は、全国では5割だが、愛知県と豊田市では7割以上と多くなっている。一方で、「⑧社会全体」において平等であると考える人の割合は全国や愛知県で1割強にとどまっているが、豊田市では3割強となっている。
- 経年比較をみると、平成15年度以降、「①家庭生活」「②職場」「⑦地域活動の場」で「平等である」と回答した人の増加の割合が他の項目よりも増加している。一方で「④政治の場」「⑤法律や制度」はほとんど割合が変わっていない。

図表 12 男女平等観について



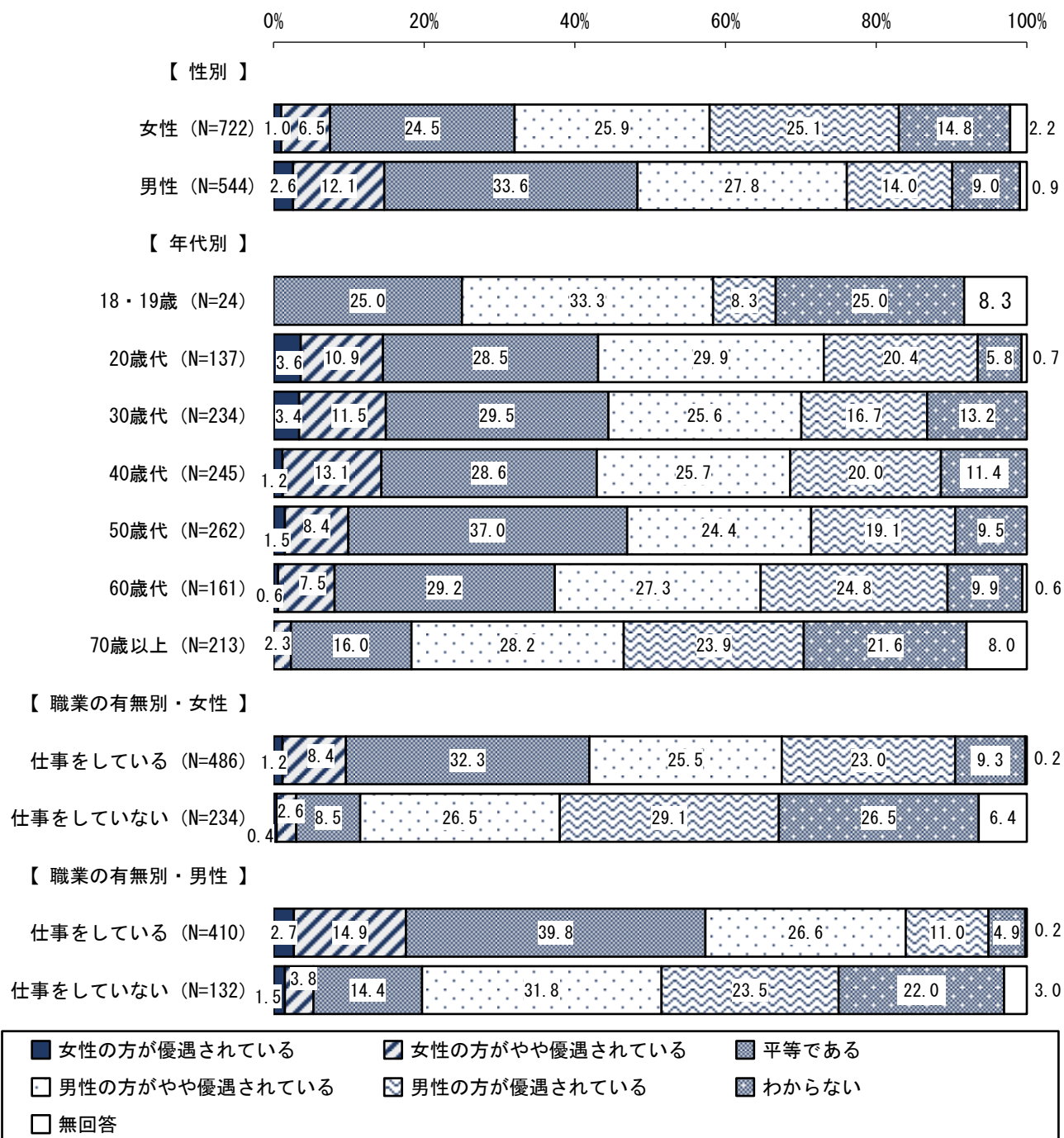
【① 家庭生活】

図表 13 ①家庭生活（性別・年代別・職業の有無別）



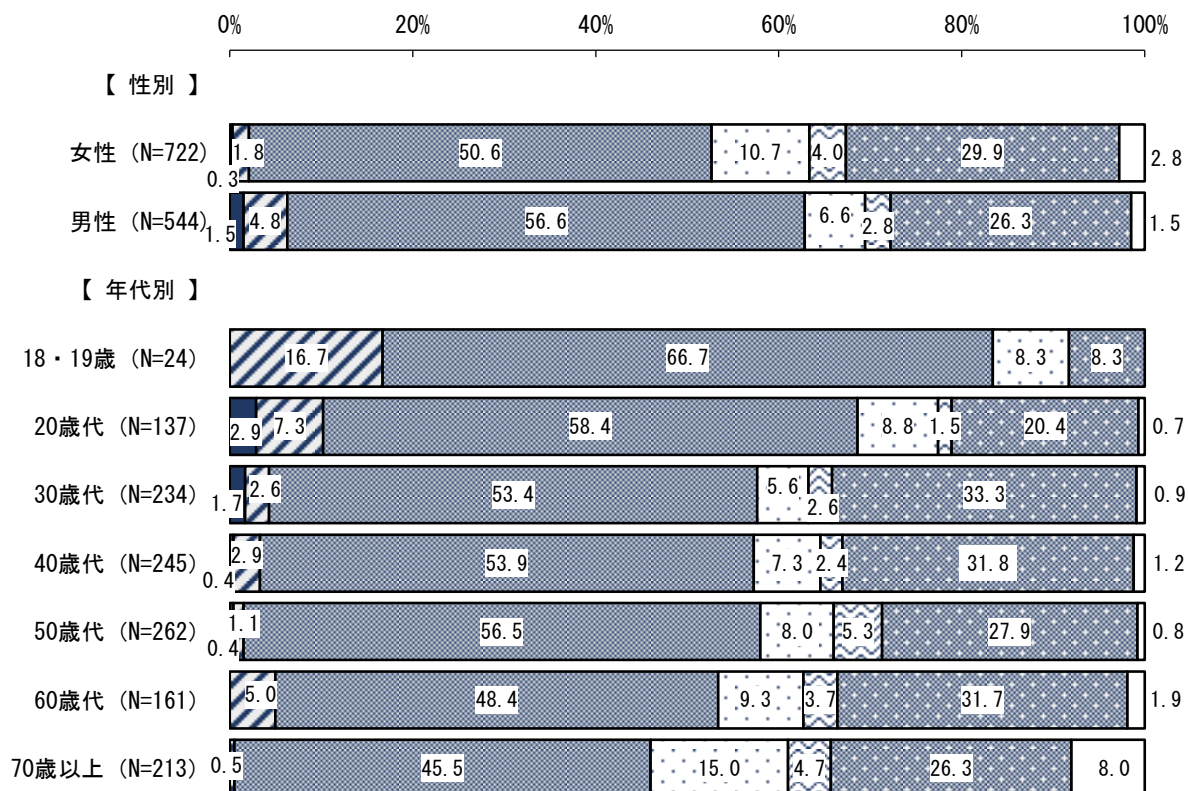
【② 職場】

図表 14 ②職場（性別・年代別・職業の有無別）



【③ 学校教育の場】

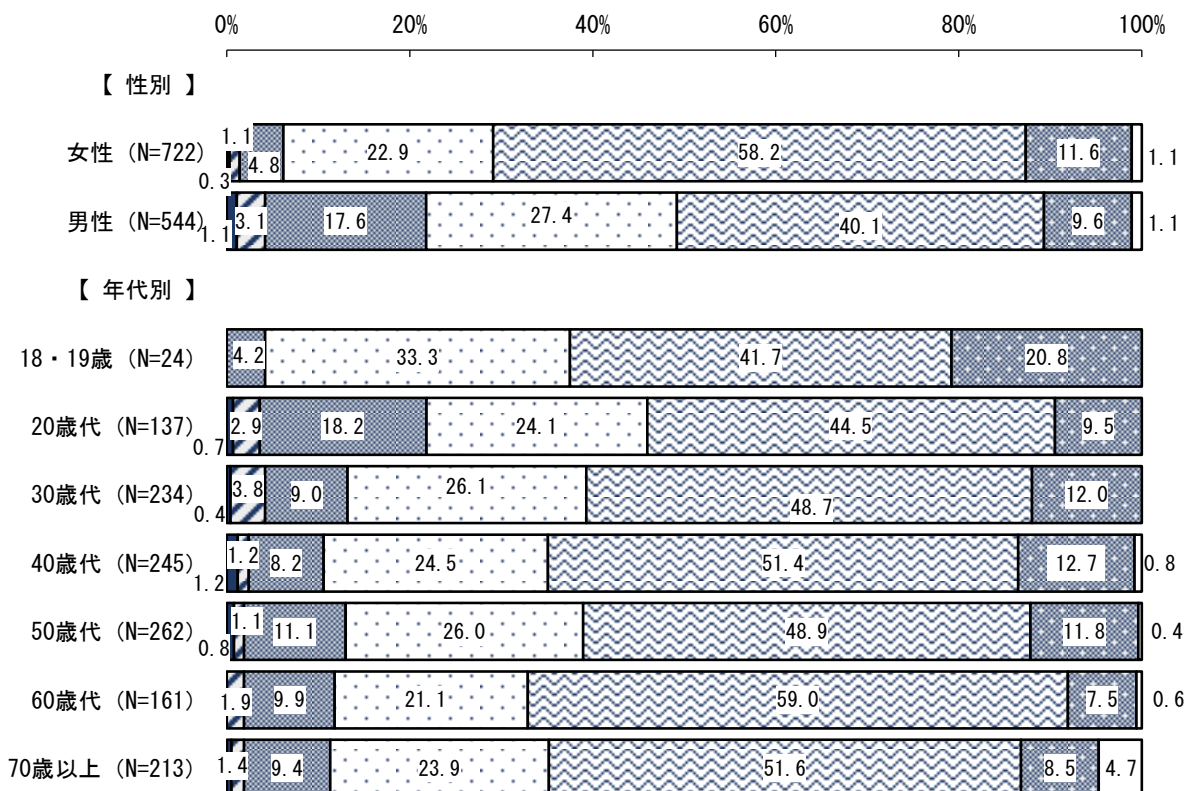
図表 15 ③学校教育の場(性別・年代別)



■ 女性の方が優遇されている ■ 女性の方がやや優遇されている ■ 平等である
 □ 男性の方がやや優遇されている ■ 男性の方が優遇されている ■ わからない
 □ 無回答

【④ 政治の場】

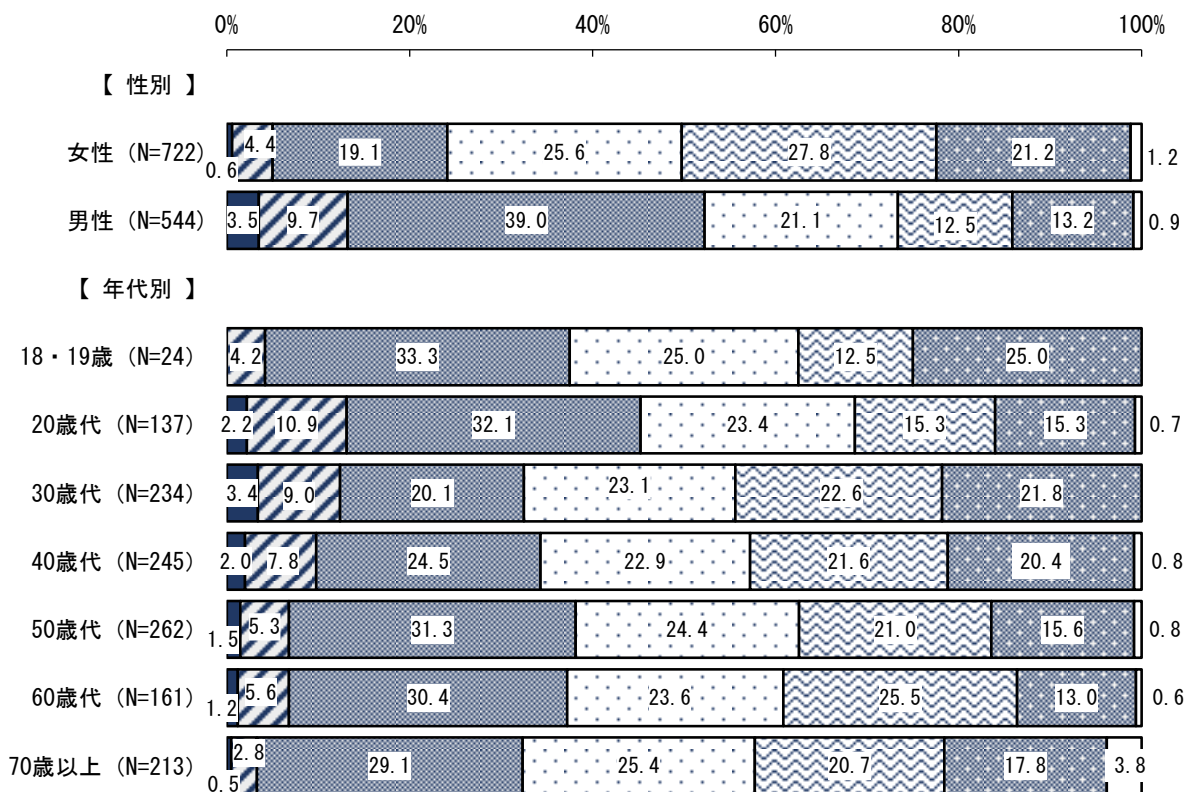
図表 16 ④政治の場(性別・年代別)



- | | | |
|------------------|------------------|---------|
| ■ 女性の方が優遇されている | ■ 女性の方がやや優遇されている | ■ 平等である |
| □ 男性の方がやや優遇されている | ■ 男性の方が優遇されている | ■ わからない |
| □ 無回答 | | |

【⑤ 法律や制度】

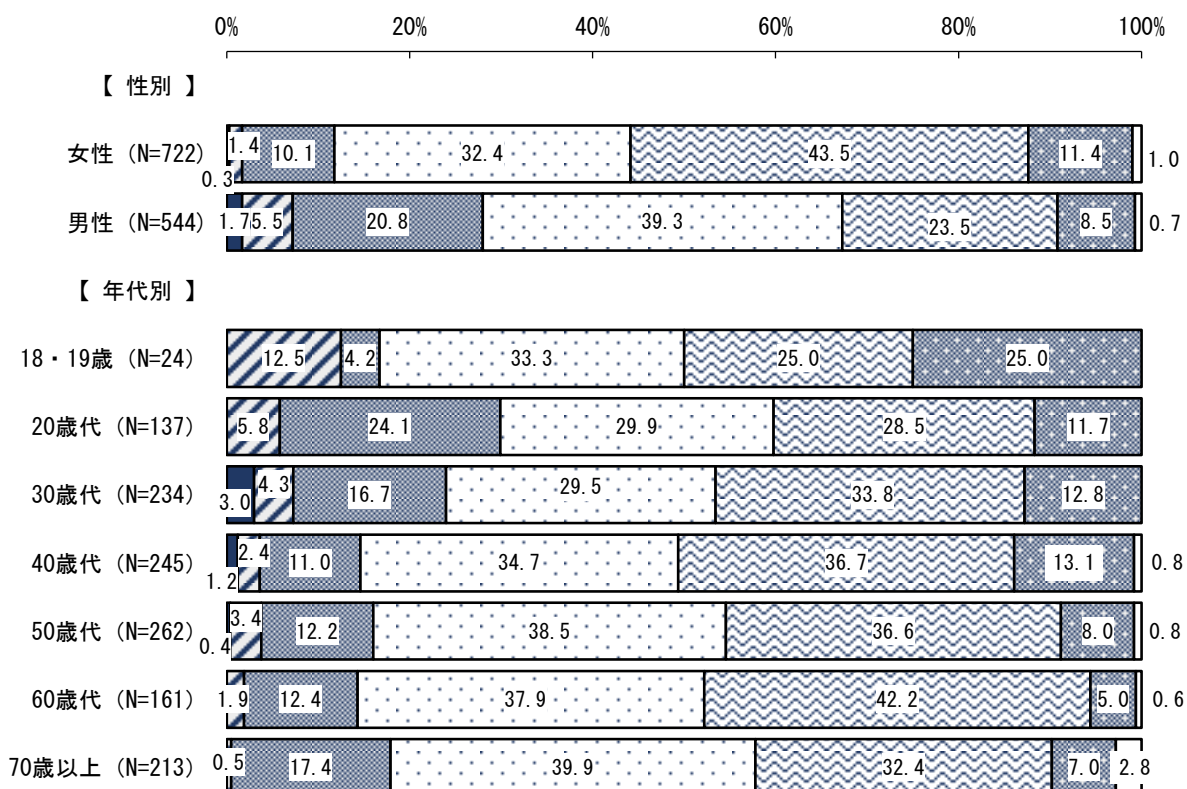
図表 17 ⑤法律や制度（性別・年代別）



- | | | |
|------------------|------------------|---------|
| ■ 女性の方が優遇されている | ■ 女性の方がやや優遇されている | ■ 平等である |
| □ 男性の方がやや優遇されている | ■ 男性の方が優遇されている | ■ わからない |
| □ 無回答 | | |

【⑥ 社会通念・慣習・しきたり】

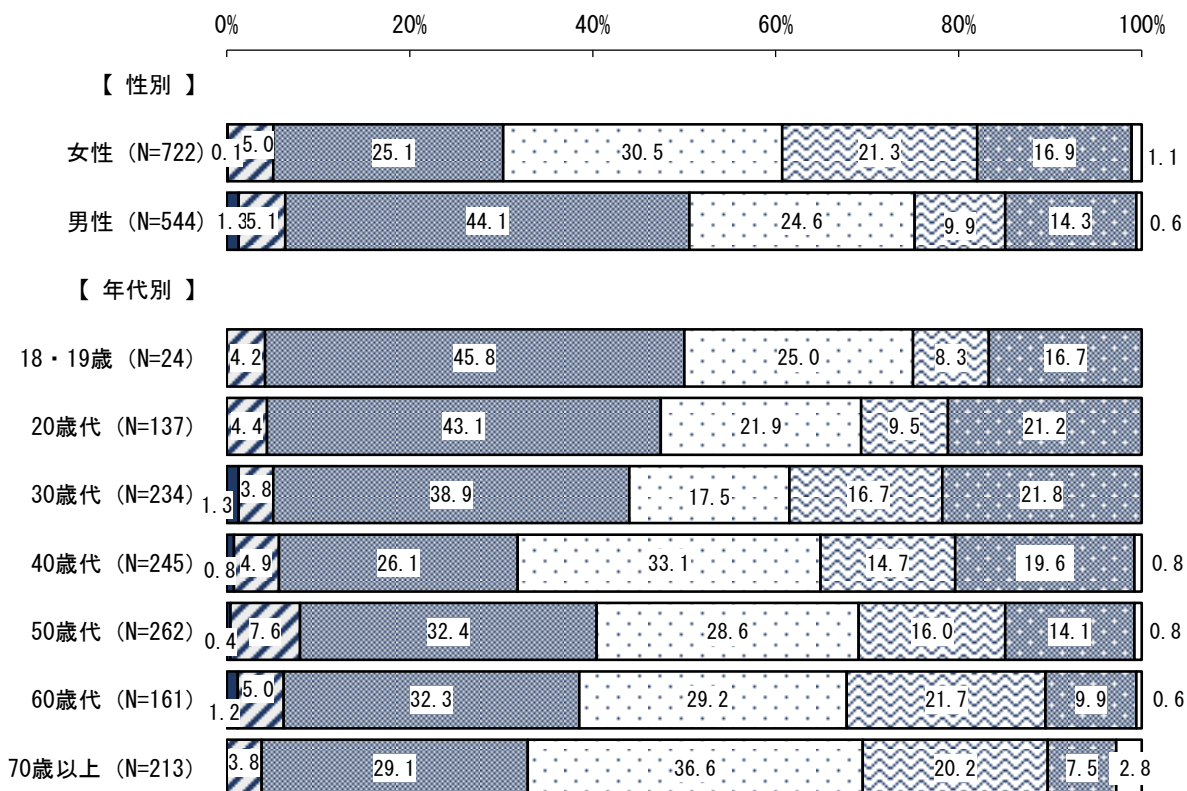
図表 18 ⑥社会通念・慣習・しきたり(性別・年代別)



- 女性の方が優遇されている
- 女性の方がやや優遇されている
- 平等である
- 男性の方がやや優遇されている
- 男性の方が優遇されている
- わからない
- 無回答

【⑦ 地域活動の場】

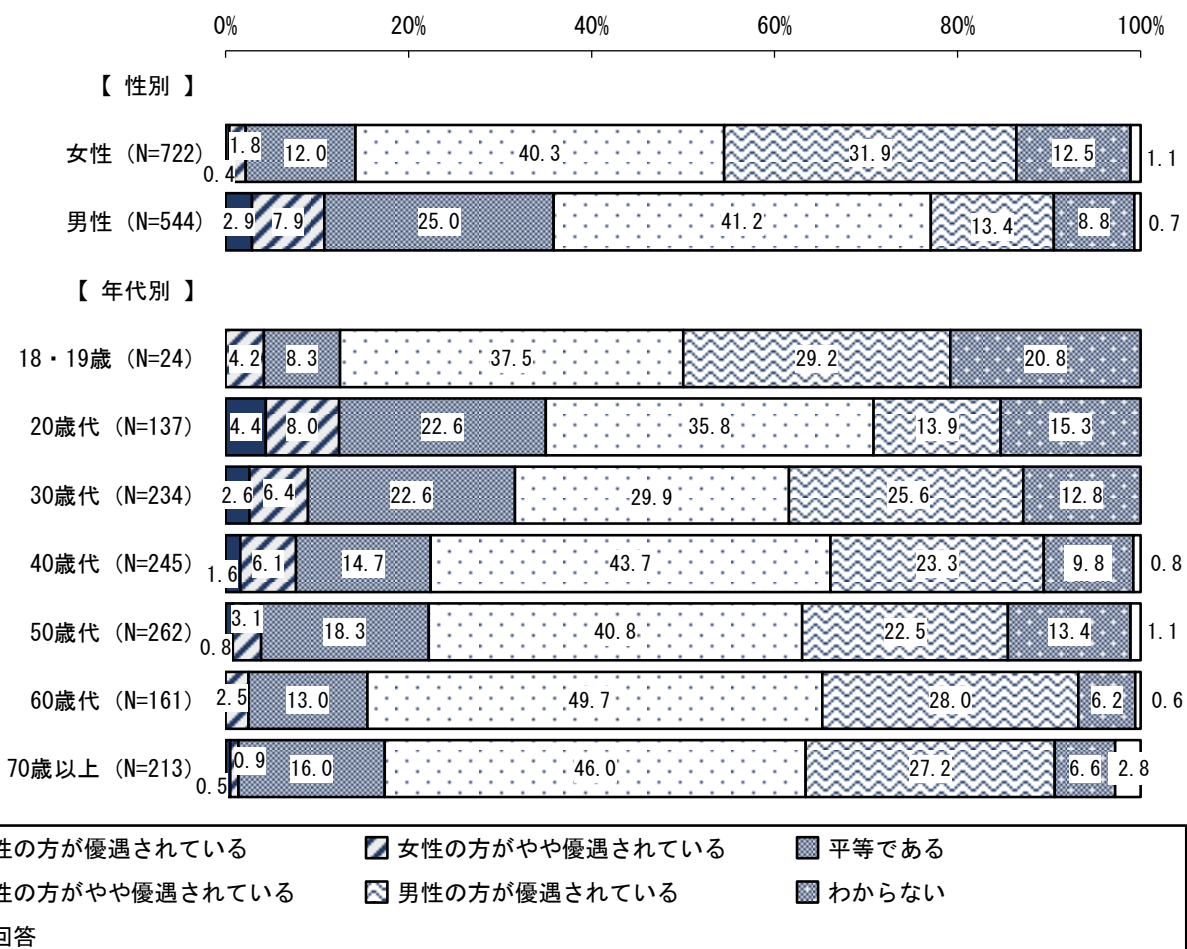
図表 19 ⑦地域活動の場(性別・年代別)



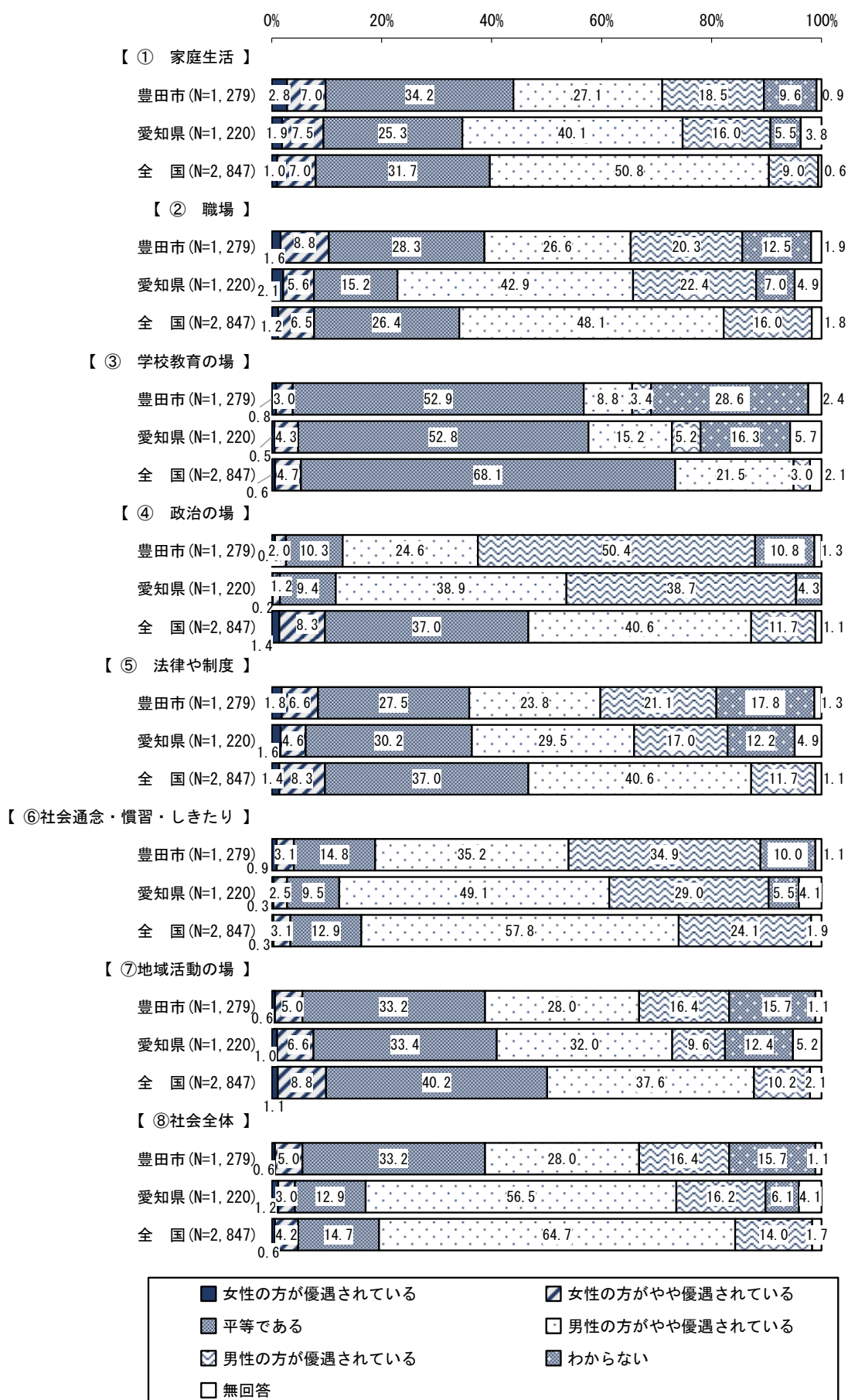
☒ 女性の方が優遇されている
 ☒ 女性の方がやや優遇されている
 ☒ 平等である
☐ 男性の方がやや優遇されている
 ☒ 男性の方が優遇されている
 ☒ わからない
☐ 無回答

【⑧ 社会全体】

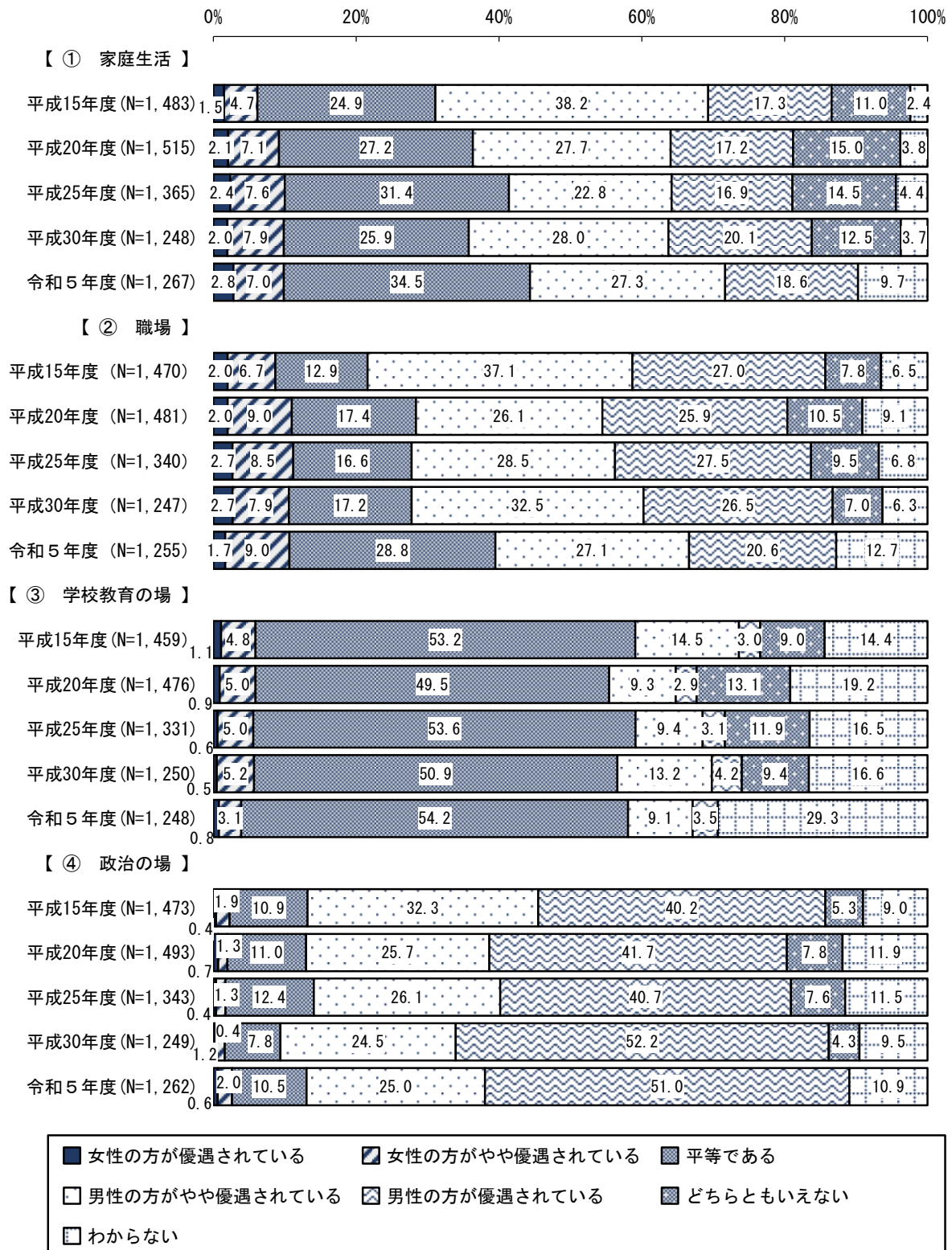
図表 20 ⑧社会全体(性別・年代別)



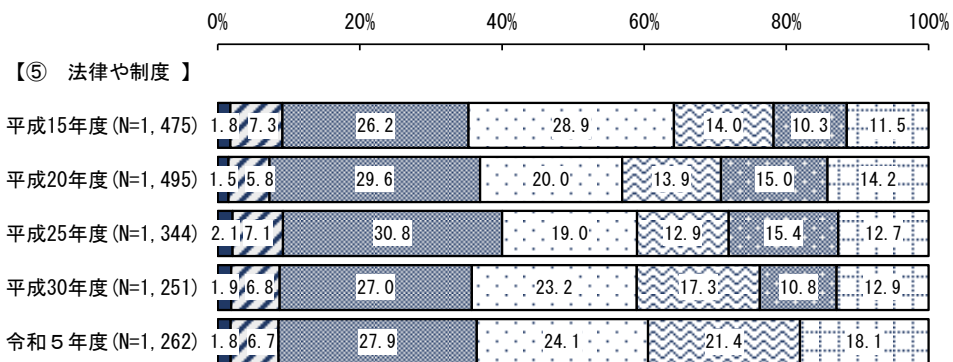
図表 21 男女平等観について(国・県比較)



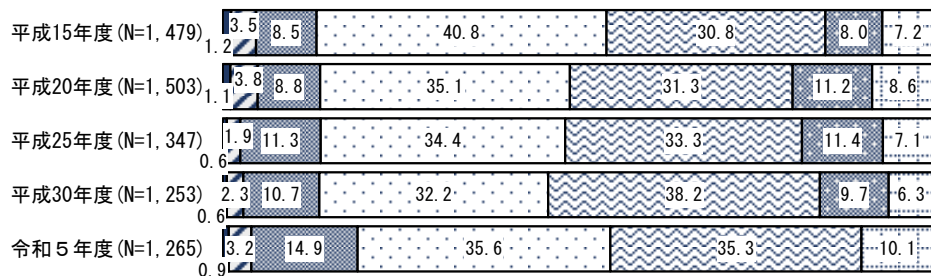
図表 22 男女平等観について(経年比較)



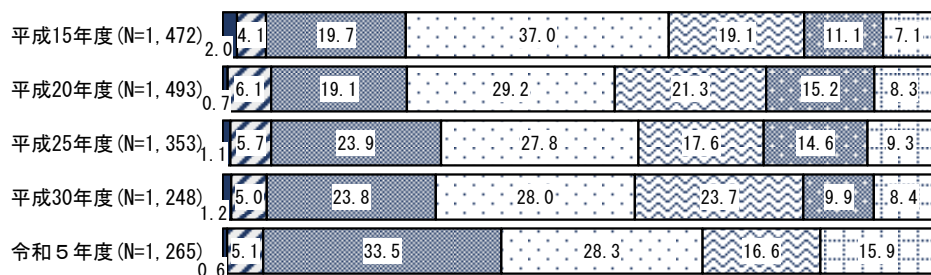
※令和5年度は「どちらともいえない」選択肢なし



【⑥ 社会通念・慣習・しきたり】



【⑦ 地域活動の場】



■ 女性の方が優遇されている ■ 女性の方がやや優遇されている ■ 平等である
 □ 男性の方がやや優遇されている ■ 男性の方が優遇されている ■ どちらともいえない
 ■ わからない

※経年比較は前回までと集計方法を合わせるため、「無回答」を省いた数値となっている。
 ※「⑧社会全体」は前回までの調査には項目がなかったため、経年比較では未記載

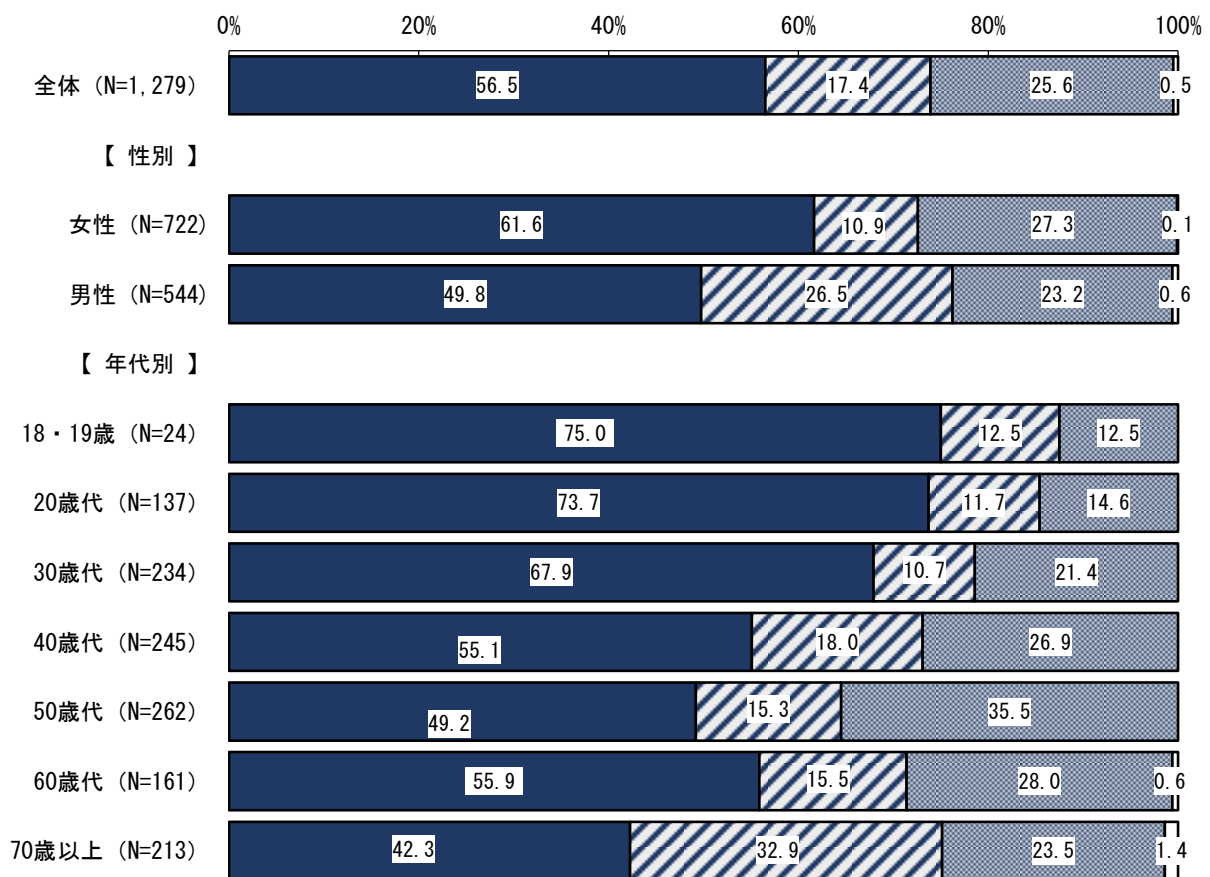
3 子どもの育て方について

問2 「女の子は女らしく、男の子は男らしく」という子どもの育て方について、あなたはどのように考えますか。

「女らしさ、男らしさにとらわれず、育てた方がよい」が半数以上

- 子どもの育て方については、「女らしさ、男らしきにとらわれず、育てた方がよい」が 56.5%で半数以上となっている。
- 性別でみると、「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」は女性は1割程度である一方、男性が3割弱と差が出ている。
- 年代別でみると、年代が若いほうが「女らしさ、男らしきにとらわれず、育てた方がよい」が多い傾向となっている。

図表 23 子どもの育て方に関する考え方（全体・性別・年代別）



■ 女らしさ、男らしきにとらわれず、育てた方がよい

▨ 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい

■ どちらともいえない

□ 無回答

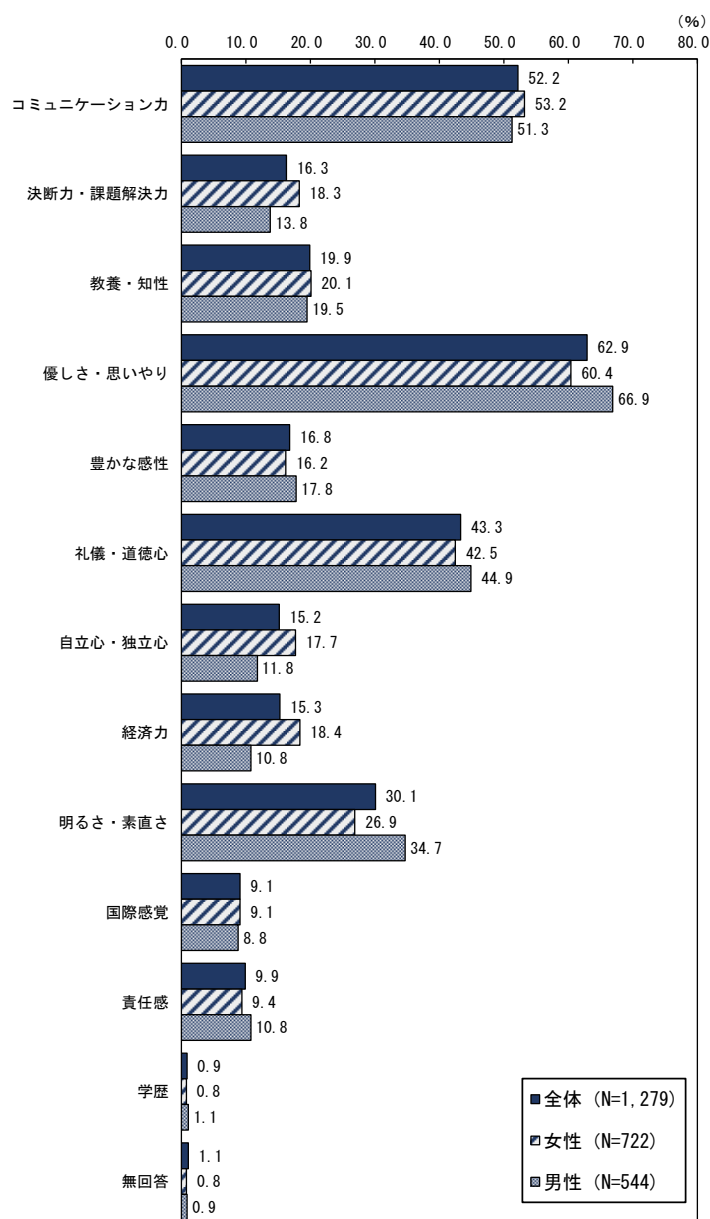
問3 あなたは、これからの子どもに対し、どのようなことを身につけてほしいと思いますか。

<女の子の場合>

「優しさ・思いやり」「コミュニケーション力」が半数以上

- 女の子に身につけてほしいことは、「優しさ・思いやり」が62.9%で最も多く、次いで「コミュニケーション力」(52.2%)、「礼儀・道徳心」(43.3%)となっている。
- 性別でみると、女性は「自立心・独立心」「経済力」が男性より多く、男性は「優しさ・思いやり」「明るさ・素直さ」が女性より多い。

図表 24 子どもに身につけてほしいこと<女の子の場合> (全体・性別)

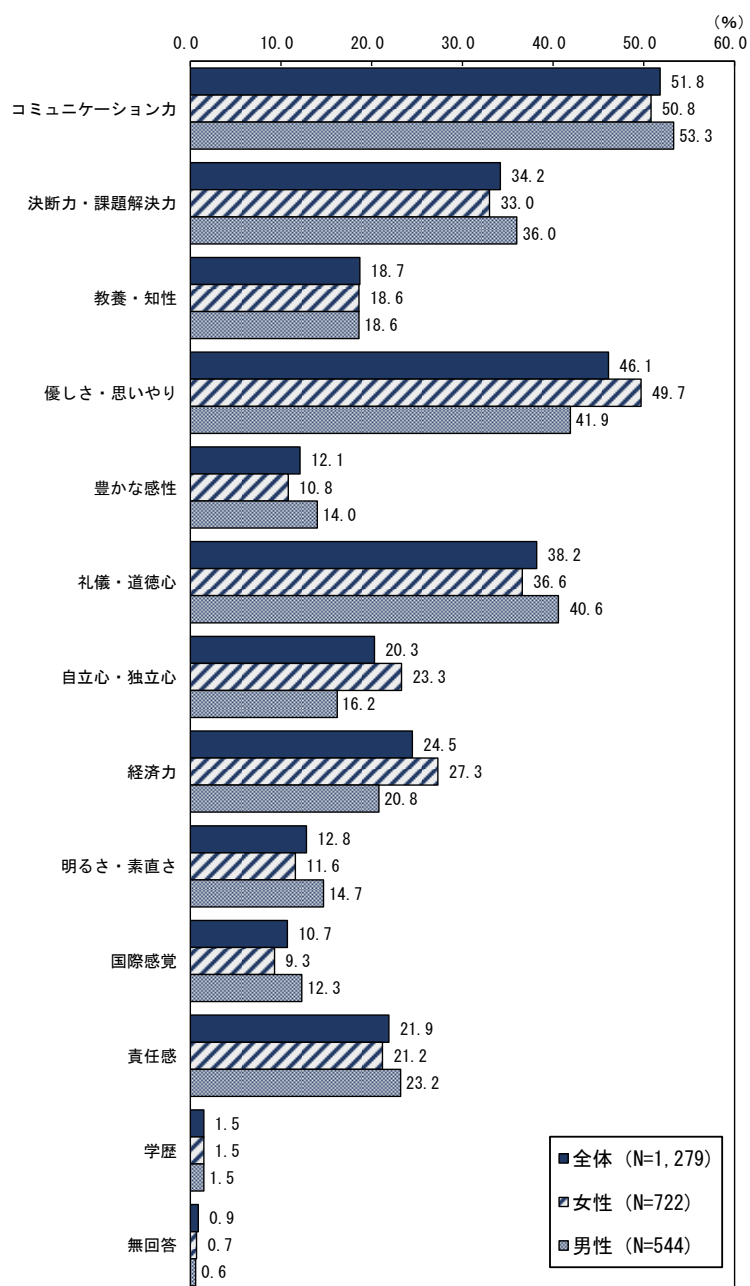


<男の子の場合>

「コミュニケーション力」が半数以上

- 子どもの育て方については、「コミュニケーション力」が 51.8%で最も多く、次いで「優しさ・思いやり」(46.1%)、「礼儀・道徳心」(38.2%)となっている。
- 性別でみると、女性は「優しさ・思いやり」「自立心・独立心」「経済力」が男性より多く、男性は「礼儀・道徳心」「明るさ・素直さ」が女性より多くなっている。

図表 25 子どもに身につけてほしいこと<男の子の場合> (全体・性別)

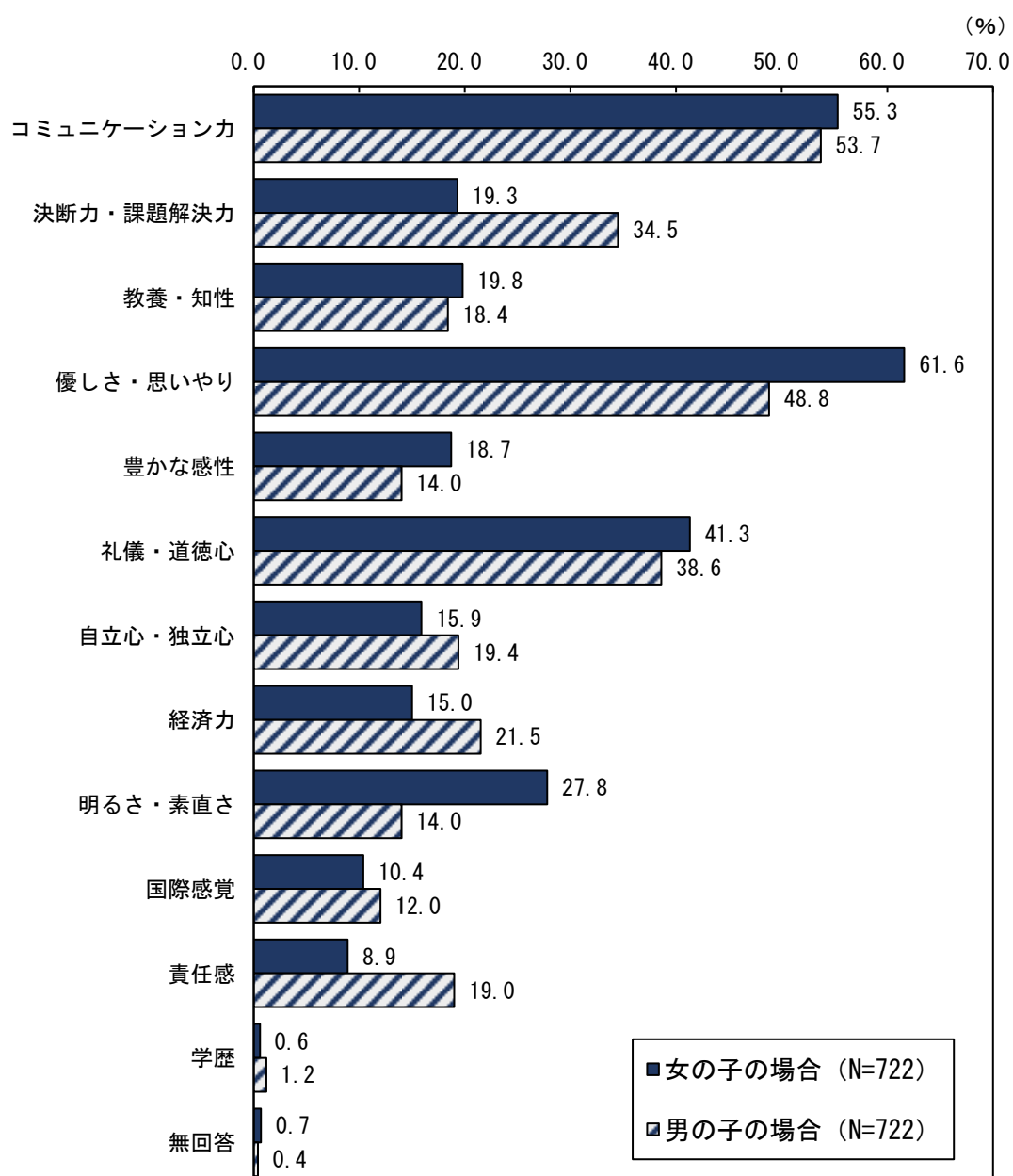


<問2で「1.女らしさ、男らしさにとらわれず、育てた方がよい」と回答した方>

女の子には「優しさ・思いやり」、男の子には「決断力・課題解決力」を求める声が多い

- 問2で「1.女らしさ、男らしさにとらわれず、育てた方がよい」と回答した方のみでみると、女の子には「優しさ・思いやり」「明るさ・素直さ」、男の子には「決断力・課題解決力」「経済力」「責任感」を求める回答が多く、性別に関係なく育てた方がよいと考えている人でも、性別による固定観念は根強く残っていることが分かる。

図表 26 子どもに身につけてほしいこと（「女らしさ、男らしさにとらわれず、育てた方がよい」と考える方）



4 男女の関わりについて

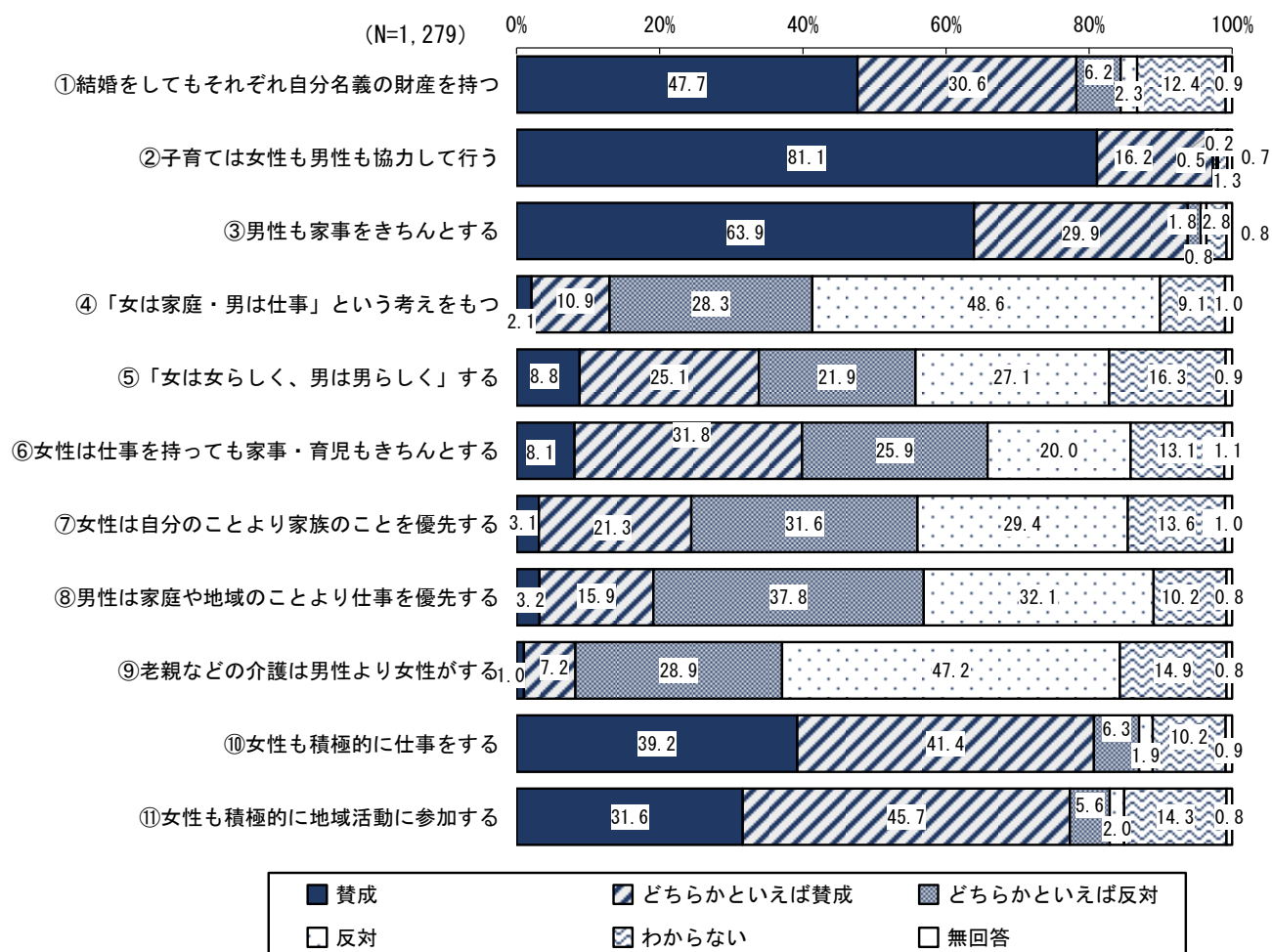
問4 男女の関わりに関する以下の考え方や行動について、あなたはどのように考えますか。

(1) ①～⑪について、あなたはどのように考えますか。

「②子育ては女性も男性も協力して行う」「③男性も家事をきちんとする」に『賛成する』人が9割を超えている

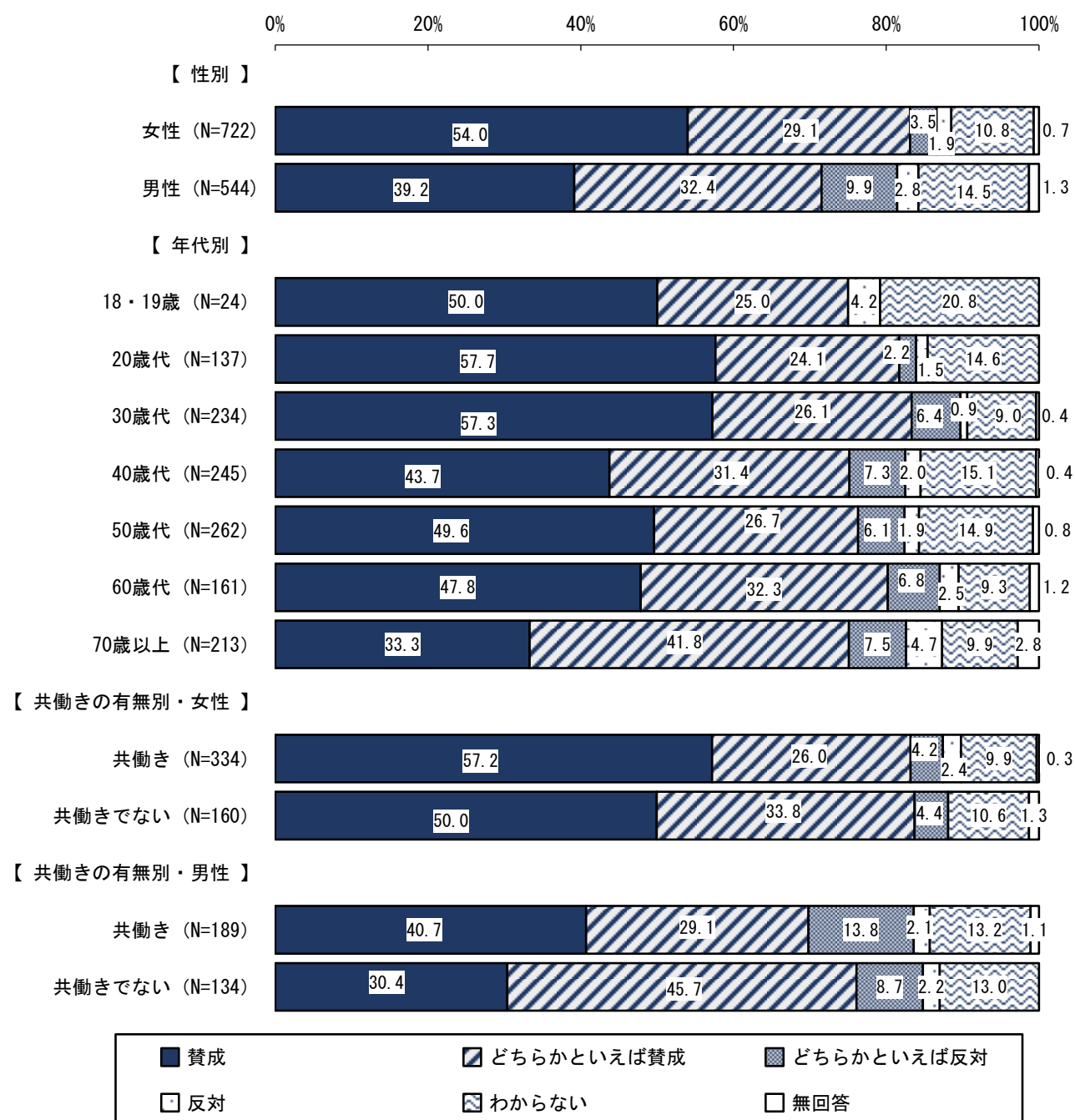
- 『賛成している』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）人は、「②子育ては女性も男性も協力して行う」が98.0%で最も多く、次いで「③男性も家事をきちんとする」が94.6%と9割を超えている。また、「⑩女性も積極的に仕事をする」が81.5%、「⑪女性も積極的に地域活動に参加する」が77.9%となっており、女性が積極的に社会に出て活動するべきと考える人が多い。
- 性別でみると、女性は「①結婚をしてもそれぞれ自分名義の財産を持つ」「③男性も家事をきちんとする」「⑩女性も積極的に仕事をする」で賛成が多くなっている。一方で男性は「⑤「女は女らしく、男は男らしく」する」「⑧男性は家庭や地域のことでより仕事を優先する」で賛成が多くなっている。
- 年代別でみると、「④「女は家庭・男は仕事」という考えをもつ」「⑤「女は女らしく、男は男らしく」する」「⑦女性は自分のことでより家族のことを優先する」「⑧男性は家庭や地域のことでより仕事を優先する」「⑨老親などの介護は男性より女性がする」は年代が上がるにつれて賛成が多い傾向となっている。
- 共働きの有無別でみると、「④「女は家庭・男は仕事」という考えをもつ」について、『賛成している』と回答した男性は共働きでない人に多く、共働きをしている男性より10ポイント以上多くなっている。「⑤「女は女らしく、男は男らしく」する」に『賛成している』人は、性別問わず共働きでない人が多くなっている。
- 経年比較をみると、「①結婚をしてもそれぞれ自分名義の財産を持つ」「②子育ては女性も男性も協力して行う」「③男性も家事をきちんとする」は『賛成している』人が増加傾向にある。一方で、「④「女は家庭・男は仕事」という考えをもつ」「⑤「女は女らしく、男は男らしく」する」「⑥女性は仕事を持っても家事・育児もきちんとする」「⑦女性は自分のことでより家族のことを優先する」「⑧男性は家庭や地域のことでより仕事を優先する」「⑨老親などの介護は男性より女性がする」といった、性別で役割を固定する項目については『賛成している』人は減少を続けている。
- 国・県比較をみると（「④女は家庭・男は仕事」という考えをもつ）のみ、豊田市はこの考えに反対する人が国や県よりも10ポイント以上多くなっている。

図表 27 男女の関わりに関する考え方



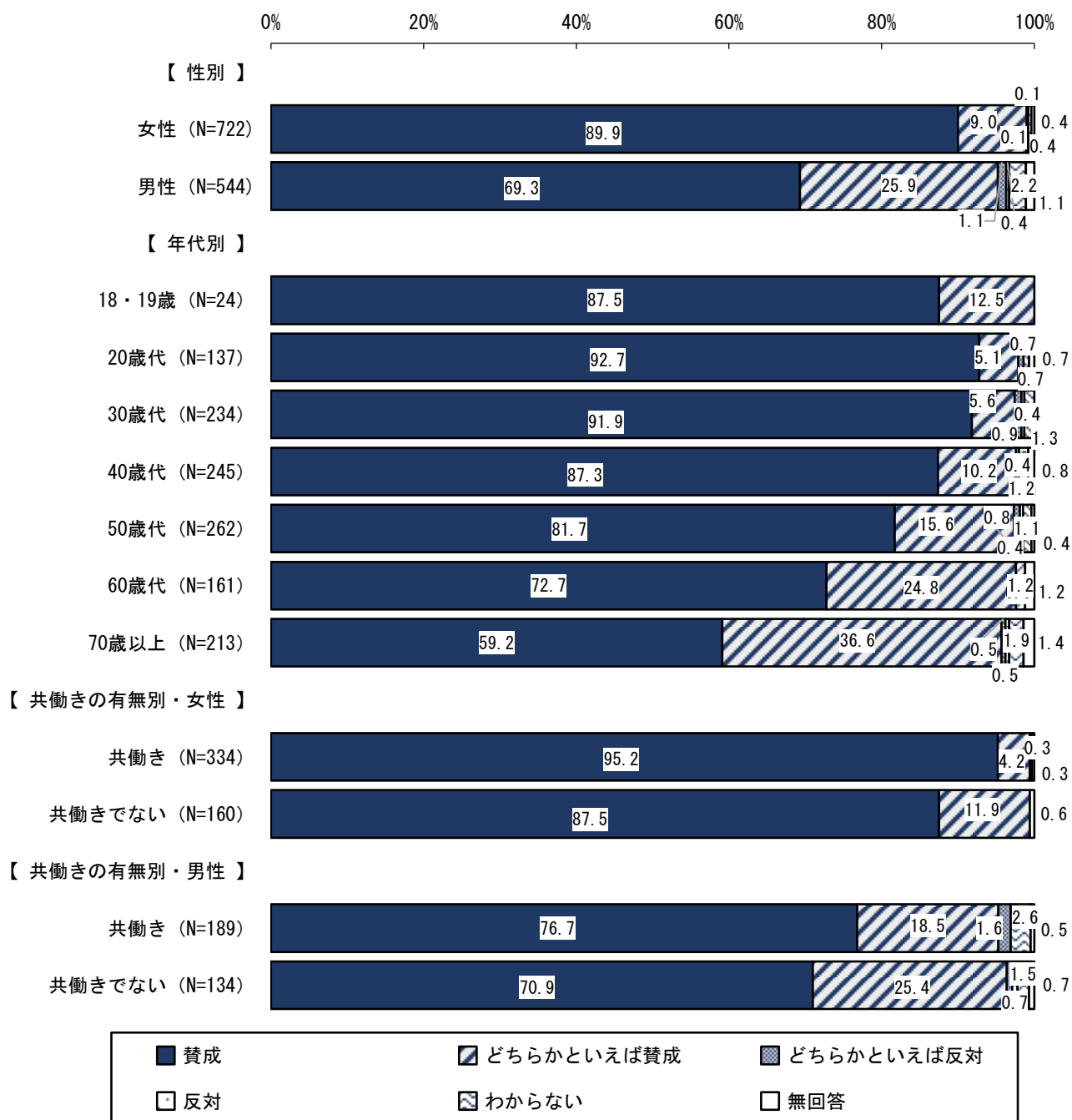
【① 結婚してもそれぞれ自分名義の財産を持つ】

図表 28 ①結婚してもそれぞれ自分名義の財産を持つ（性別・年代別・共働きの有無別）



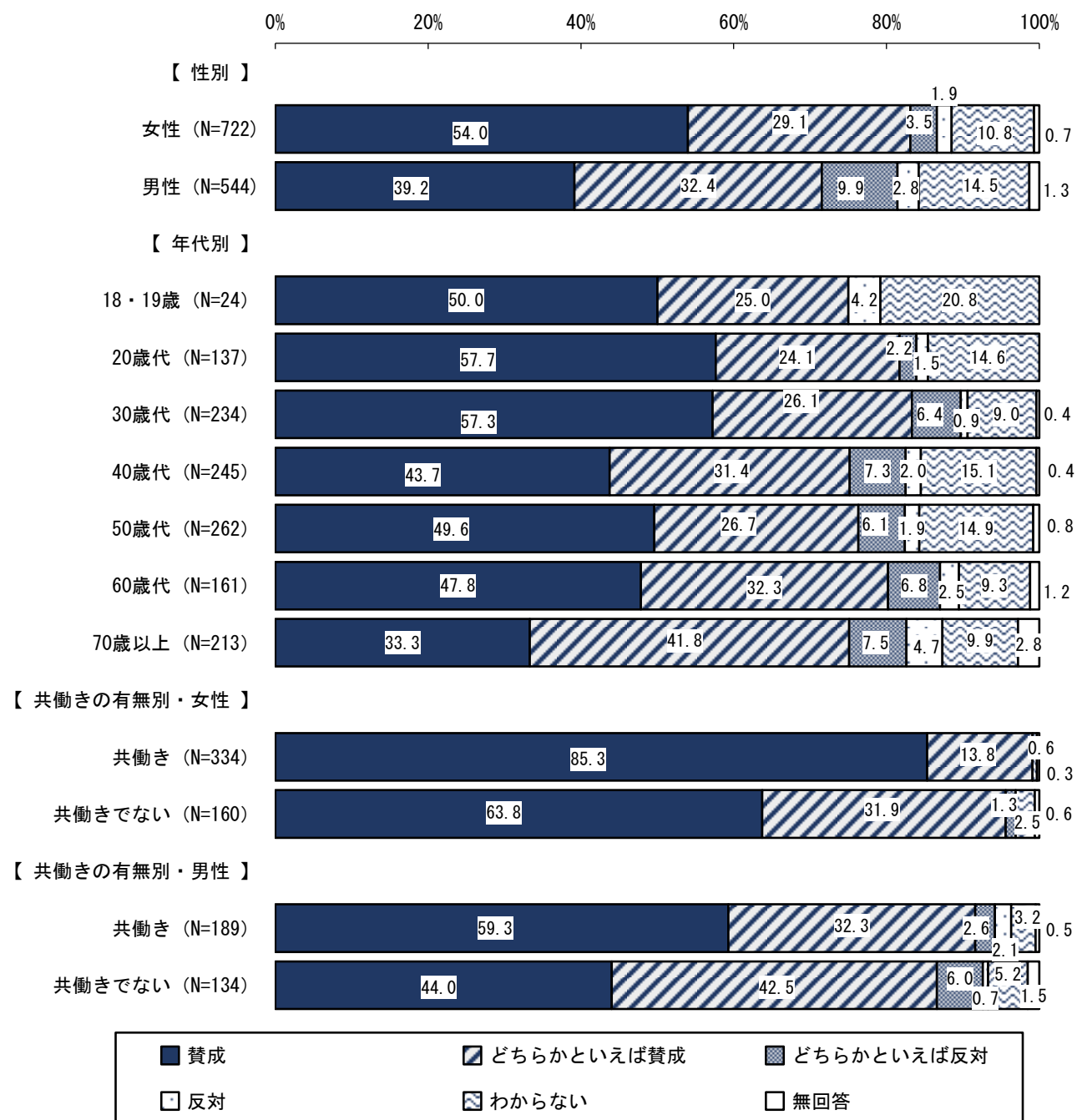
【② 子育ては女性も男性も協力して行う】

図表 29 ②子育ては女性も男性も協力して行う（性別・年代別・共働きの有無別）



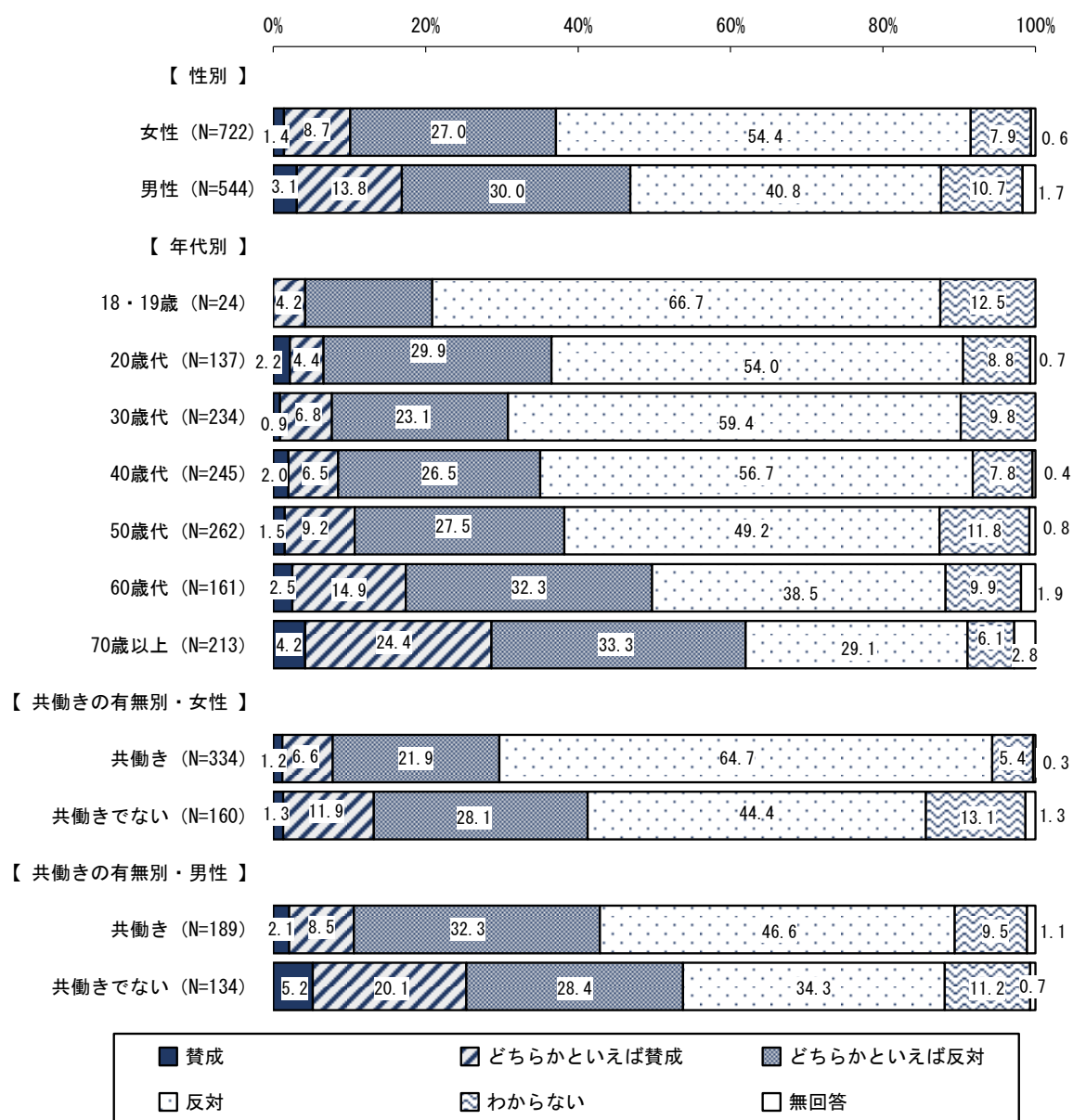
【③ 男性も家事をきちんとする】

図表 30 ③男性も家事をきちんとする（性別・年代別・共働きの有無別）

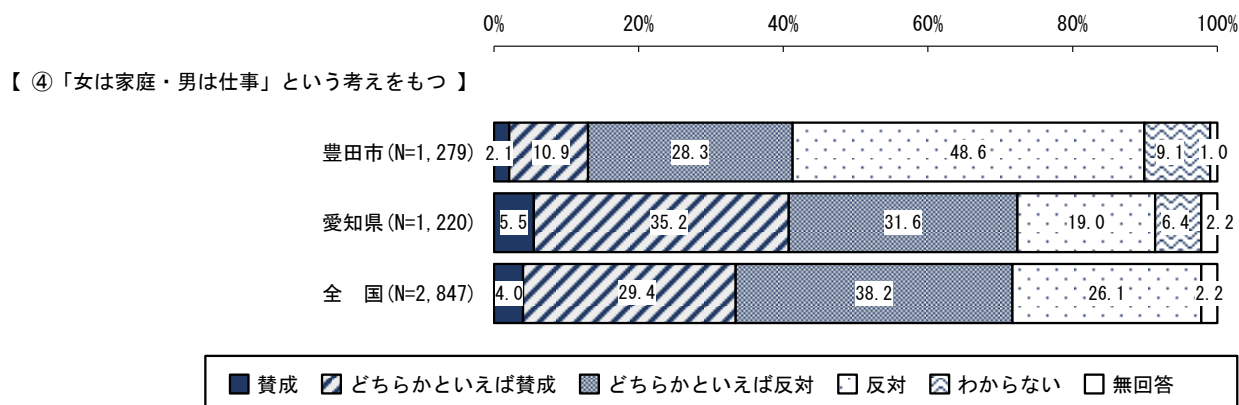


【④ 「女は家庭・男は仕事」という考えをもつ】

図表 31 ④「女は家庭・男は仕事」という考えをもつ（性別・年代別・共働きの有無別）

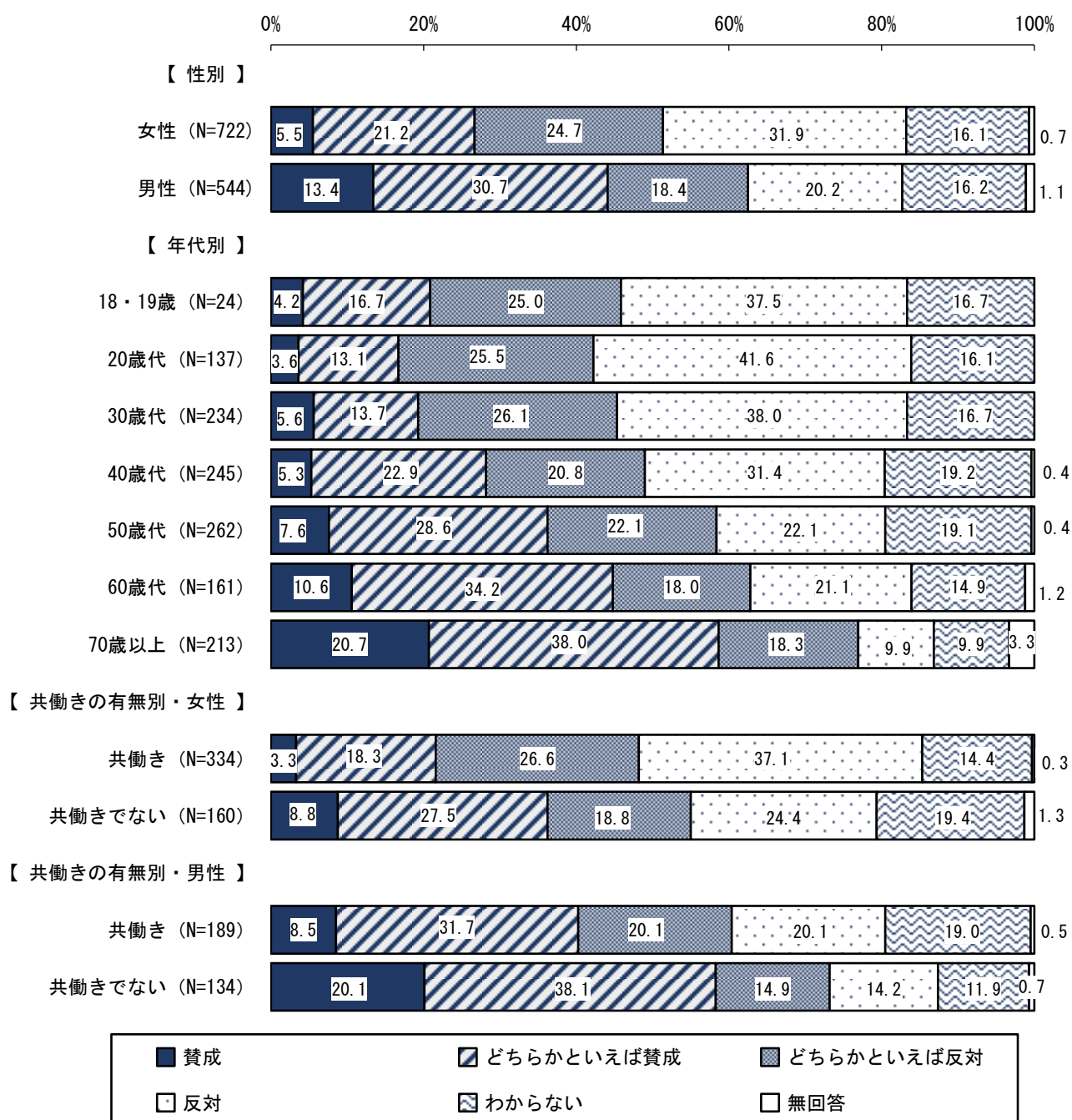


図表 32 「女は家庭・男は仕事」という考えをもつ（国・県比較）



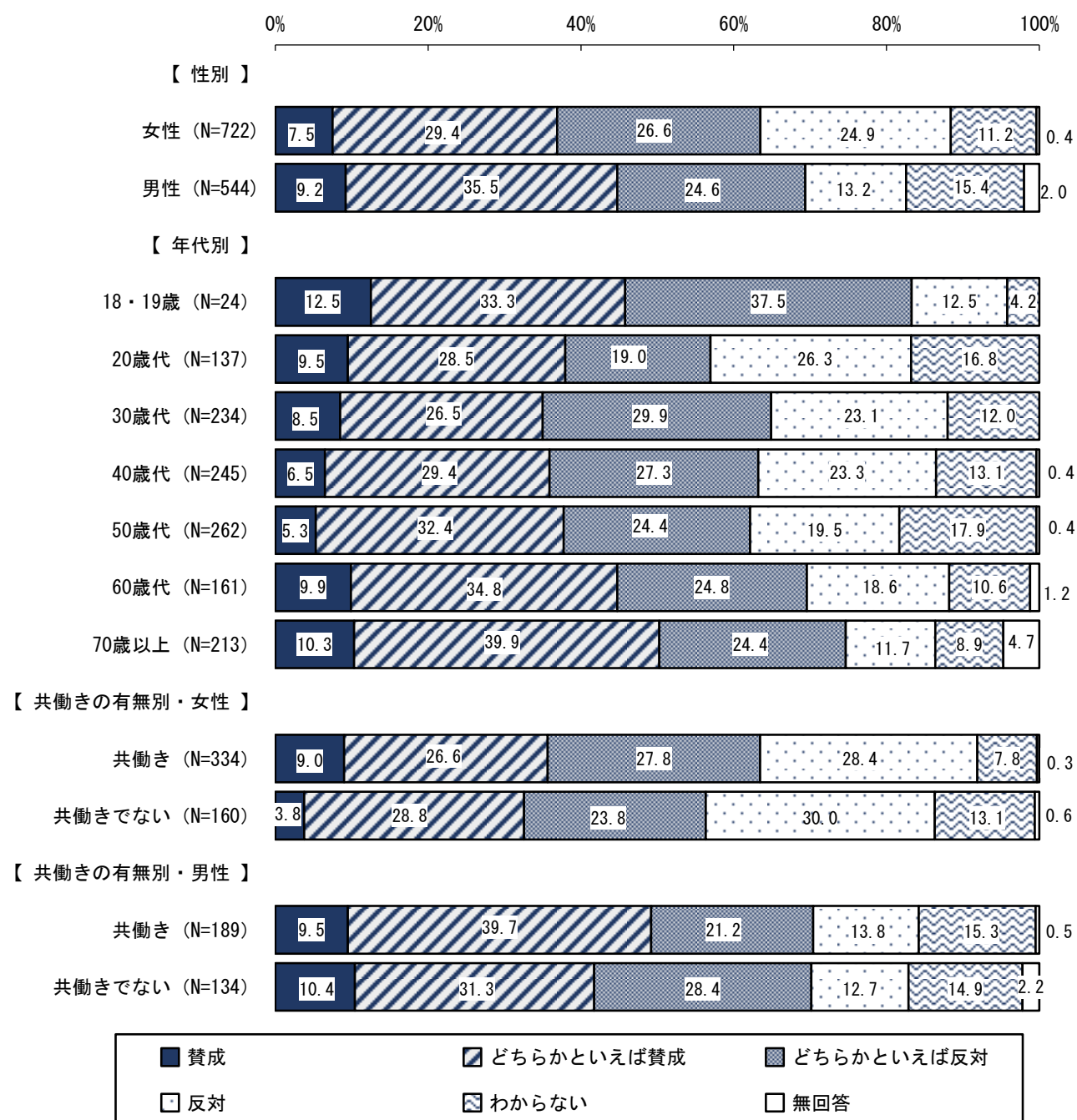
【⑤ 「女は女らしく、男は男らしく」する】

図表 33 ⑤「女は女らしく、男は男らしく」する（性別・年代別・共働きの有無別）



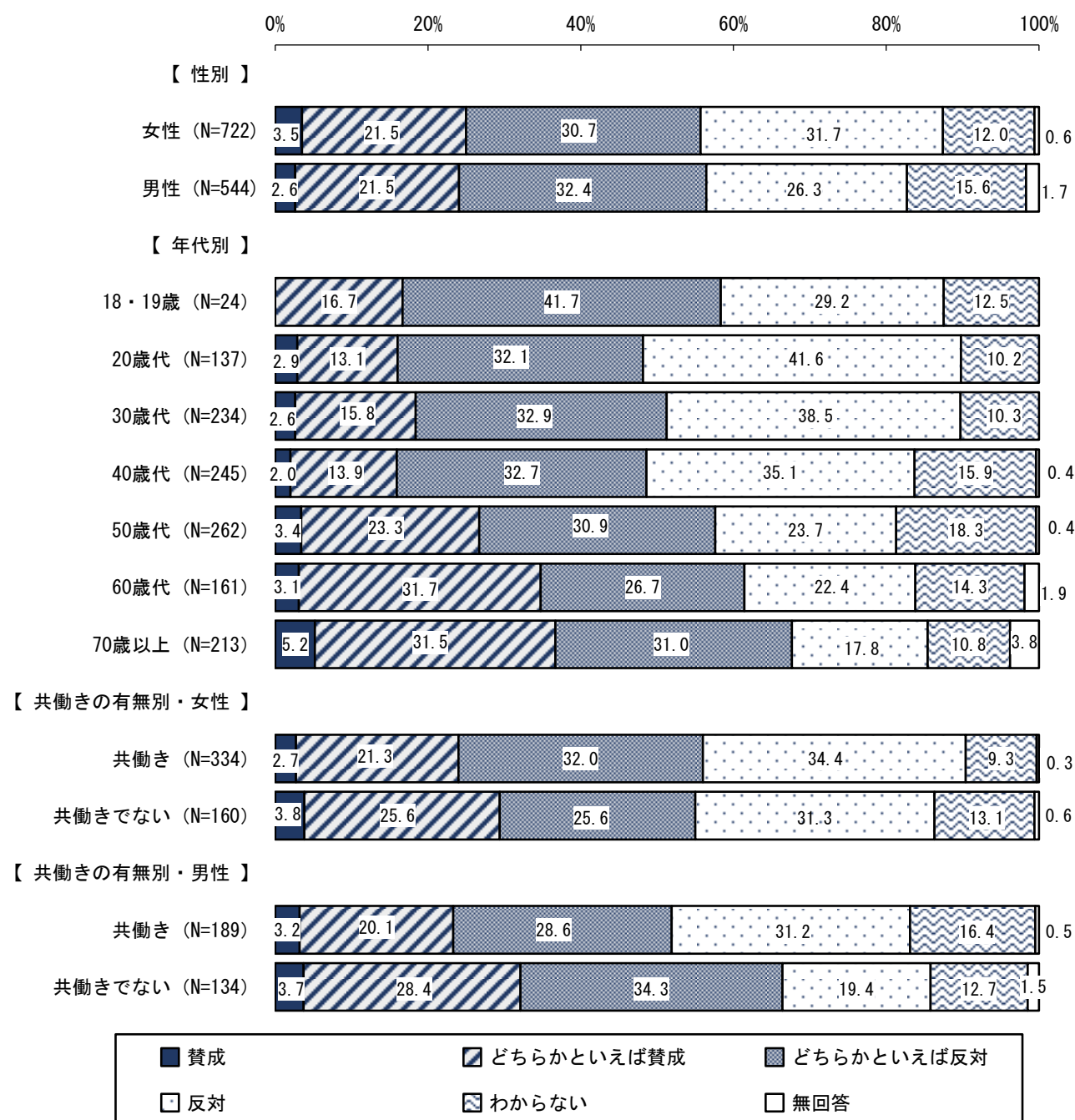
【⑥ 女性は仕事を持っても家事・育児もきちんとする】

図表 34 ⑥女性は仕事を持っても家事・育児もきちんとする（性別・年代別・共働きの有無別）



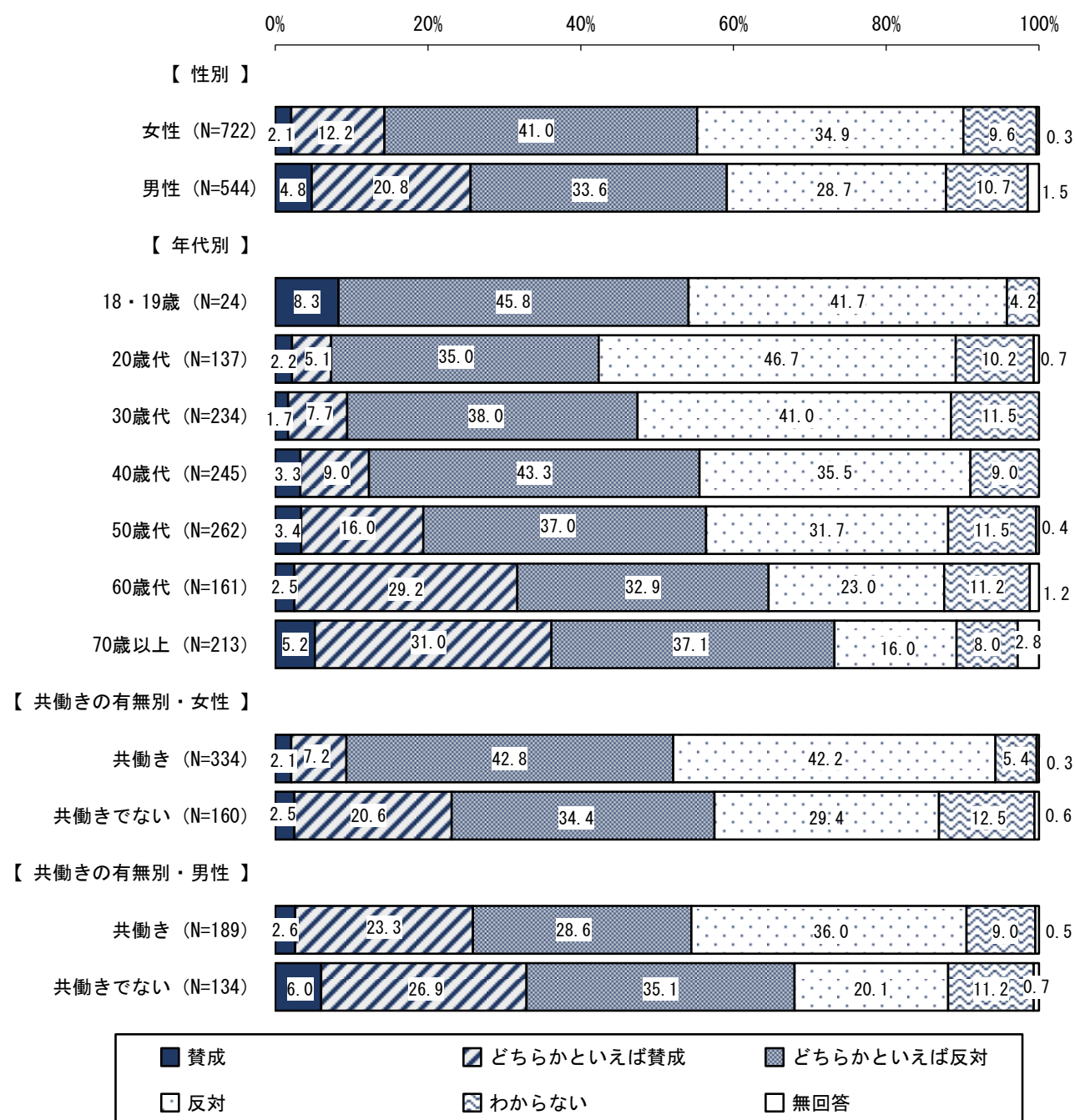
【⑦ 女性は自分のことより家族のことを優先する】

図表 35 ⑦女性は自分のことより家族のことを優先する（性別・年代別・共働きの有無別）



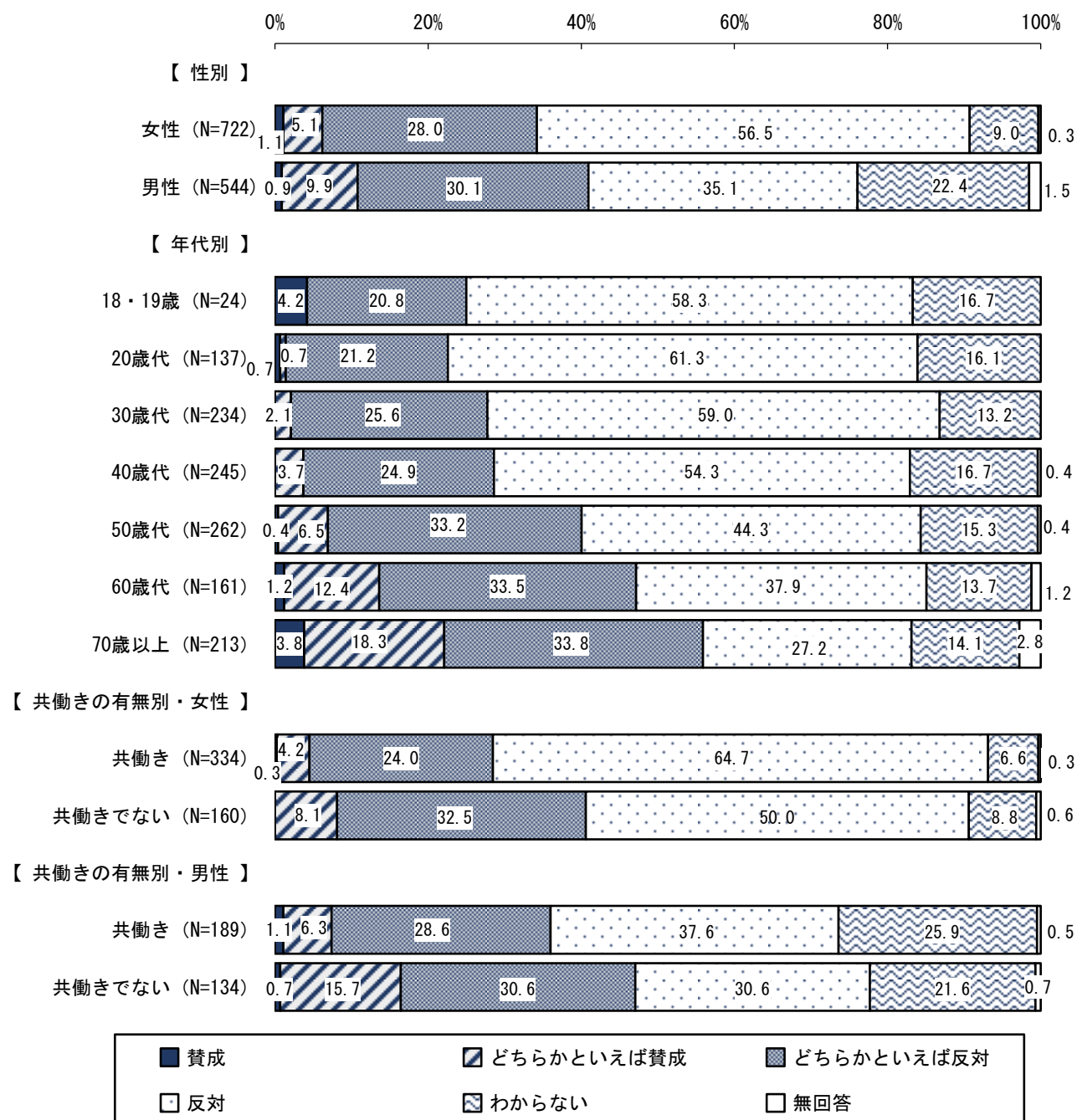
【⑧ 男性は家庭や地域のことより仕事を優先する】

図表 36 ⑧男性は家庭や地域のことより 仕事を優先する(性別・年代別・共働きの有無別)



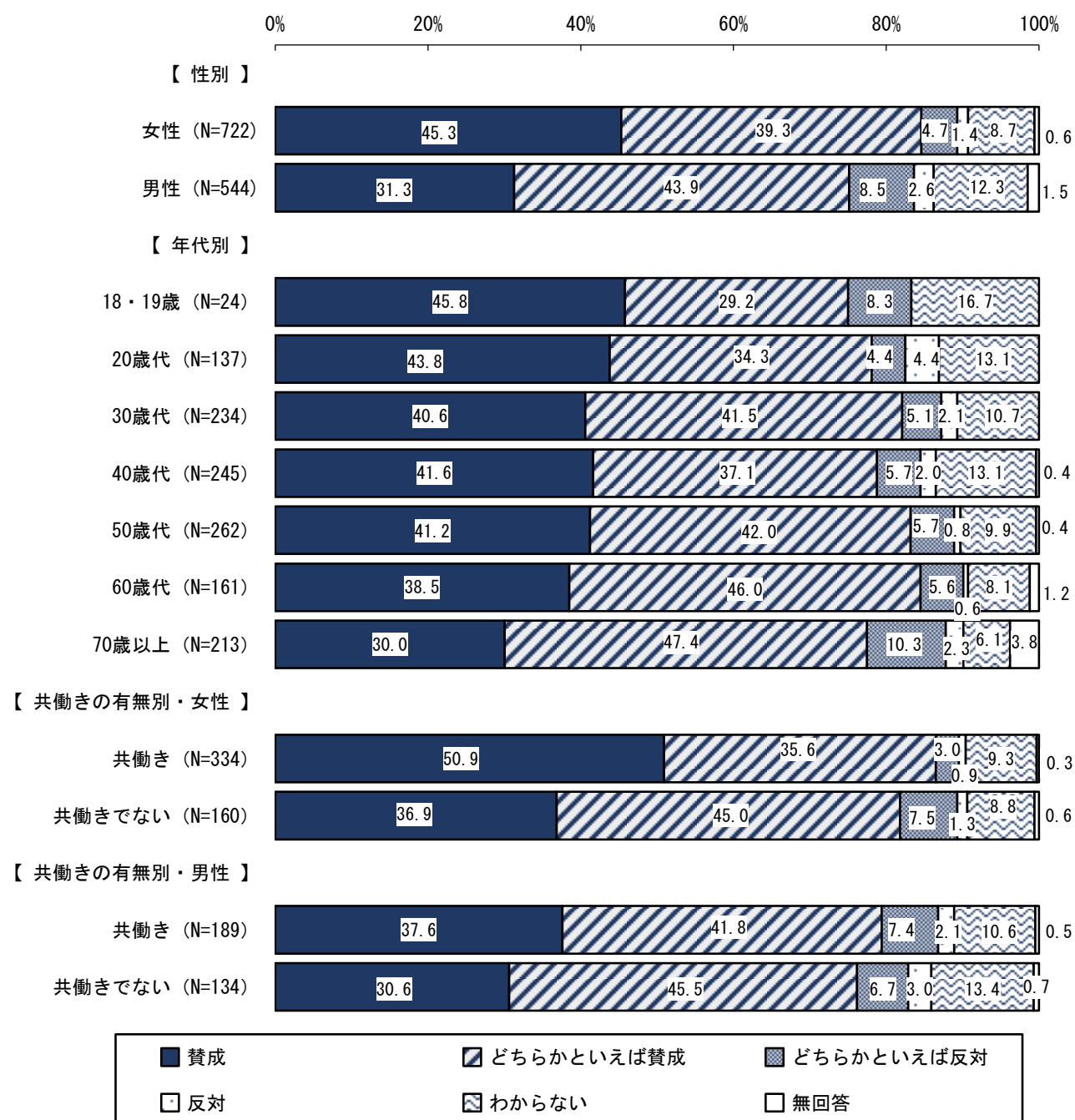
【⑨ 老親などの介護は男性より女性がする】

図表 37 ⑨老親などの介護は男性より女性がする（性別・年代別・共働きの有無別）



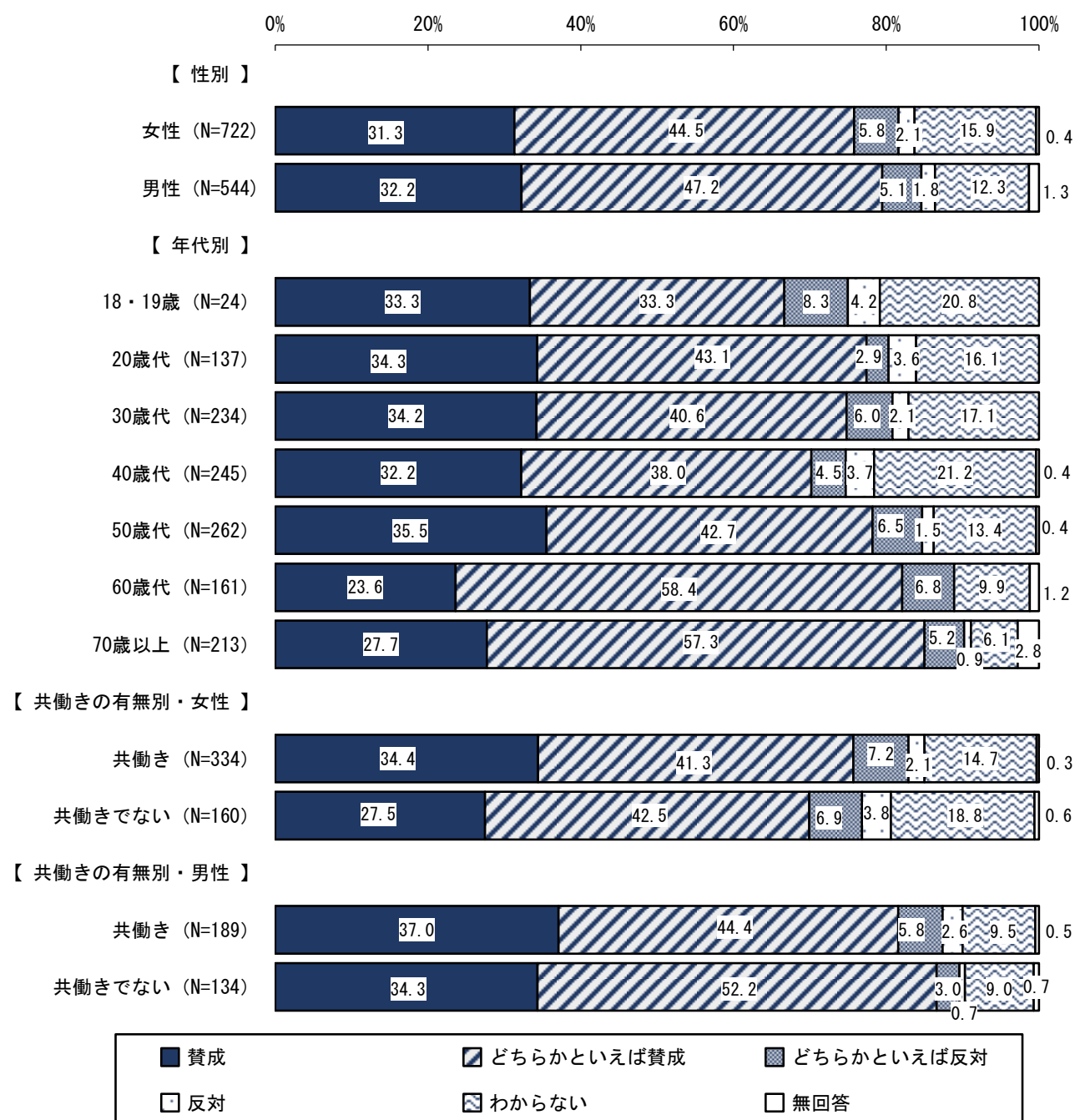
【⑩ 女性も積極的に仕事をする】

図表 38 ⑩女性も積極的に仕事をする（性別・年代別・共働きの有無別）

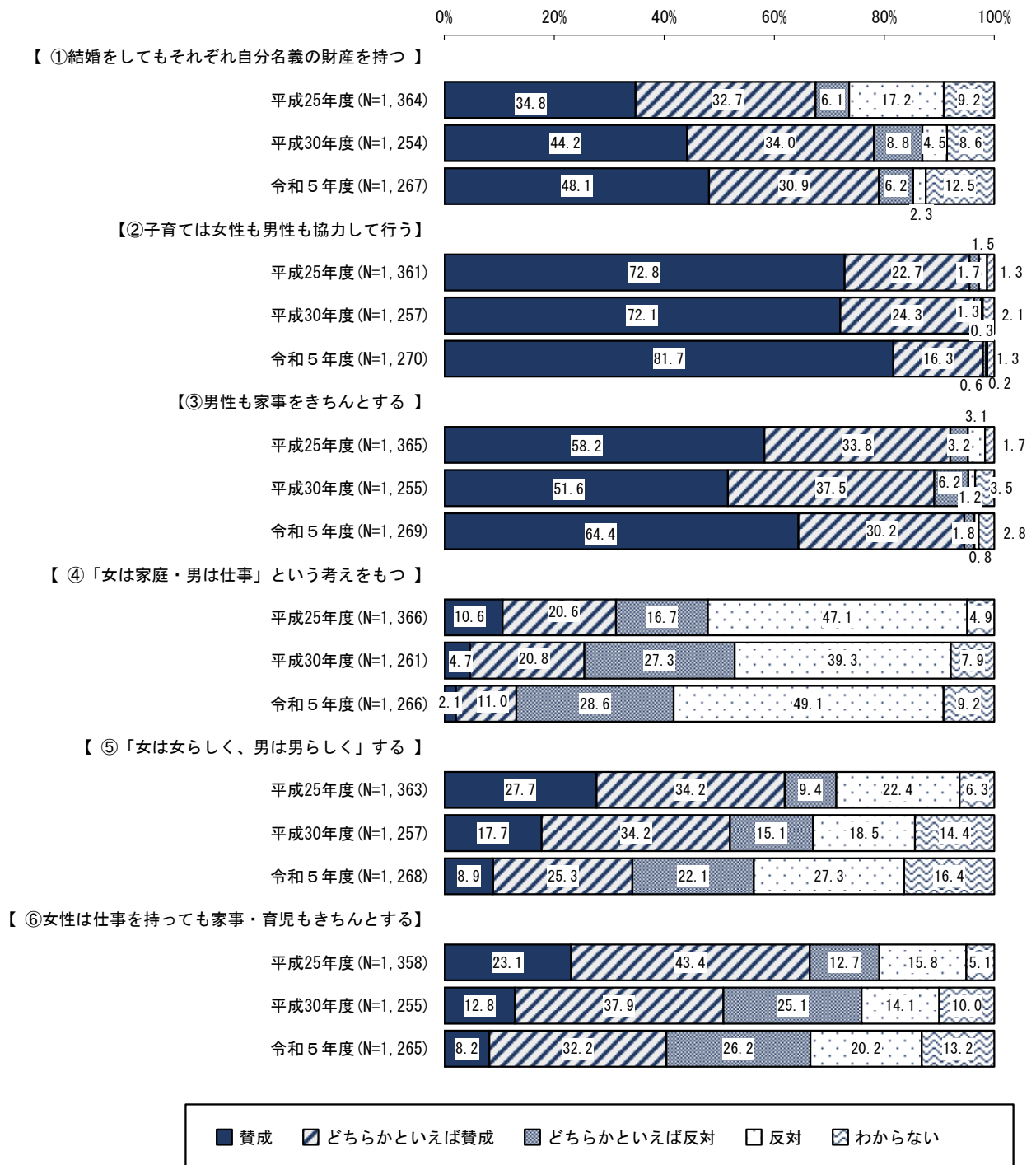


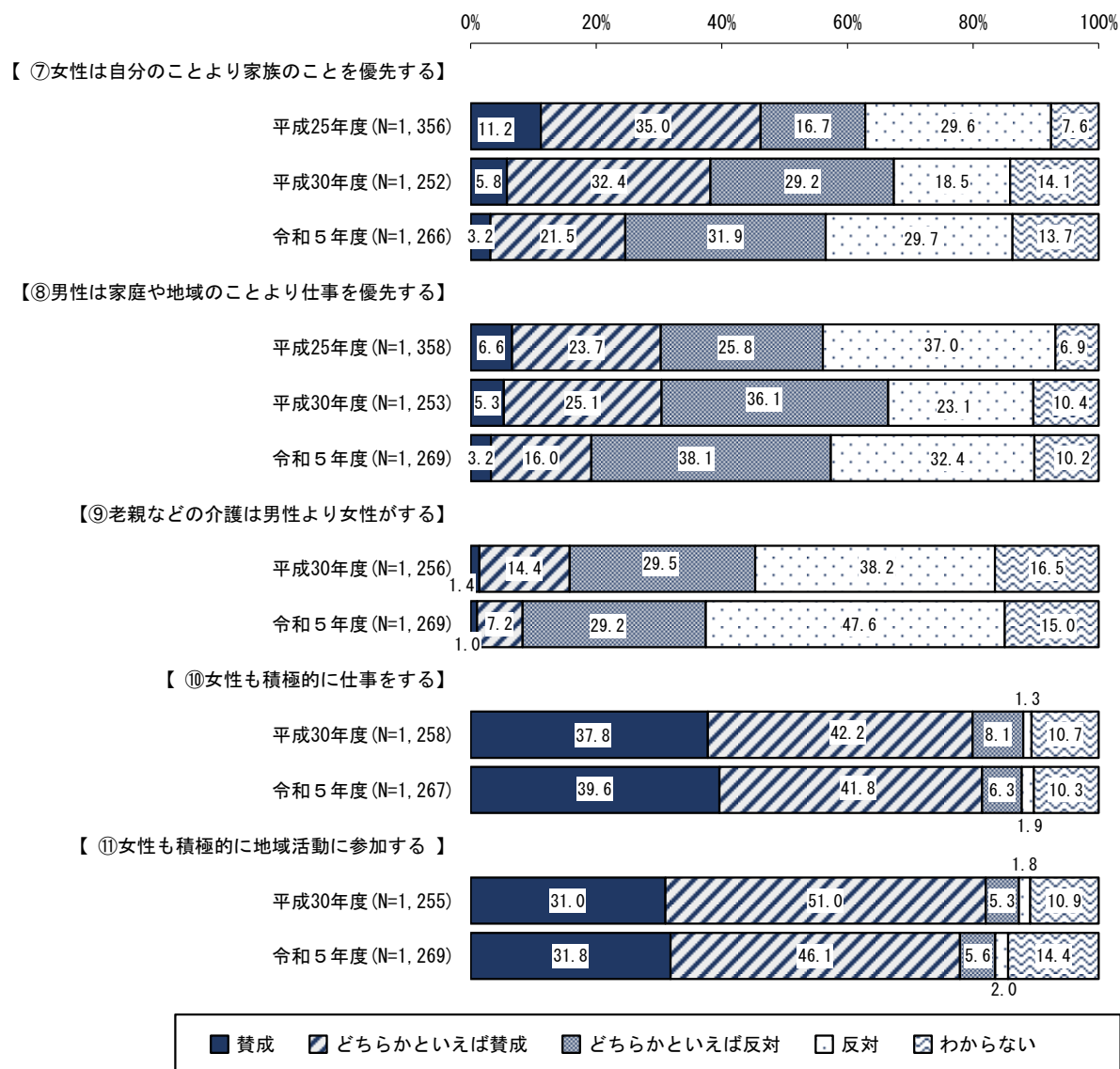
【⑪ 女性も積極的に地域活動に参加する】

図表 39 ⑪女性も積極的に地域活動に参加する（性別・年代別・共働きの有無別）



図表 40 男女の関わりに関する考え方（経年比較）





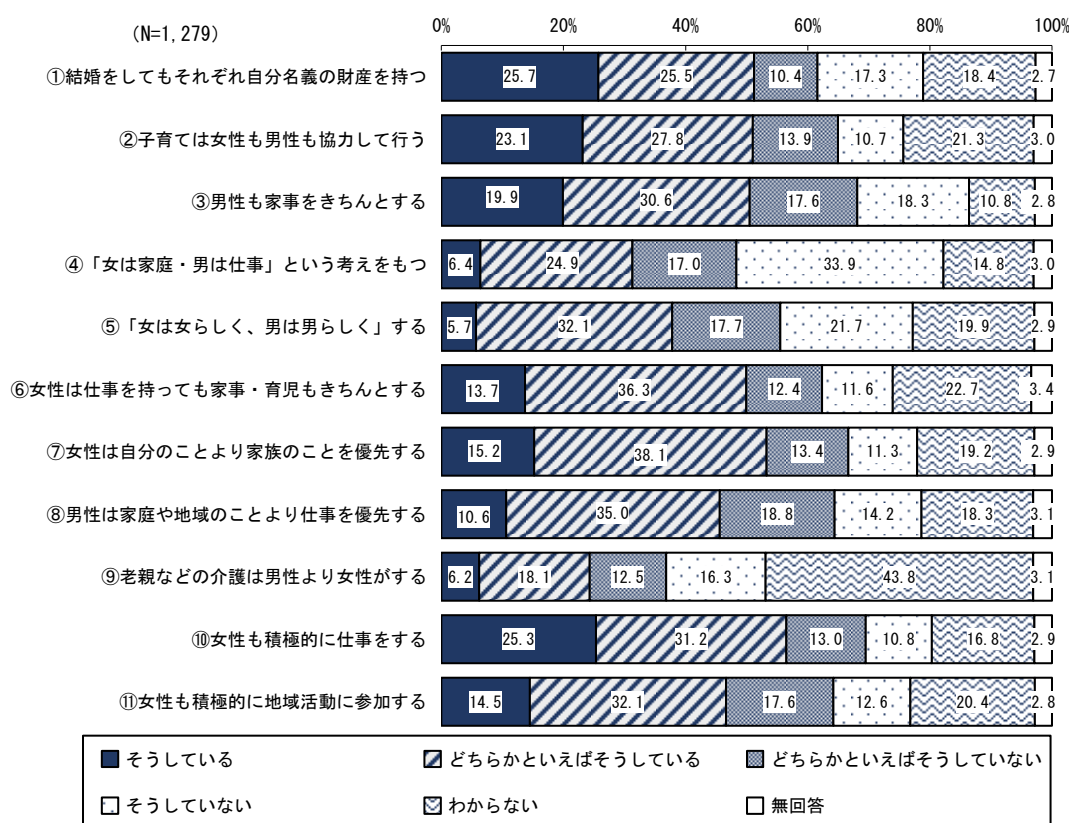
問4 男女の関わりに関する以下の考え方や行動について、あなたはどのように考えますか。

(2) ①～⑩について、あなたは実際にどのように行動していますか。

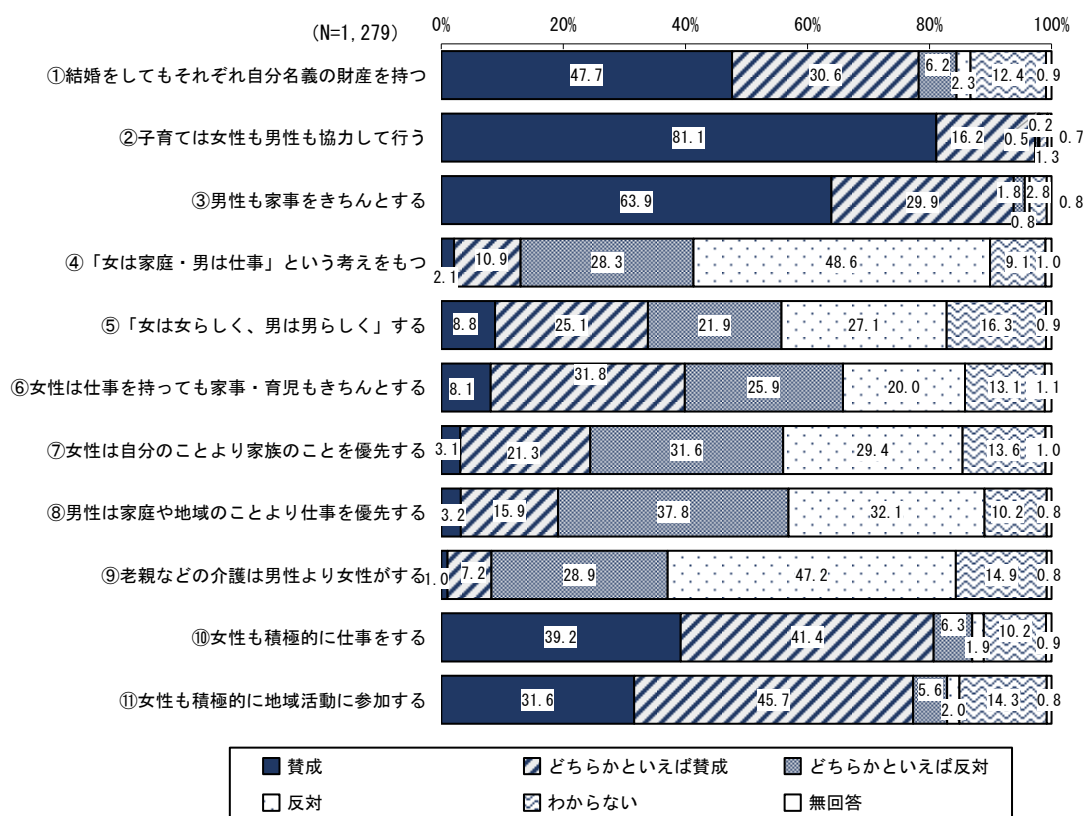
「⑦女性は自分のことより家族のことを優先する」について『そうしている』人が多い

- 『そうしている』(「そうしている」+「どちらかといえばそうしている」)人は、「⑩女性も積極的に仕事をする」が56.5%で最も多く、次いで「⑦女性は自分のことより家族のことを優先する」が53.3%となっており、女性が仕事をしたうえで更に家族のことを優先するという大きな負担を抱えていることが分かる。一方で、「②子育ては女性も男性も協力して行う」(50.9%)や「③男性も家事をきちんとする」(50.5%)といった、男性が家事や子育てに参加する割合も半数を超えている。
- 「①結婚をしてもそれぞれ自分名義の財産を持つ」「②子育ては女性も男性も協力して行う」「③男性も家事をきちんとする」「⑥女性の仕事を持っても家事・育児もきちんとする」「⑦女性は自分のことより家族のことを優先する」「⑩女性も積極的に仕事をする」について、『そうしている』人が5割を超えている。
- 性別でみると、女性は「⑦女性は自分のことより家族のことを優先する」「⑩女性も積極的に仕事をする」で『そうしている』が多くなっている。一方で男性は「③男性も家事をきちんとする」で『そうしている』が6割以上となっているが、女性では4割程度となっており、認識の差がある。
- 年代別でみると、「②子育ては女性も男性も協力して行う」「③男性も家事をきちんとする」で『そうしている』は、30～40歳代、「⑧男性は家庭や地域のことより仕事を優先する」は40～50歳代、「⑤「女は女らしく、男は男らしく」する」「⑨老親などの介護は男性より女性がする」は50～70歳以上で多くなっている。
- 共働きの有無別でみると、「④「女は家庭・男は仕事」という考えをもつ」について、『そうしている』と回答したのは共働きでない女性が最も多くなっている。また、「⑤「女は女らしく、男は男らしく」する」に『そうしている』人は、共働きでない男性が最も多くなっている。
- 経年比較をみると、「①結婚をしてもそれぞれ自分名義の財産を持つ」「②子育ては女性も男性も協力して行う」「③男性も家事をきちんとする」について、『そうしている』人が増加している。また、「④「女は家庭・男は仕事」という考えをもつ」「⑤「女は女らしく、男は男らしく」する」といった、性別で役割を固定する考え方や行動については、『そうしている』人は減少している。

図表 41 男女の関わりに関する実際の行動

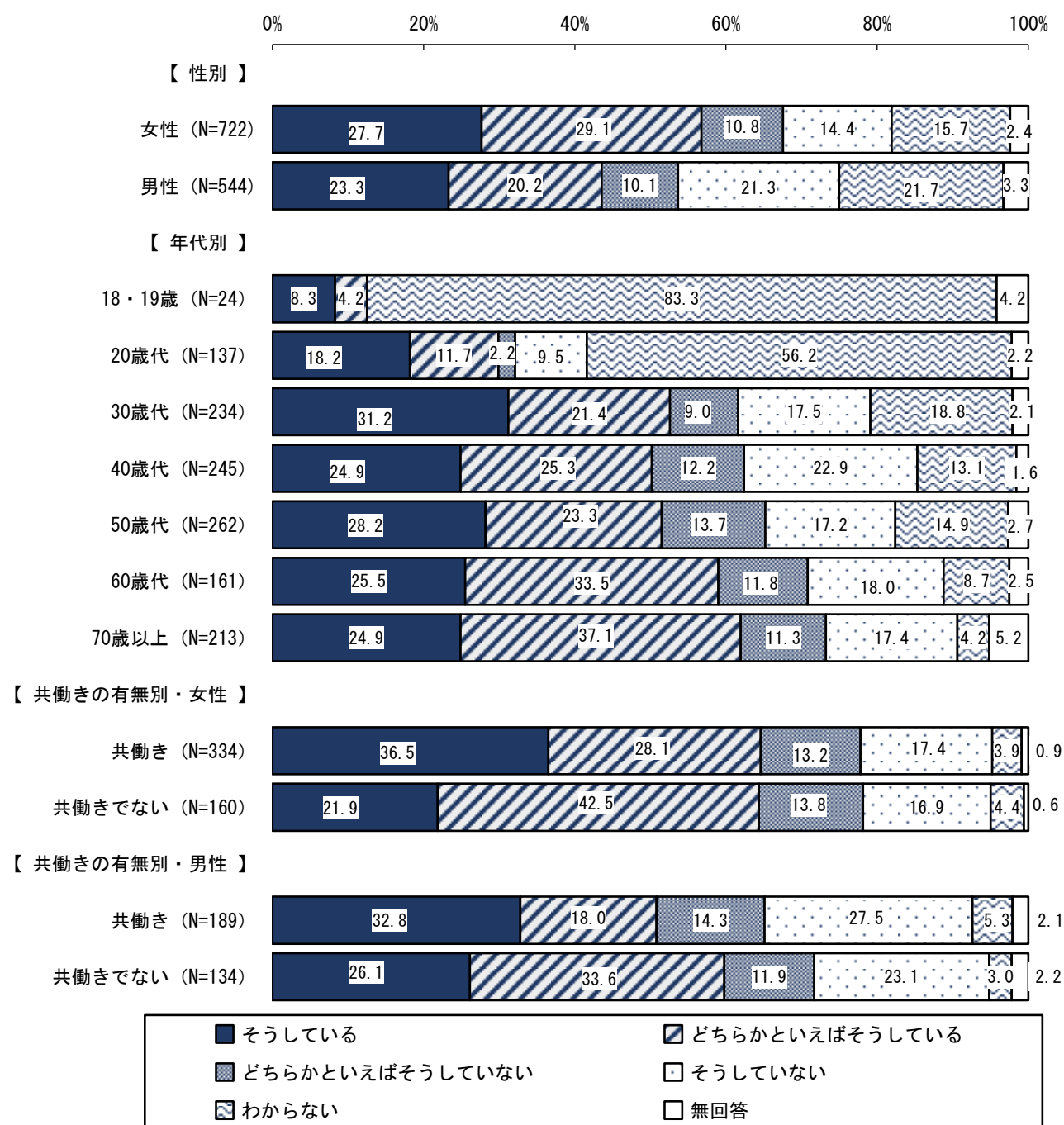


図表 42 男女の関わりに関する考え方(再掲)



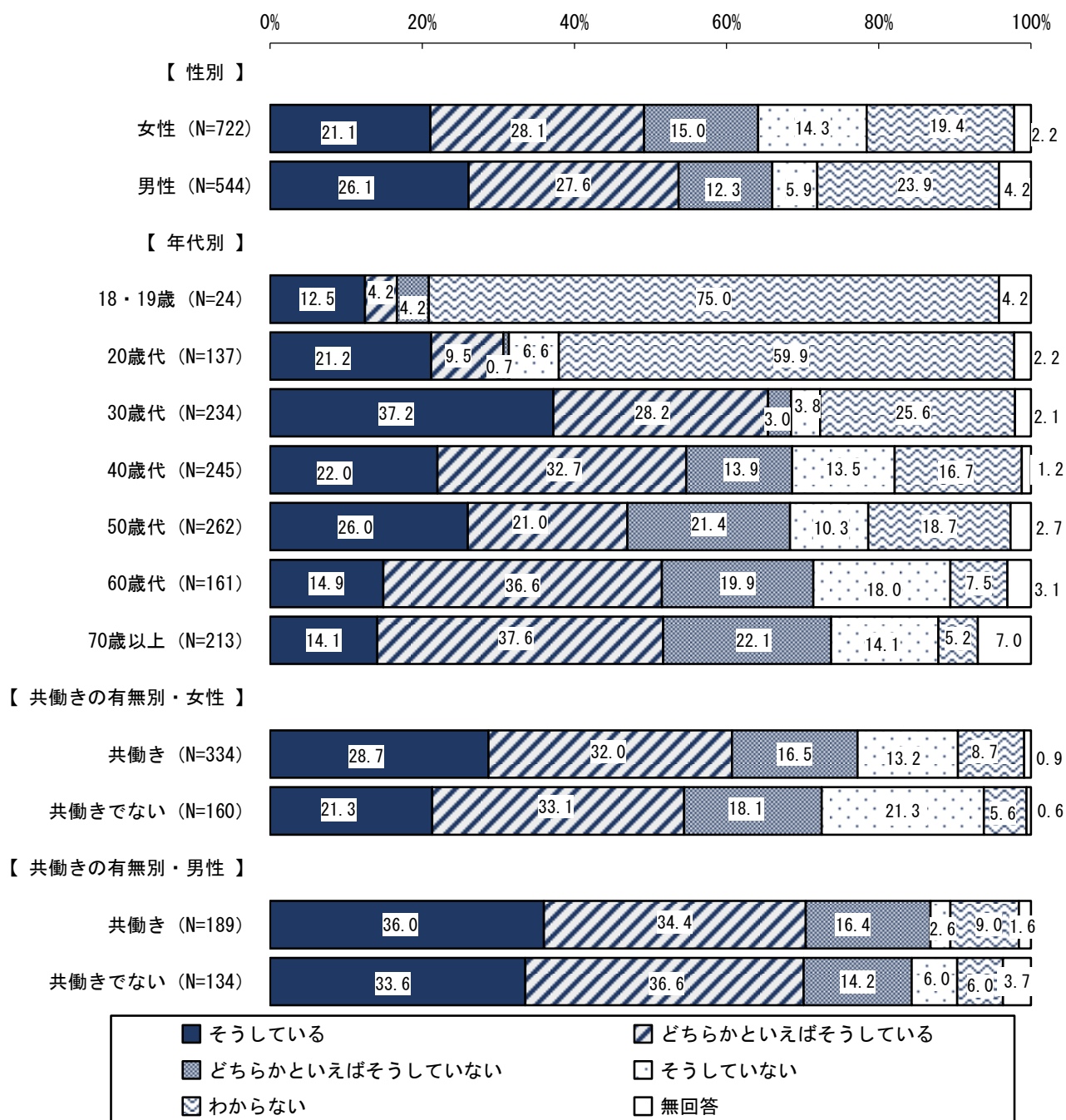
【① 結婚してもそれぞれ自分名義の財産を持つ】

図表 43 ①結婚してもそれぞれ自分名義の財産を持つ（性別・年代別・共働きの有無別）



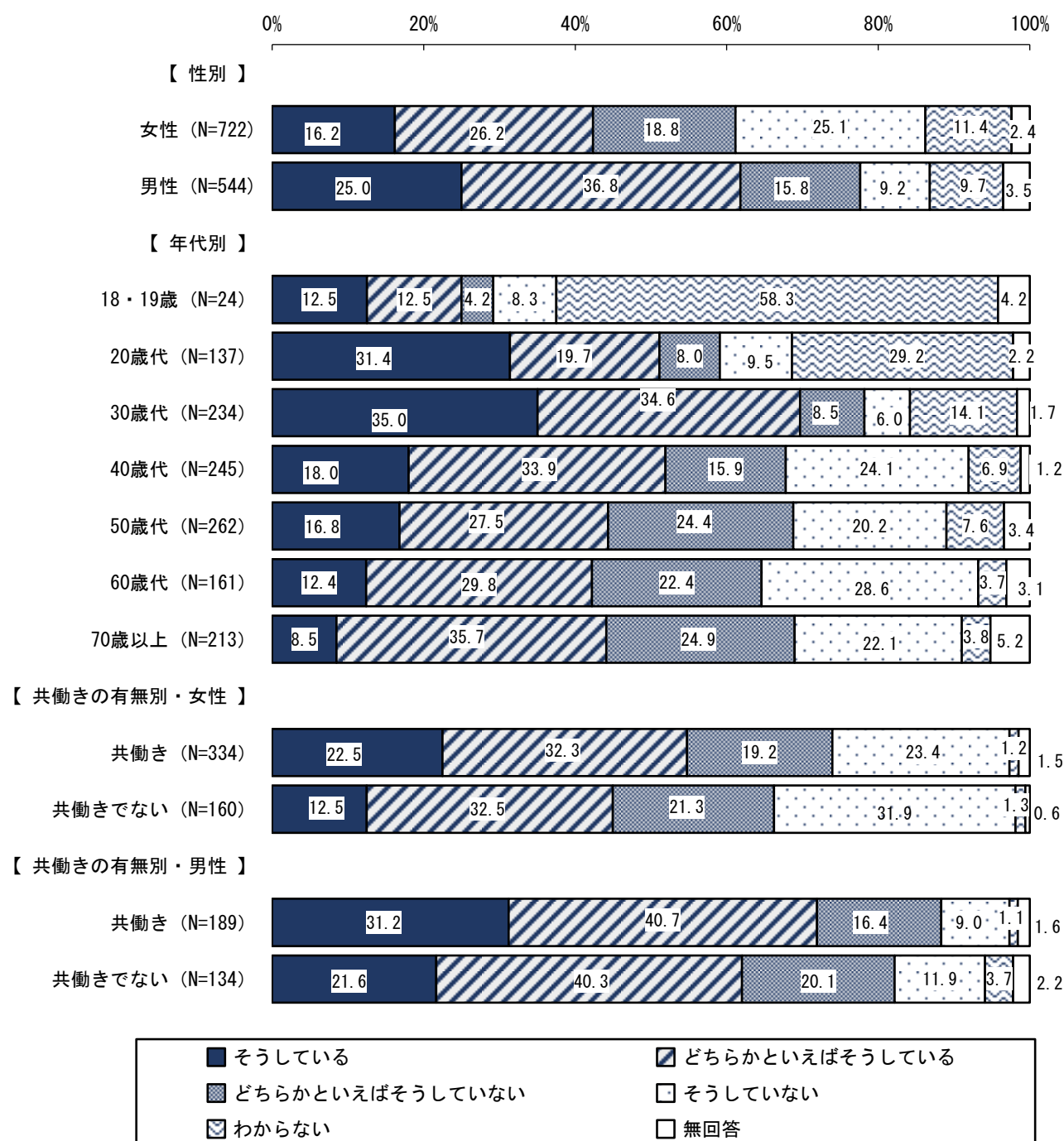
【② 子育ては女性も男性も協力して行う】

図表 44 ②子育ては女性も男性も協力して行う（性別・年代別・共働きの有無別）



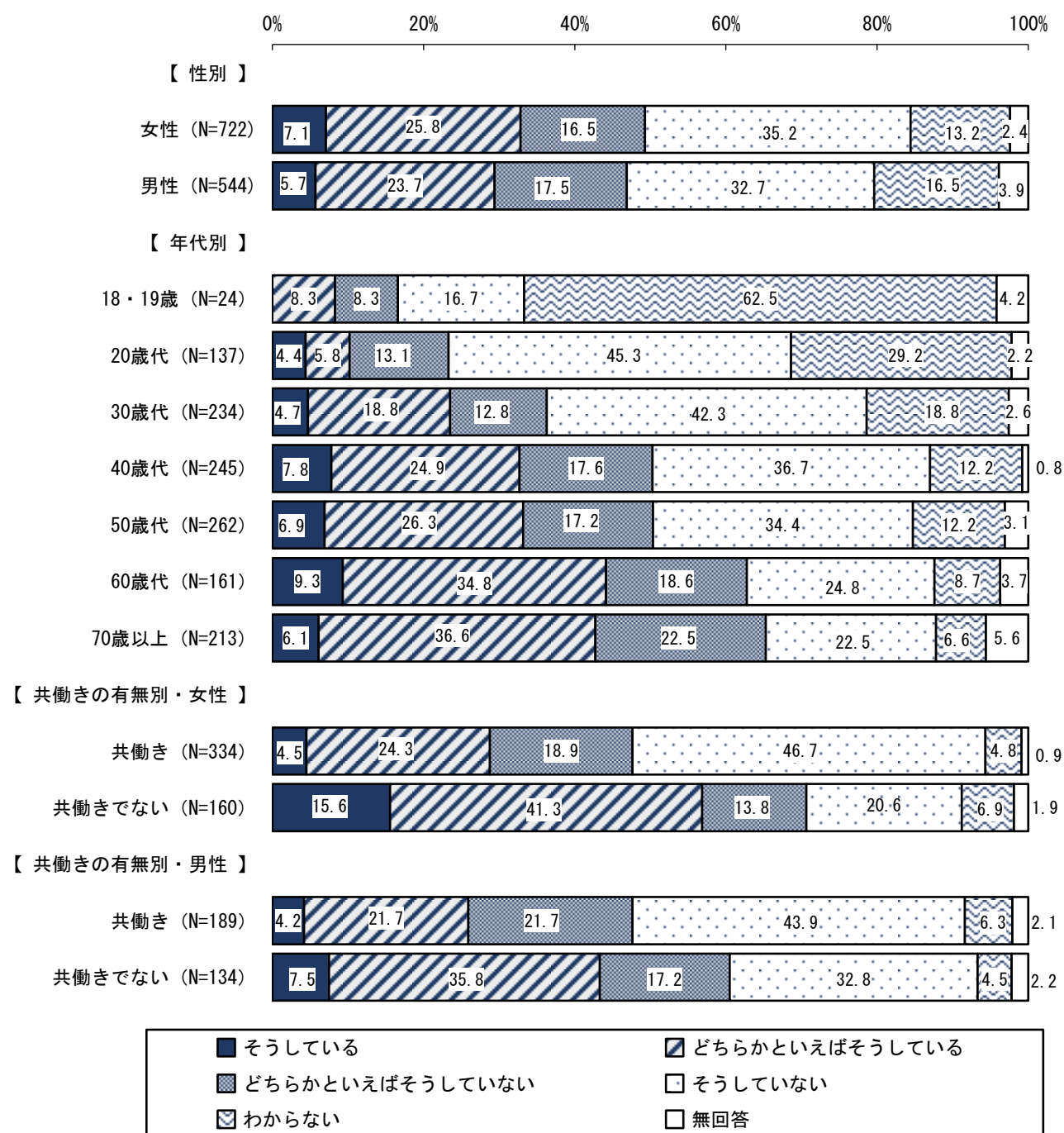
【③ 男性も家事をきちんとする】

図表 45 ③男性も家事をきちんとする（性別・年代別・共働きの有無別）



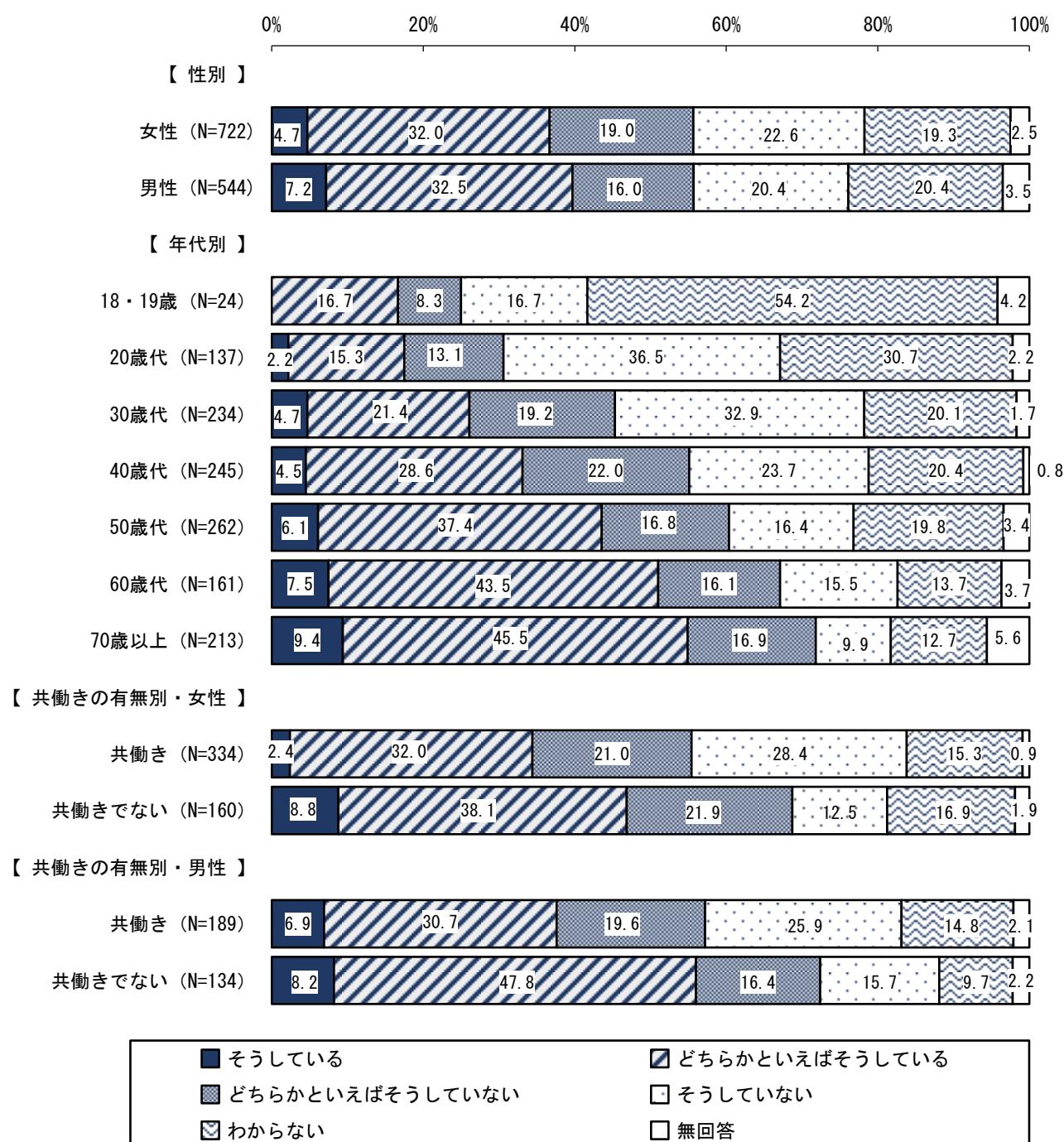
【④ 「女は家庭・男は仕事」という考えをもつ】

図表 46 ④「女は家庭・男は仕事」という考えをもつ（性別・年代別・共働きの有無別）



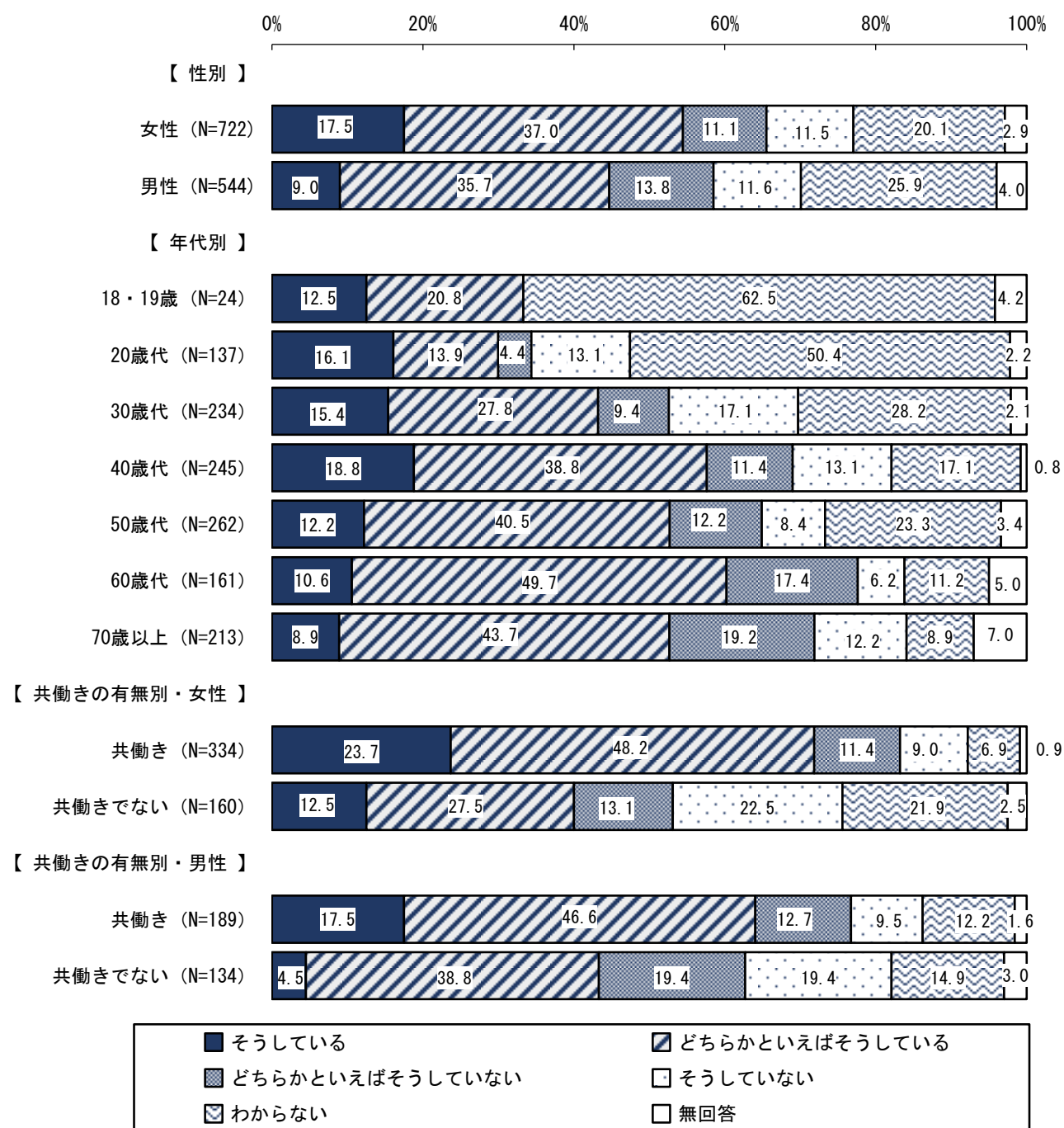
【⑤ 「女は女らしく、男は男らしく」する】

図表 47 ⑤「女は女らしく、男は男らしく」する（性別・年代別・共働きの有無別）



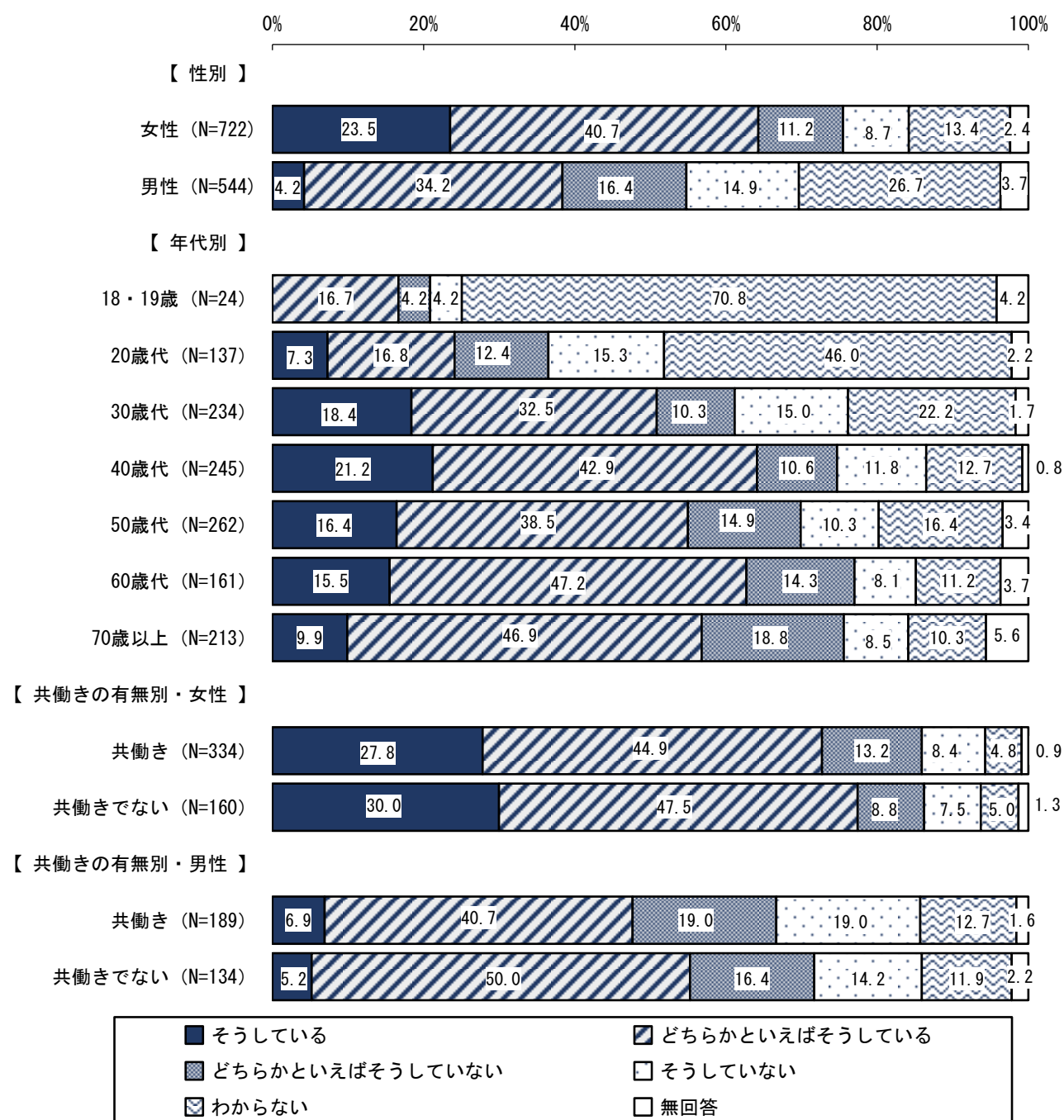
【⑥ 女性は仕事を持っても家事・育児もきちんとする】

図表 48 ⑥女性は仕事を持っても家事・育児もきちんとする（性別・年代別・共働きの有無別）



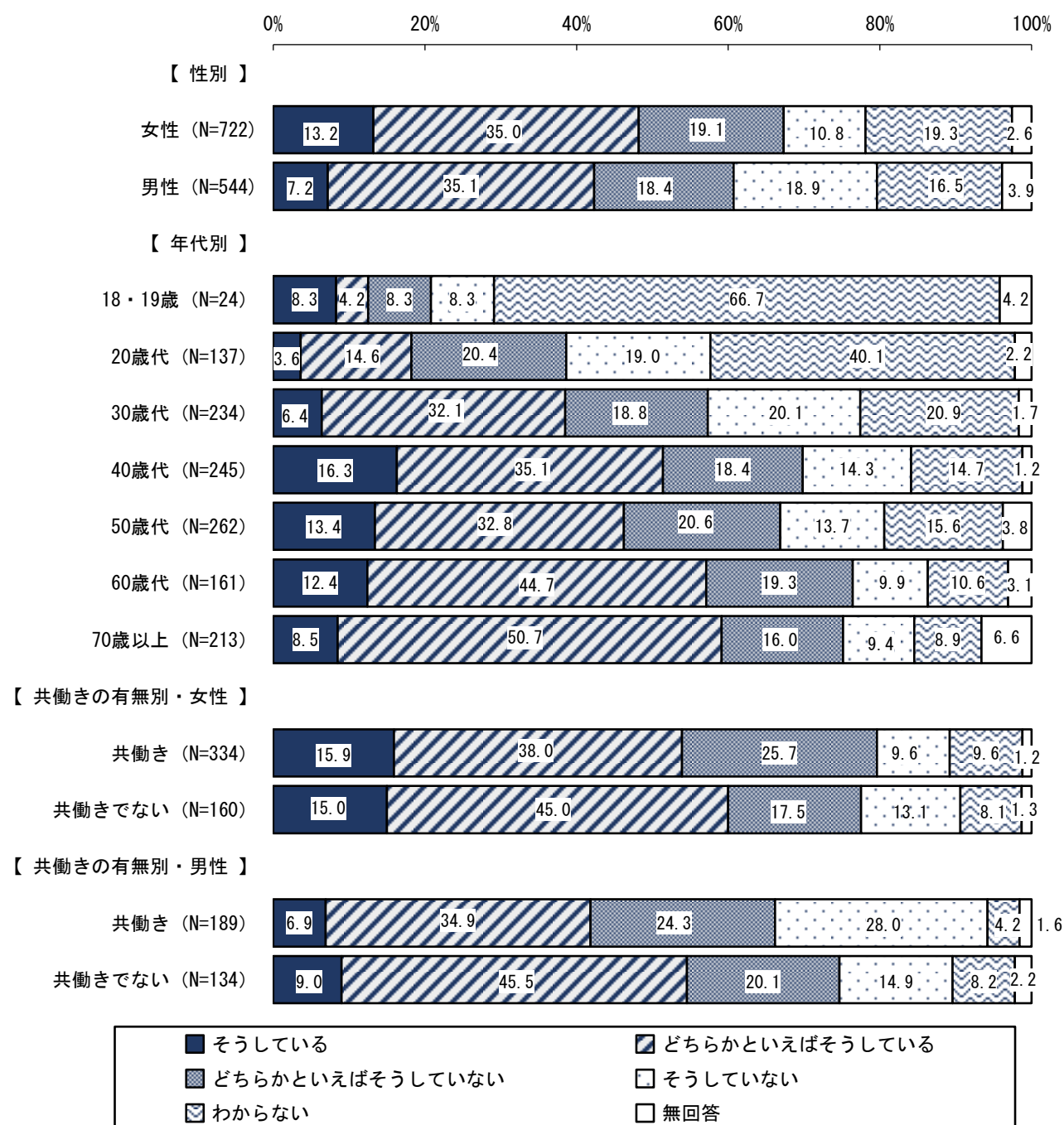
【⑦ 女性は自分のことより家族のことを優先する】

図表 49 ⑦女性は自分のことより家族のことを優先する（性別・年代別・共働きの有無別）



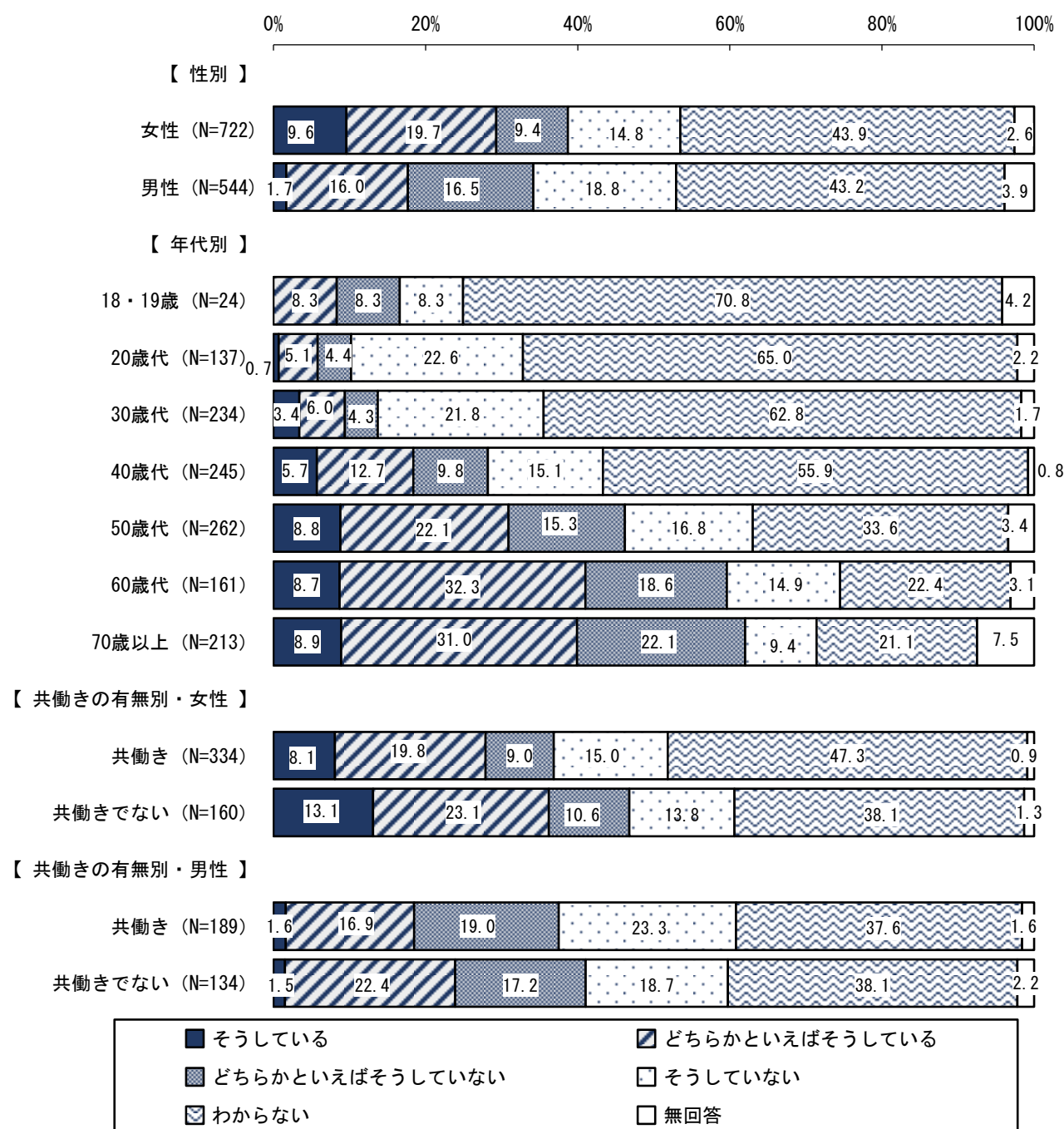
【⑧ 男性は家庭や地域のことより仕事を優先する】

図表 50 ⑧男性は家庭や地域のことより 仕事を優先する（性別・年代別・共働きの有無別）



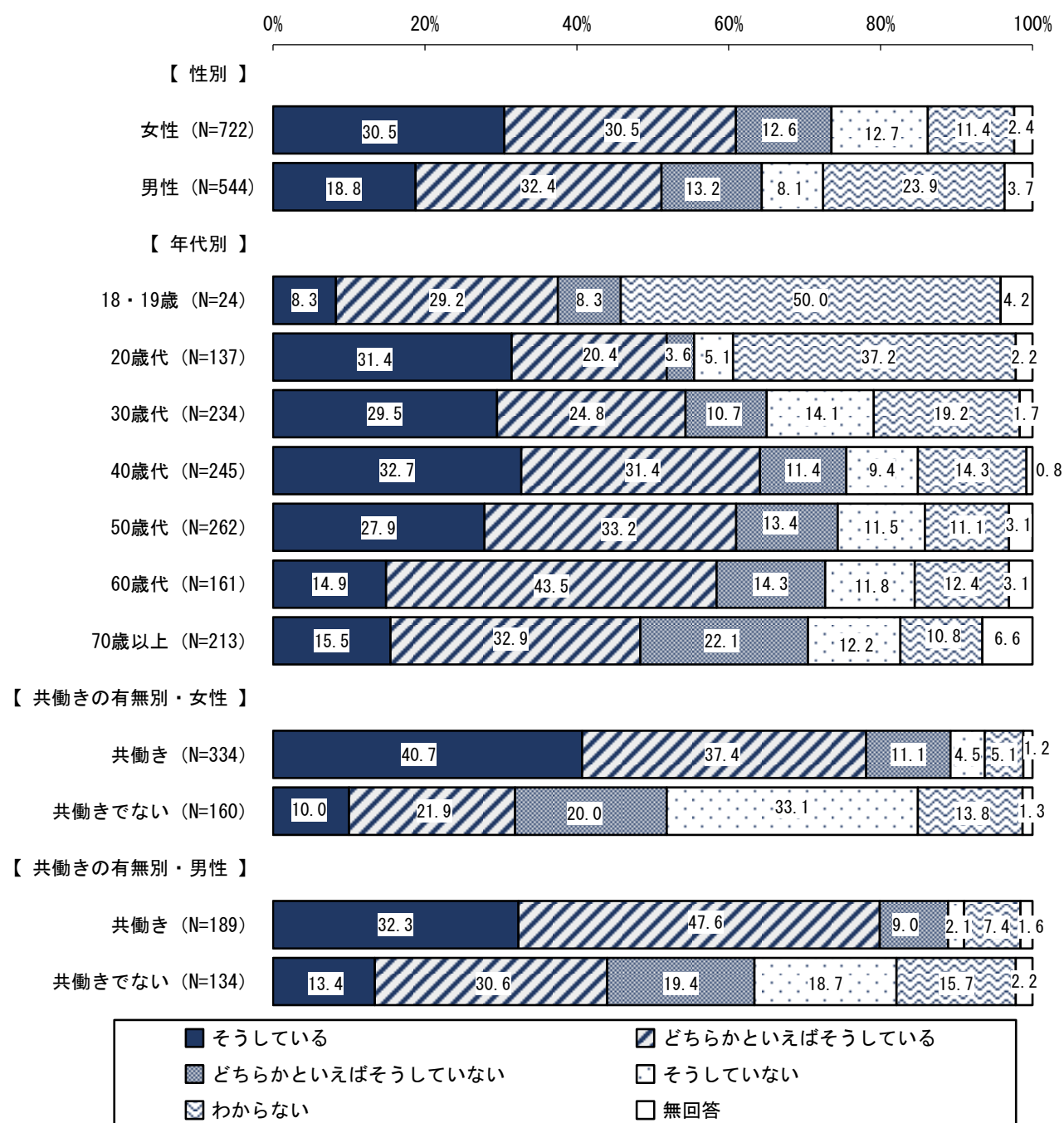
【⑨ 老親などの介護は男性より女性がする】

図表 51 ⑨老親などの介護は男性より女性がする（性別・年代別・共働きの有無別）



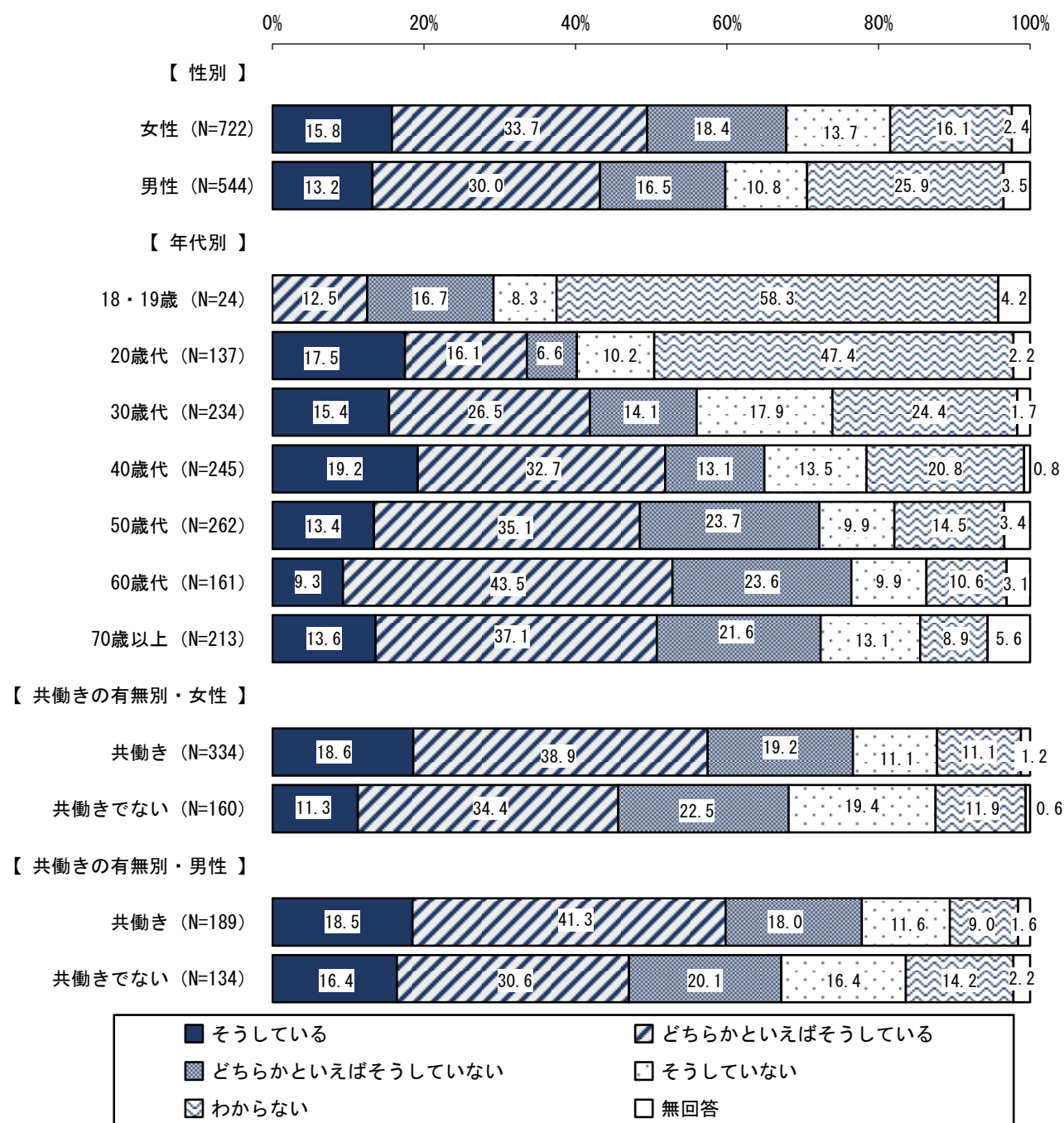
【⑩ 女性も積極的に仕事をする】

図表 52 ⑩女性も積極的に仕事をする（性別・年代別・共働きの有無別）

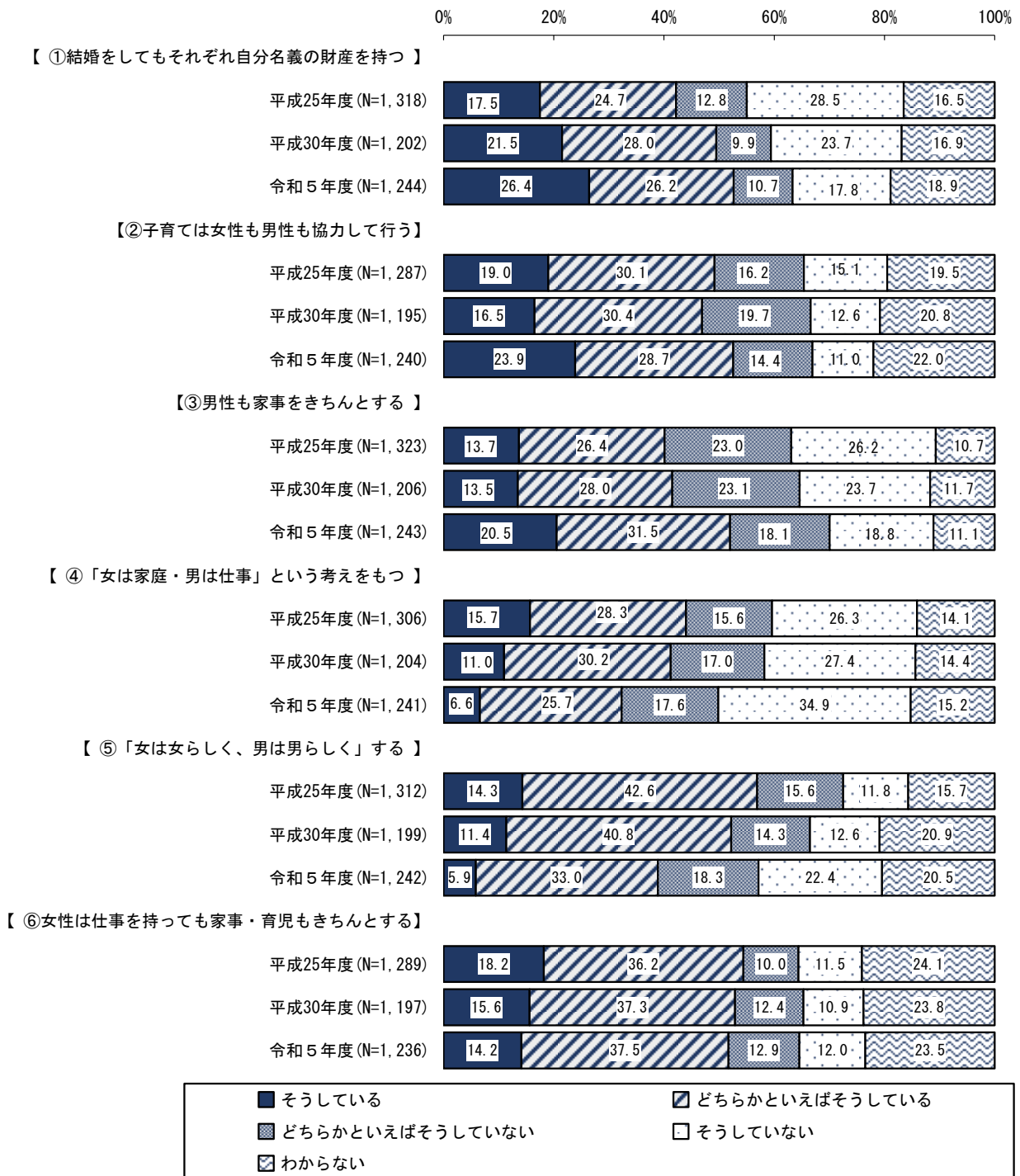


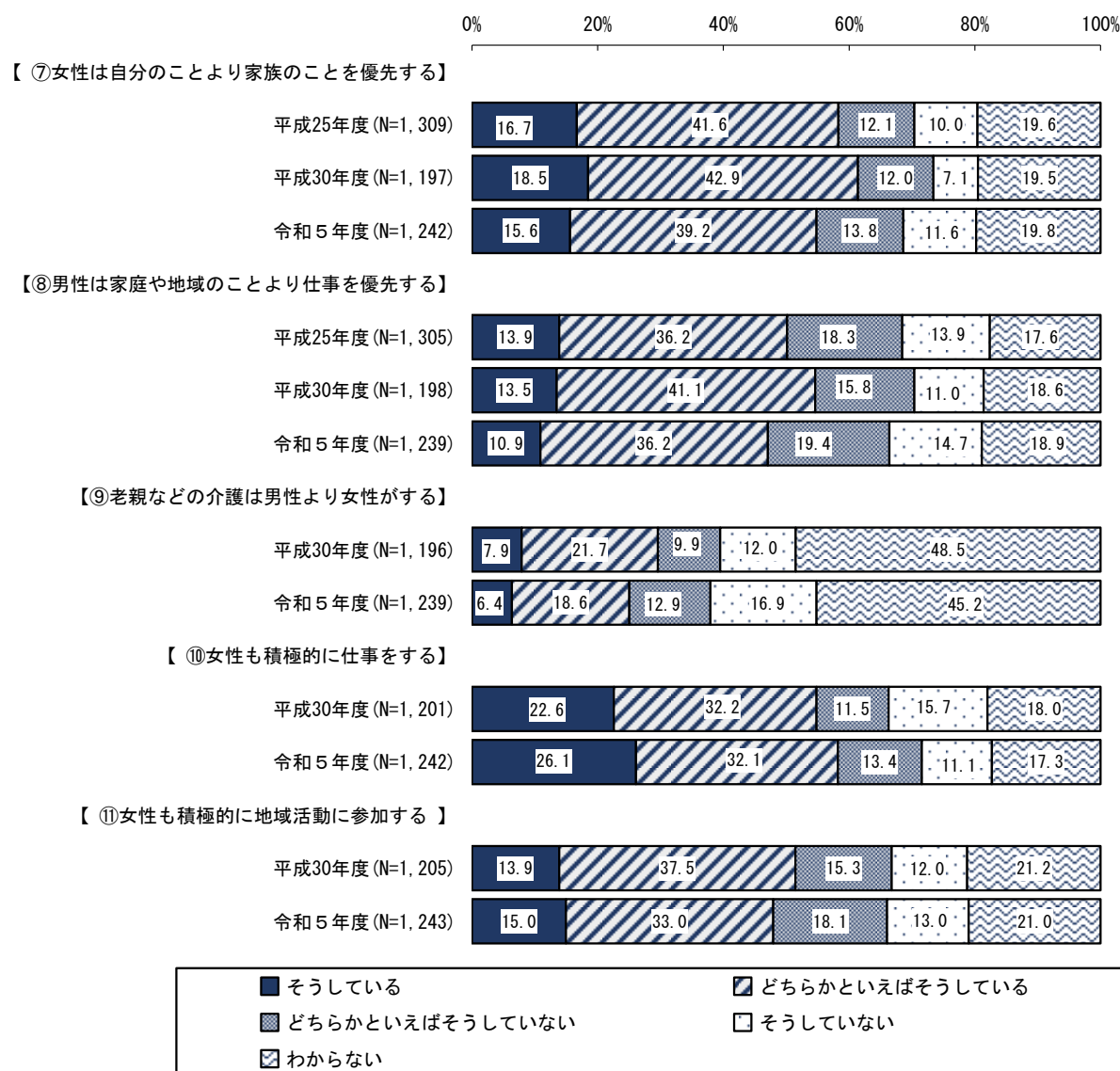
【⑪ 女性も積極的に地域活動に参加する】

図表 53 ⑪女性も積極的に地域活動に参加する（性別・年代別・共働きの有無別）



図表 54 男女の関わりに関する実際の行動(全体・経年比較)





5 家庭や地域における男女の役割分担や考え方について

問5 家庭における夫婦の役割分担について、お伺いします。

(1) ①～⑥に示す各場面で、夫婦のどちらが役割を担う方が良いと思いますか。

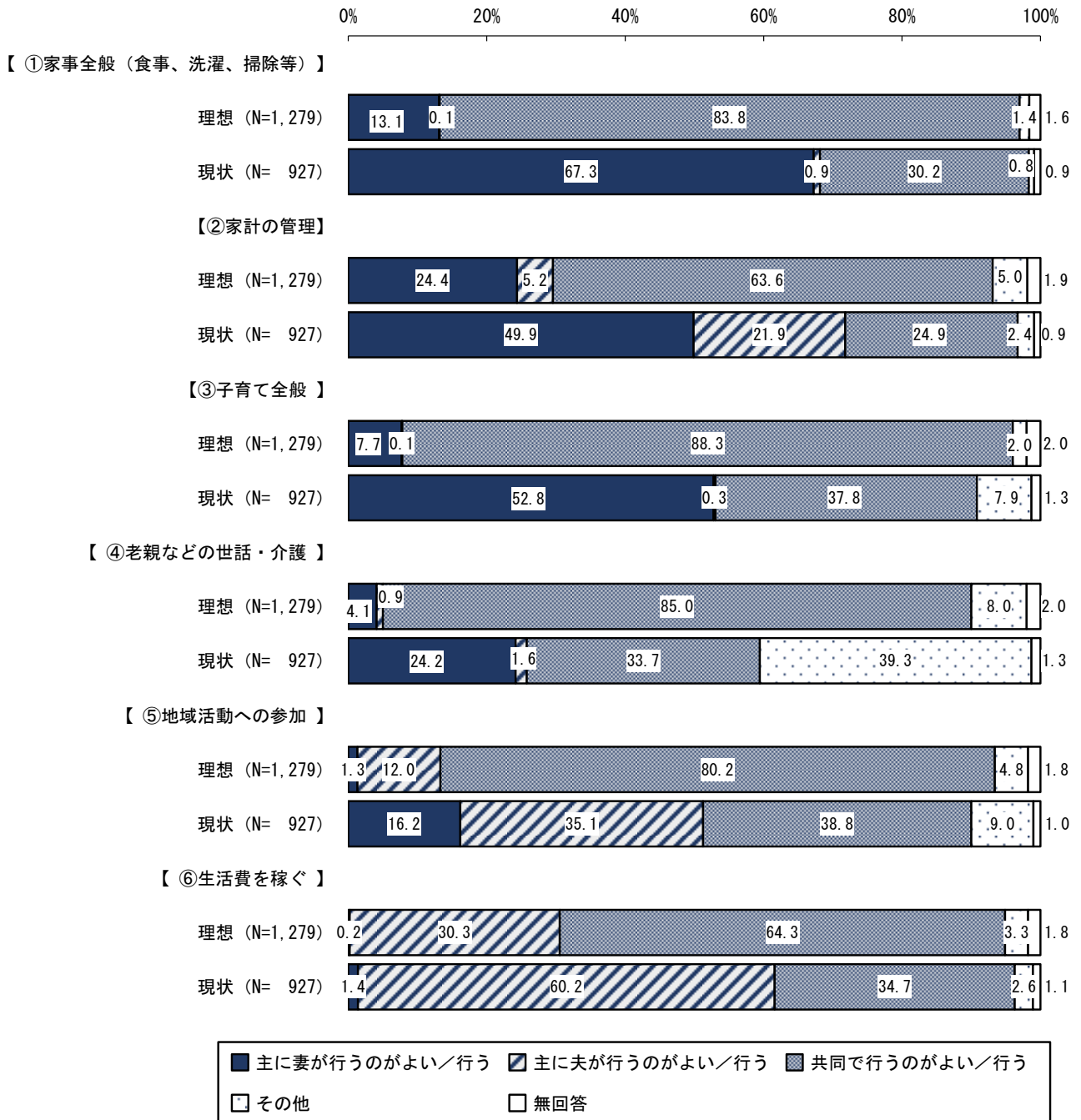
【結婚している方にお伺いします】

(2) あなたの家庭では、①～⑥に示す各場面で、実際に夫婦のどちらが役割を担っていますか。

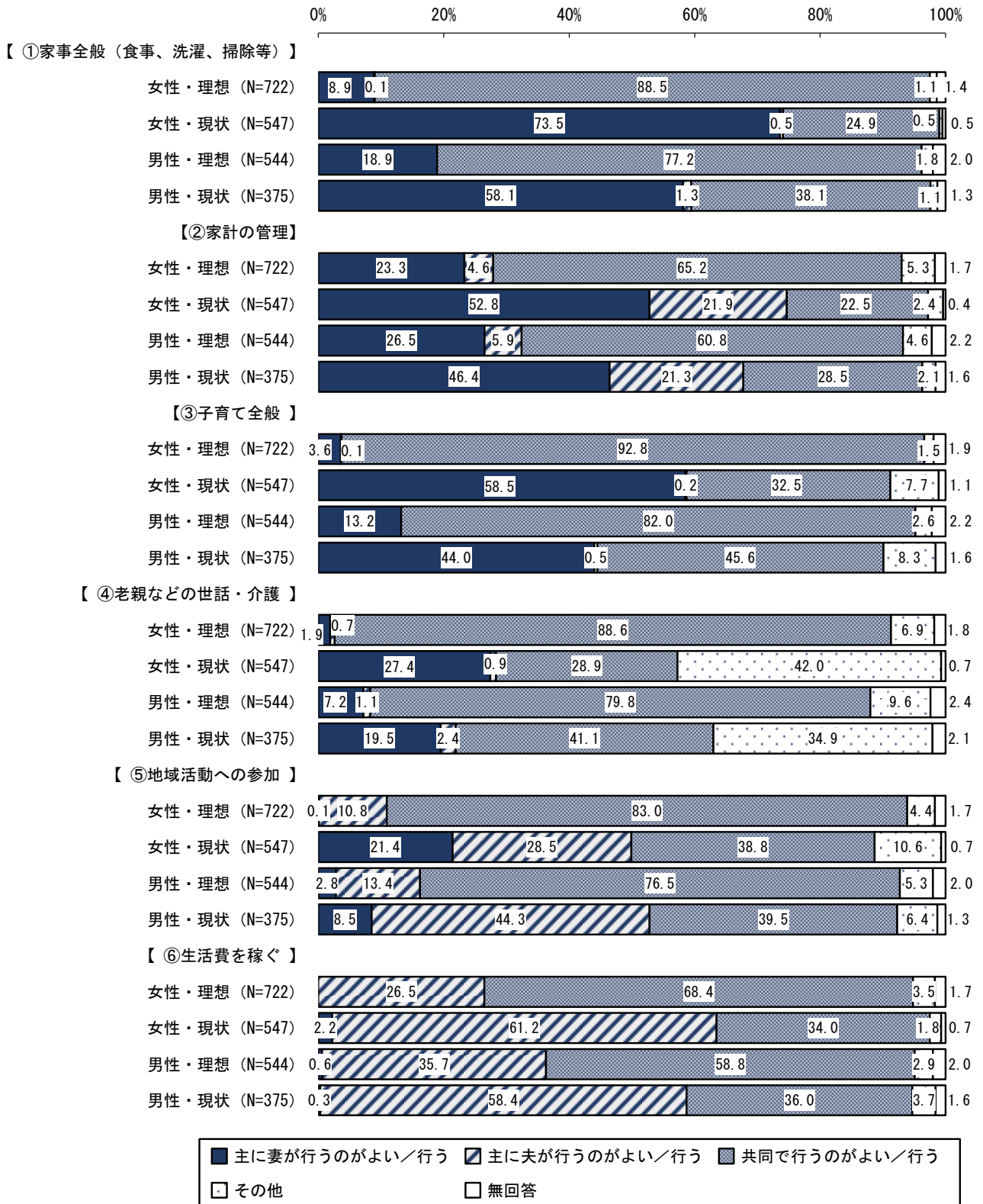
理想は全てにおいて「共同で行う」だが、現状では家事や子育ては女性、お金を稼ぐのは男性が多い

- 家庭における夫婦の役割分担について、理想では全ての項目で「共同で行う」が最も多くなっているが、現状としては「①家事全般(食事、洗濯、掃除等)」「②家計の管理」「③子育て全般」は女性、「⑥生活費を稼ぐ」は男性が担っていることが多い。
- 性別でみると、「⑤地域活動への参加」の現状について、女性では「主に妻が行うのがよい／行う」が多くなっているが、男性では「主に夫が行うのがよい／行う」が多くなっており、認識の違いが出ている。
- 共働きであるかに関わらず、現実としては家事全般や子育ては妻、生活費を稼ぐのは夫という役割になっている。
- 経年比較をみると、理想では、「①家事全般(食事、洗濯、掃除等)」「②家計の管理」「③子育て全般」について「共同で行う」が増加傾向にある一方で、わずかながら「⑤地域活動への参加」は「共同で行う」が減少し、「主に夫が行う」が増加している。現状では、全ての項目で「主に女性が行う」は減少傾向となっており、「⑤地域活動への参加」は「主に夫が行う」、その他の項目では「共同で行う」が増加傾向となっている。

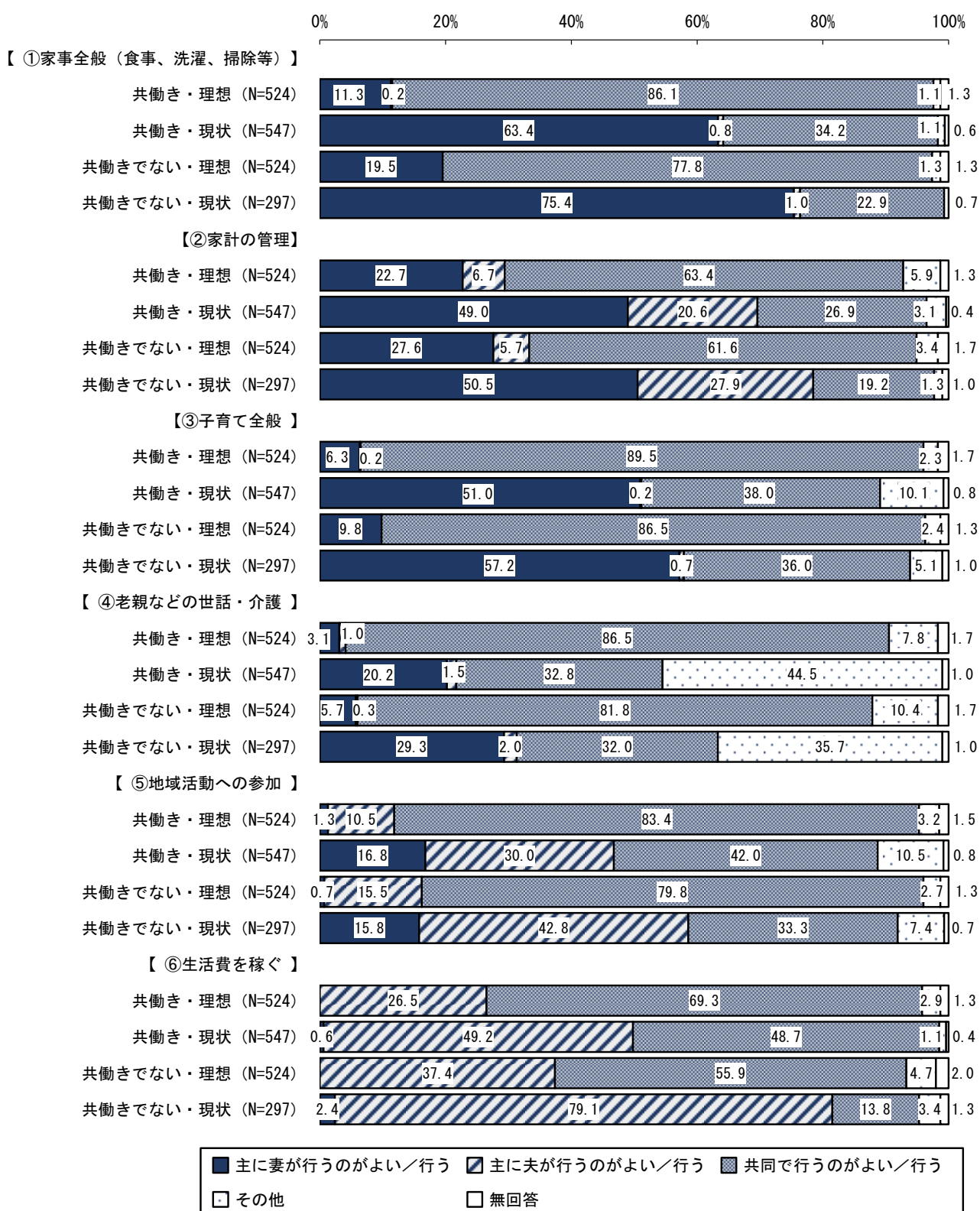
図表 55 家庭における夫婦の役割分担



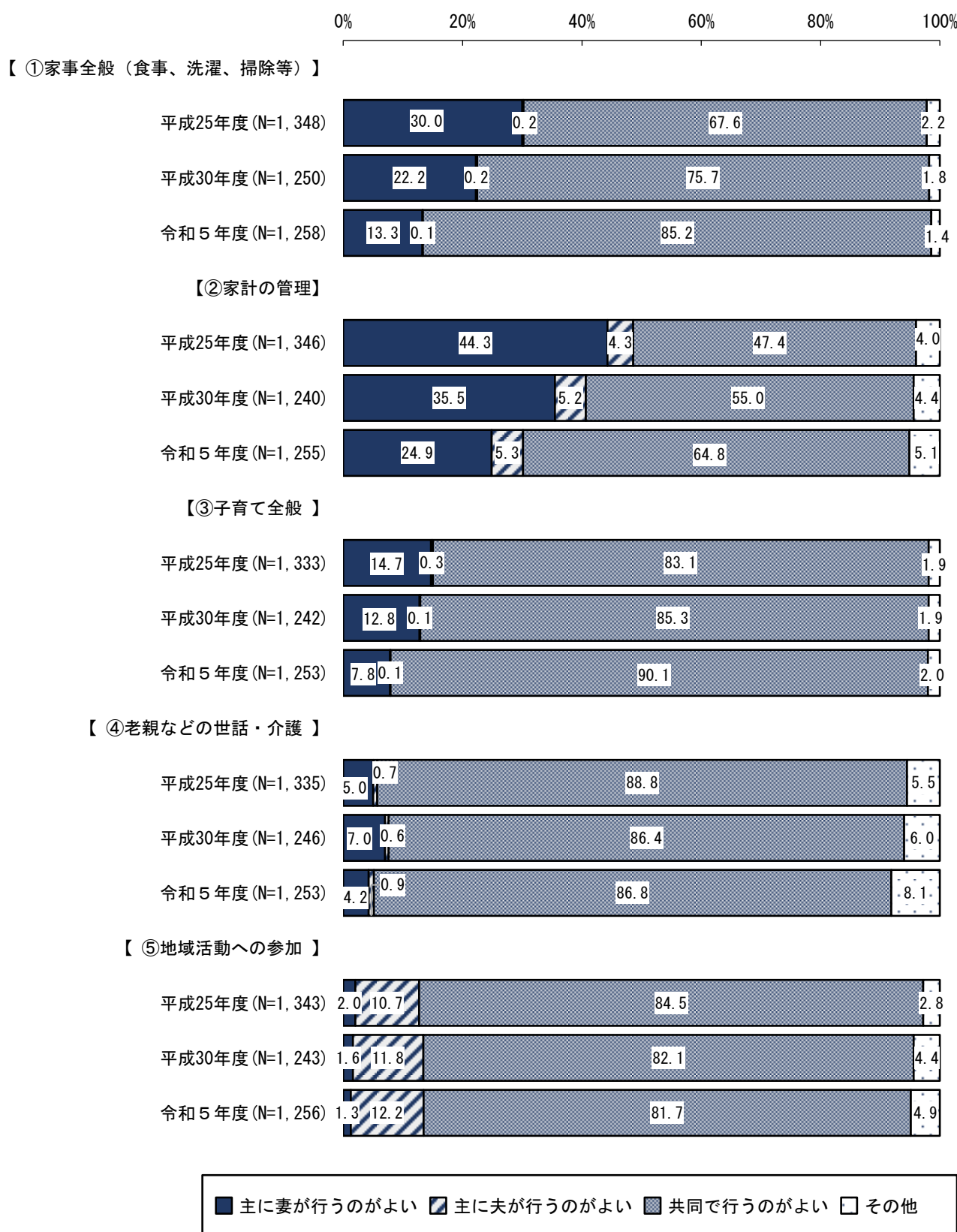
図表 56 家庭における夫婦の役割分担（性別）



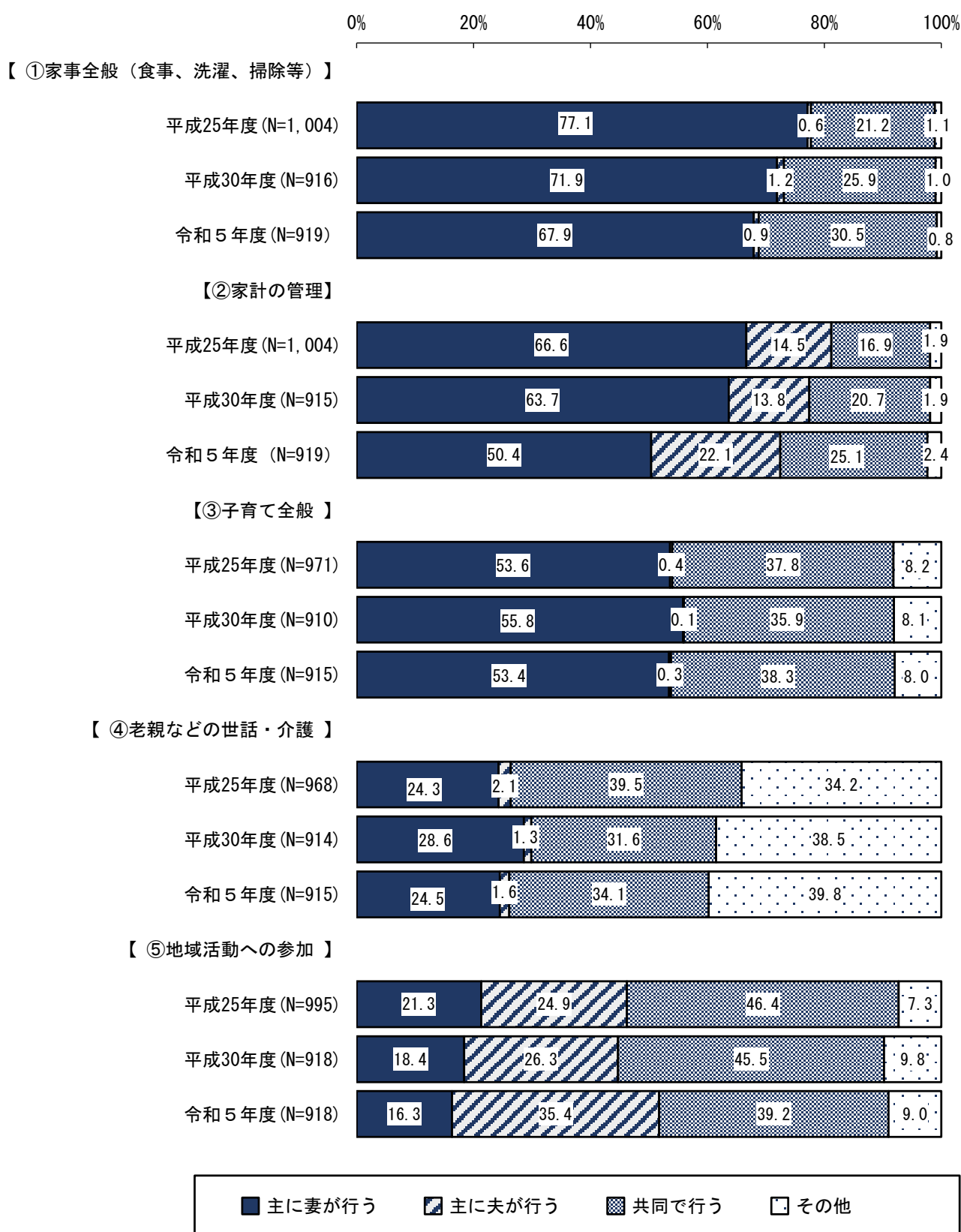
図表 57 家庭における夫婦の役割分担（共働きの有無別）



図表 58 家庭における夫婦の役割分担【理想】（経年比較）



図表 59 家庭における夫婦の役割分担【現状】（経年比較）

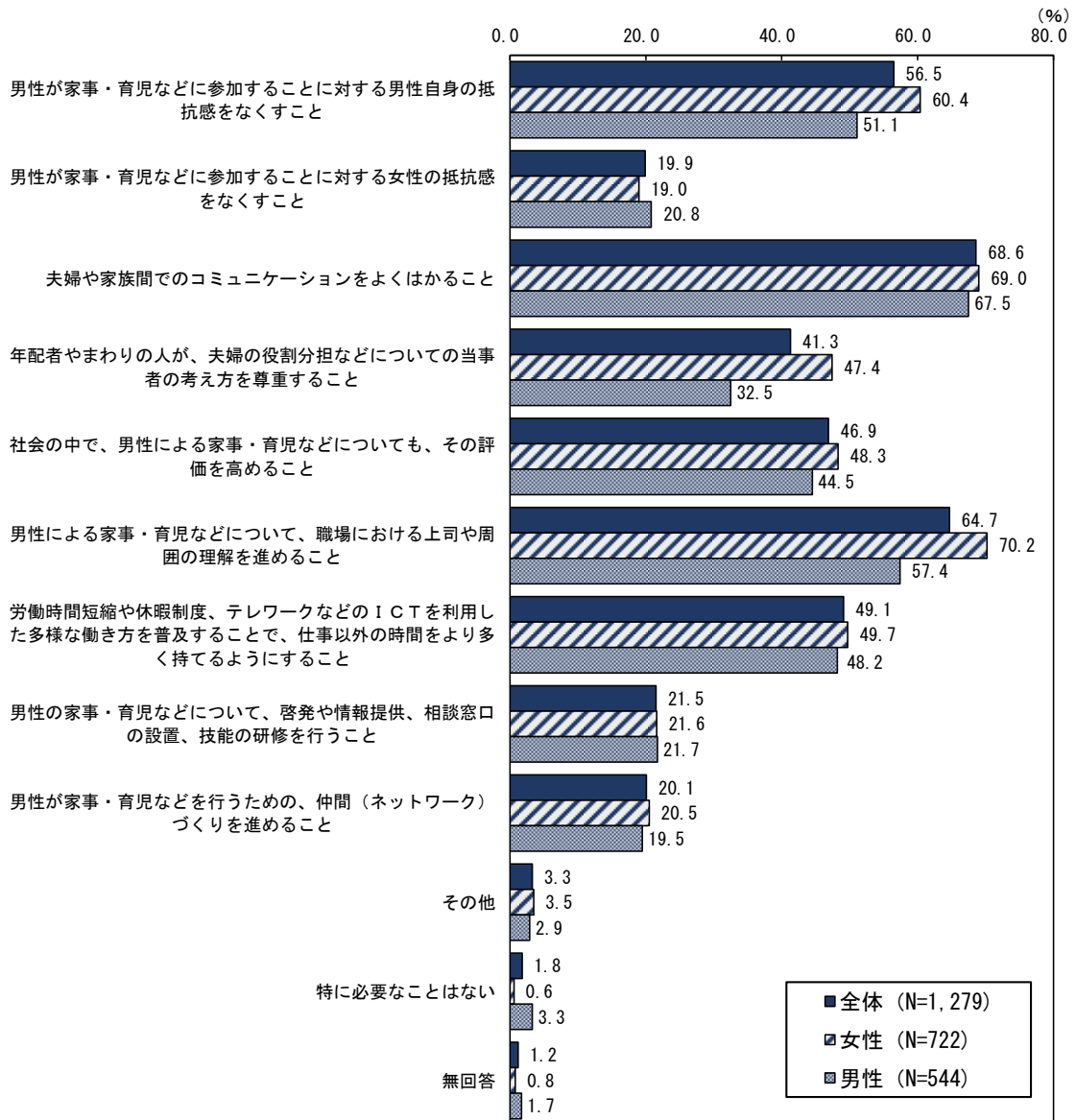


問6 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

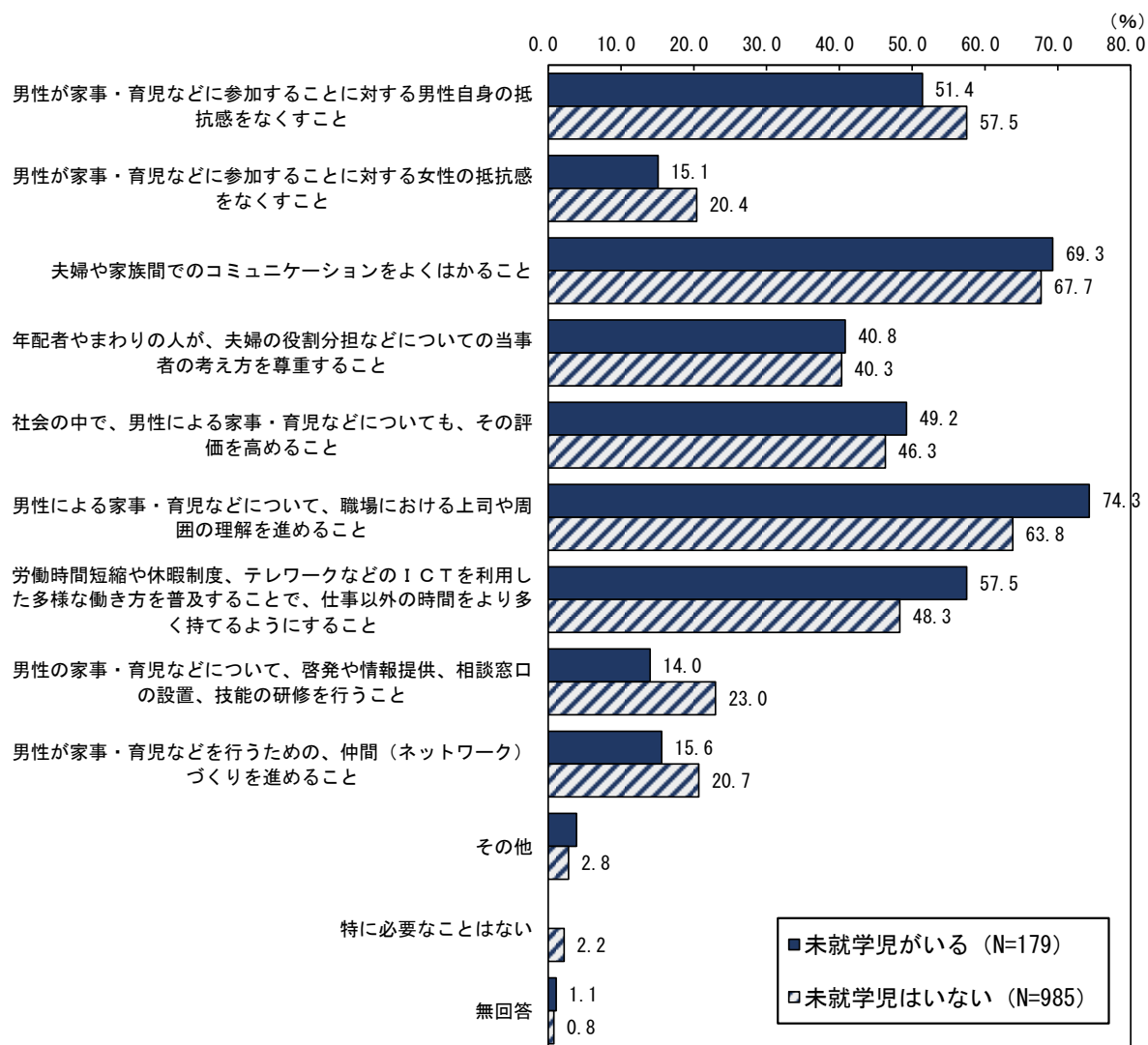
「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も多い

- 男性が家事等に積極的に参加していくために必要なことについて、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が68.6%と最も多く、次いで「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」(64.7%)、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(56.5%)となっている。
- 性別でみると、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」は女性が男性よりも多く、かつ性別による差が大きくなっている。
- 未就学児の有無別でみると、未就学児がいる人では「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が未就学児がいない人に比べて多くなっている。
- 全国・愛知県との比較をみると、豊田市は「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」「社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高めること」「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が最も多くなっている。

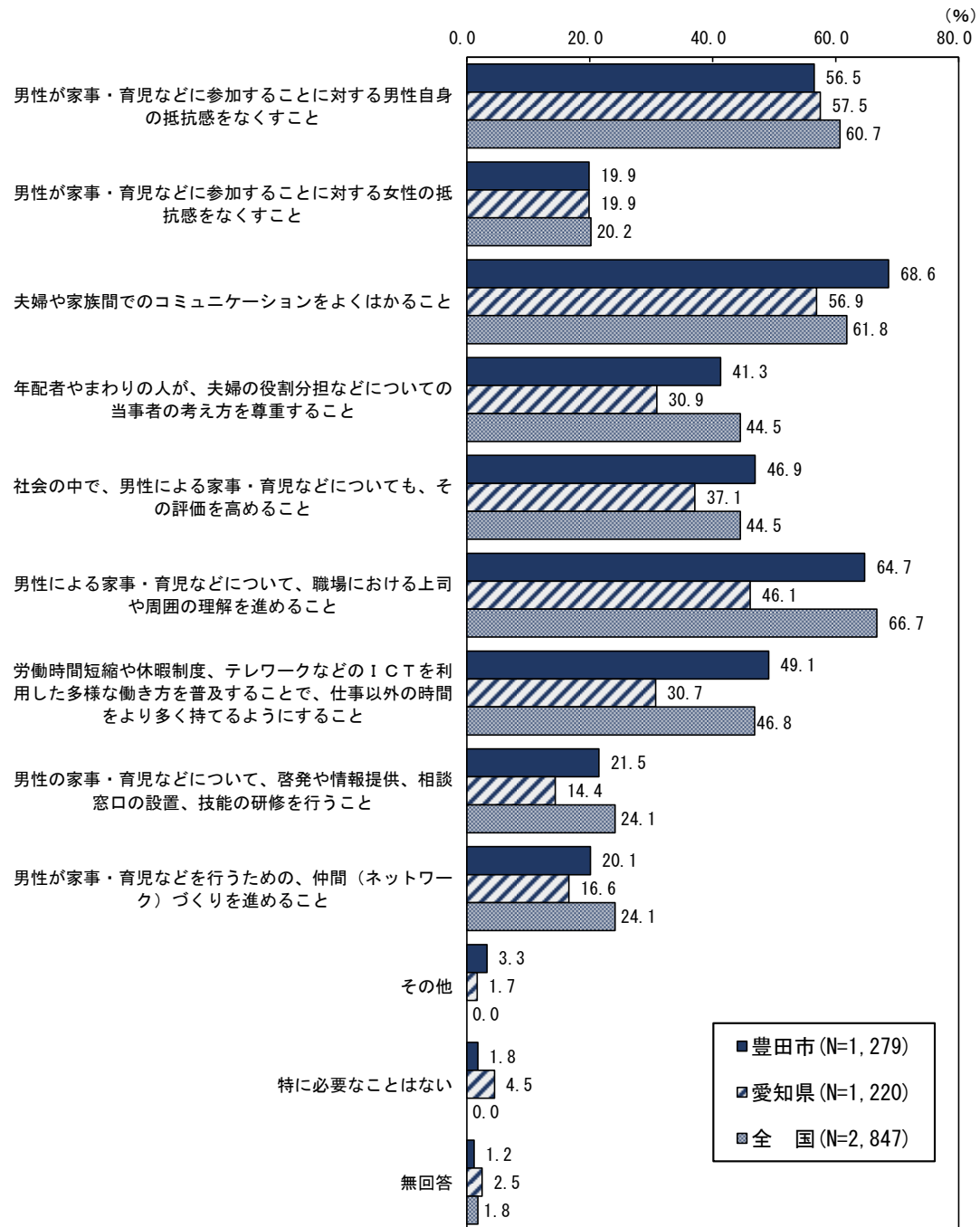
図表 60 今後、男性が家事等に参加していくために必要なこと（全体・性別）



図表 61 今後、男性が家事等に参加していくために必要なこと（未就学児の有無別）



図表 62 今後、男性が家事等に参加していくために必要なこと（国・県比較）

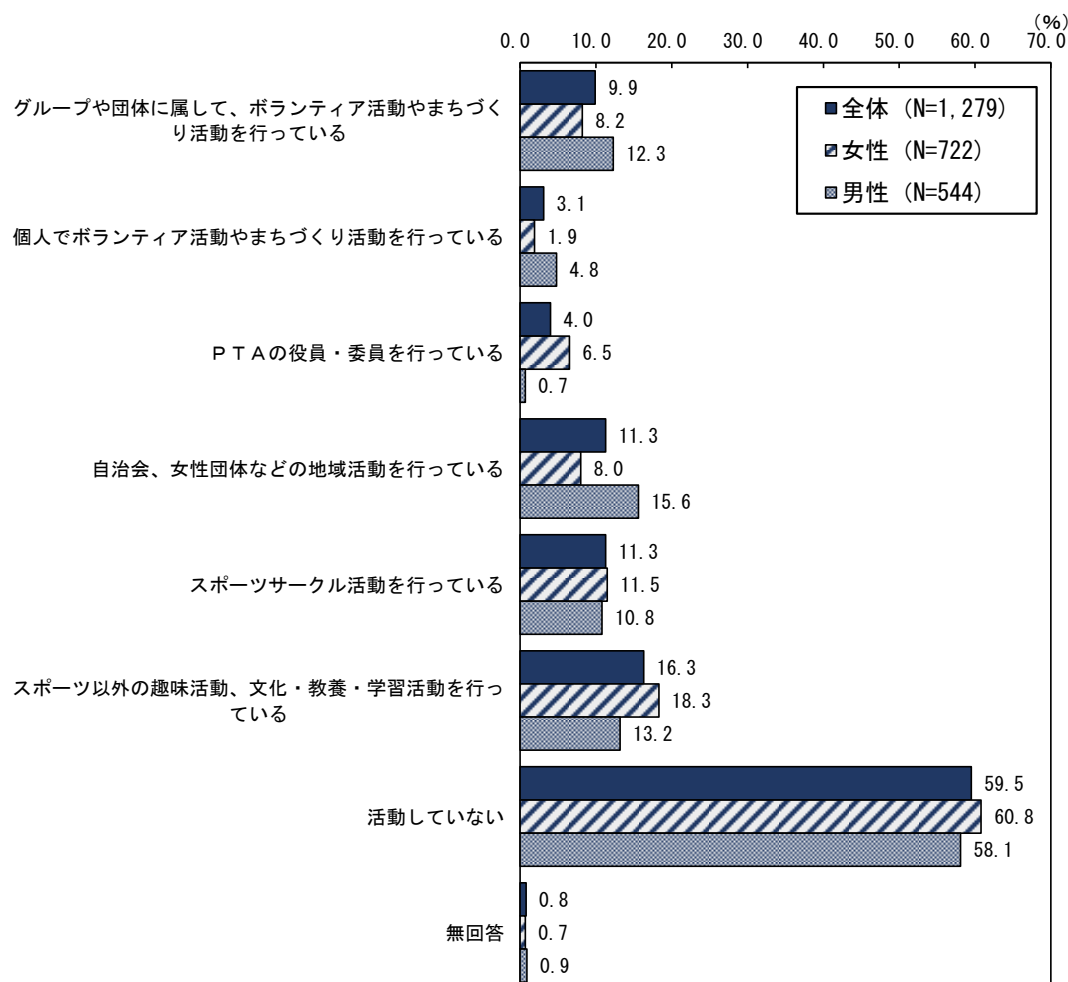


問7 あなたは現在、家庭の外で（仕事以外に）何か活動をしていますか。（○はいくつでも）

「活動していない」が半数以上

- 家庭の外での活動について、「活動していない」が 59.5%と最も多い。活動している人の活動内容については「スポーツ以外の趣味活動、文化・教養・学習活動を行っている」(16.3%)、「自治会、女性団体などの地域活動を行っている」「スポーツサークル活動を行っている」(11.3%)となっている。
- 性別でみると、女性は「PTAの役員・委員を行っている」「スポーツ以外の趣味活動、文化・教養・学習活動を行っている」が多く、男性は「グループや団体に属して、ボランティア活動やまちづくり活動を行っている」「自治会、女性団体などの地域活動を行っている」が多くなっている。
- 年代別でみると、「活動していない」は 20～30 歳代、「PTAの役員・委員を行っている」は 40 歳代、「グループや団体に属して、ボランティア活動やまちづくり活動を行っている」「スポーツ以外の趣味活動、文化・教養・学習活動を行っている」は 18・19 歳や 70 歳以上が多くなっている。

図表 63 家庭の外での活動（性別）



図表 64 家庭の外での活動(年代別)

	グループや団体 活動やまちづくり活動 を行っている	個人でボランティア 活動やまちづくり活 動を行っている	P T A の役員・委員 を行っている	自治会、女性団体 などの地域活動を行 っている	スポーツサークル活 動を行っている	スポーツ以外の趣味 活動、文化・教養・ 学習活動を行っている	活動していない	無回 答
18・19歳 (N = 24)	12.5	-	-	-	4.2	29.2	54.2	4.2
20歳代 (N = 137)	3.6	1.5	1.5	1.5	13.9	11.7	73.0	-
30歳代 (N = 234)	4.3	1.7	4.7	9.4	5.1	9.0	71.4	-
40歳代 (N = 245)	11.0	3.7	13.1	10.2	11.4	15.5	56.3	0.4
50歳代 (N = 262)	8.0	1.5	1.9	9.9	11.5	18.3	58.8	0.8
60歳代 (N = 161)	10.6	3.1	0.6	16.1	13.7	14.9	54.7	1.2
70歳以上 (N = 213)	20.7	7.5	-	19.7	14.6	24.9	47.4	1.9

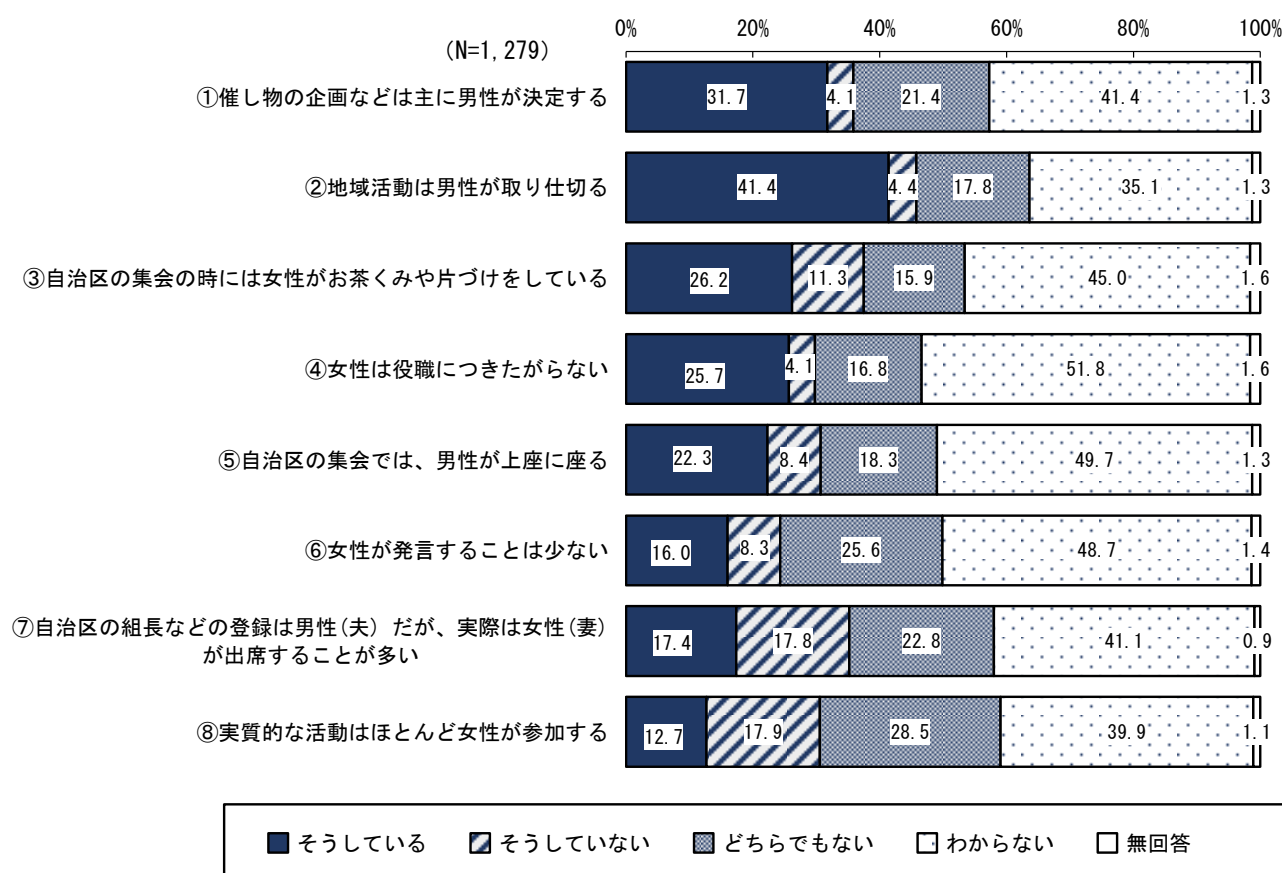
問 8 地域活動における男女の役割分担についてお伺いします。

(1) ①～⑧について、地域活動の現状はどのようになっていると思いますか。

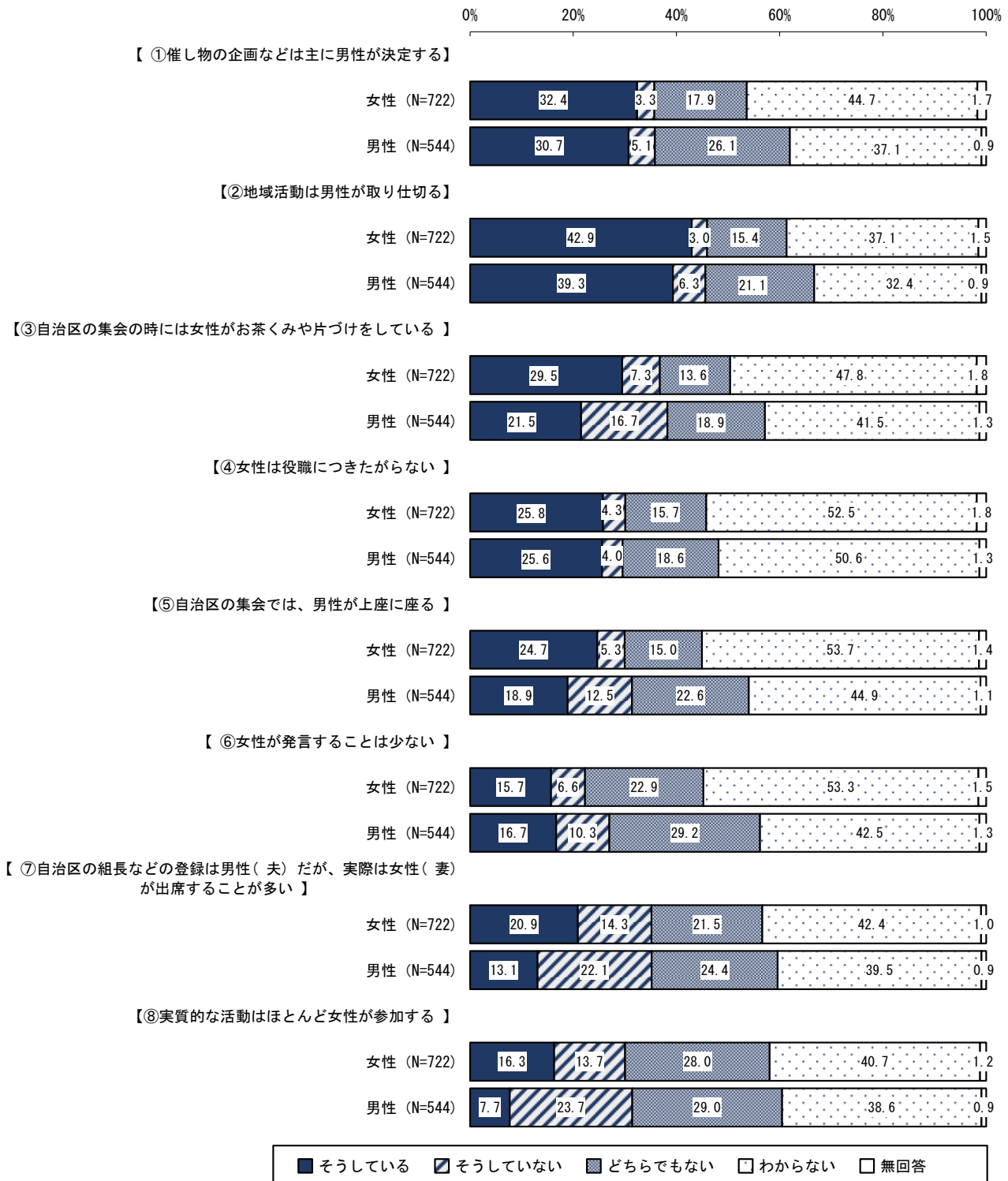
「②地域活動は男性が取り仕切る」が4割

- 地域活動の現状について、「そうしている」と回答した人は「②地域活動は男性が取り仕切る」が 41.4%と最も多く、次いで「①催し物の企画などは主に男性が決定する」(31.7%)、「③自治会の集会の時には女性がお茶くみや片づけをしている」(26.2%)となっている。一方で、「そうしていない」と回答した人は「⑧実質的な活動はほとんど女性が参加する」(17.9%)、「⑦自治会の組長などの登録は男性(夫)だが、実際は女性(妻)が出席することが多い」(17.4%)が多くなっている。
- 性別でみると、「③自治会の集会の時には女性がお茶くみや片づけをしている」「⑤自治会の集会では、男性が上座に座る」「⑦自治会の組長などの登録は男性(夫)だが、実際は女性(妻)が出席することが多い」「⑧実質的な活動はほとんど女性が参加する」について「そうしている」と回答した人は女性が男性より多く、かつ割合に差が出来ており、性別によって認識に違いがある。
- 経年比較でみると、全ての項目で「そうしている」は減少しており、特に「③自治会の集会の時には女性がお茶くみや片づけをしている」は平成 25 年度、平成 30 年度では4割を超えていたが、令和5年度では2割台半ばと大幅に減少している。

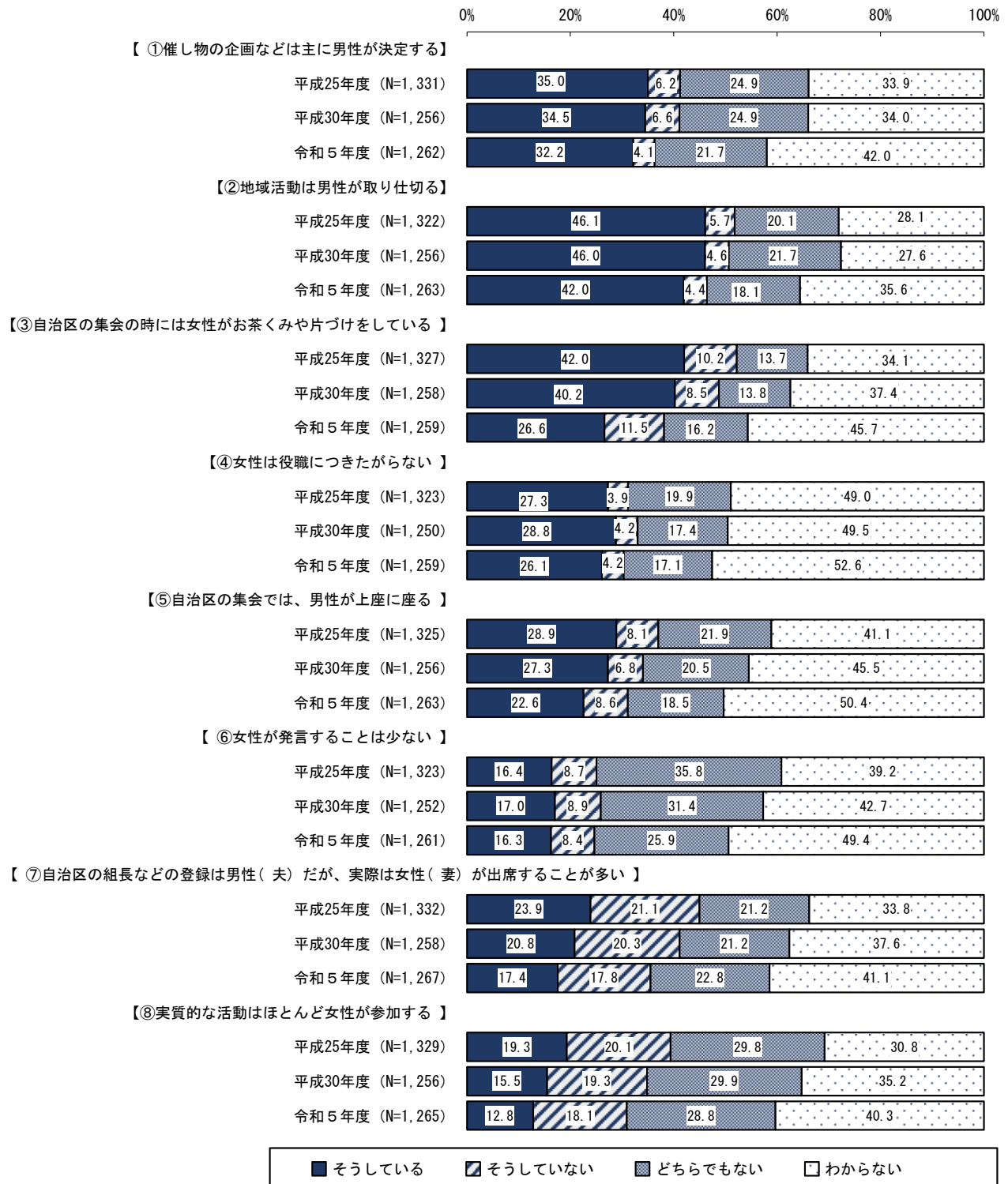
図表 65 地域活動における役割分担（現状）



図表 66 地域活動における役割分担（現状／性別）



図表 67 地域活動における役割分担（現状／経年比較）



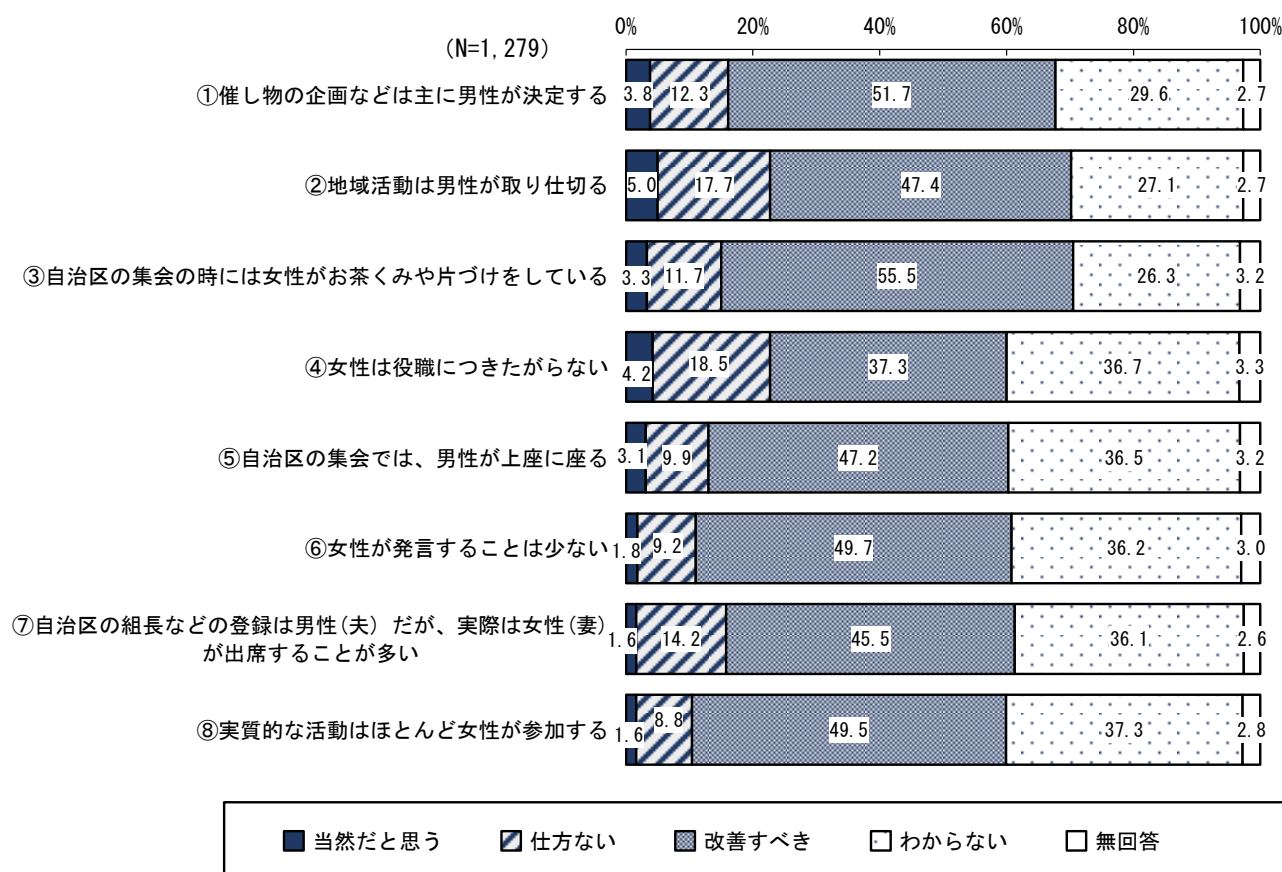
問8 地域活動における男女の役割分担についてお伺いします。

(2) 今後のあり方をどのように考えますか。

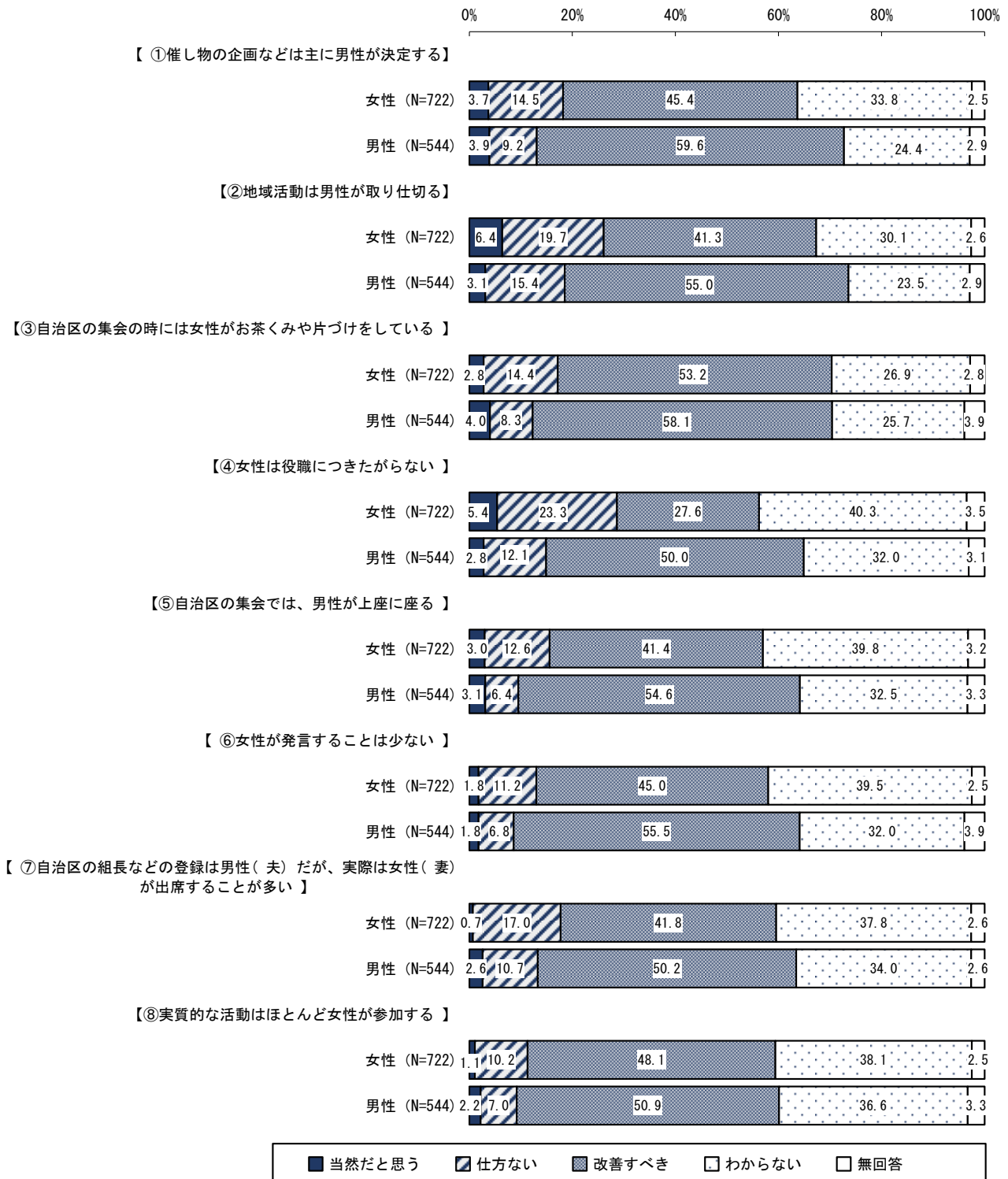
全ての項目において「改善すべき」が最多であり、年々増加している

- 地域活動における役割分担の今後のあり方について、全ての項目で「改善すべき」が最も多くなっている。一方で、「②地域活動は男性が取り仕切る」「④女性は役職につきたがらない」について、「仕方ない」が2割弱となっている。
- 性別でみると、全ての項目において性別問わず「改善すべき」が最も多くなっているものの、「仕方ない」と回答している女性は男性より多く、現状に不満があっても昔からの慣習を継続している傾向がみられる。
- 経年比較をみると、全ての項目で「改善すべき」が増加しており、特に「①催し物の企画などは主に男性が決定する」「③自治会の集会の時には女性がお茶くみや片づけをしている」「⑥女性が発言することは少ない」「⑧実質的な活動はほとんど女性が参加する」では半数以上となっている。

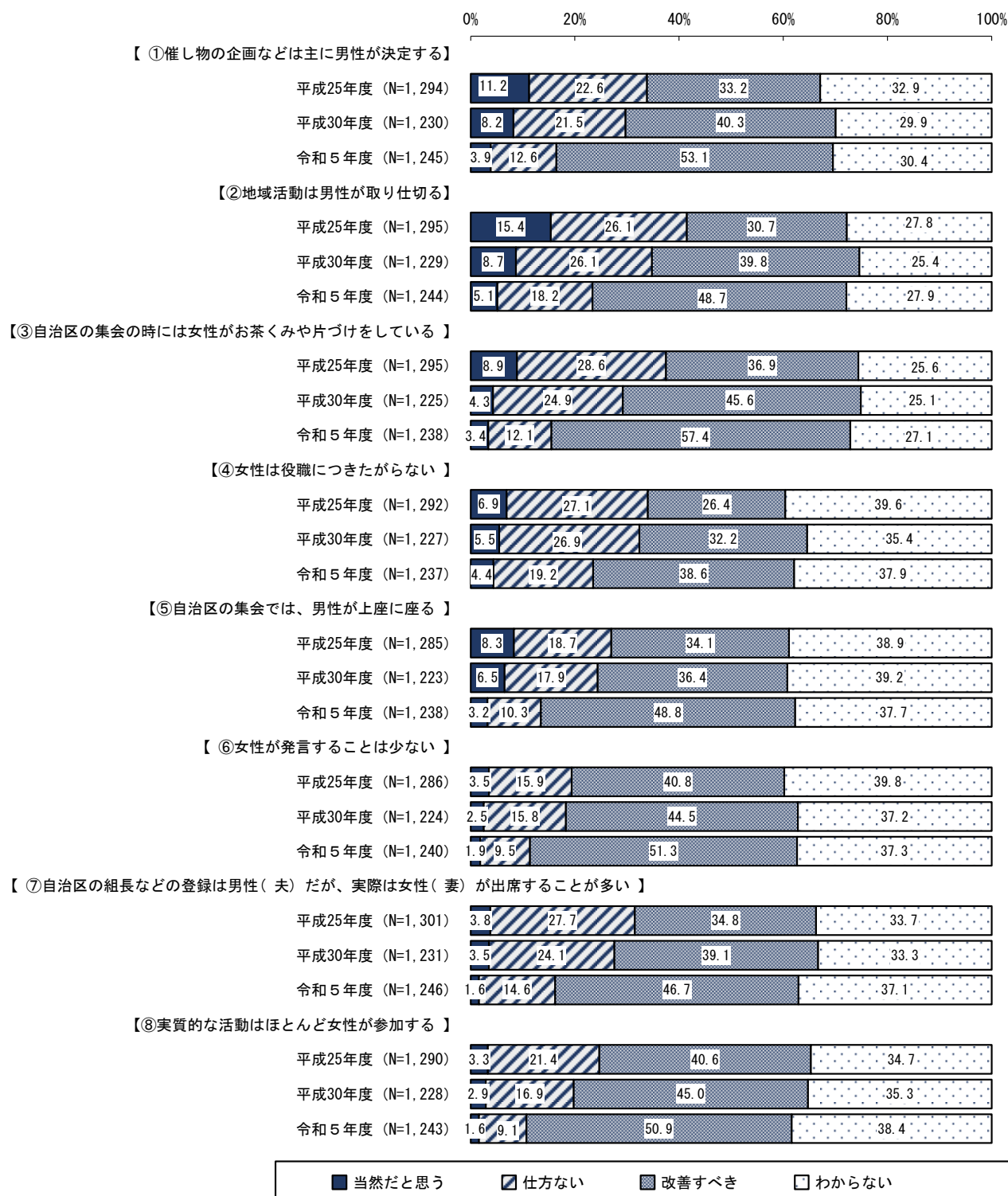
図表 68 地域活動における役割分担（今後のあり方）



図表 69 地域活動における役割分担（今後のあり方／性別）



図表 70 地域活動における役割分担（今後のあり方／経年比較）



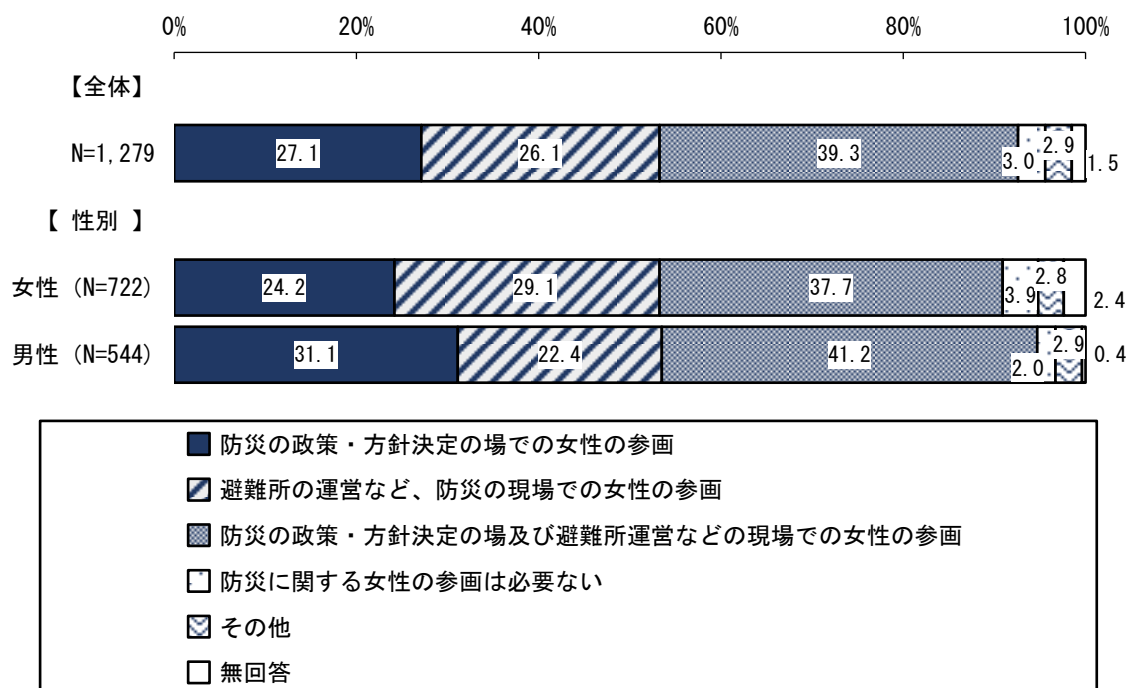
6 防災における男女共同参画について

問9 防災における男女共同参画を進めるため、防災に関する女性の参画について、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は1つ)

「防災の政策・方針決定の場及び避難所運営などの現場での女性の参画」が4割弱

- 防災に関する女性の参画について必要なことは、「防災の政策・方針決定の場及び避難所運営などの現場での女性の参画」が39.3%と最も多く、次いで「防災の政策・方針決定の場での女性の参画」(27.1%)、「避難所の運営など、防災の現場での女性の参画」(26.1%)となっている。
- 性別でみると、「避難所の運営など、防災の現場での女性の参画」は女性、「防災の政策・方針決定の場での女性の参画」は男性が多くなっている。

図表 71 防災に関する女性の参画(全体・性別)

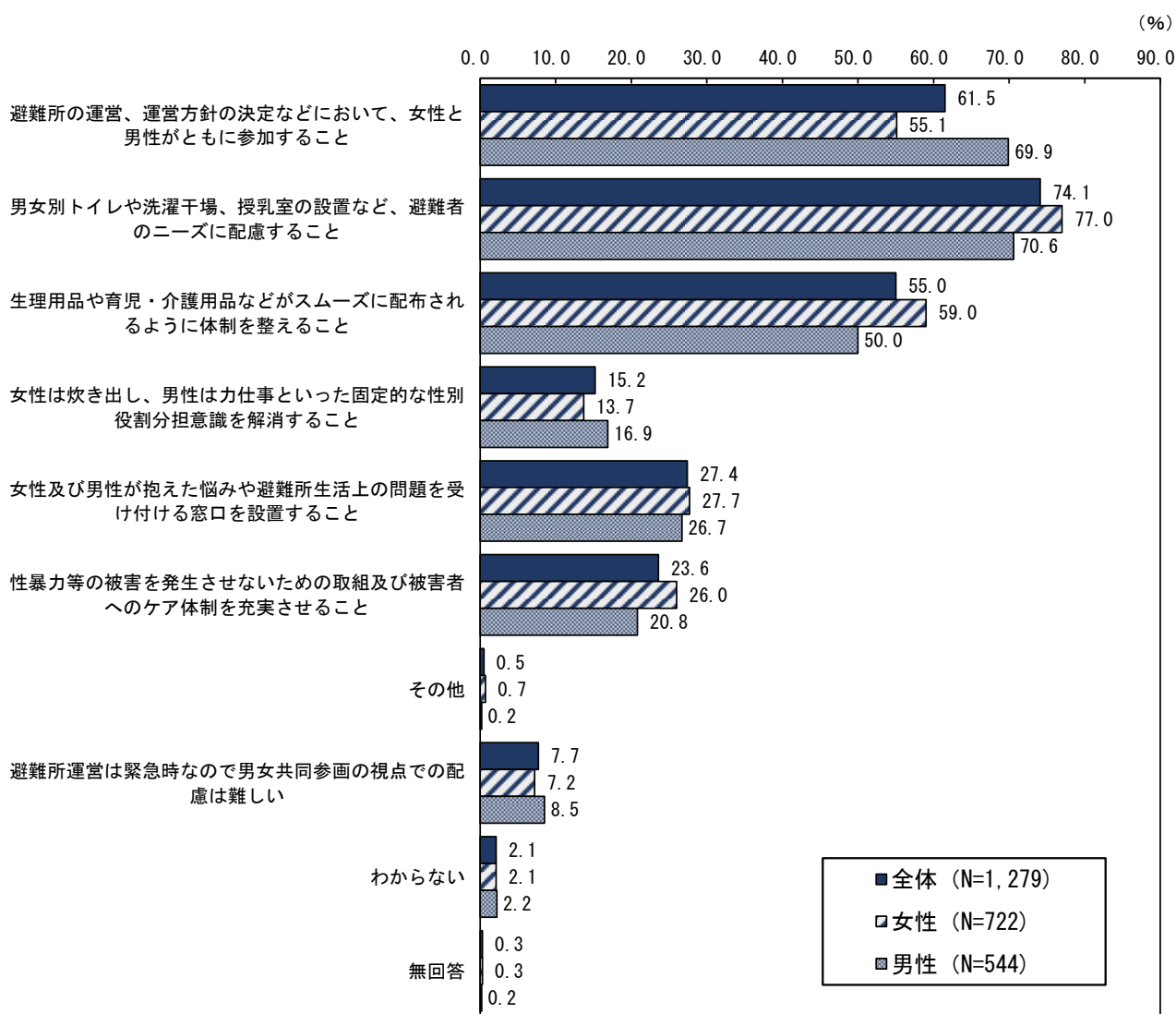


問 10 災害時の避難所運営について、男女共同参画の視点からあなたはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が7割以上

- 災害時の避難所運営について必要なことは、「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が 74.1%と最も多く、次いで「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること」(61.5%)、「生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること」(55.0%)となっている。
- 性別でみると、「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」「生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること」は女性、「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること」は男性が多くなっている。

図表 72 防災に関する女性の参画(全体・性別)



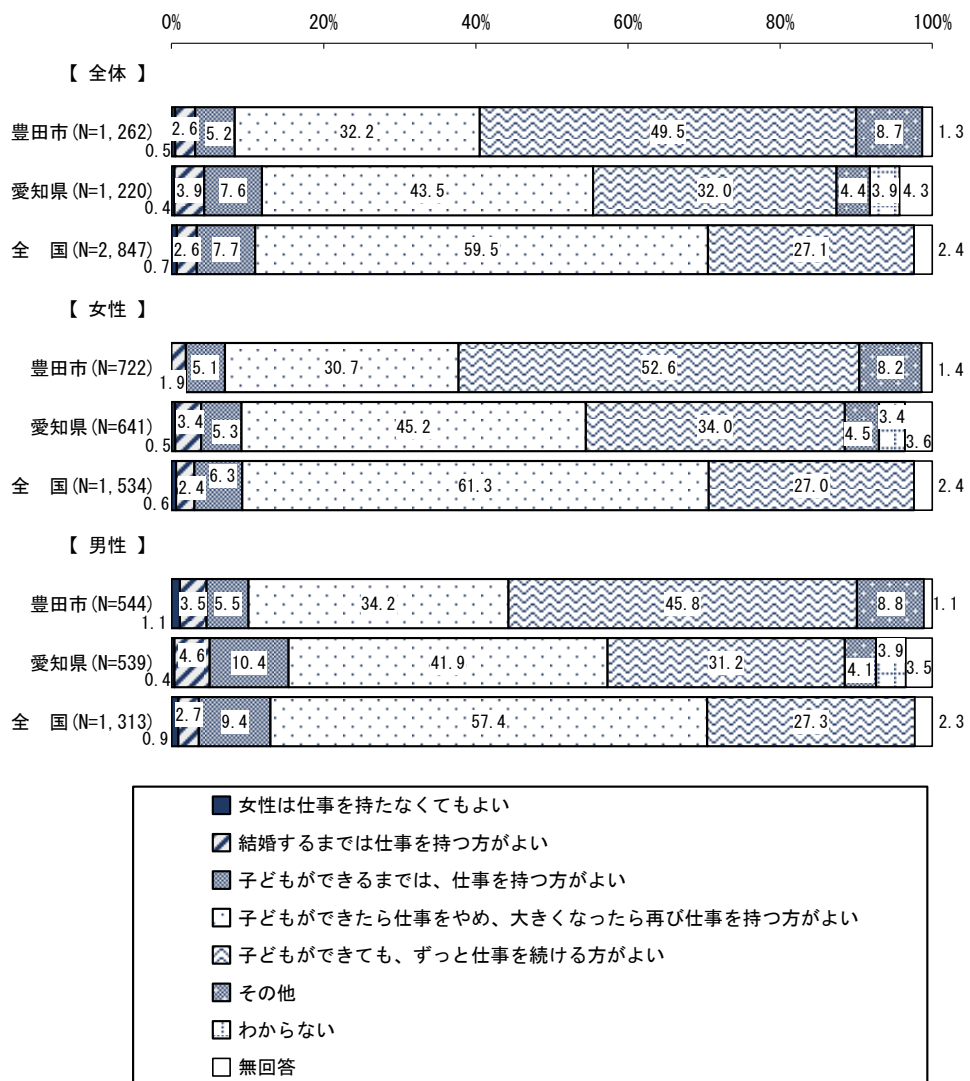
7 職場における男女の役割分担や考え方について

問 11 一般的に、女性が仕事を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。

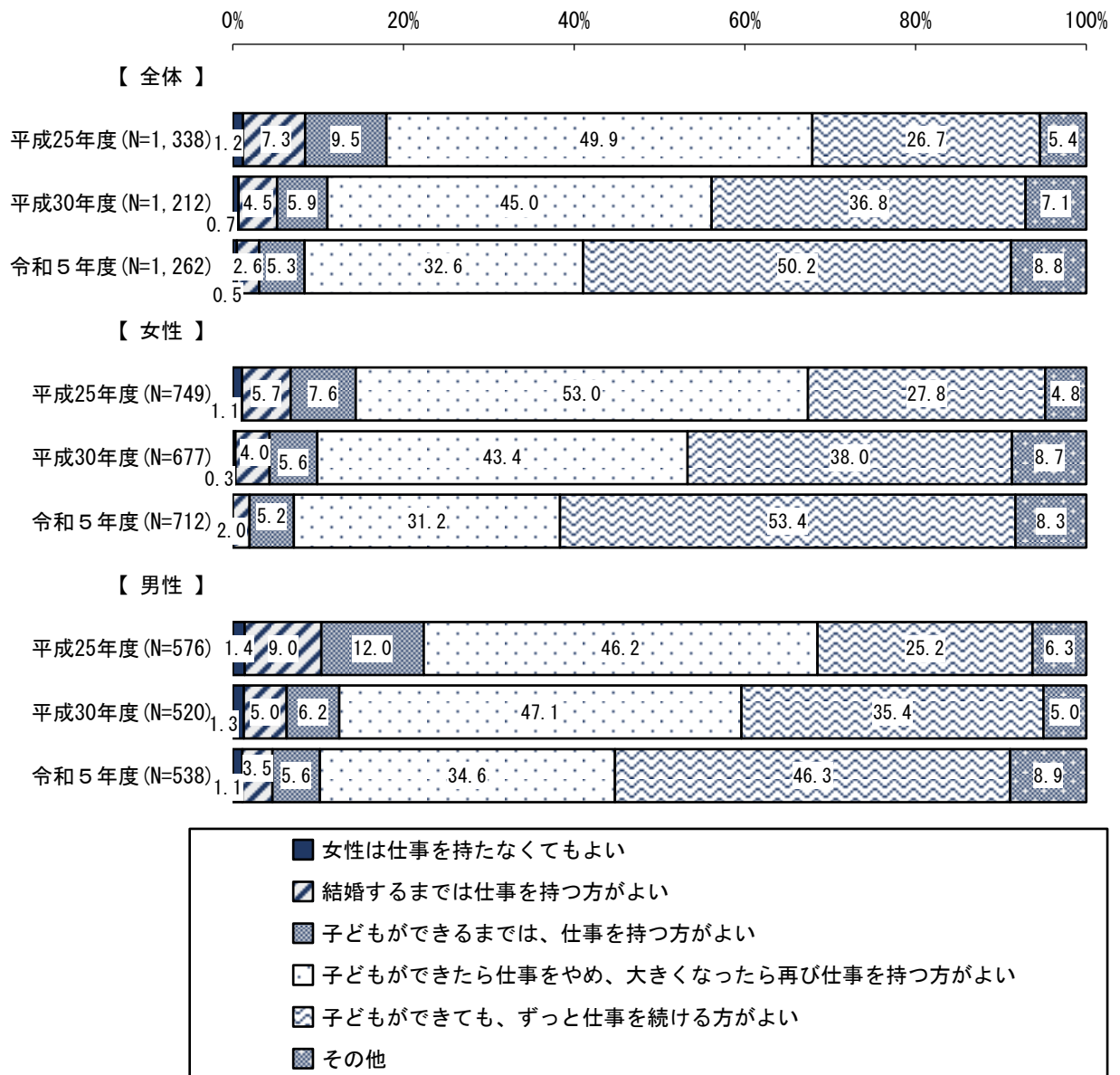
「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が5割弱

- 女性が仕事を持つことについて、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が49.5%と最も多く、次いで「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」が32.2%となっている。
- 性別に関わらず「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が最も多くなっている。
- 国・県との比較をみると、豊田市は「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が愛知県より15ポイント、全国より22ポイント多くなっている。
- 経年比較をみると、平成30年度までは「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」が最も多かったが、令和5年度では「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」が最も多くなっている。

図表 73 女性が仕事をもつことについて(全体・性別・国・県比較)



図表 74 女性が仕事をもつことについて(全体・性別・経年比較)



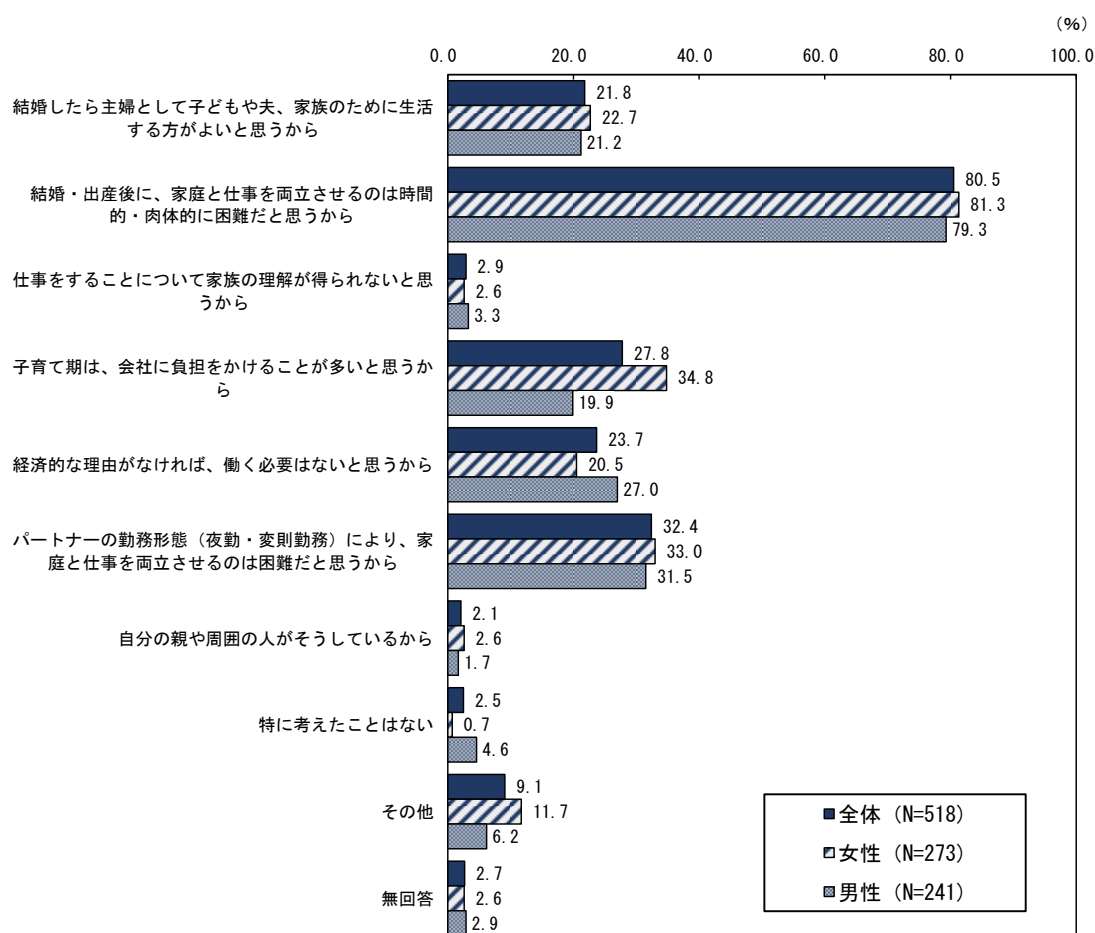
<問 11 で「1」～「4」(「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」以外)と回答した方>

問 12 仕事をしない方がよいと考える理由は何ですか。(○は3つまで)

「結婚・出産後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから」が8割

- 仕事をしない方がよいと考える理由は、「結婚・出産後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから」が 80.5%と最も多く、次いで「パートナーの勤務形態(夜勤・変則勤務)により、家庭と仕事を両立させるのは困難だと思うから」が 32.4%となっている。
- 性別でみると、「子育て期は、会社負担をかけることが多いと思うから」が女性で多くなっている。
- 年代別でみると、「結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がよいと思うから」は 18・19 歳と 60 歳以上、「子育て期は、会社負担をかけることが多いと思うから」は 30～60 歳代で多くなっている。
- 職業の有無別でみると、女性は仕事の有無に関わらず「子育て期は、会社負担をかけることが多いと思うから」が多くなっている。また、仕事をしていない男性で「パートナーの勤務形態(夜勤・変則勤務)により、家庭と仕事を両立させるのは困難だと思うから」が多くなっている。

図表 75 仕事をしない方がよいと考える理由(全体・性別)



図表 76 仕事をしない方がよいと考える理由（年代別・仕事の有無別）

	結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がよいと思うから	結婚・肉体的に困難だと思ふから	仕事をすることについて家族の理解が得られないと思ふから	子育て期は、会社負担をかけることが多いと思ふから	経済的な理由がなければ、働く必要はないと思ふから	パートナーの勤務形態（夜勤・変則勤務）により、家庭と仕事を両立させるのは困難だと思ふから	自分の親や周囲の人がそうしているから	特に考えたことはない	その他	無回答
年代別										
18・19歳（N＝14）	28.6	85.7	-	7.1	7.1	42.9	14.3	-	21.4	7.1
20歳代（N＝57）	17.5	77.2	3.5	19.3	26.3	33.3	3.5	7.0	7	1.8
30歳代（N＝84）	19.0	88.1	1.2	31.0	29.8	32.1	-	3.6	8.3	2.4
40歳代（N＝69）	17.4	73.9	2.9	27.5	26.1	24.6	2.9	2.9	13	-
50歳代（N＝100）	17.0	78.0	2.0	31.0	22.0	28.0	2.0	2.0	13	2
60歳代（N＝66）	24.2	75.8	4.5	30.3	18.2	31.8	1.5	-	10.6	3
70歳以上（N＝126）	30.2	84.1	4.0	28.6	22.2	38.9	1.6	1.6	3.2	4.8
仕事の有無別・女性										
仕事をしている（N＝162）	21.6	77.8	1.9	37.0	20.4	34.6	1.9	1.2	14.2	2.5
仕事をしていない（N＝110）	24.5	87.3	3.6	30.9	20.9	30.0	3.6	-	8.2	2.7
仕事の有無別・男性										
仕事をしている（N＝171）	19.9	78.4	2.9	18.7	28.1	28.1	1.2	5.8	7.6	2.3
仕事をしていない（N＝70）	24.3	81.4	4.3	22.9	24.3	40.0	2.9	1.4	2.9	4.3

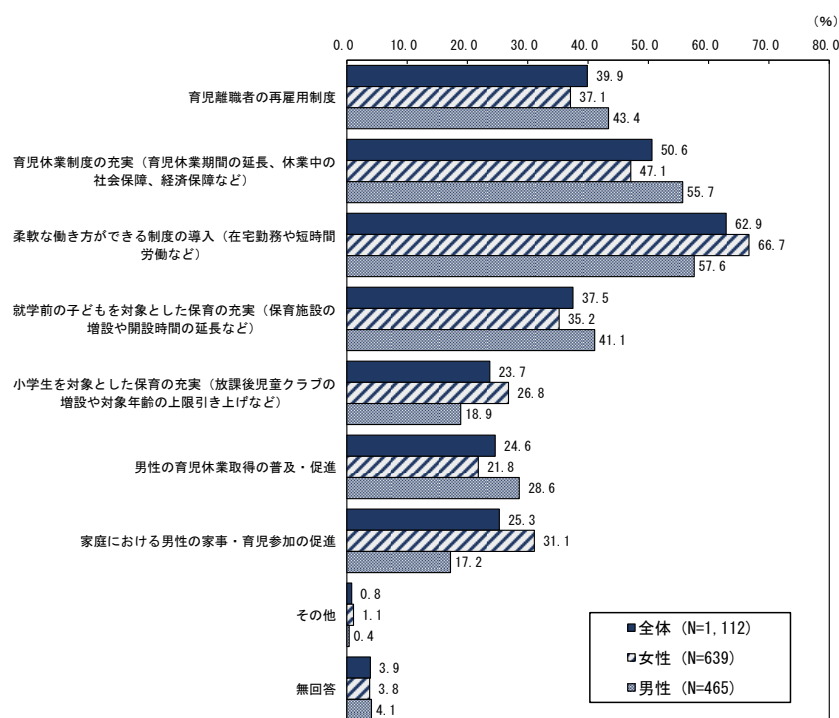
<問 11 で「3」～「5」と回答した方>

問 13 結婚・出産後に女性が仕事をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「柔軟な働き方ができる制度の導入（在宅勤務や短時間労働など）」が6割以上

- 結婚・出産後に女性が仕事をするために必要なことは、「柔軟な働き方ができる制度の導入（在宅勤務や短時間労働など）」が 62.9%と最も多く、次いで「育児休業制度の充実（育児休業期間の延長、休業中の社会保障、経済保障など）」(50.6%)、「育児離職者の再雇用制度」(39.9%)、「就学前の子どもを対象とした保育の充実（保育施設の増設や開設時間の延長など）」(37.5%)となっている。
- 性別でみると、女性は「小学生を対象とした保育の充実（放課後児童クラブの増設や対象年齢の上限引き上げなど）」「家庭における男性の家事・育児参加の促進」、男性は「就学前の子どもを対象とした保育の充実（保育施設の増設や開設時間の延長など）」、「男性の育児休業取得の普及・促進」が多くなっている。
- 年代別でみると、「柔軟な働き方ができる制度の導入（在宅勤務や短時間労働など）」は若い年代で多くなっている。
- 職業の有無別でみると、仕事をしている男女で「柔軟な働き方ができる制度の導入（在宅勤務や短時間労働など）」が多くなっており、特に仕事をしている女性で多くなっている。
- 未就学児の有無別でみると、未就学児がいる人では「柔軟な働き方ができる制度の導入（在宅勤務や短時間労働など）」「就学前の子どもを対象とした保育の充実（保育施設の増設や開設時間の延長など）」が多くなっており、育児と仕事を両立するために柔軟に働ける制度や保育の充実が求められている。
- 経年比較をみると、「柔軟な働き方ができる制度の導入（在宅勤務や短時間労働など）」が増加傾向となっている。

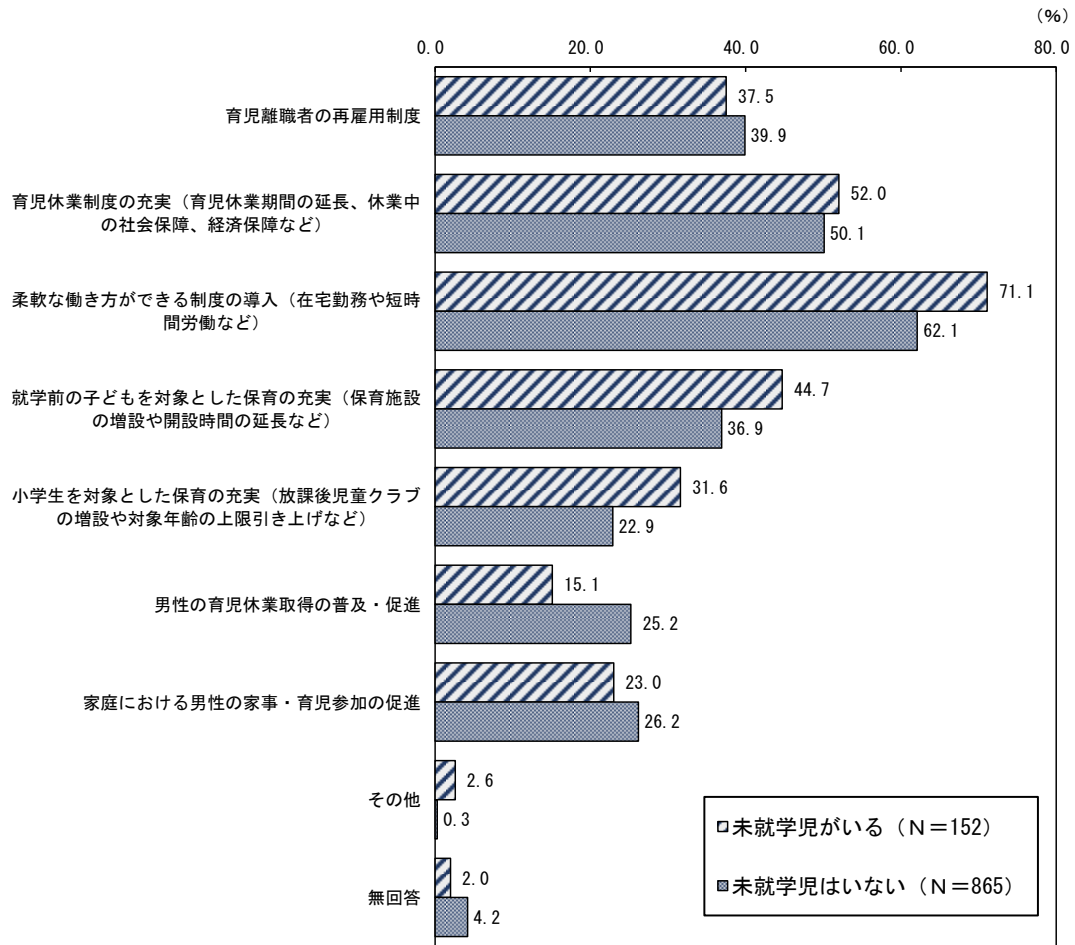
図表 77 結婚・出産後に女性が仕事をするために必要なこと（全体・性別）



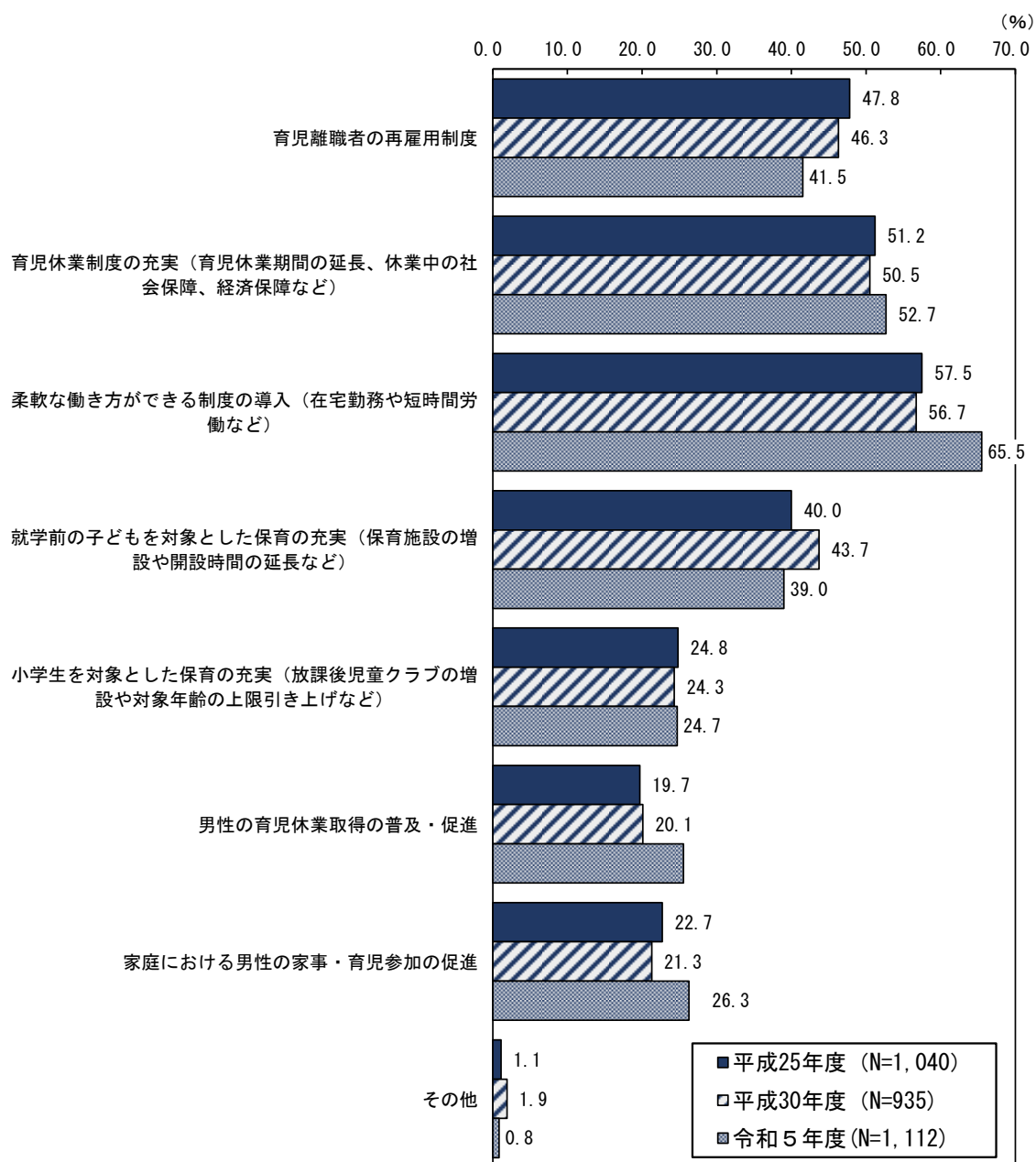
図表 78 結婚・出産後に女性が仕事をするために必要なこと(年代別・仕事の有無別)

	育児離職者の再雇用制度	育児休業制度の充実(育児休業期間の延長、休業中の社会保障、経済保障など)	柔軟な働き方ができる制度の導入(在宅勤務や短時間労働など)	就学前の子どもを対象とした保育の充実(保育施設の増設や開設時間の延長など)	小学生を対象とした保育の充実(放課後児童クラブの増設や対象年齢の上限引き上げなど)	男性の育児休業取得の普及・促進	家庭における男性の家事・育児参加の促進	その他	無回答
年代別									
18・19歳 (N=19)	52.6	57.9	78.9	15.8	10.5	36.8	10.5	-	-
20歳代 (N=116)	41.4	56.9	69.0	37.1	11.2	37.1	19.0	1.7	0.9
30歳代 (N=194)	37.1	51.0	69.1	40.2	30.4	18.6	23.2	2.6	1.5
40歳代 (N=210)	41.0	43.3	71.4	34.3	25.7	20.5	31.4	0.5	1.9
50歳代 (N=235)	39.6	50.2	66.8	33.6	24.7	23.8	23.0	-	3.8
60歳代 (N=148)	37.2	52.7	51.4	43.2	27.0	29.7	25.7	0.7	6.1
70歳以上 (N=188)	42.0	52.7	45.7	41.5	19.7	22.9	28.7	-	9
仕事の有無別・女性									
仕事をしている (N=431)	36.4	48.0	70.3	36.0	29.5	22.0	31.6	1.2	1.9
仕事をしていない (N=206)	38.8	45.1	58.7	34.0	21.4	20.9	30.6	1.0	7.8
仕事の有無別・男性									
仕事をしている (N=351)	42.2	54.7	60.4	39.9	20.5	27.4	15.7	0.6	4
仕事をしていない (N=112)	48.2	58.0	49.1	45.5	14.3	31.3	21.4	-	4.5

図表 79 結婚・出産後に女性が仕事をするために必要なこと（未就学児の有無別）



図表 80 結婚・出産後に女性が仕事をするために必要なこと（経年比較）



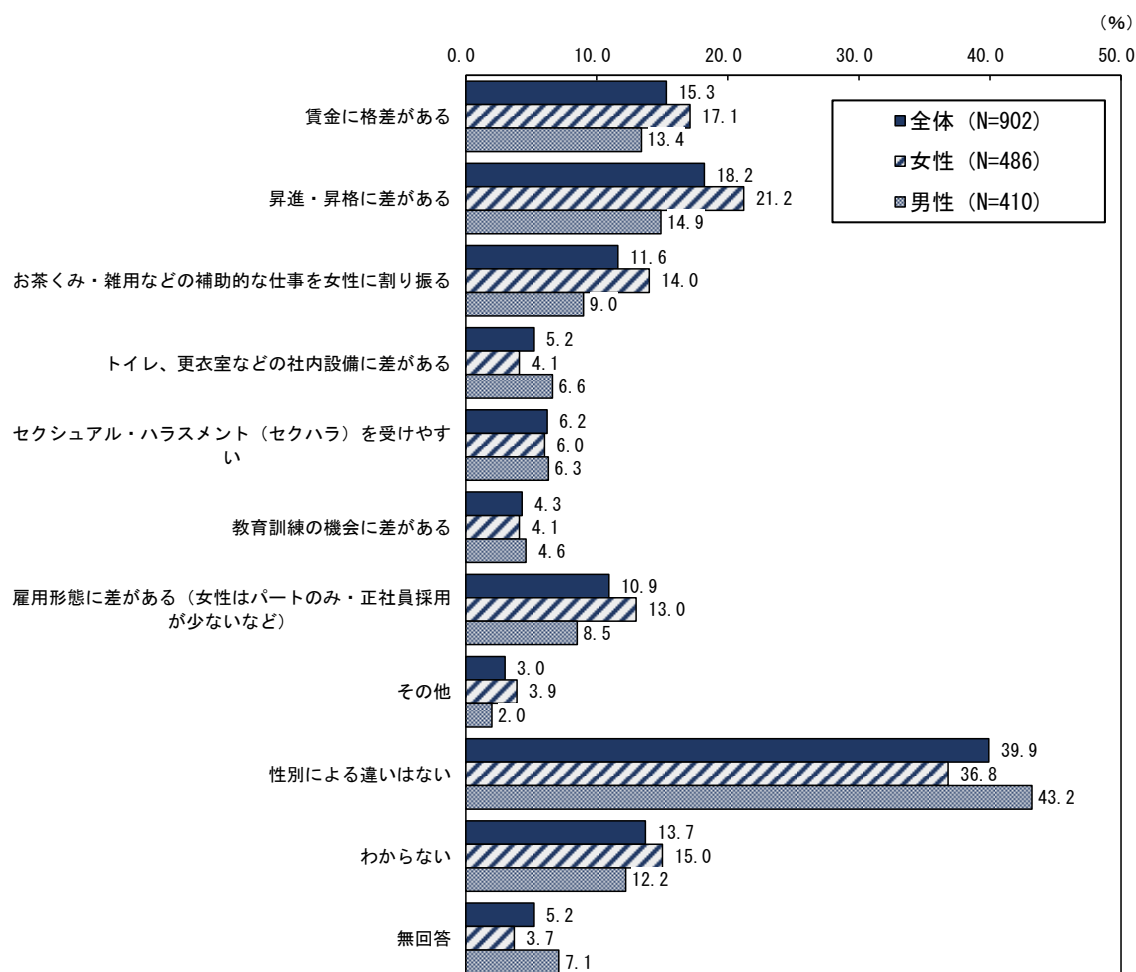
<現在働いている方のみ>

問 14 あなたの職場では、性別によって、どのような違いがありますか。(〇はいくつでも)

「性別による違いはない」が4割弱

- 職場での性別による違いについては、「性別による違いはない」が 39.9%と最も多く、次いで「昇進・昇格に差がある」(18.2%)、「賃金に格差がある」(15.3%)となっている。
- 性別でみると、女性は「昇進・昇格に差がある」が多くなっている。
- 年代別でみると、「賃金に格差がある」は 70 歳以上で2割以上となっている。また、「昇進・昇格に差がある」は、年代が若い方が多い傾向となっている。
- 職業別でみると、派遣・請負社員で「昇進・昇格に差がある」「雇用形態に差がある(女性はパートのみ・正社員採用が少ないなど)」が多くなっている。
- 事業所調査との比較をみると、市民調査では「昇進・昇格に差がある」が多くなっているのに対し、事業所調査では「性別による違いはない」が多くなっている。また、「お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る」は事業所調査では市民調査の倍以上となっており、市民と事業所での認識の差がみられる。
- 経年比較をみると、「賃金に格差がある」「昇進・昇格に差がある」「お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る」は平成 25 年度以降、減少傾向となっている。

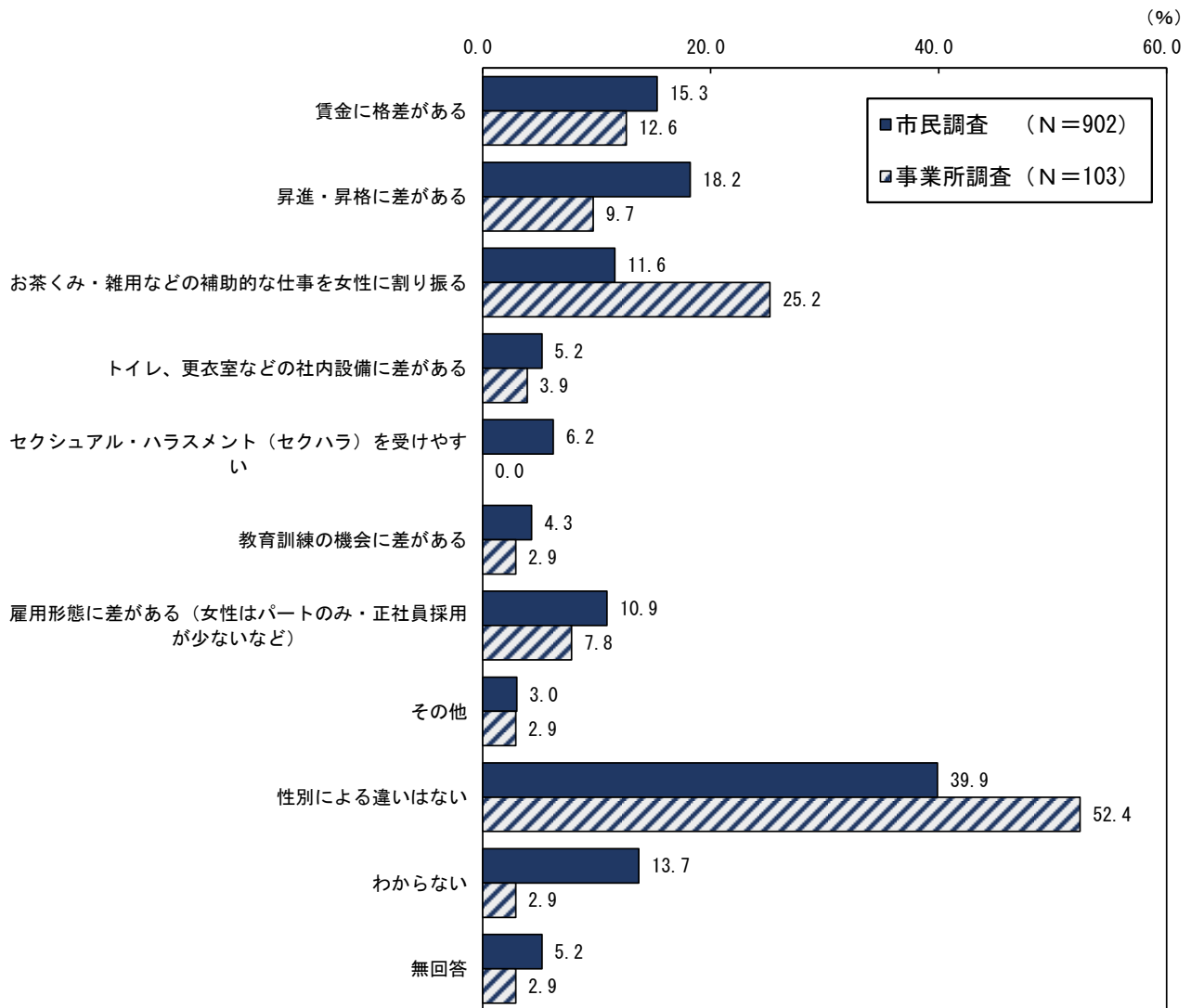
図表 81 職場での性別による違い(全体・性別)



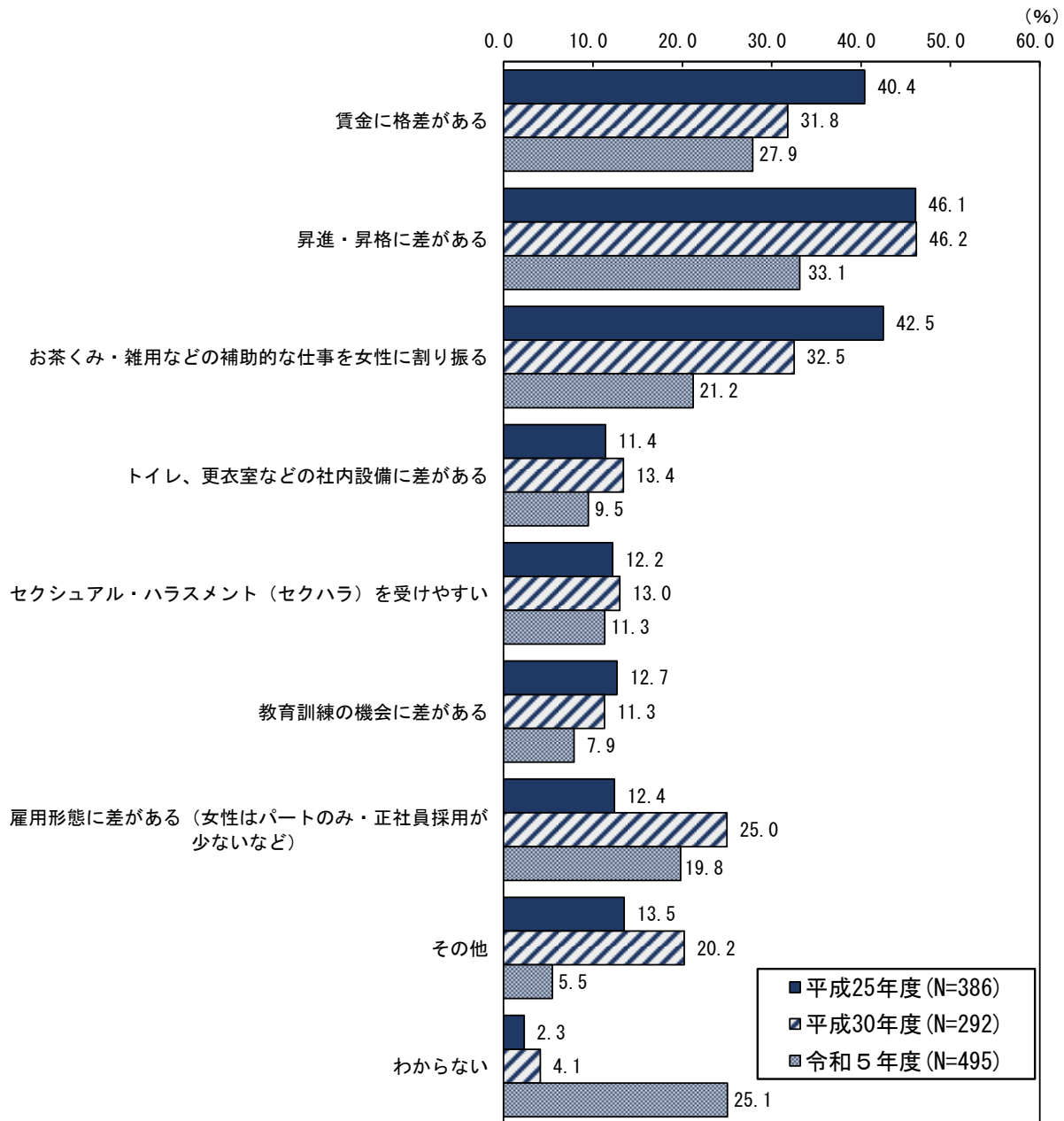
図表 82 職場での性別による違い(年代別・職業別)

	賃金に格差がある	昇進・昇格に差がある	お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る	トイレ、更衣室などの社内設備に差がある	いセクシュアル・ハラスメント(セクハラ)を受けやすい	教育訓練の機会に差がある	雇用形態に差がある(女性はパートのみ・正社員採用が少ないなど)	その他	性別による違いはない	わからない	無回答
年代別											
18・19歳 (N=5)	-	-	-	20.0	-	-	20.0	20.0	60.0	-	-
20歳代 (N=107)	17.8	25.2	12.1	5.6	13.1	3.7	9.3	2.8	39.3	10.3	-
30歳代 (N=195)	10.3	18.5	9.2	10.8	9.7	4.1	7.7	4.1	44.6	9.7	1.0
40歳代 (N=220)	19.1	20.0	12.7	4.1	3.6	5.0	11.4	2.7	38.6	17.3	1.4
50歳代 (N=221)	12.2	16.3	14.5	3.6	3.2	4.1	12.2	2.3	43.4	16.7	3.6
60歳代 (N=97)	16.5	15.5	11.3	1.0	7.2	3.1	13.4	3.1	39.2	14.4	11.3
70歳以上 (N=57)	24.6	10.5	5.3	1.8	1.8	7.0	12.3	1.8	15.8	8.8	40.4
職業別											
会社員 (N=488)	18.6	24.2	12.9	7.2	8.2	5.9	8.4	2.3	42.2	9.0	1.4
公務員 (N=54)	3.7	11.1	9.3	7.4	11.1	-	1.9	3.7	57.4	9.3	-
自営業・家業(農業含む) (N=65)	10.8	4.6	3.1	-	-	1.5	10.8	-	26.2	16.9	32.3
派遣・請負社員 (N=22)	18.2	31.8	18.2	18.2	4.5	9.1	36.4	-	27.3	18.2	-
パート・アルバイト・嘱託など (N=254)	13.0	10.6	11.0	1.6	3.1	2.8	14.6	4.7	38.2	22.4	5.5
専業主婦・専業主夫 (N=)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学生 (N=)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無職 (N=)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他 (N=19)	5.3	15.8	15.8	-	5.3	-	21.1	10.5	15.8	15.8	26.3

図表 83 職場での性別による違い（事業所調査との比較）



図表 84 職場での性別による違い(経年比較)



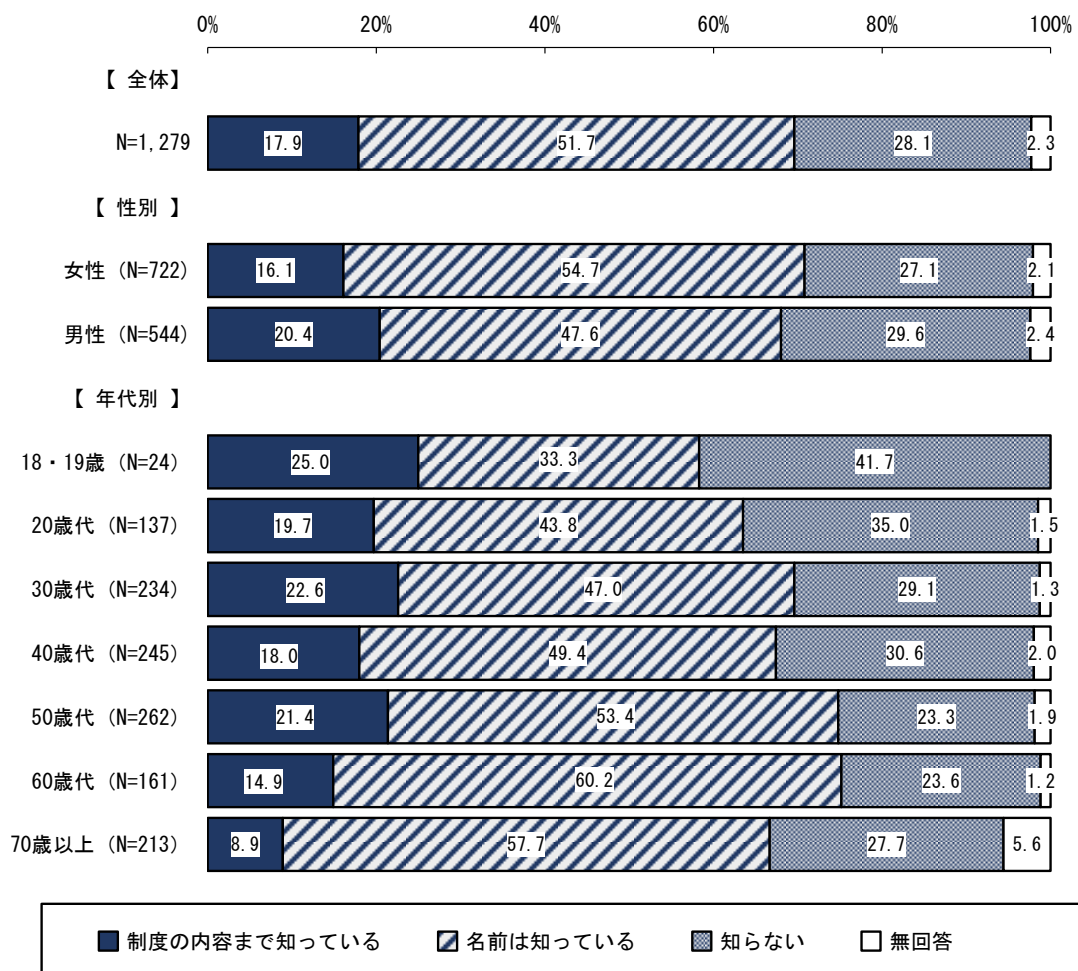
8 ワーク・ライフ・バランスについて

問 15 育児・介護休業法の改正により、令和4年10月に「産後パパ育休（出生時育児休業）制度」が創設されました。あなたはこのことをご存知ですか。（○は1つ）

『知っている』が7割弱

- 「産後パパ育休(出生時育児休業)制度」の認知度について、「名前は知っている」が 51.7%と最も多く、「制度の内容まで知っている」(17.9%)と合わせた『知っている』は 69.6%となっている。「知らない」は 28.1%となっている。
- 性別でみると、男性は女性に比べ「制度の内容まで知っている」人がやや多く、女性は「名前は知っている」という人が多くなっている。
- 年代別でみると、「名前は知っている」は年代が上がるにつれて、「知らない」は年代が若いほど多い傾向となっている。

図表 85 「産後パパ育休（出生時育児休業）制度」の認知度（全体・性別・年代別）



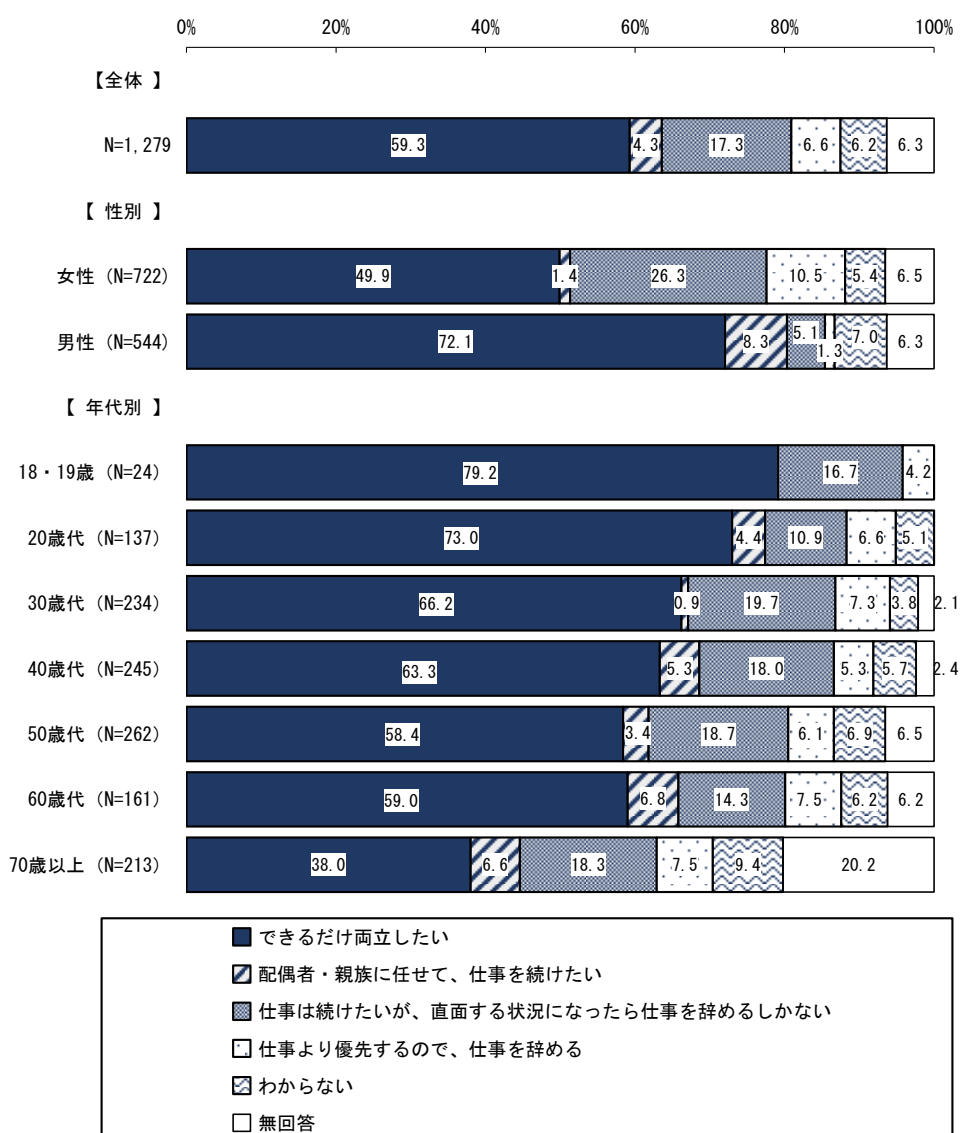
問 16 あなたは、仕事と育児の両立、仕事と介護の両立について、どのように考えますか。
 ((1)育児と(2)介護のそれぞれについて、○は1つ)

(1) 育児

「できるだけ両立したい」が6割弱

- 仕事と育児の両立について、「できるだけ両立したい」が 59.3%と最も多く、次いで「仕事は続けたいが、直面する状況になったら仕事を辞めるしかない」(17.3%)となっている。
- 性別でみると、男性では「できるだけ両立したい」が多い一方で、「仕事は続けたいが、直面する状況になったら仕事を辞めるしかない」「仕事より優先するので、仕事を辞める」は女性で多くなっている。
- 年代別でみると、年代が若いほど「できるだけ両立したい」が多い傾向となっている。

図表 86 仕事と育児の両立について(全体・性別・年代別)

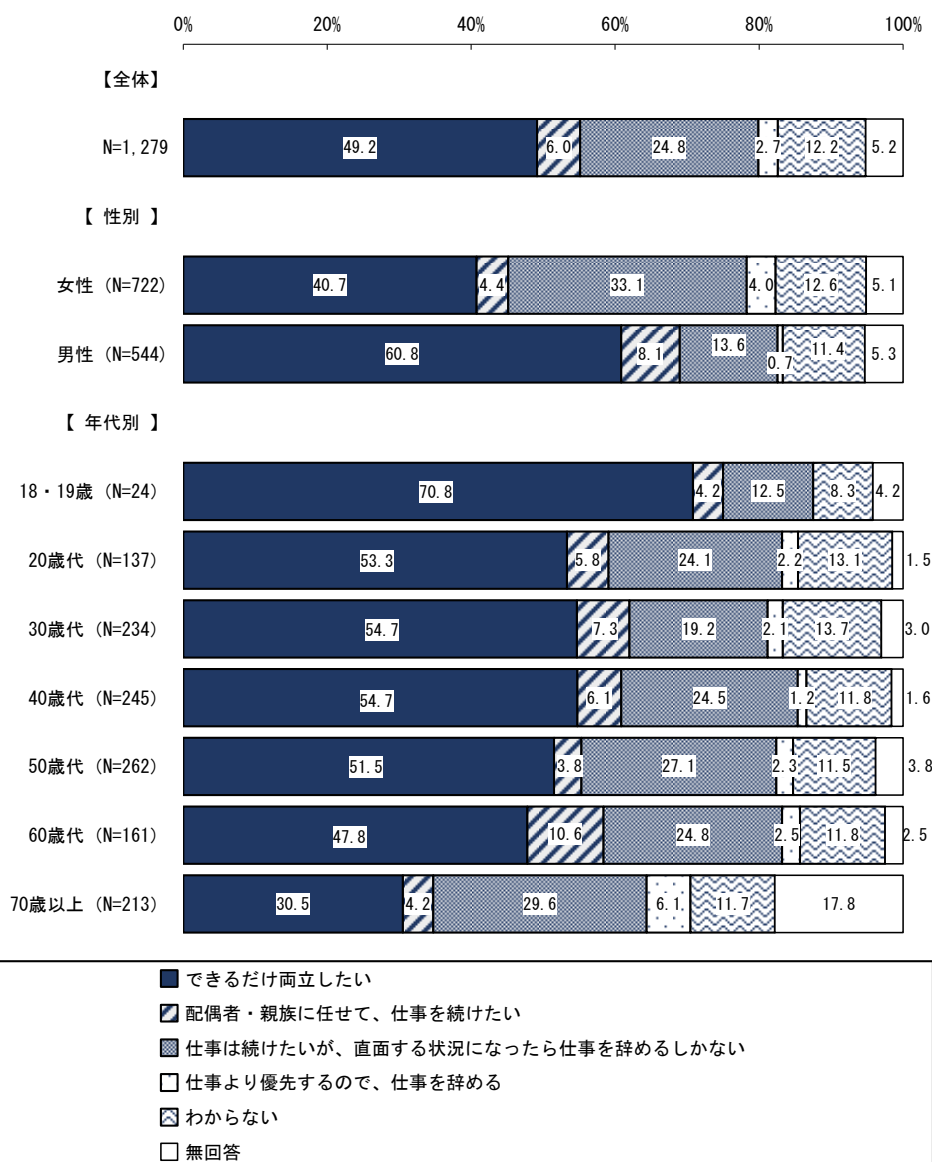


(2) 介護

「できるだけ両立したい」が5割弱

- 介護と育児の両立について、「できるだけ両立したい」が49.2%と最も多く、次いで「仕事は続けたいが、直面する状況になったら仕事を辞めるしかない」(24.8%)となっている。
- 性別でみると、男性では「できるだけ両立したい」が多い一方で、「仕事は続けたいが、直面する状況になったら仕事を辞めるしかない」「仕事より優先するので、仕事を辞める」は女性で多くなっている。
- 年代別でみると、年代が若いほど「できるだけ両立したい」が多い傾向となっている。

図表 87 仕事と介護の両立について(全体・性別・年代別)



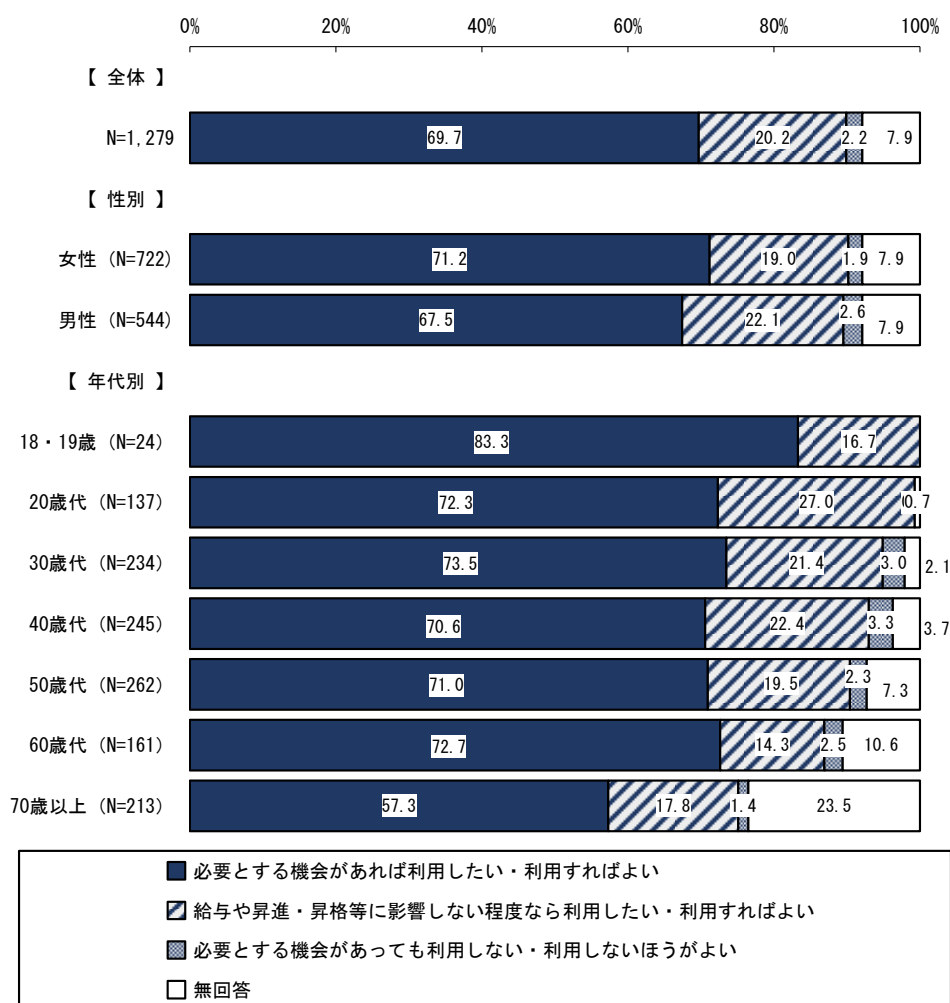
問 17 あなたは、育児休業制度、介護休業制度の利用について、どのように考えますか。
 ((1)育児と(2)介護のそれぞれについて、○は1つ)

(1) 育児

「必要とする機会があれば利用したい・利用すればよい」が7割弱

- 育児休業制度の利用について、「必要とする機会があれば利用したい・利用すればよい」が 69.7%と最も多く、次いで「給与や昇進・昇格等に影響しない程度なら利用したい・利用すればよい」(20.2%)となっている。
- 性別による大きな差はない。
- 年代別でみると、70歳以上を除く年代で「必要とする機会があれば利用したい・利用すればよい」が7割以上となっている。また、20～40歳代で「給与や昇進・昇格等に影響しない程度なら利用したい・利用すればよい」が2割以上となっている。
- 経年比較をみると、「必要とする機会があれば利用したい・利用すればよい」が平成30年度以前では6割台だったが、令和5年度では7割に増加している。

図表 88 育児休業制度について(全体・性別・年代別)

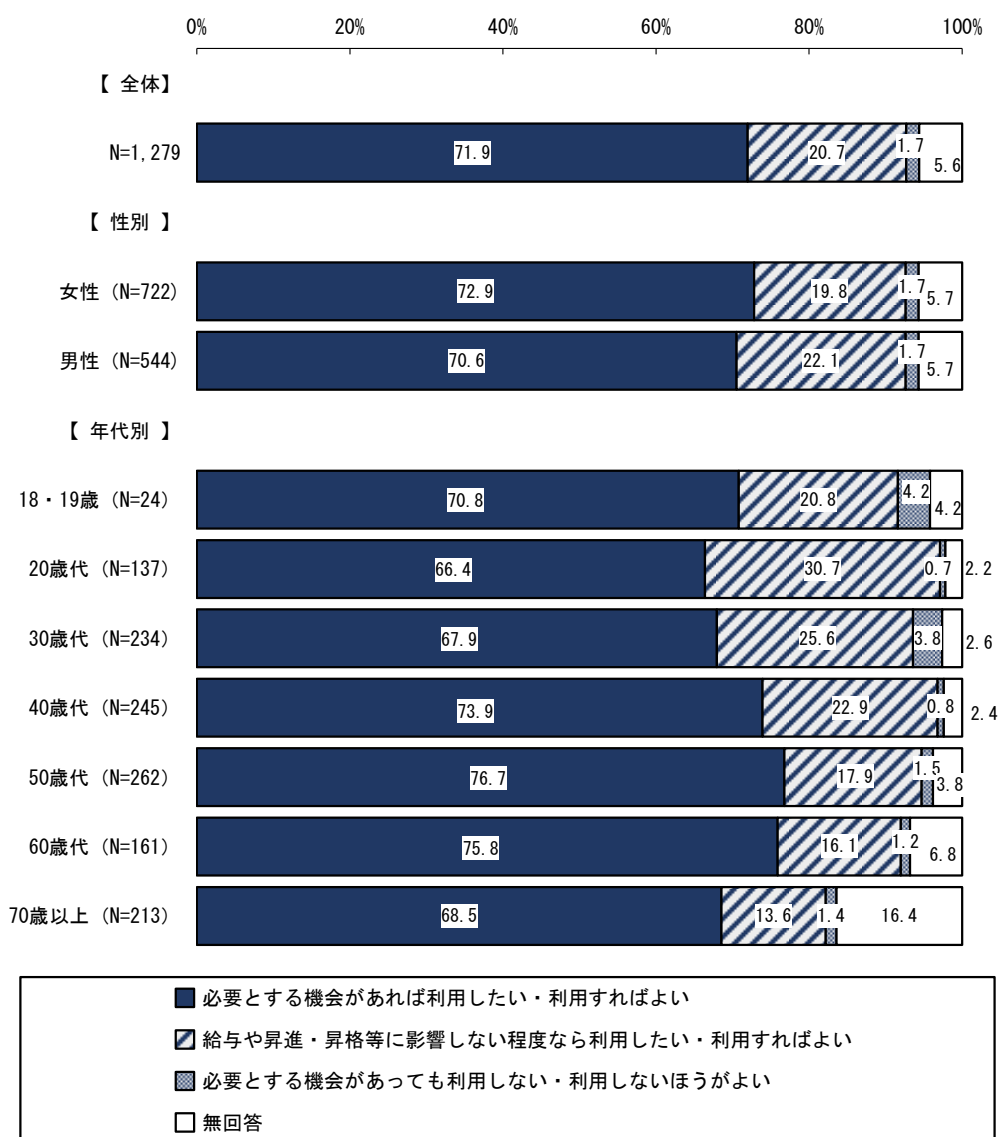


(2) 介護

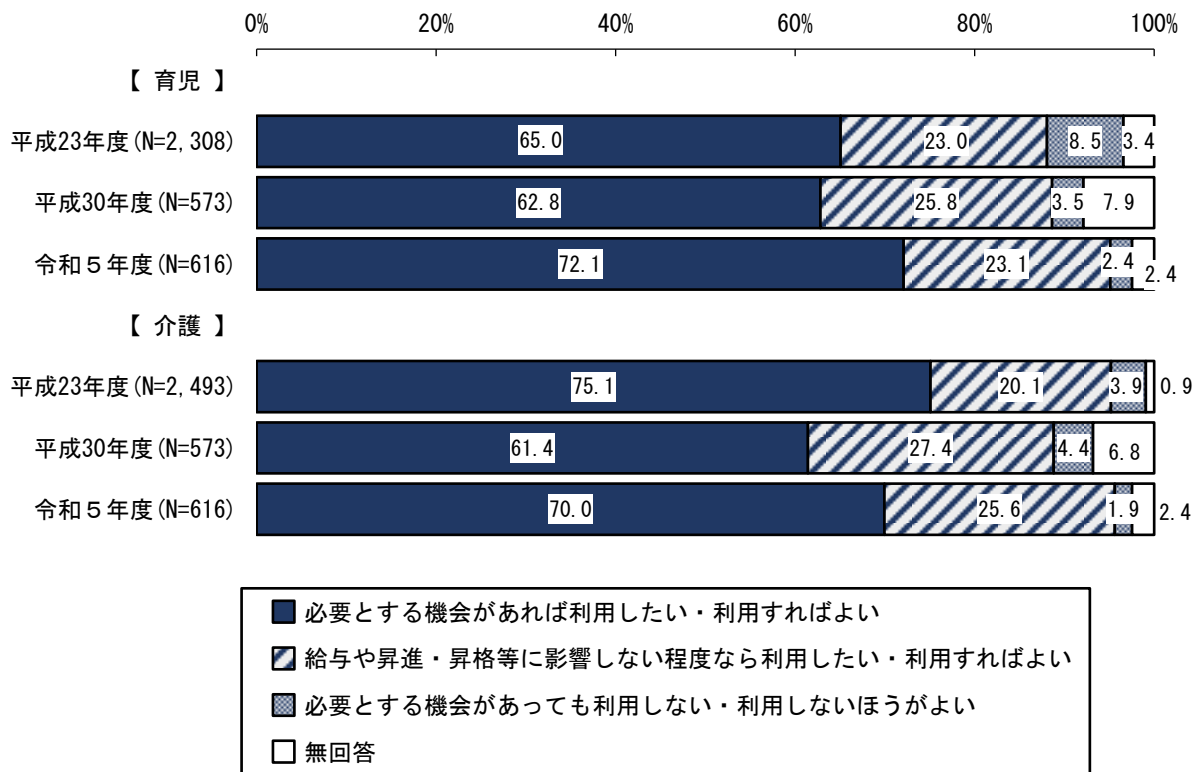
「必要とする機会があれば利用したい・利用すればよい」が7割以上

- 介護休業制度の利用について、「必要とする機会があれば利用したい・利用すればよい」が 71.9%と最も多く、次いで「給与や昇進・昇格等に影響しない程度なら利用したい・利用すればよい」(20.7%)となっている。
- 性別による大きな差はない。
- 年代別でみると、18・19 歳と 40～60 歳代で「必要とする機会があれば利用したい・利用すればよい」が7割以上となっている。また、20 歳代で「給与や昇進・昇格等に影響しない程度なら利用したい・利用すればよい」が3割以上となっている。

図表 89 介護休業制度について(全体・性別・年代別)



図表 90 育児・介護休業制度について(経年比較)



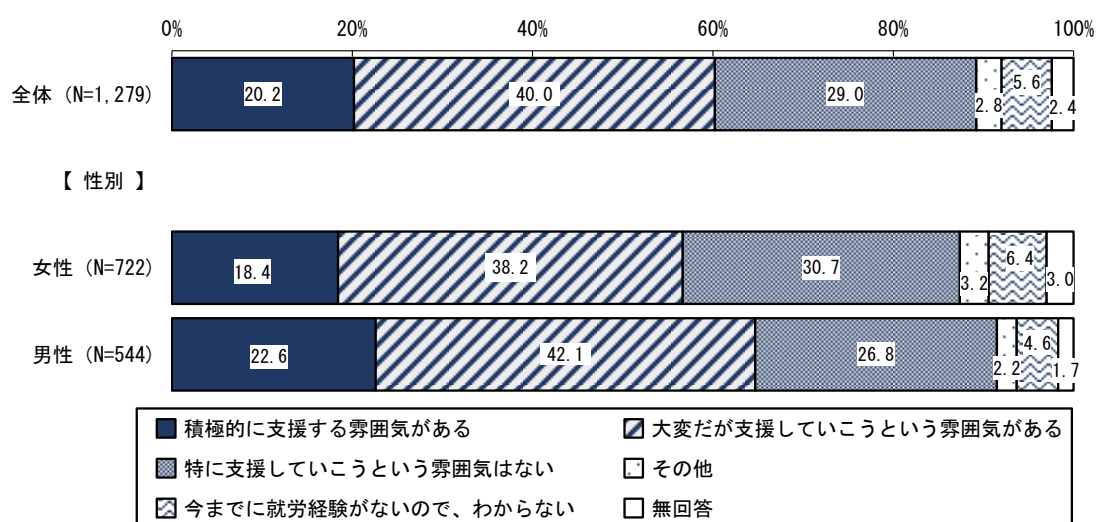
※20～40 歳代のみで経年比較（前回・前々回調査と整合させるため）

問 18 あなたが働いている（いた）職場では、ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）について、どのような雰囲気がありますか。

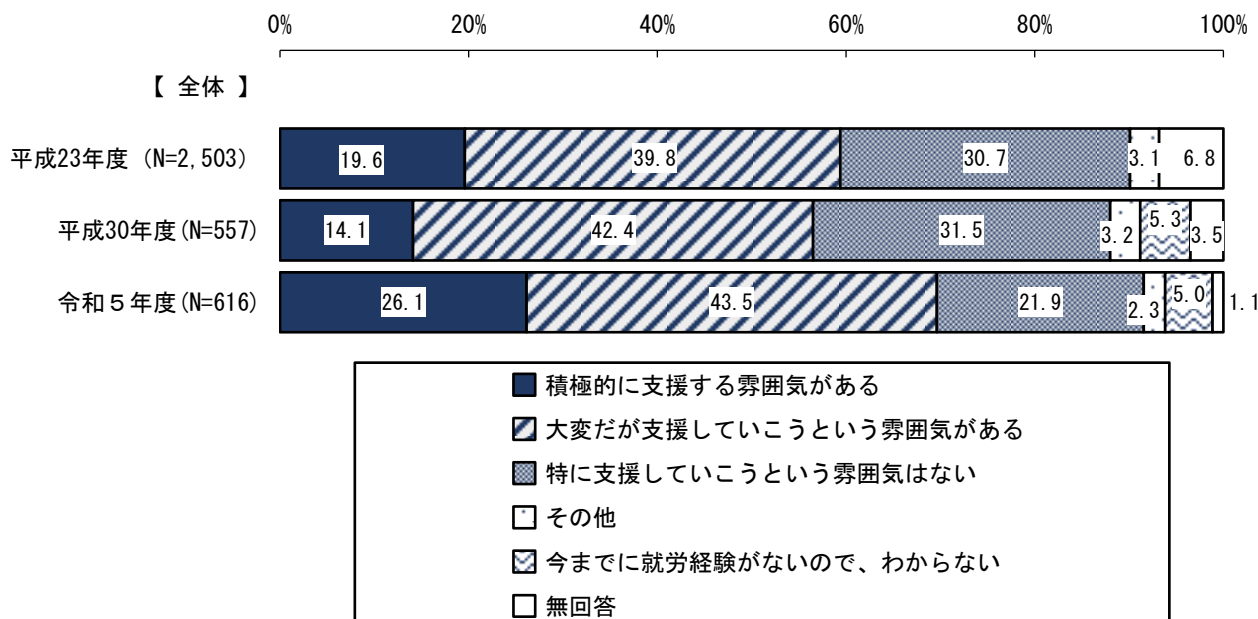
「大変だが支援していこうという雰囲気がある」が4割

- ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）について、「大変だが支援していこうという雰囲気がある」が40.0%と最も多く、次いで「特に支援していこうという雰囲気はない」(29.0%)となっている。
- 性別でみると、「積極的に支援する雰囲気がある」「大変だが支援していこうという雰囲気がある」はいずれも男性の方が多くなっている。
- 経年比較をみると、「積極的に支援する雰囲気がある」と「大変だが支援していこうという雰囲気がある」を合わせた『支援する雰囲気がある』は、平成 23 年度(59.4%)から令和5年度(69.6%)で 10 ポイント増加している。

図表 91 ワーク・ライフ・バランスについて（全体・性別）



図表 92 ワーク・ライフ・バランスについて（経年比較）



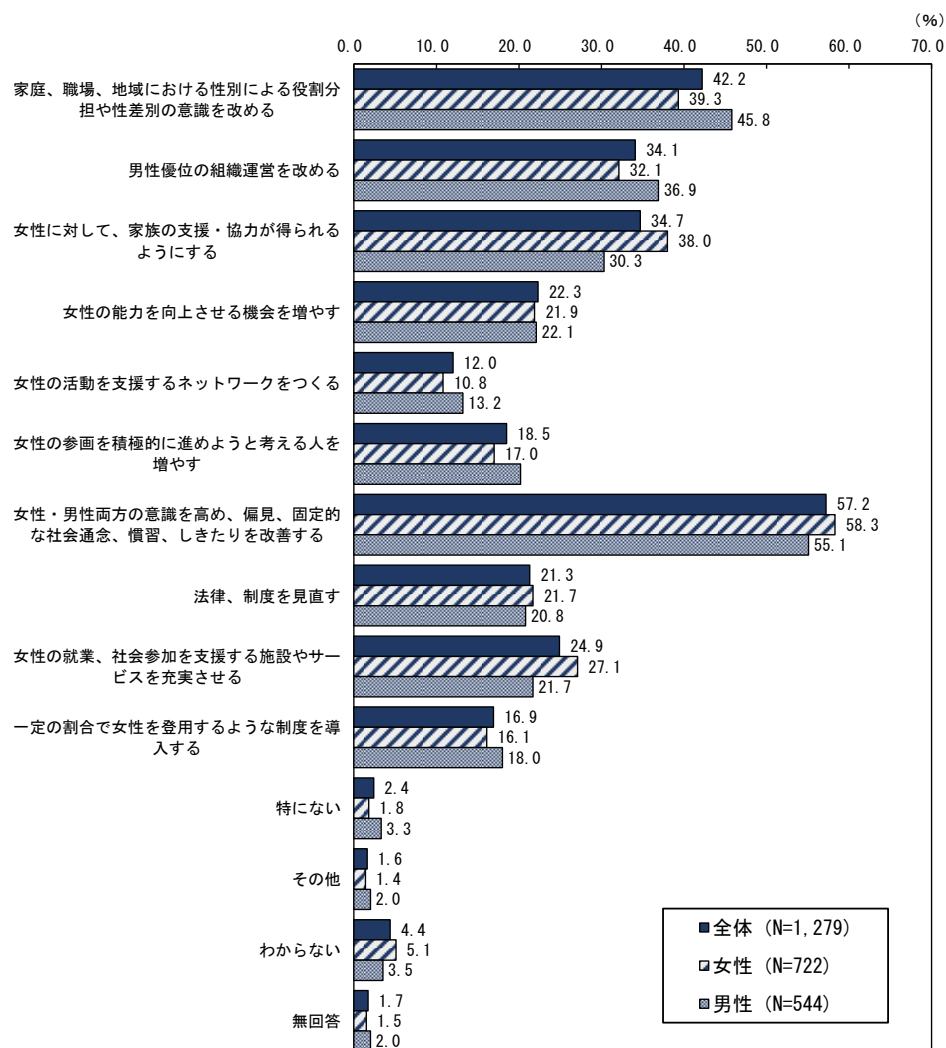
9 女性の活躍推進について

問 19 今後、女性が政策や方針を決定していくような場へもっと参画していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。（〇はいくつでも）

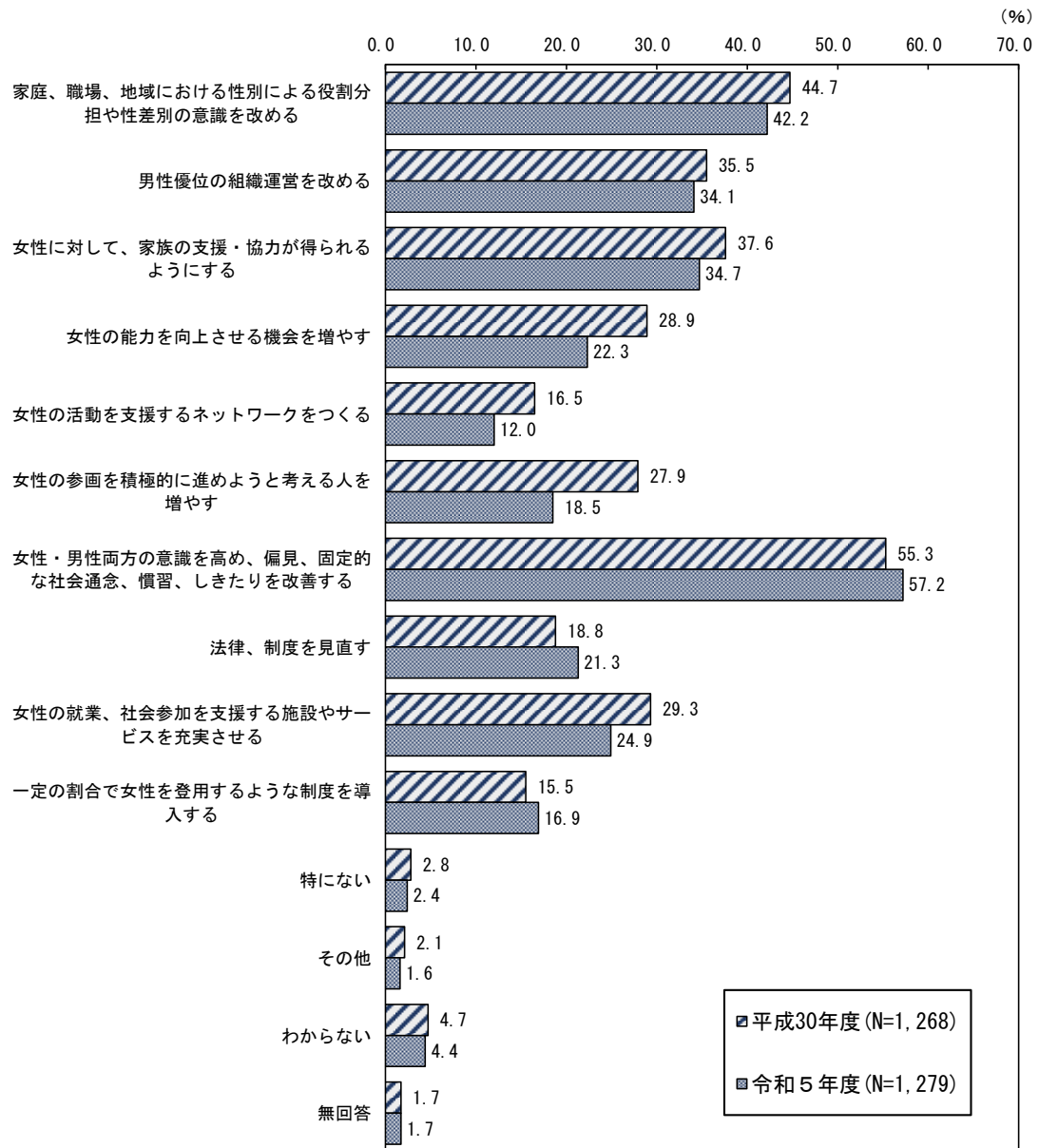
「女性・男性両方の意識を高め、偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改善する」が5割半ば

- 女性の参画のために重要なことについて、「女性・男性両方の意識を高め、偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改善する」が 57.2%と最も多く、次いで「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識を改める」(42.2%)、「女性に対して、家族の支援・協力が得られるようにする」(34.7%)、「男性優位の組織運営を改める」(34.1%)となっている。
- 性別でみると、男性より女性の方が回答割合が特に多い項目は「女性に対して、家族の支援・協力が得られるようにする」「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させる」となっており、反対に男性では「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識を改める」が多くなっている。
- 経年比較をみると、平成 30 年度から全体的に減少しているが、特に「女性の参画を積極的に進めようと考えている人を増やす」は 10 ポイント近く減少している。

図表 93 女性の参画のために重要なこと（全体・性別）



図表 94 女性の参画のために重要なこと（経年比較）

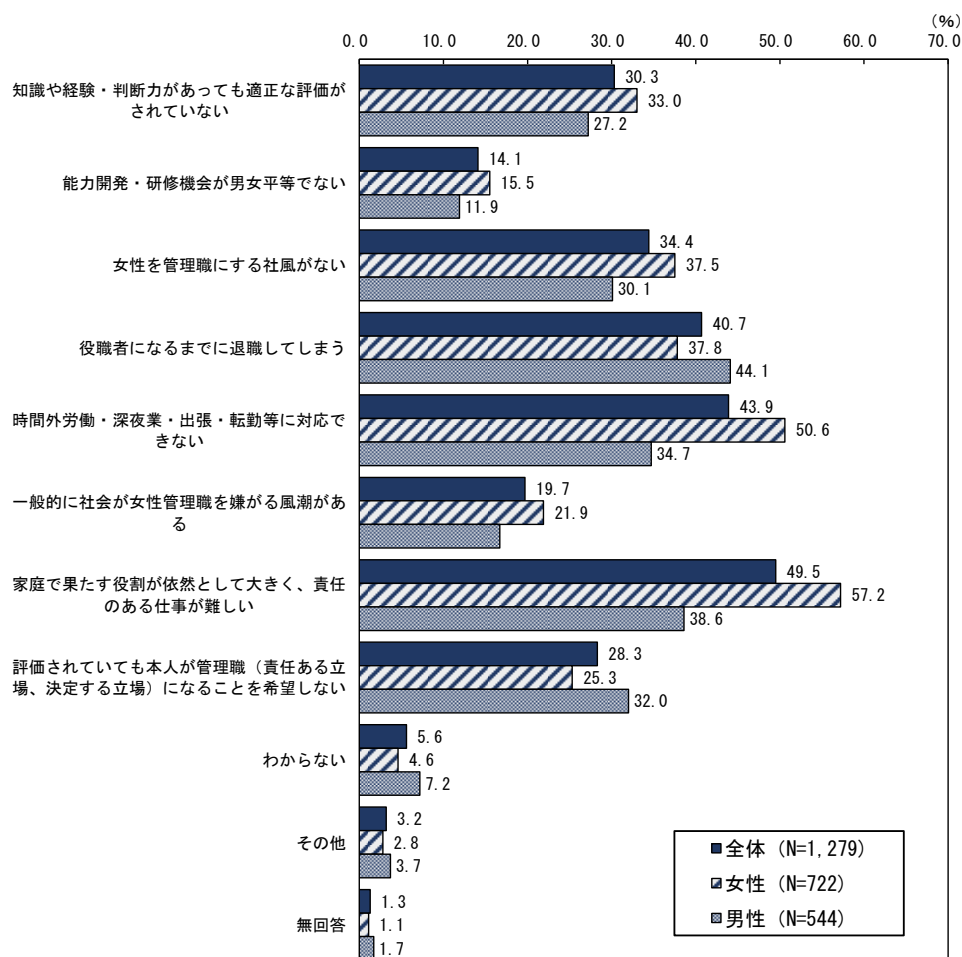


問 20 企業において、一般的には女性管理職が少ないと言われていますが、その理由は何だと思えますか。(〇はいくつでも)

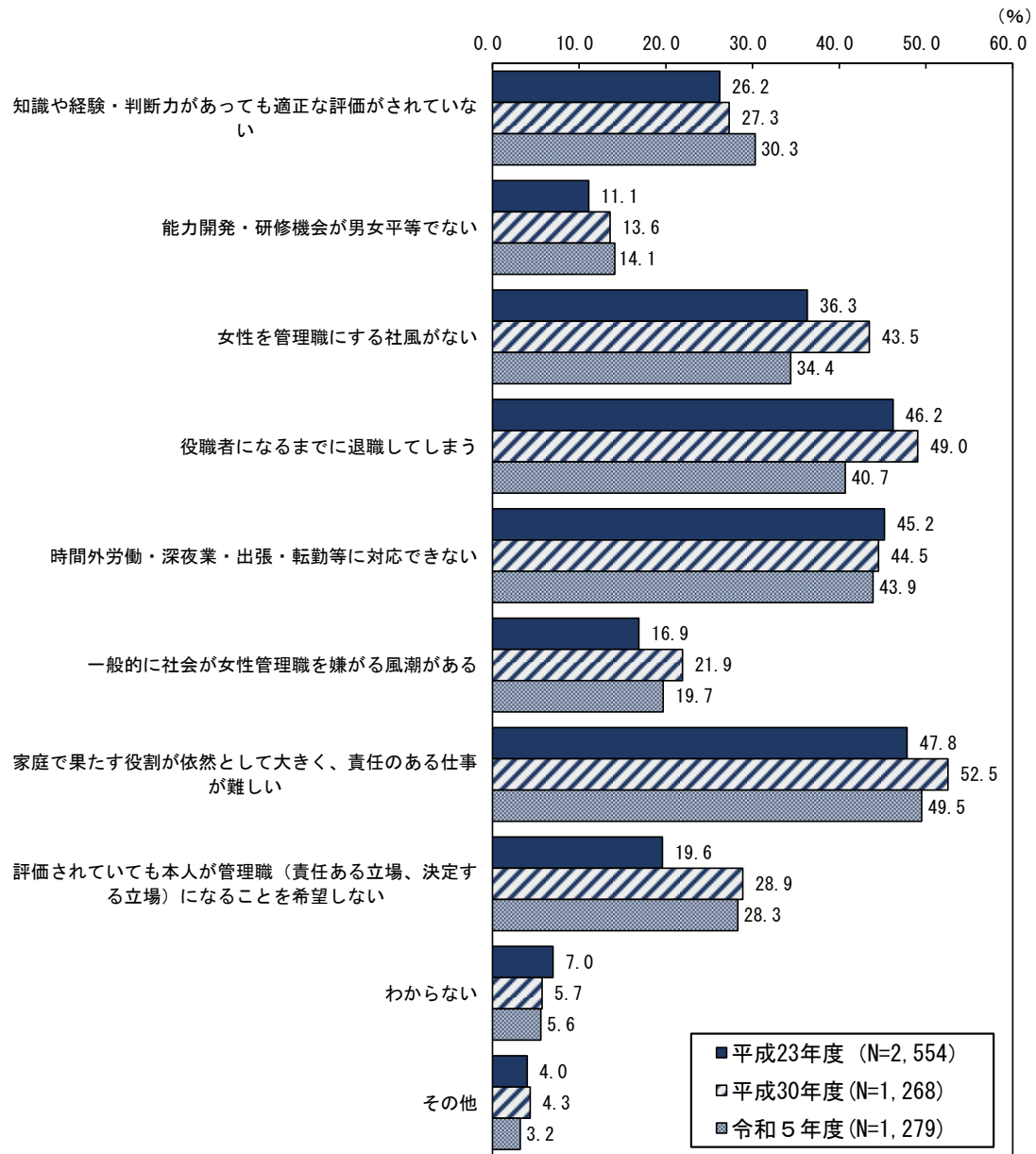
「家庭で果たす役割が依然として大きく、責任のある仕事が難しい」が5割弱

- 女性管理職が少ない理由について、「家庭で果たす役割が依然として大きく、責任のある仕事が難しい」が49.5%と最も多く、次いで「時間外労働・深夜業・出張・転勤等に対応できない」(43.9%)、「役職者になるまでに退職してしまう」(40.7%)となっている。
- 性別でみると、「時間外労働・深夜業・出張・転勤等に対応できない」「家庭で果たす役割が依然として大きく、責任のある仕事が難しい」は女性、「役職者になるまでに退職してしまう」「評価されていても本人が管理職(責任ある立場、決定する立場)になることを希望しない」は男性で、特に多くなっている。
- 経年比較をみると、「知識や経験・判断力があっても適正な評価がされていない」「評価されていても本人が管理職(責任ある立場、決定する立場)になることを希望しない」が増加傾向となっている。

図表 95 女性管理職が少ない理由(全体・性別)



図表 96 女性管理職が少ない理由（経年比較）



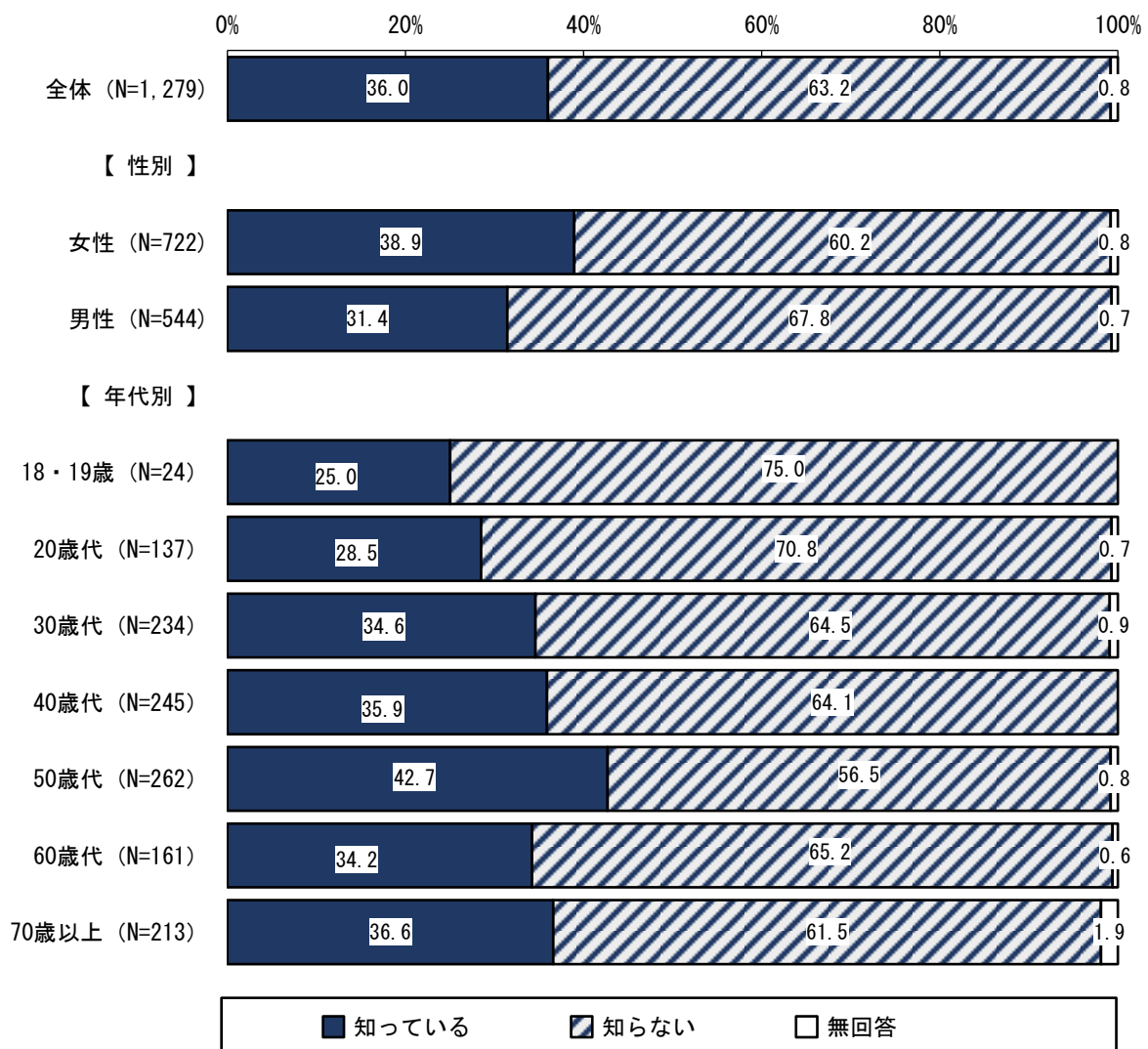
10 DVについて

問 21 あなたは、豊田市に配偶者などからの暴力や、夫婦間・恋人間の問題について相談できる窓口があることを知っていますか。(〇は1つ)

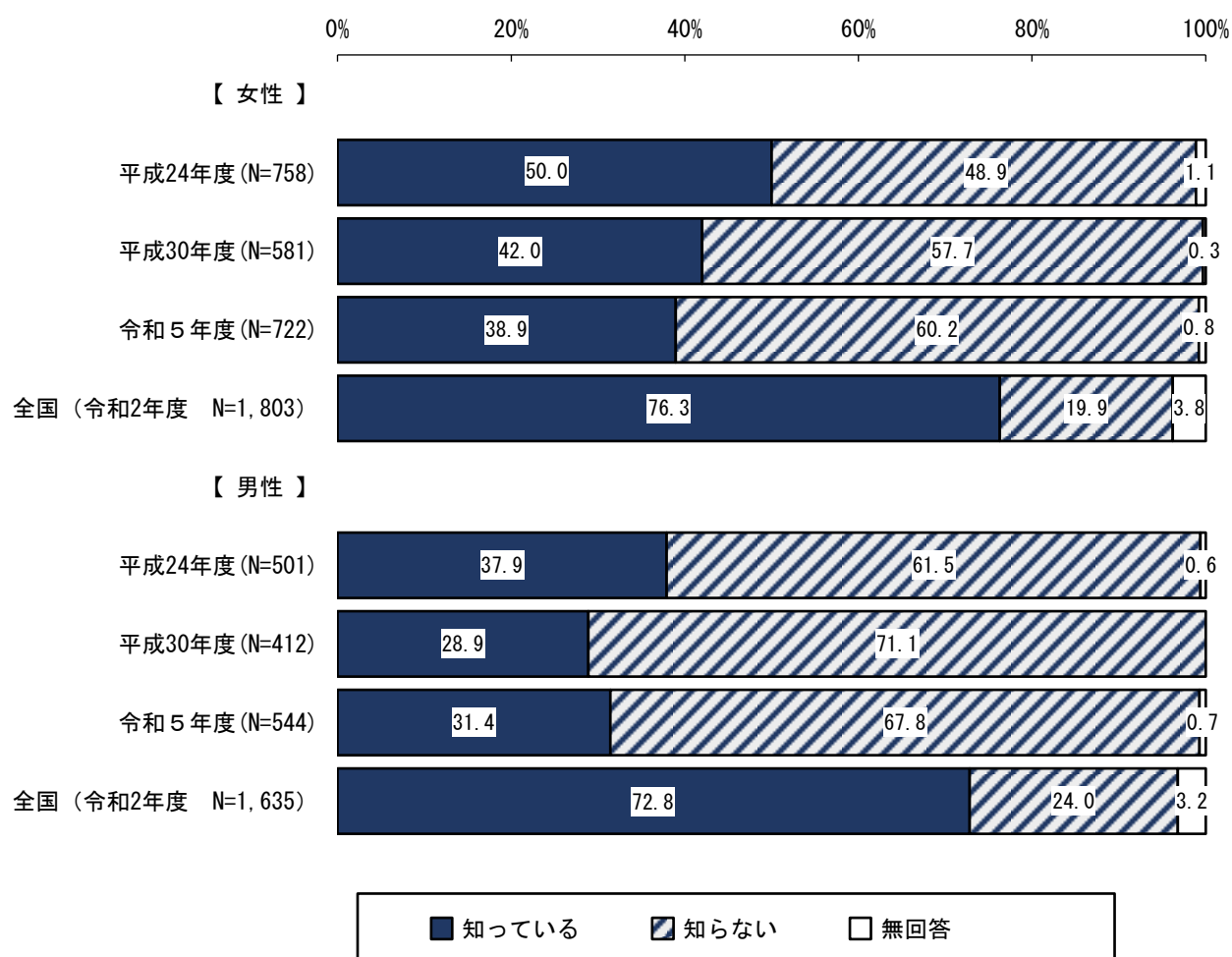
「知っている」が3割半ば、「知らない」が6割以上

- DV相談窓口があることについて「知っている」は 36.0%、「知らない」は 63.2%と知らない人の方が多い。
- 性別でみると、どちらも認知度が4割以下となっており、特に男性で「知っている」が少ない。
- 年代別でみると、「知っている」は 50 歳代で4割以上となっている。18～20 歳代では他の年代よりも認知度が低くなっている。
- 経年比較をみると、性別に関わらず、「知っている」割合が減少傾向となっている。
- 全国と比較すると、「知っている」割合は女性で約半数、男性で半数以下となっている。

図表 97 DV相談窓口があることについて(全体・性別・年代別)



図表 98 DV相談窓口があることについて(性別・経年・国比較)

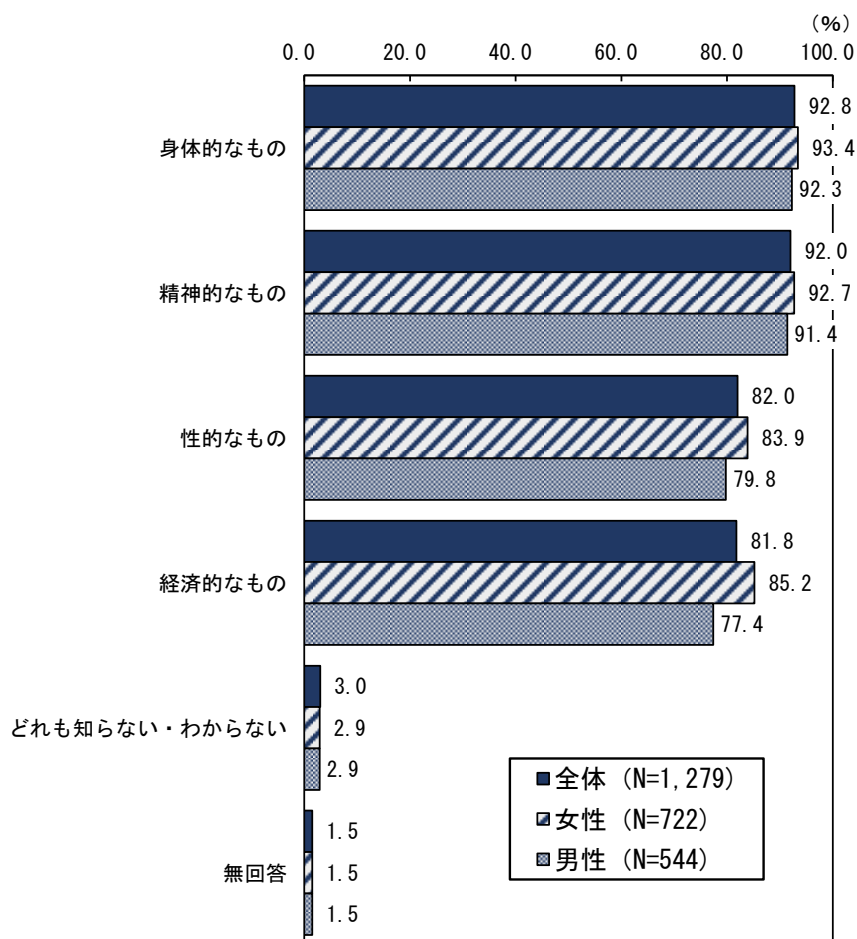


問 22 あなたがドメスティック・バイオレンス（配偶者・同居人からの暴力）だと思うものはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

「身体的なもの」「精神的なもの」9割以上、「性的なもの」「経済的なもの」8割以上

- ドメスティック・バイオレンス（配偶者・同居人からの暴力）だと思うものについて、「身体的なもの」が92.8%、「精神的なもの」が92.0%と9割以上の認識がある。また、「性的なもの」（82.0%）、「経済的なもの」（81.8%）についても8割以上がDVだと思っている。
- 性別でみると、大きな差は無いものの、「性的なもの」「経済的なもの」については女性が多くなっている。
- 年代別でみると、「身体的なもの」「精神的なもの」は70歳以上を除いて9割以上となっている。「性的なもの」や「経済的なもの」についてDVと感じる割合は30歳代が最も多くなっている。70歳以上は他の年代と比較してどの項目も低い割合となっており、DVであるという認識が薄いことが分かる。

図表 99 DVだと思うもの（全体・性別）



図表 100 DVだと思うもの（年代別）

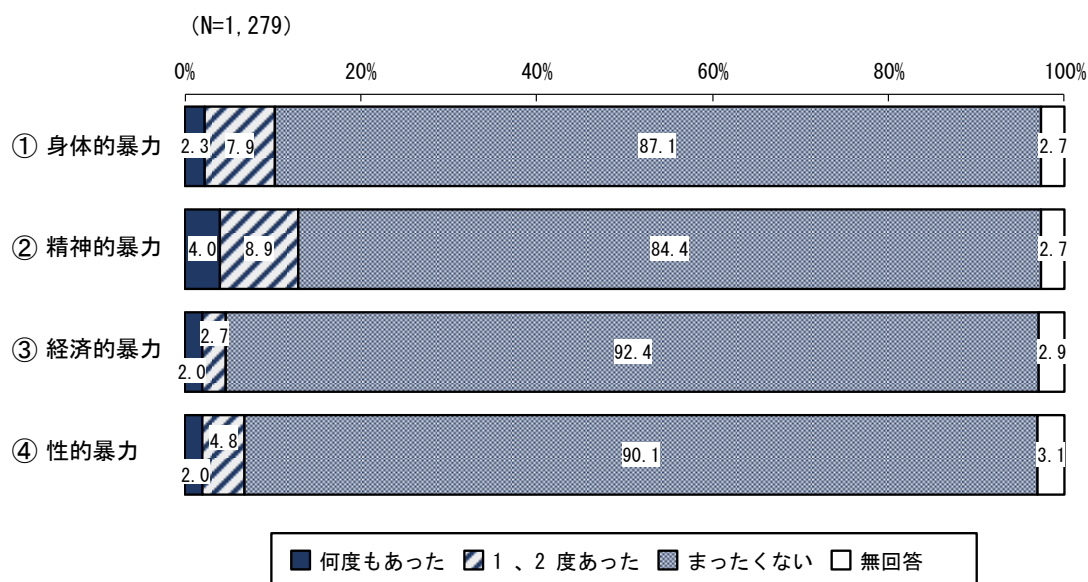
	身体的なもの	精神的なもの	性的なもの	経済的なもの	どれも知らない・わからない	無回答
18・19歳（N＝24）	95.8	95.8	100.0	91.7	-	-
20歳代（N＝137）	93.4	93.4	83.9	80.3	2.9	-
30歳代（N＝234）	97.4	94.4	90.6	91.0	0.9	0.9
40歳代（N＝245）	95.9	93.9	88.2	84.9	1.2	-
50歳代（N＝262）	94.3	93.9	86.6	85.5	2.3	1.5
60歳代（N＝161）	95.0	93.2	80.7	81.4	1.9	0.6
70歳以上（N＝213）	80.3	82.6	58.2	64.3	9.4	5.6

問 23 あなたはこれまでに、配偶者（事実婚や別居中を含む）や恋人から次のようなことをされたことがありますか。（○はそれぞれ1つ）

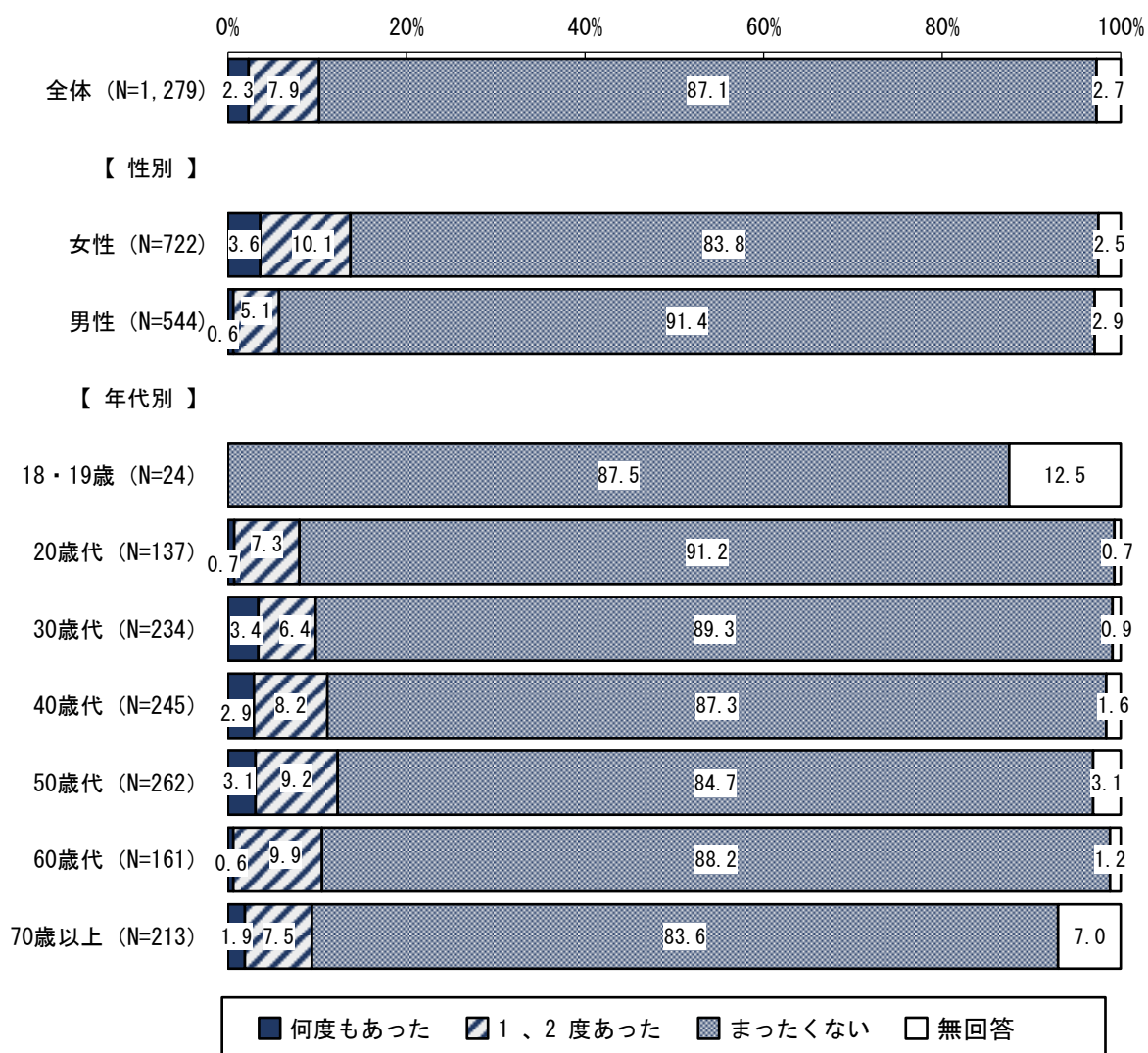
被害経験者は精神的な暴力が最も多い

- 『被害経験がある』（「何度もあった」＋「1、2度あった」）人は、「①身体的暴力」が10.2%、「②精神的暴力」が12.9%、「③経済的暴力」が4.7%、「④性的暴力」が6.8%となっている。
- 性別でみると、『被害経験がある』は全ての項目で女性が男性より多くなっており、「①身体的暴力」「②精神的暴力」「④性的暴力」では1割以上となっている。
- 年代別でみると、『被害経験がある』は全ての項目において30～50歳代で多くなっている。
- 経年比較をみると、全ての項目で減少しているものの、依然として「①身体的暴力」「②精神的暴力」の被害経験者が1割を超えている。
- 国との比較をみると、「④性的暴力」がやや多くなっている。

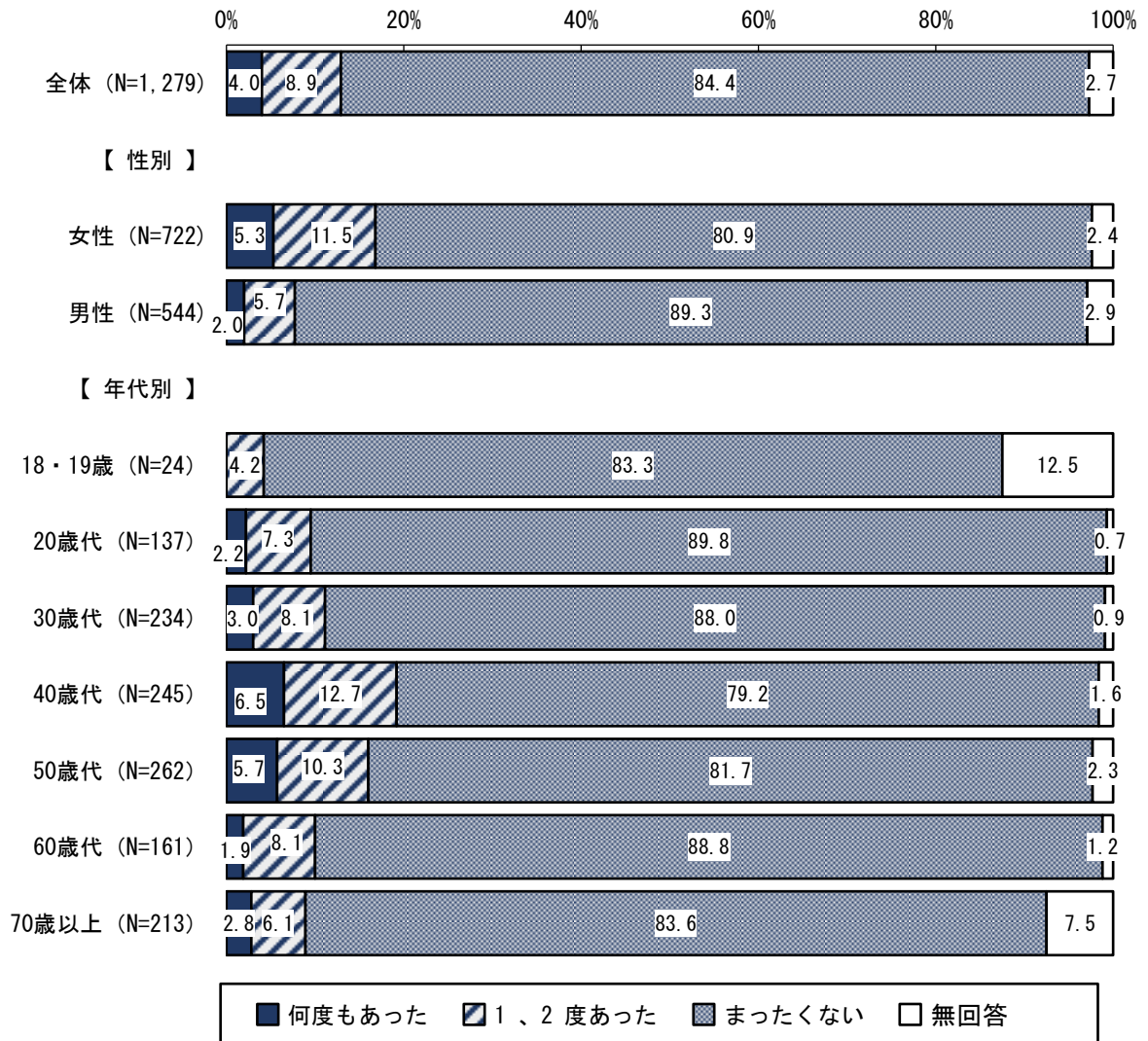
図表 101 DV被害経験（全体）



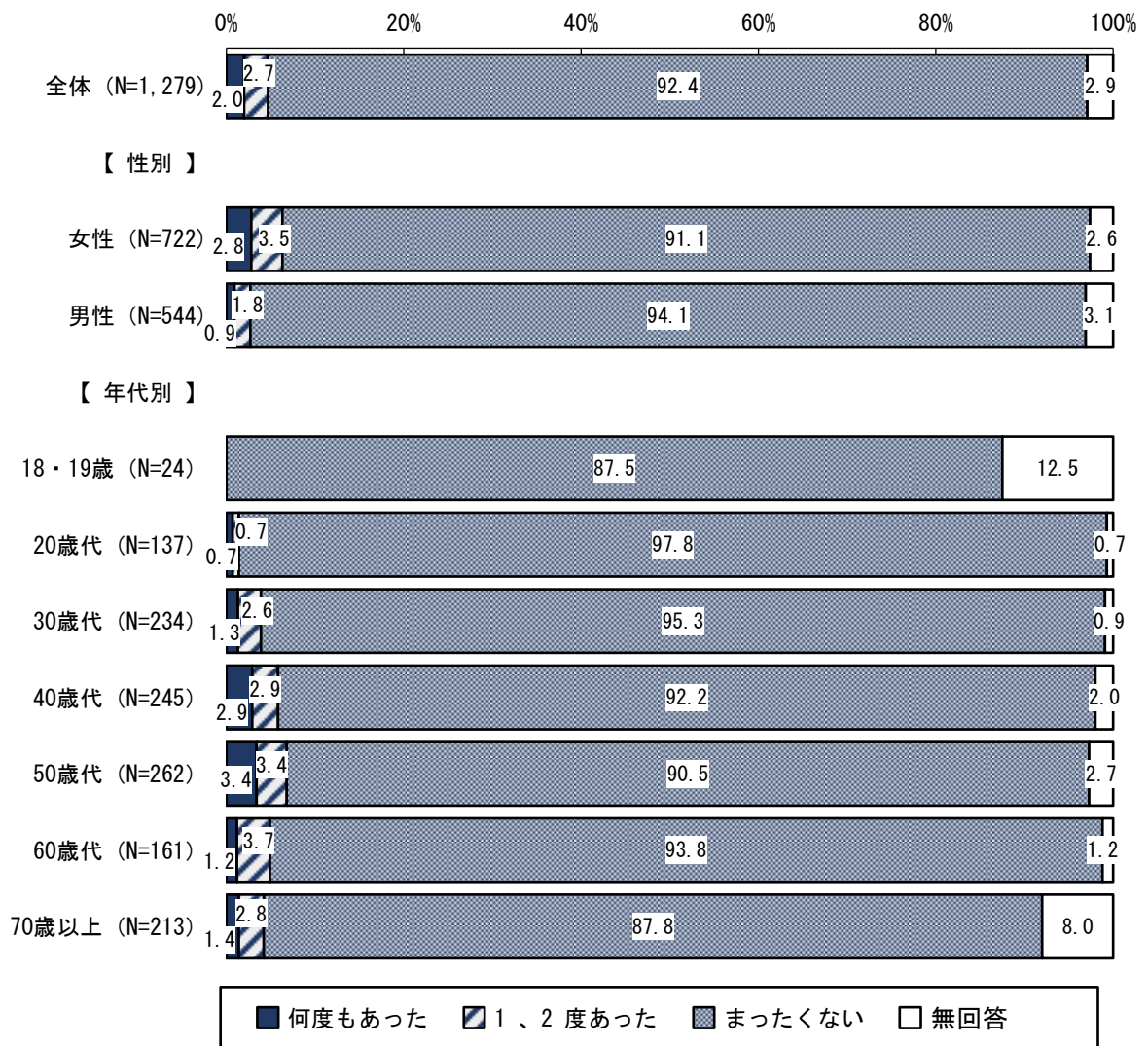
図表 102 ①身体暴力(全体・性別・年代別)



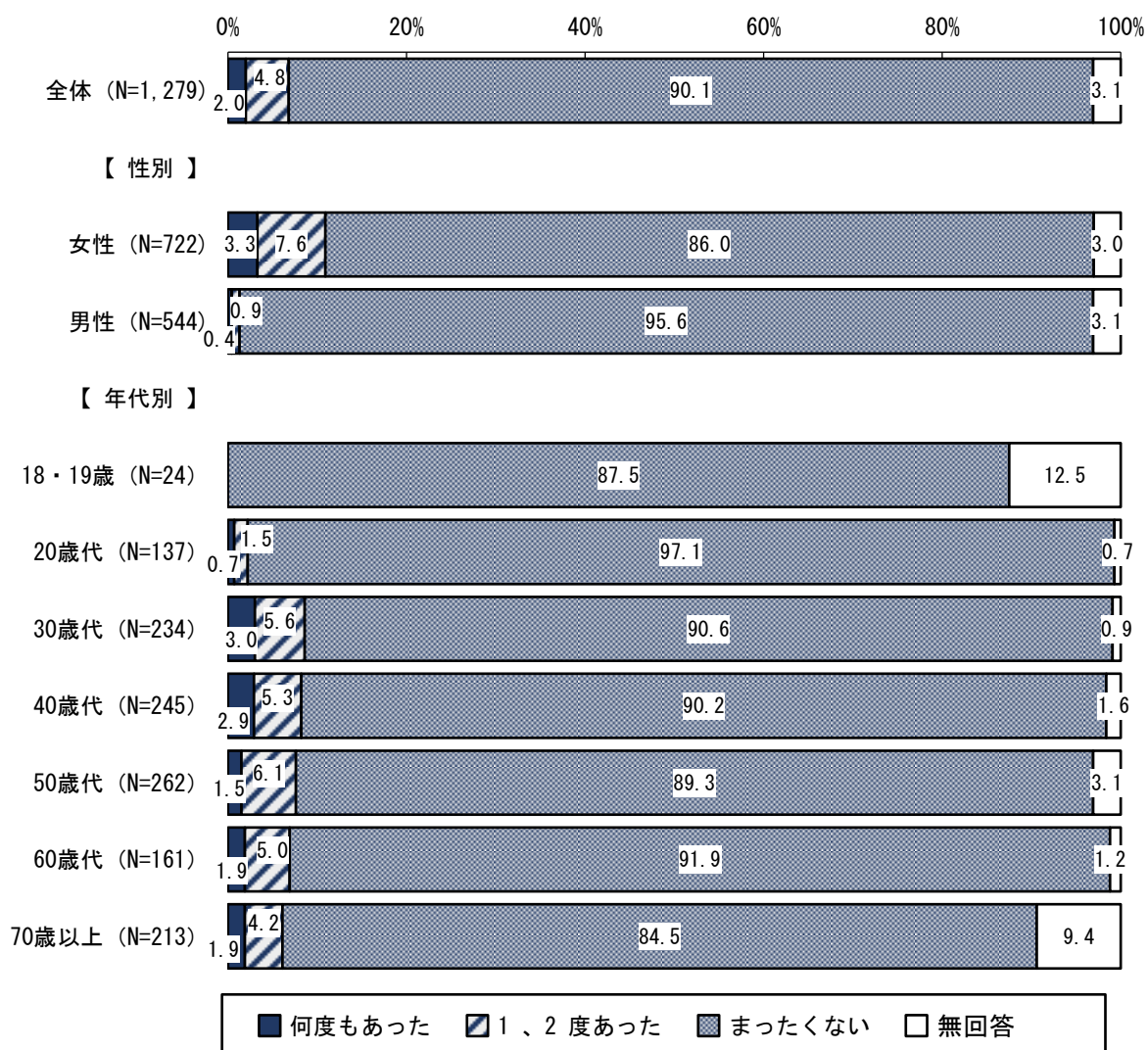
図表 103 ②精神的暴力(全体・性別・年代別)



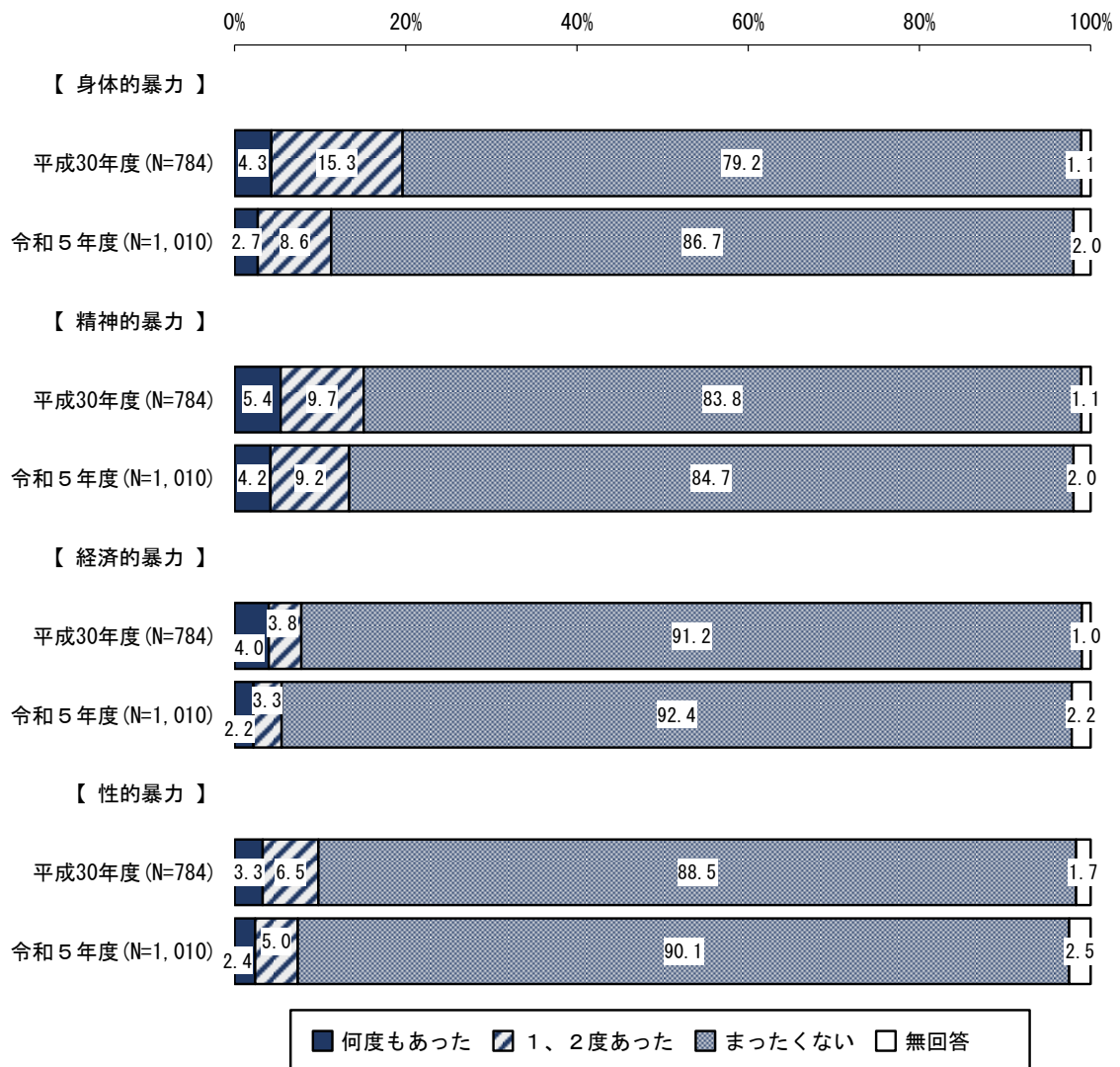
図表 104 ③経済的暴力(全体・性別・年代別)



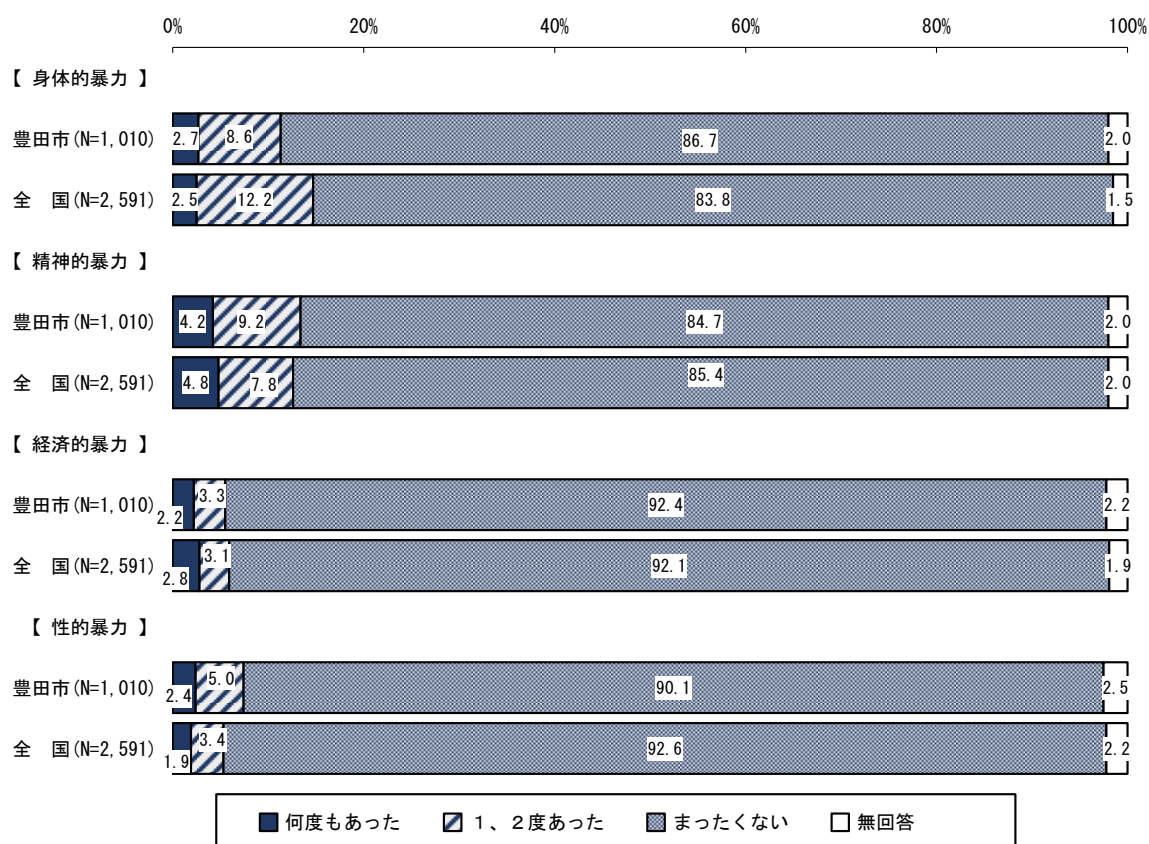
図表 105 ④性的暴力(全体・性別・年代別)



図表 106 DV被害経験(経年比較)



図表 107 DV被害経験(国比較)



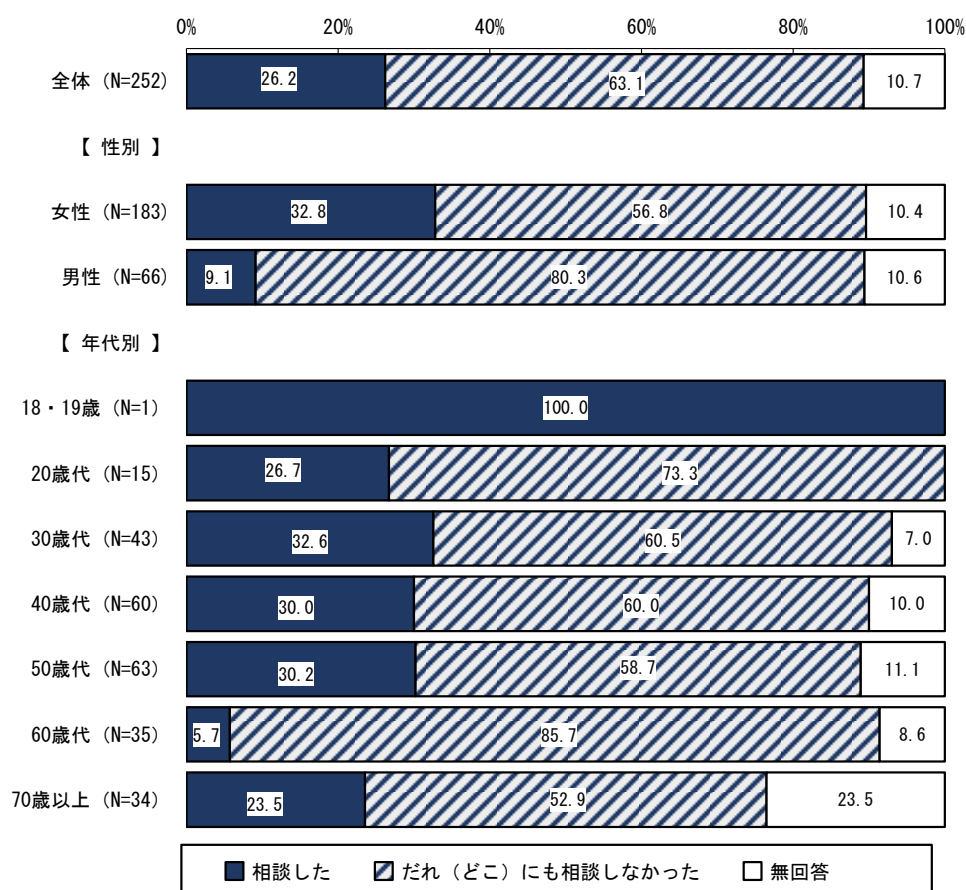
<問 23①～④のいずれかで「何度もあった」もしくは「1、2度あった」と回答した方>

問 24 あなたが受けた行為について、だれ（どこ）かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
（〇は1つ）

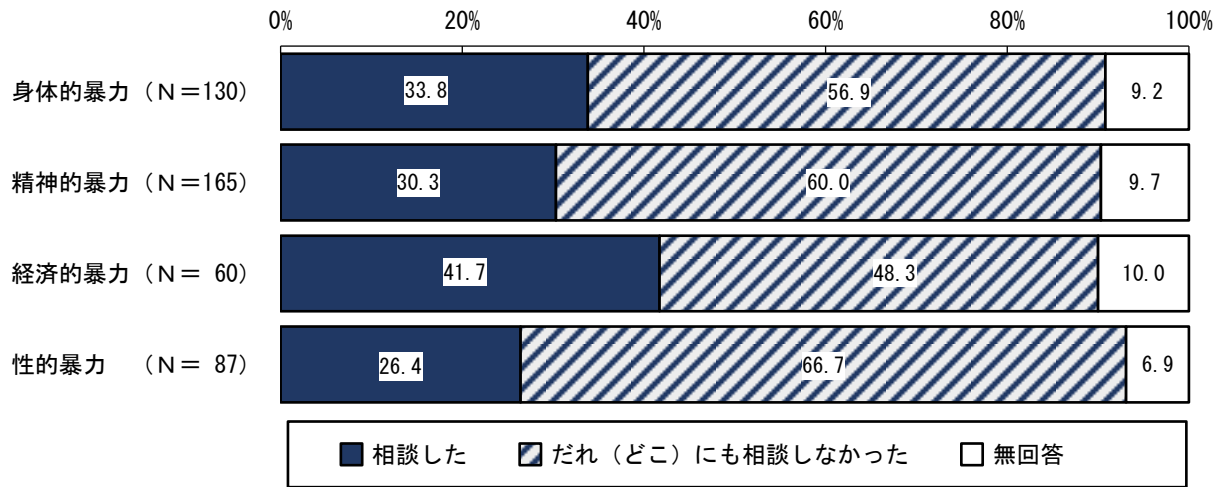
「相談した」26.2%、「だれ（どこ）にも相談しなかった」63.1%

- DV被害を受けた際に、だれ(どこ)かに「相談した」は26.2%、「だれ(どこ)にも相談しなかった」は63.1%で、相談しなかった人が6割以上となっている。
- 性別でみると、女性が3割以上であるのに対し、男性は1割以下となっており、特に男性は相談しない傾向が強い。
- 年代別でみると、いずれの年代(「18・19 歳」は1人なので除く)も「だれ(どこ)にも相談しなかった」の方が多くなっており、特に60 歳代では8割以上となっている。
- DV被害経験の種類別でみると、経済的暴力の被害者でやや「相談した」が多くなっているものの4割にとどまっている。その他については2～3割と低い水準になっている。
- 経年比較をみると、性別に関わらず、「相談した」割合が減少傾向となっている。

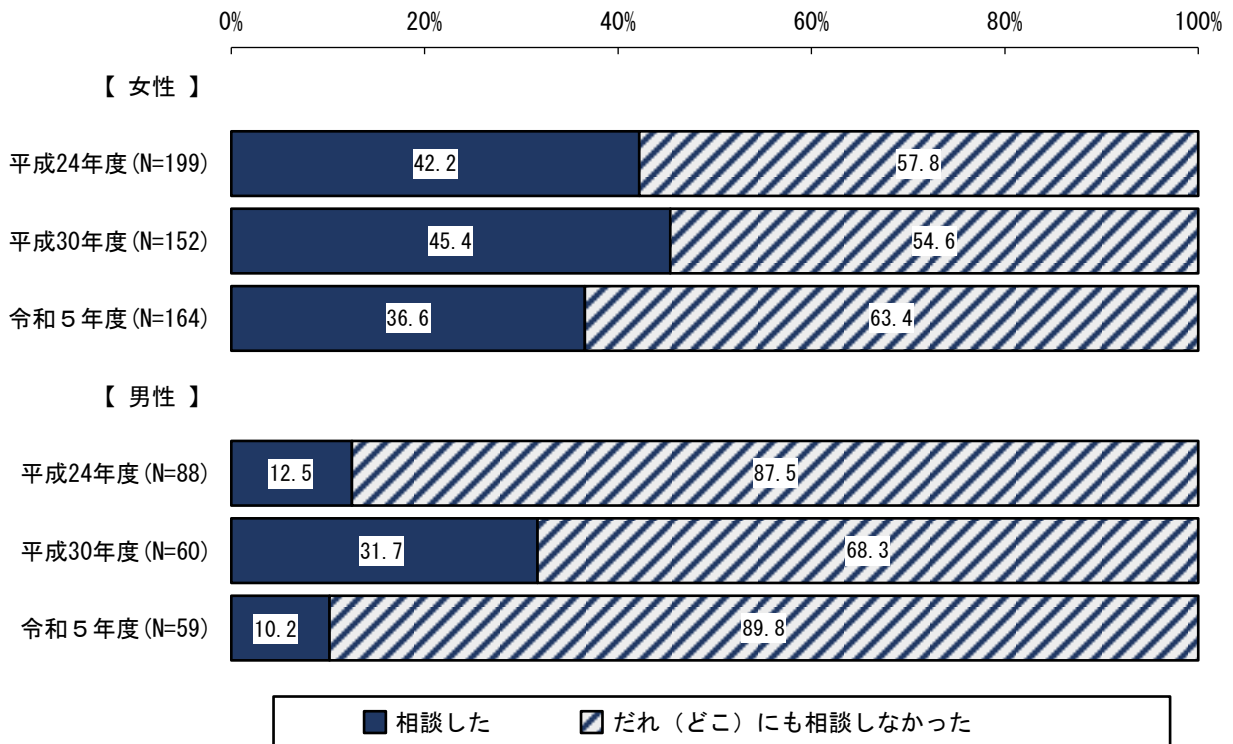
図表 108 DV被害の相談(全体・性別・年代別)



図表 109 DV被害の相談（DV被害経験別）



図表 110 DV被害の相談（性別・経年比較）



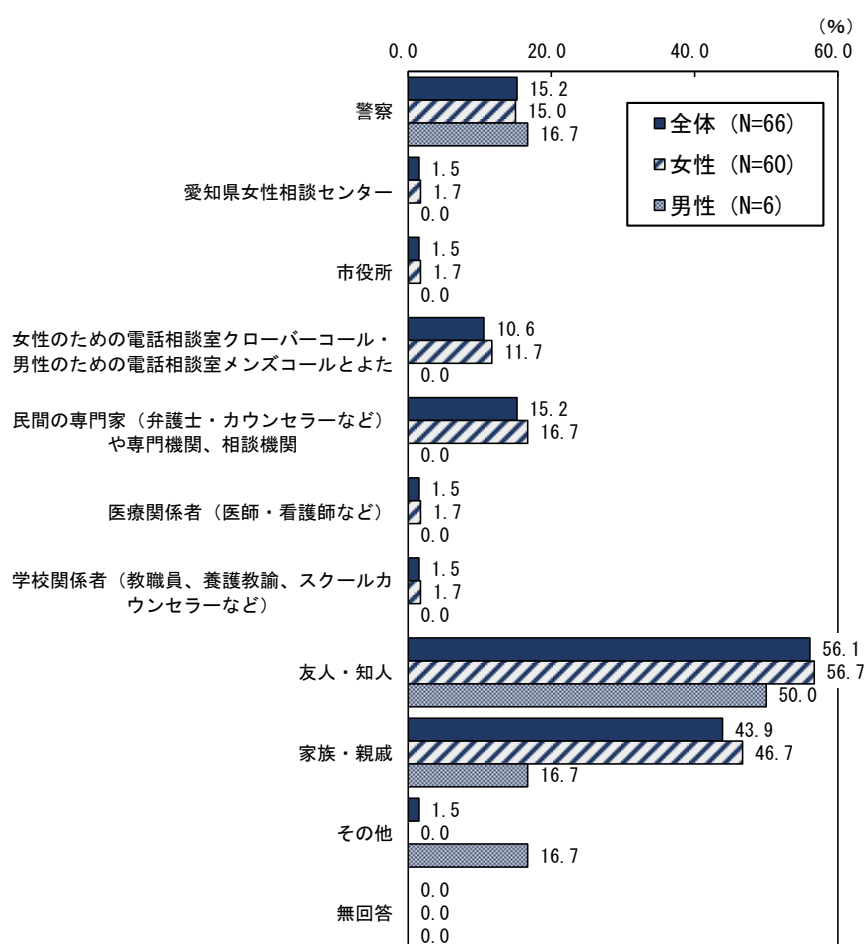
<問 24 で「1 相談した」と回答した方>

問 24-2 実際にだれ(どこ)に打ち明けたり相談したりしましたか。(〇はいくつでも)

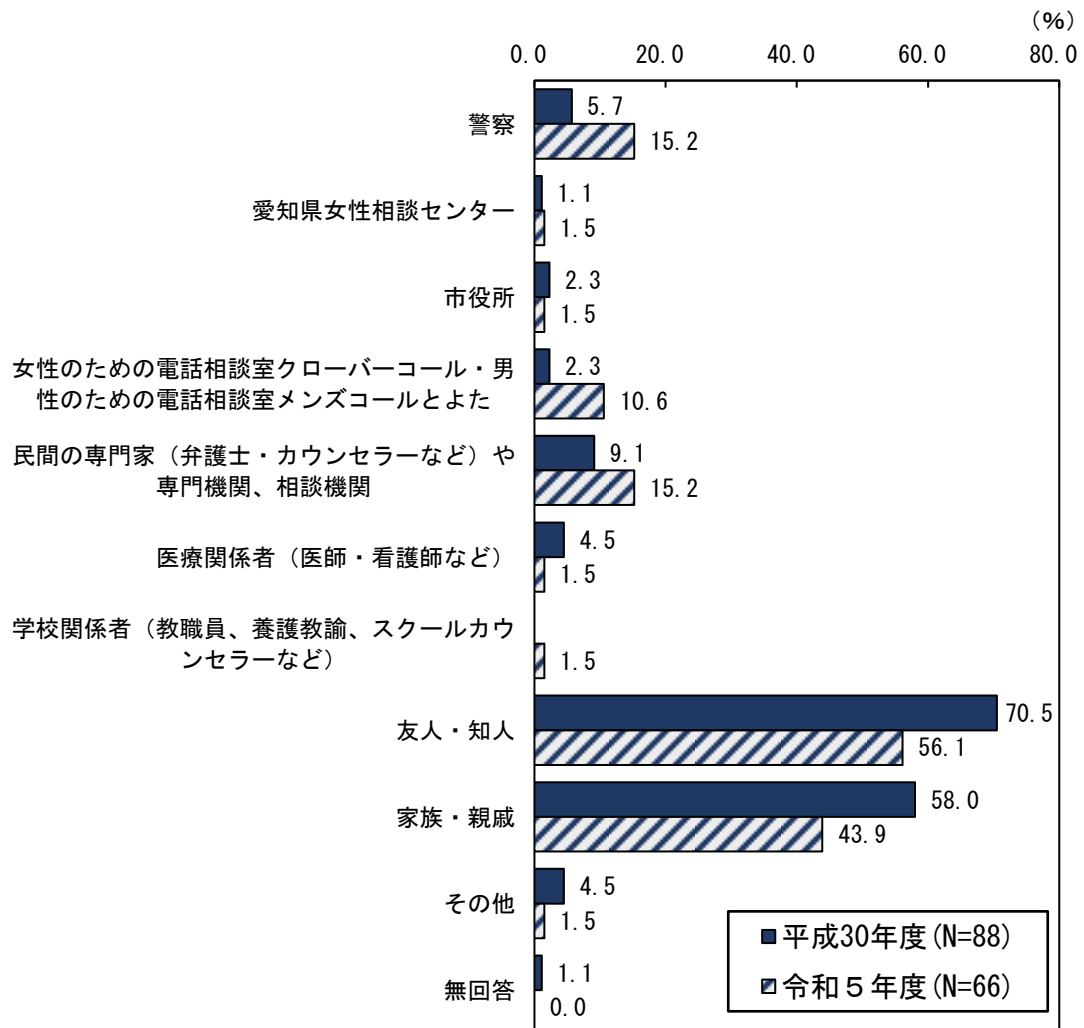
「友人・知人」56.1%、「家族・親戚」43.9%

- DV被害を受けた際の相談先は、「友人・知人」が56.1%と最も多く、次いで「家族・親戚」が43.9%となっている。
- 性別でみると、男性で「家族・親戚」に相談する人は女性の半数以下となっている。
- 経年比較をみると、「警察」「女性のための電話相談室クローバーコール・男性のための電話相談室メンズコールとよた」「民間の専門家(弁護士・カウンセラーなど)や専門機関、相談機関」が6～9ポイント増加の一方で、「友人・知人」「家族・親戚」は10ポイント以上減少している。

図表 III DV被害の相談先(全体・性別)



図表 112 DV被害の相談先（経年比較）



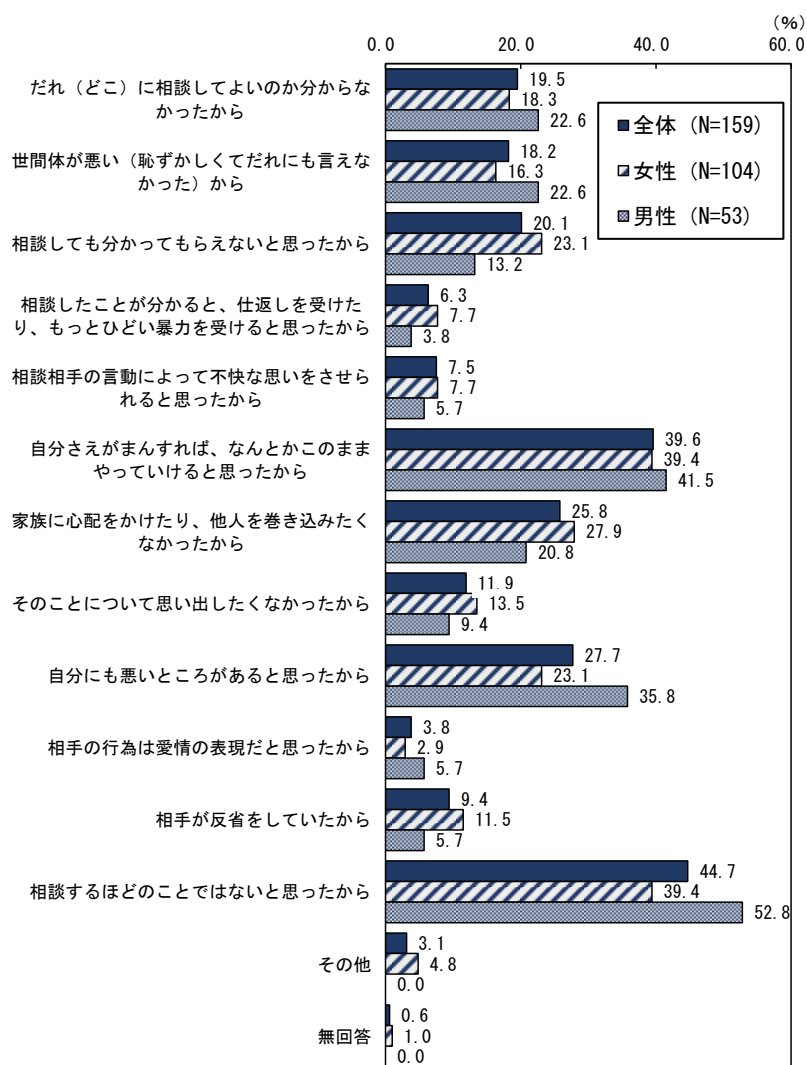
<問 24 で「2 だれ(どこ)にも相談しなかった」と回答した方>

問 24-3 相談をしなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

「相談するほどのことではないと思ったから」が4割半ば

- 相談をしなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が44.7%と最も多く、次いで「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていたら良かったから」が39.6%となっている。
- 性別でみると、女性は「相談しても分かってもらえないと思ったから」「家族に心配をかけたり、他人を巻き込みたくなかったから」「相手が反省をしていたから」が多く、男性は「世間体が悪い(恥ずかしくてだれにも言えなかった)から」「自分にも悪いところがあると思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」が多くなっている。

図表 113 相談しなかった理由(全体・性別)

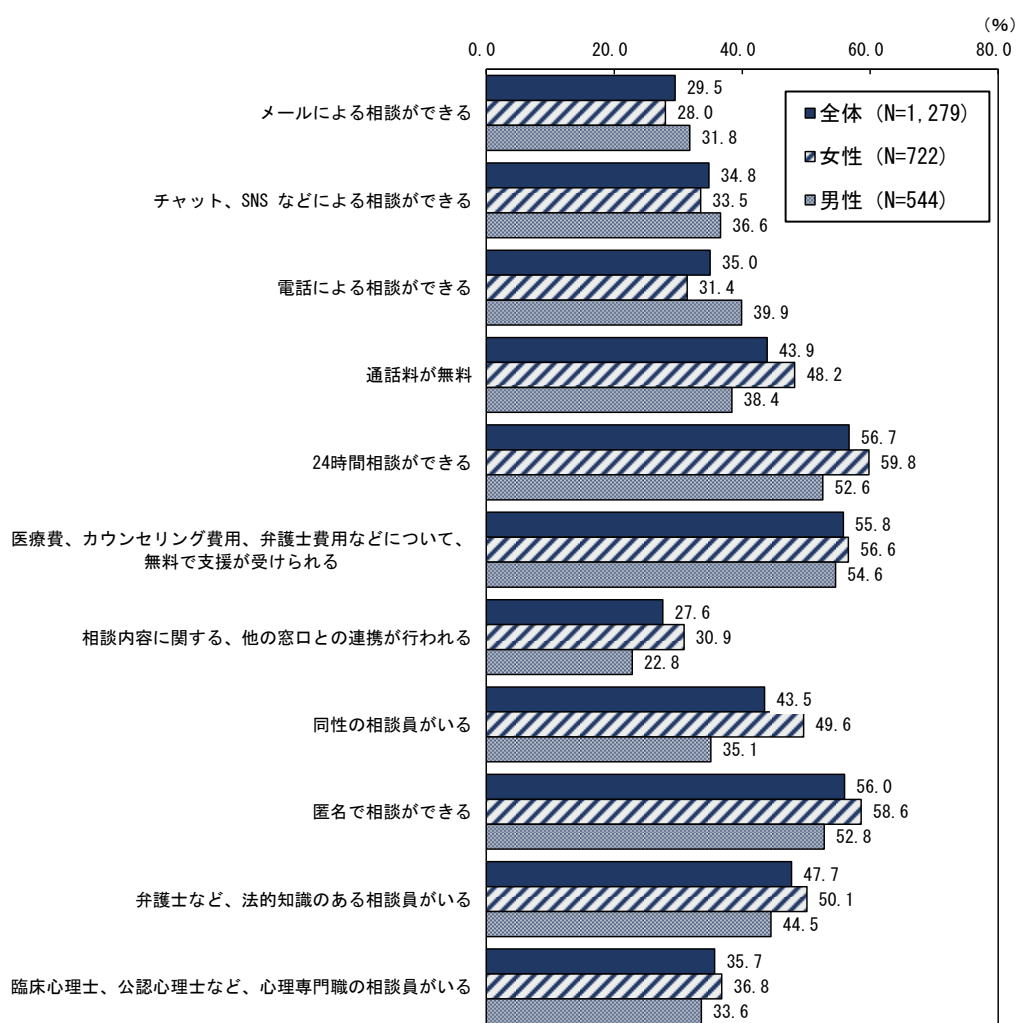


問 25 あなたは、配偶者や恋人からの暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

「24 時間相談ができる」56.7%、匿名で相談ができる」56.0%

- 相談窓口で配慮してほしいことは、「24 時間相談ができる」が 56.7%と最も多く、次いで「匿名で相談ができる」(56.0%)、「医療費、カウンセリング費用、弁護士費用などについて、無料で支援が受けられる」(55.8%)となっている。
- 性別でみると、女性は「通話料が無料」「同性の相談員がいる」が多く、男性は「電話による相談ができる」が多くなっている。

図表 114 相談窓口で配慮してほしいこと(全体・性別)

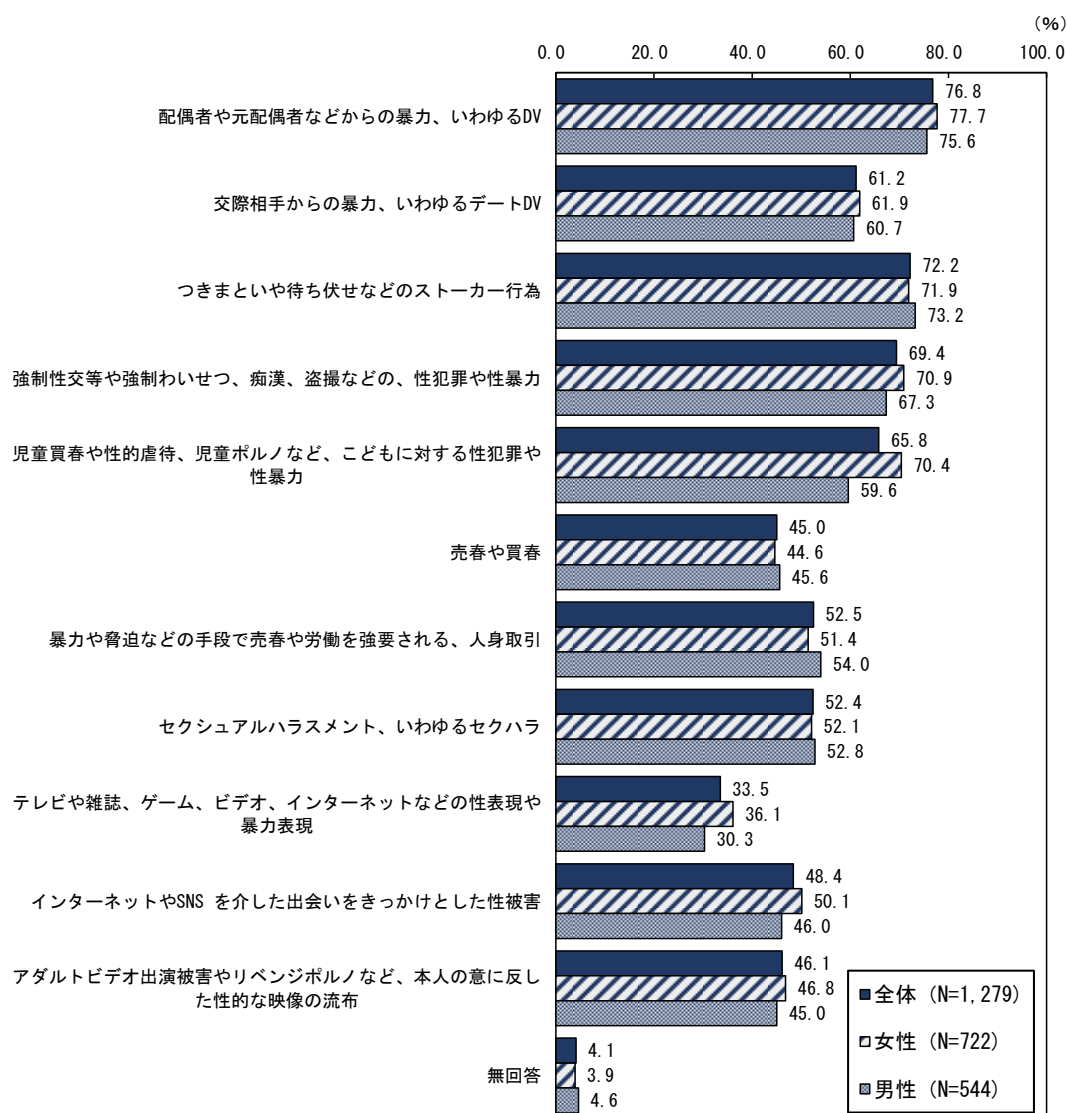


問 26 女性に対する暴力の根絶を図るため、あなたが対策が必要だと考えるのはどれですか。(〇は
いくつでも)

「配偶者や元配偶者などからの暴力、いわゆるDV」が7割半ば

- 女性に対する暴力の根絶を図るために必要な対策は、「配偶者や元配偶者などからの暴力、いわゆるDV」が76.8%と最も多く、次いで「つきまといや待ち伏せなどのストーカー行為」(72.2%)、「強制的性交等や強制わいせつ、痴漢、盗撮などの、性犯罪や性暴力」(69.4%)、「児童買春や性的虐待、児童ポルノなど、こどもに対する性犯罪や性暴力」(65.8%)となっている。
- 性別でみると、女性は「児童買春や性的虐待、児童ポルノなど、こどもに対する性犯罪や性暴力」が多くなっている。

図表 115 相談窓口で配慮してほしいこと(全体・性別)



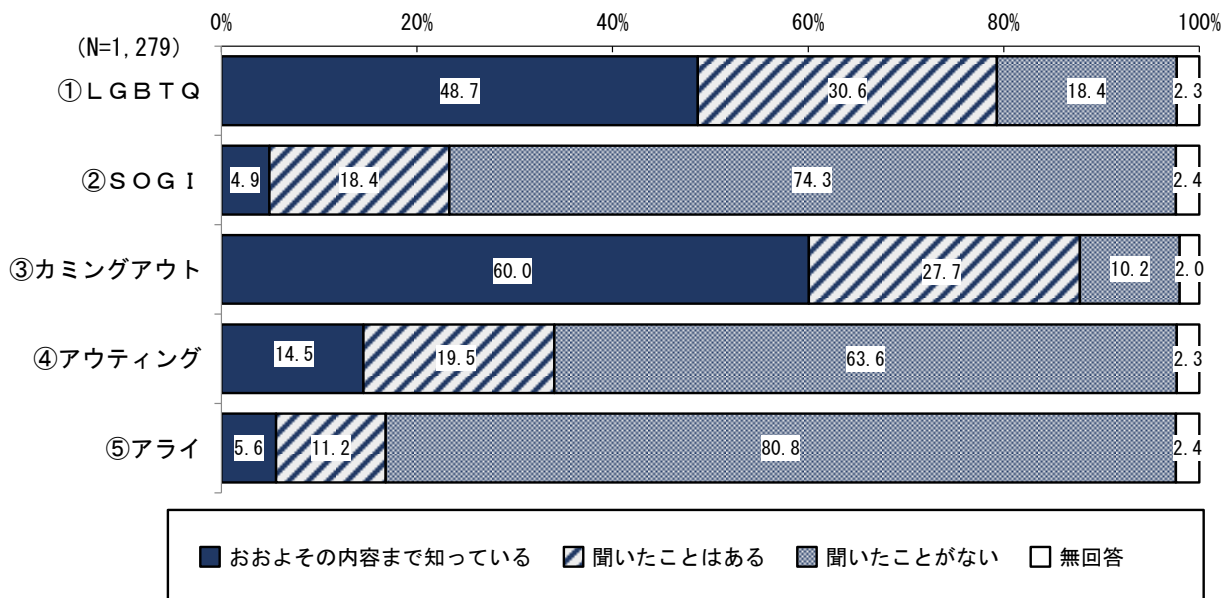
11 性的マイノリティについて

問 27 次の言葉の中で、あなたが知っている、または聞いたことがあるものはどれですか。(①～⑤についてそれぞれ○を1つ)

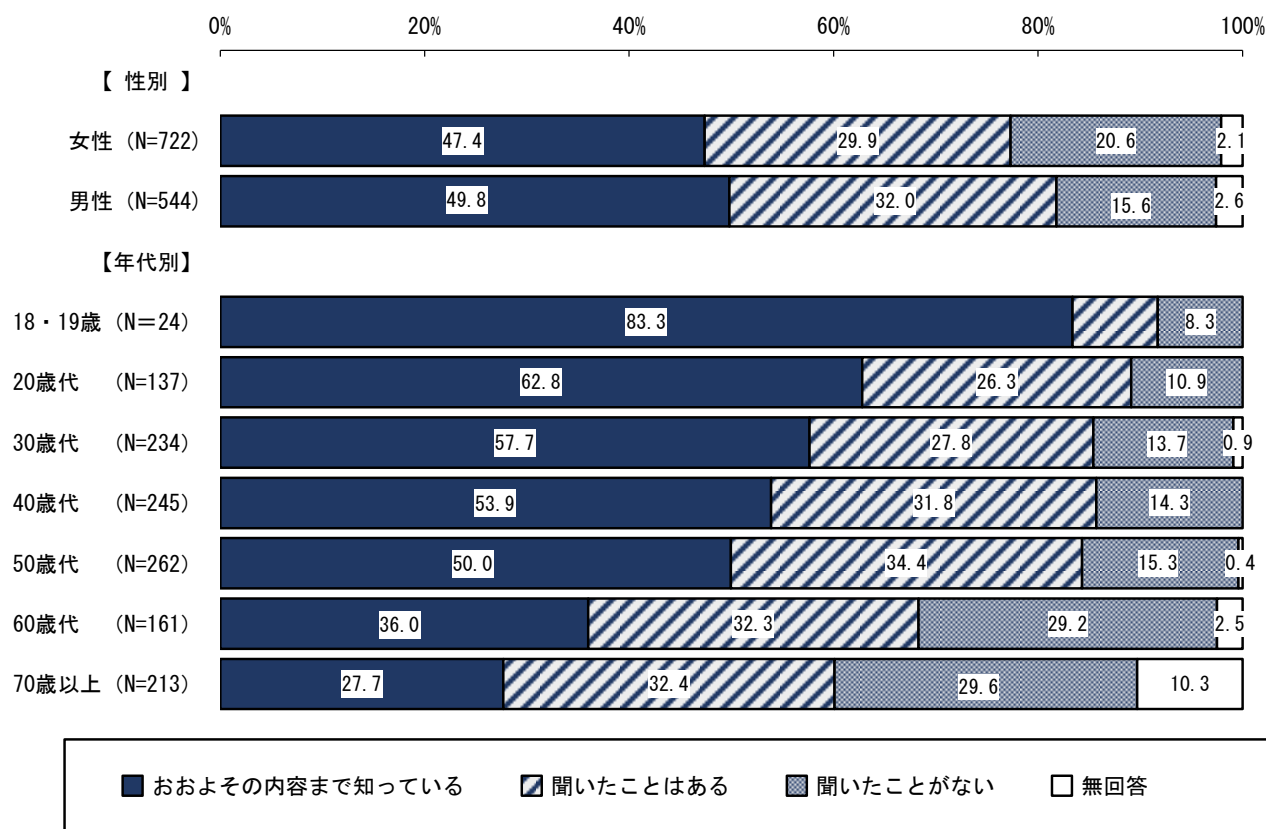
「LGBTQ」「カミングアウト」の認知度は約8割

- 言葉の認知度について、『知っている』(「おおよその内容まで知っている」+「聞いたことはある」)は、「③カミングアウト」が87.7%と最も多く、次いで「①LGBTQ」が79.3%となっている。
- 経年比較をみると(LGBTQのみ)、平成30年度から認知している人は7ポイント近く増加している。
- 性別でみると、「カミングアウト」の認知度は男性より女性が高くなっている。
- 年代別でみると、「②SOGI」以外の用語は若い年代ほど認知度が高く、特に「①LGBTQ」「⑤アライ」ではその傾向が顕著である。

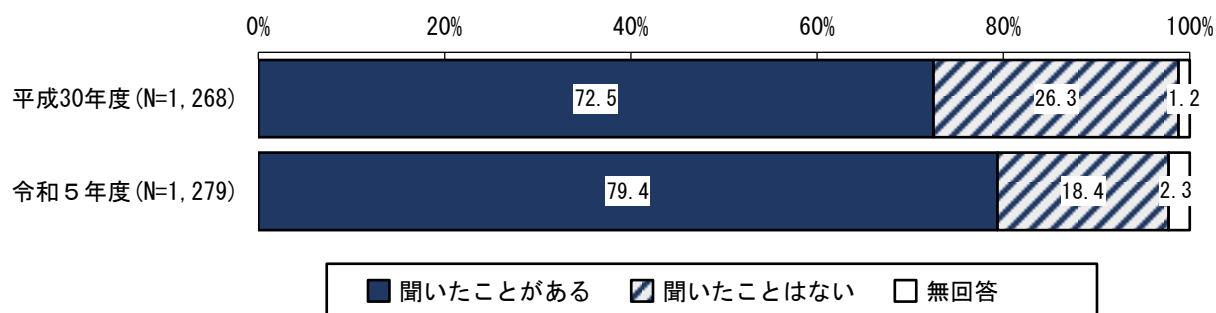
図表 116 知っている、聞いたことがある言葉



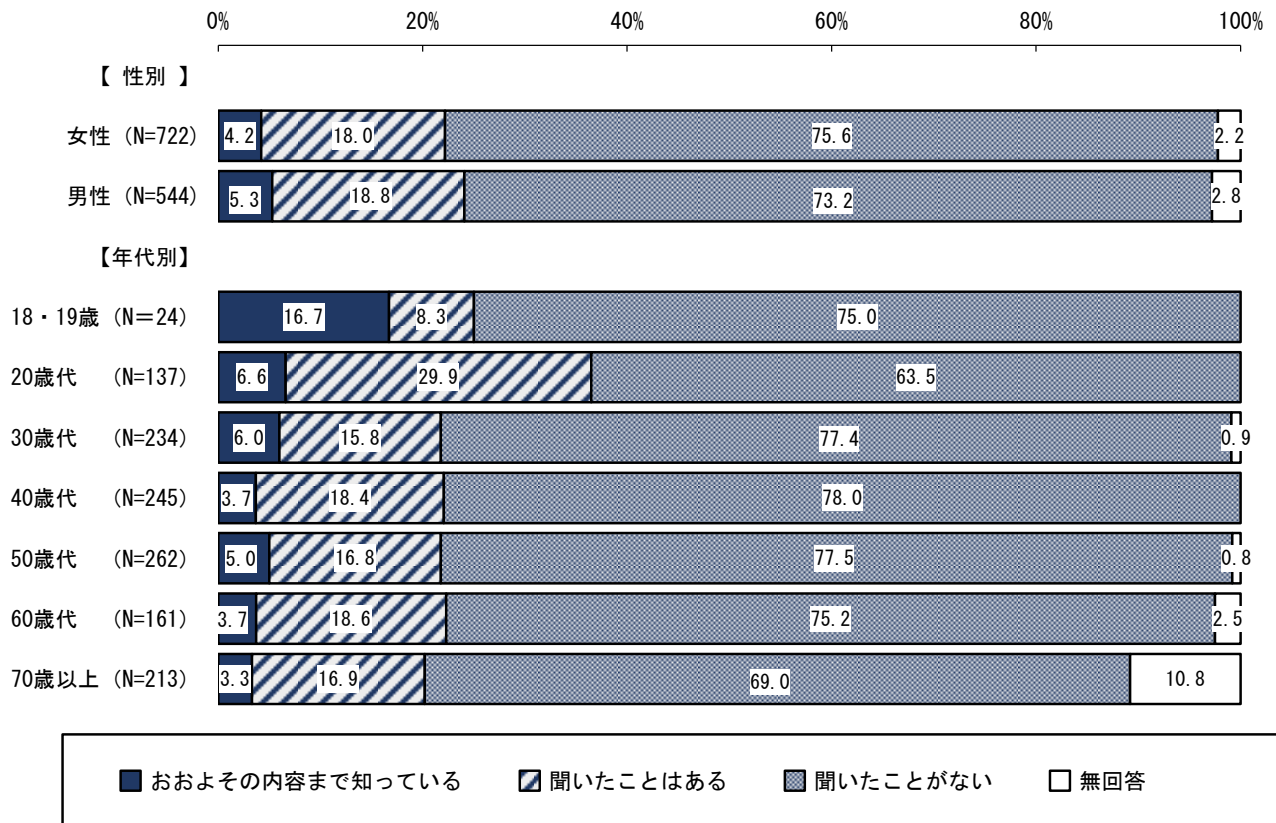
図表 117 ①LGBTQ (性別・年代別)



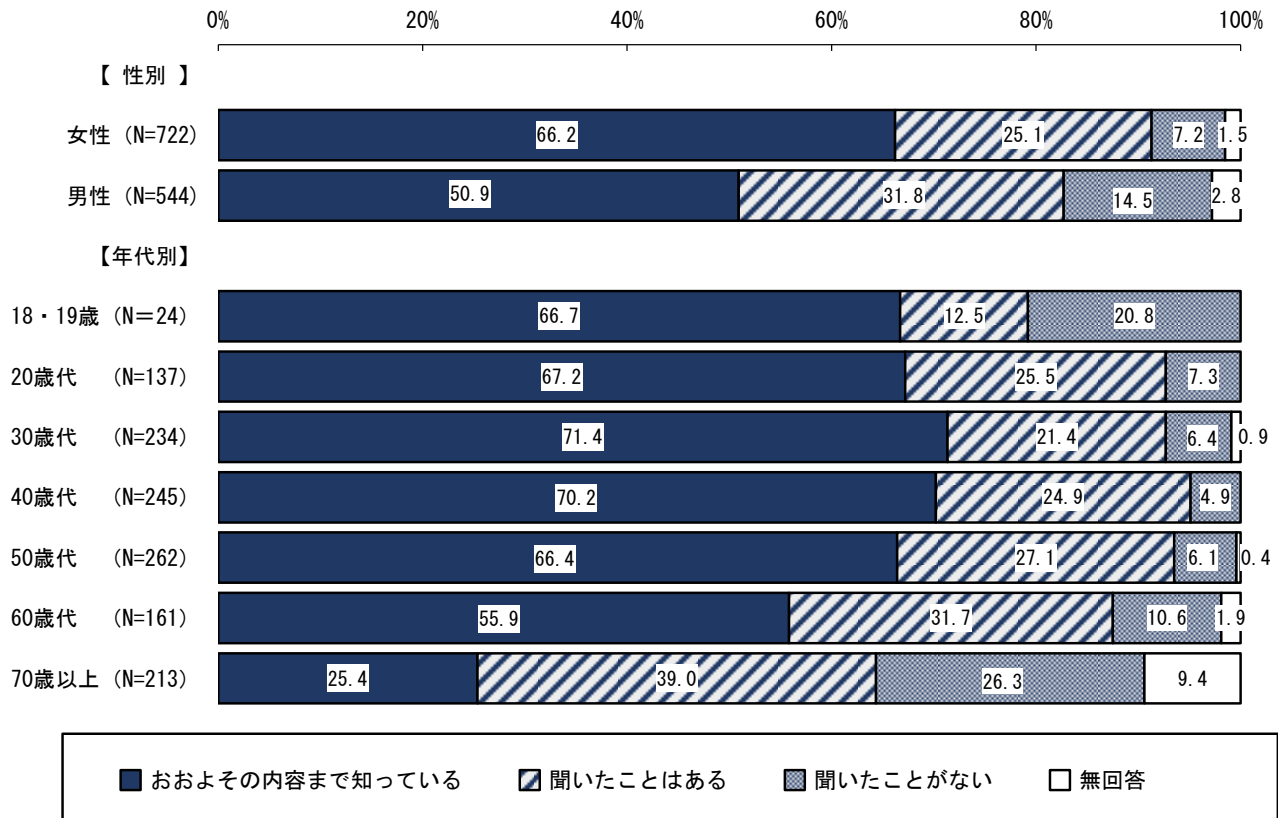
図表 118 ①LGBTQ (経年比較)



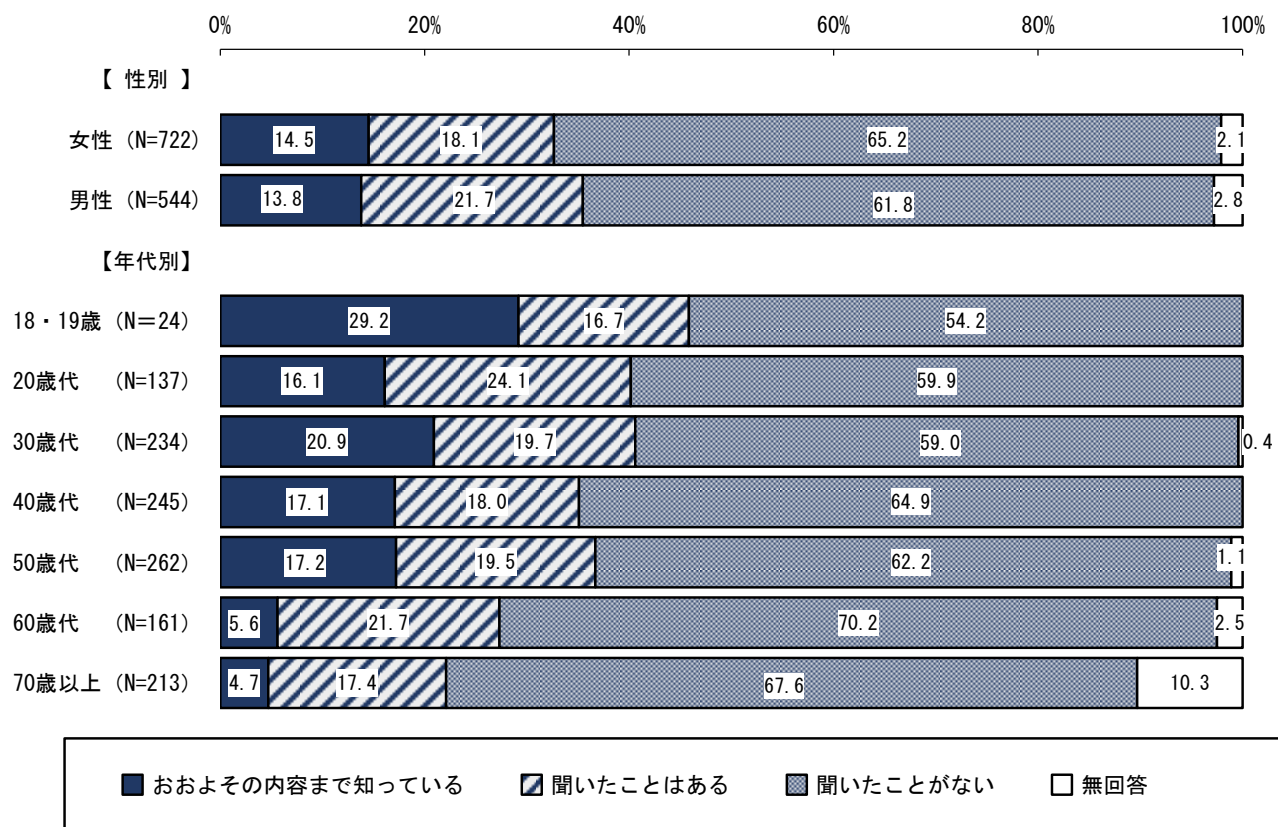
図表 119 ②SOGI(性別・年代別)



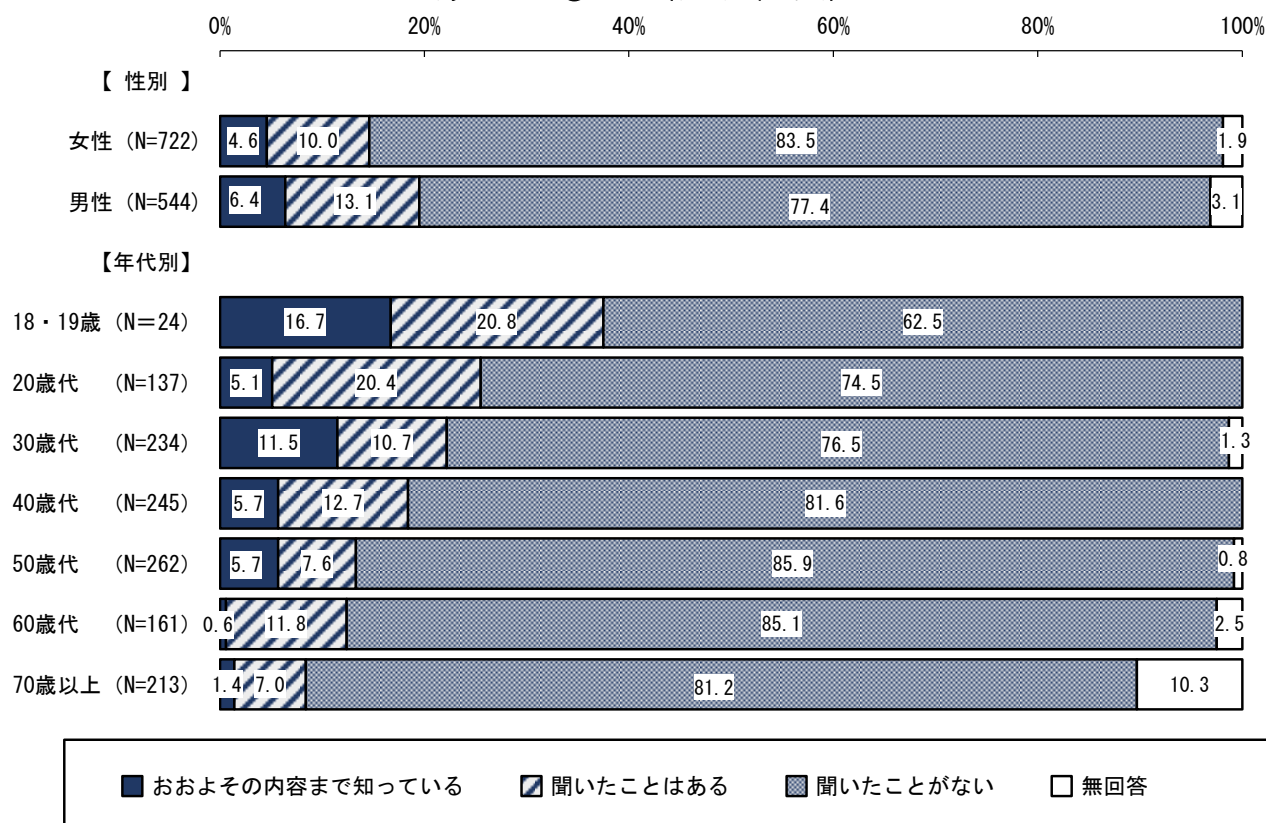
図表 120 ③カミングアウト(性別・年代別)



図表 121 ④アウティング(性別・年代別)



図表 122 ⑤アライ(性別・年代別)

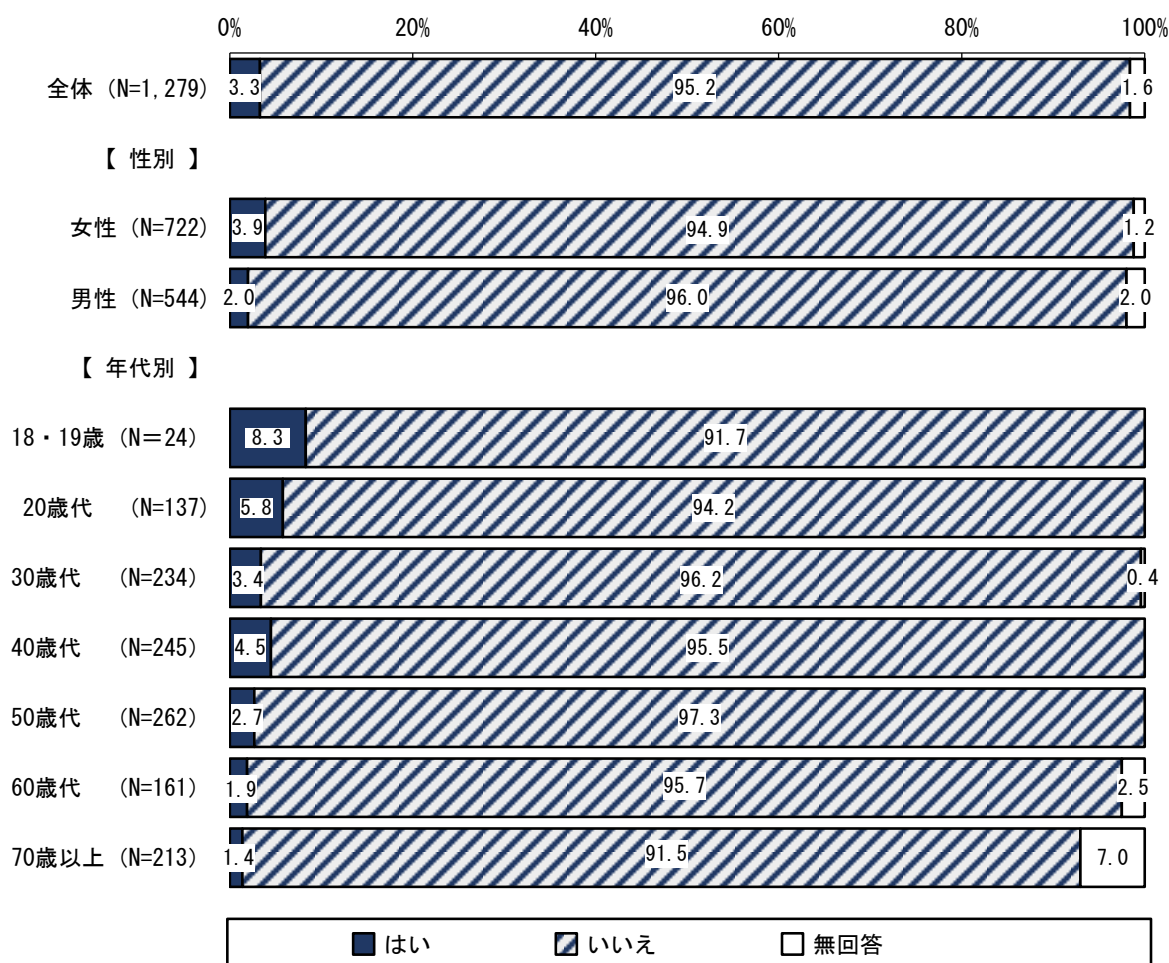


問 28 あなたは今までに自分の身体の性、心の性または性的指向（同性愛など）に悩んだことはありますか。（○は1つ）

「ある」 3.3%、「ない」 95.2%

- 自分の身体の性、心の性または性的指向に悩んだことについて、「ある」が 3.3%、「ない」が 95.2%となっている。
- 性別による大きな差は無い。
- 年代別を見ると、若い年代ほど悩んだことがある人が多い傾向となっている。

図表 123 性的指向に悩んだこと（全体・性別・年代別）

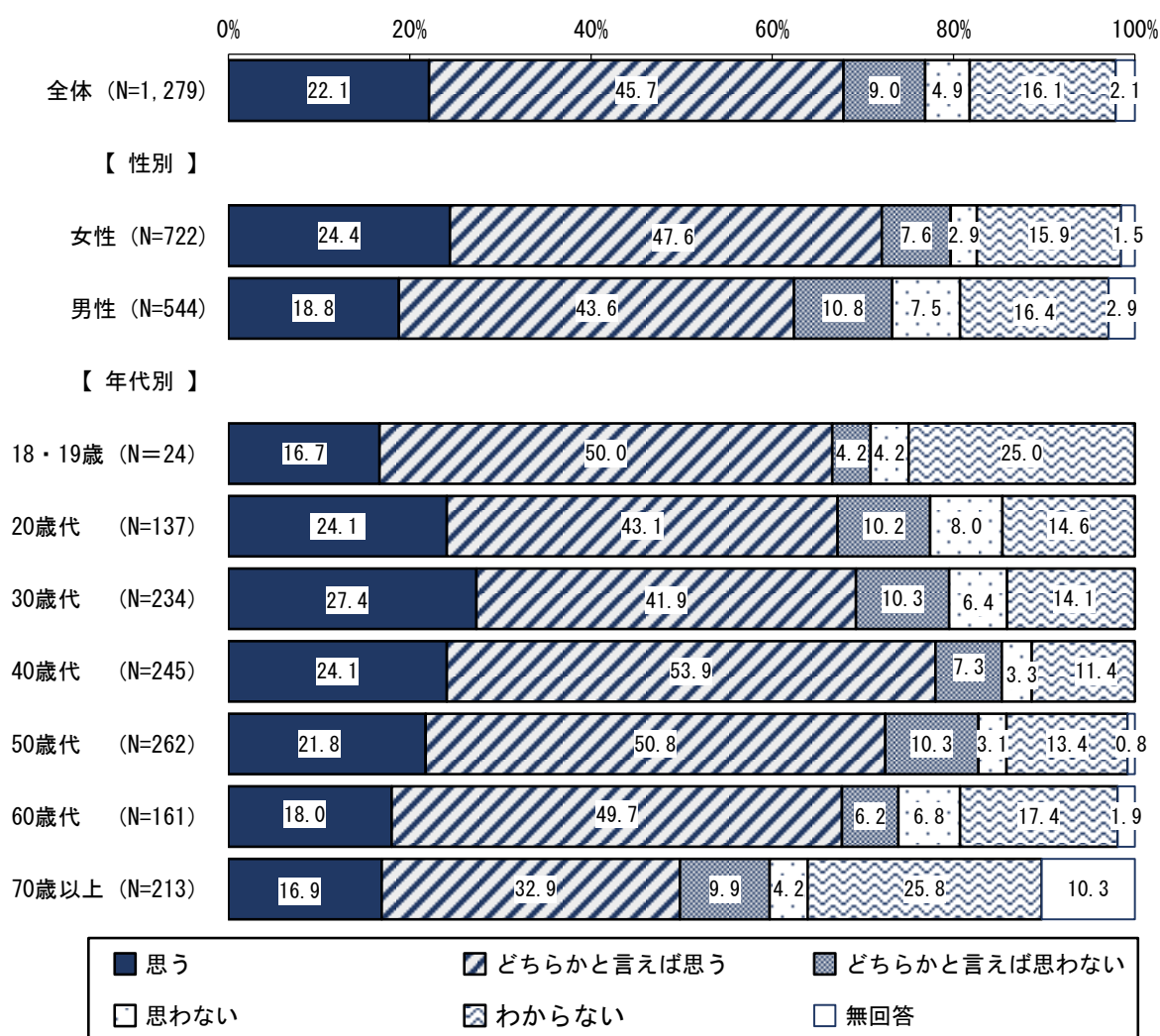


問 29 現在、性的マイノリティ（または LGBTQ）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。（○は1つ）

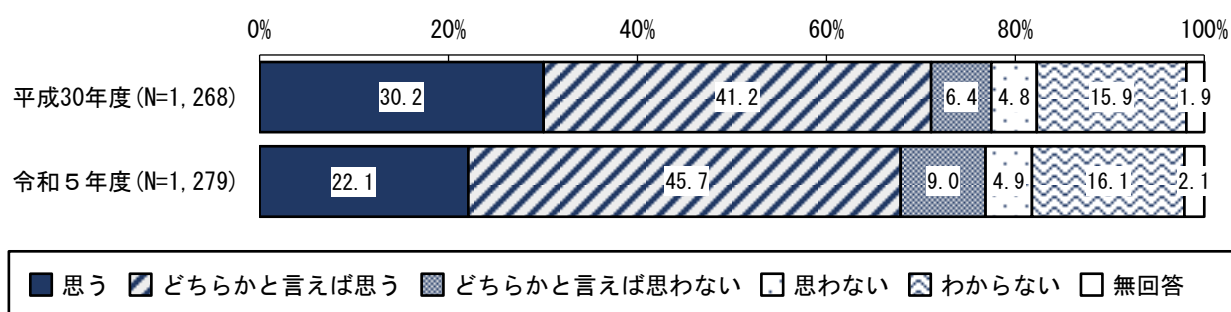
生活しづらいと『思う』人は 67.8%

- 性的マイノリティの人が生活しづらい社会と思うかについて、『思う』（「思う」+「どちらかといえば思う」）は 67.8%となっている。
- 性別でみると、女性の方が『思う』が多くなっている。
- 年代別を見ると、40～50 歳代で生活しづらいと『思う』人が7割以上となっている。
- 経年比較をみると、生活しづらいと『思う』人はわずかながら減少している。

図表 124 性的マイノリティの人が生活しづらい社会と思うか（全体・性別・年代別）



図表 125 性的マイノリティの人が生活しづらい社会と思うか（経年比較）



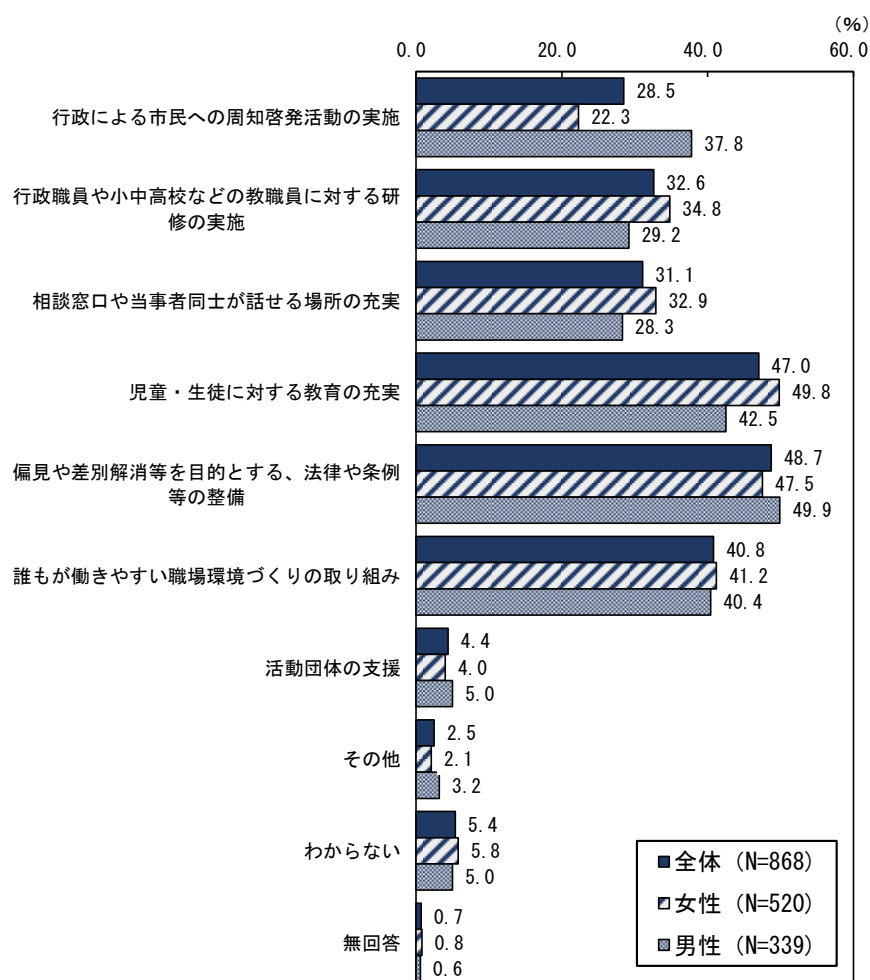
<問 29 で「1 思う」「2 どちらかと言えば思う」と回答された方>

問 29-2 性的マイノリティ（またはLGBTQ）の方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。（〇は3つまで）

「偏見や差別解消等を目的とする、法律や条例等の整備」「児童・生徒に対する教育の充実」が5割弱

- 性的マイノリティの人が生活しやすくなるための対策について、「偏見や差別解消等を目的とする、法律や条例等の整備」が48.7%と最も多く、次いで「児童・生徒に対する教育の充実」(47.0%)、「誰もが働きやすい職場環境づくりの取り組み」(40.8%)となっている。
- 性別でみると、「偏見や差別解消等を目的とする、法律や条例等の整備」は女性が多く、「行政による市民への周知啓発活動の実施」は男性が多い。

図表 126 性的マイノリティの人が生活しやすくなるための対策（全体・性別）



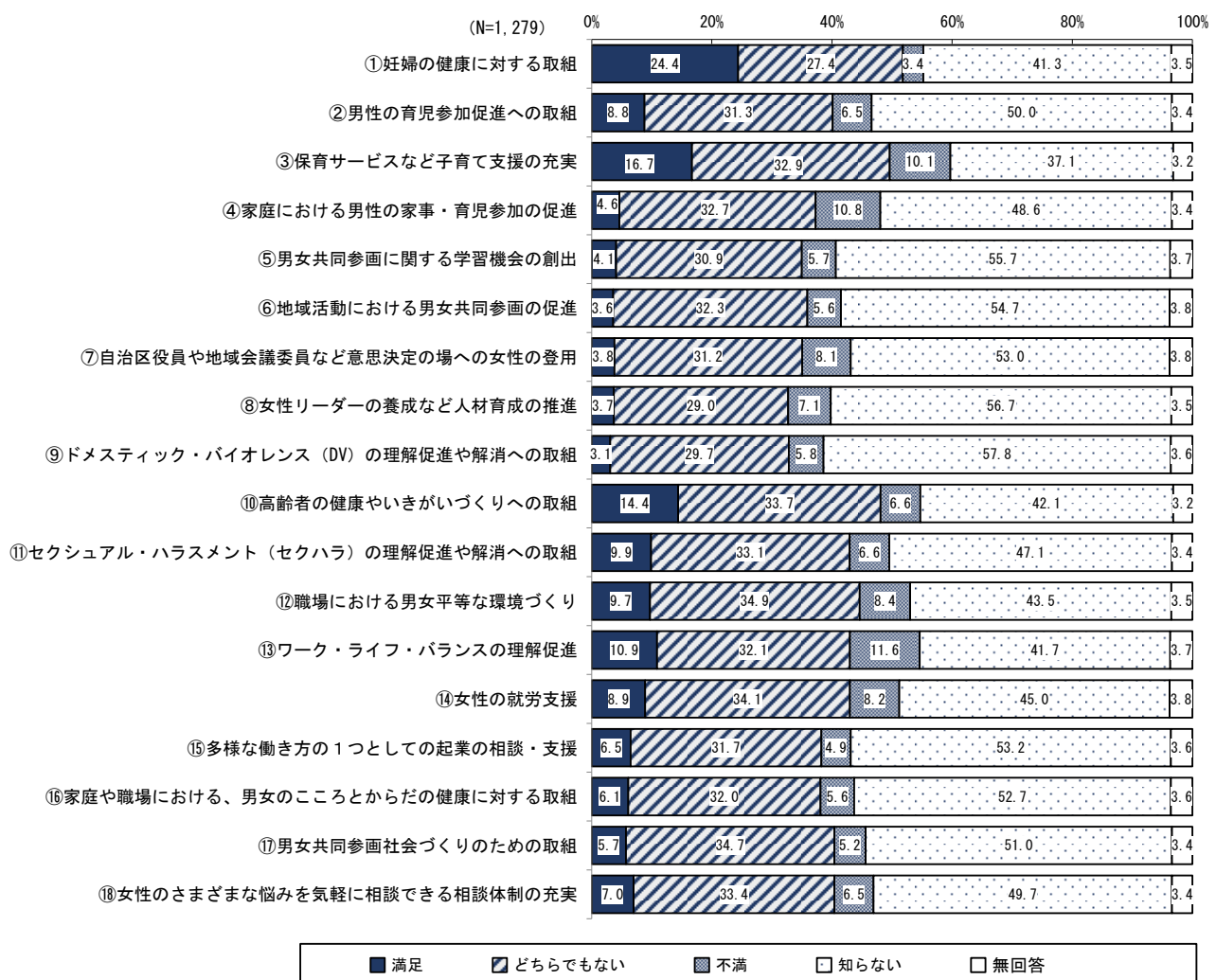
12 男女共同参画社会実現に向けた豊田市の取組について

問 30 ①～⑮にあげた豊田市が実施している取組（事業）について、あなたはどのように感じますか。（①～⑮について、○はそれぞれ1つ）

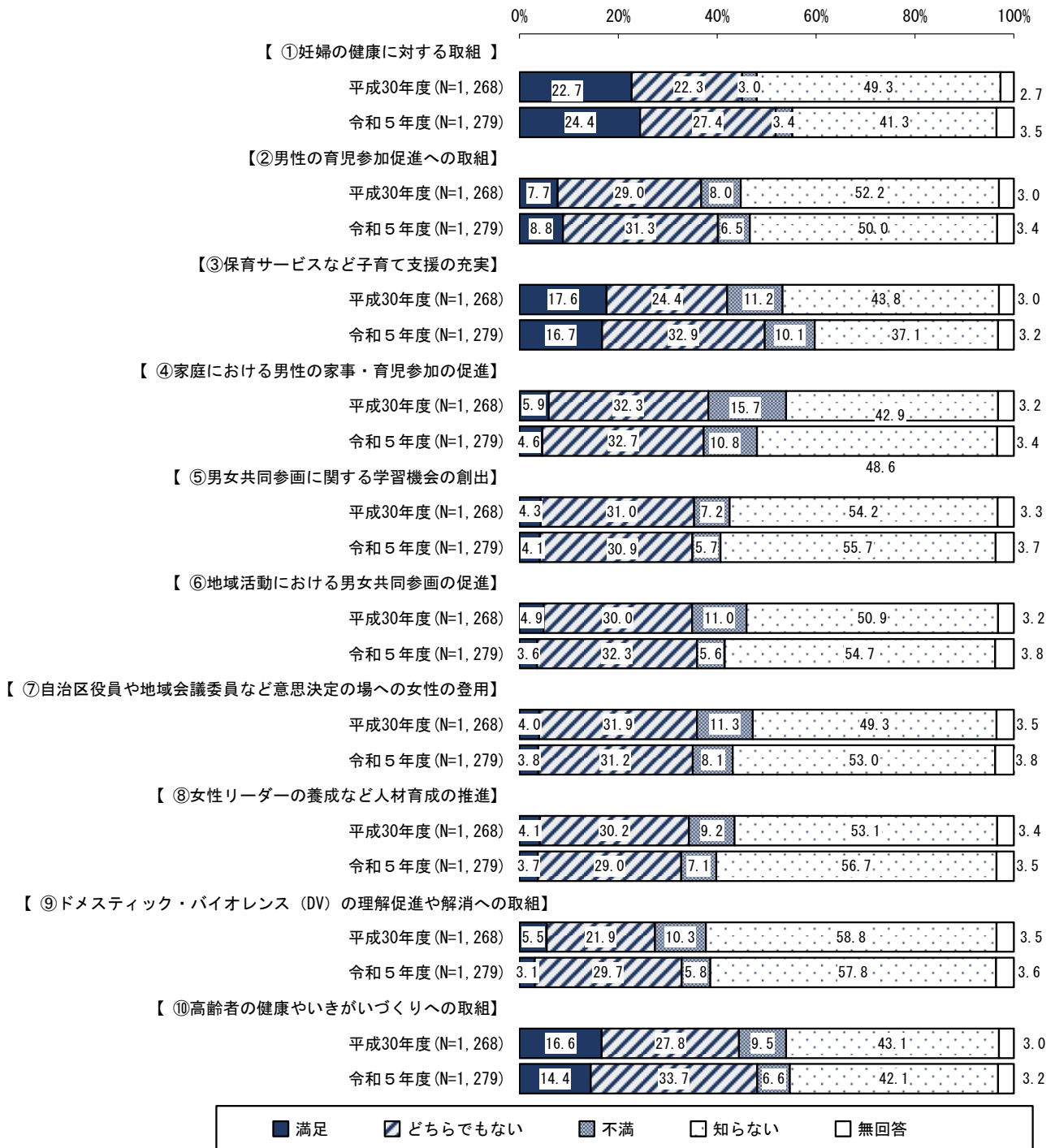
豊田市が実施している取組は「①妊婦の健康に対する取組」の満足度が最も高い

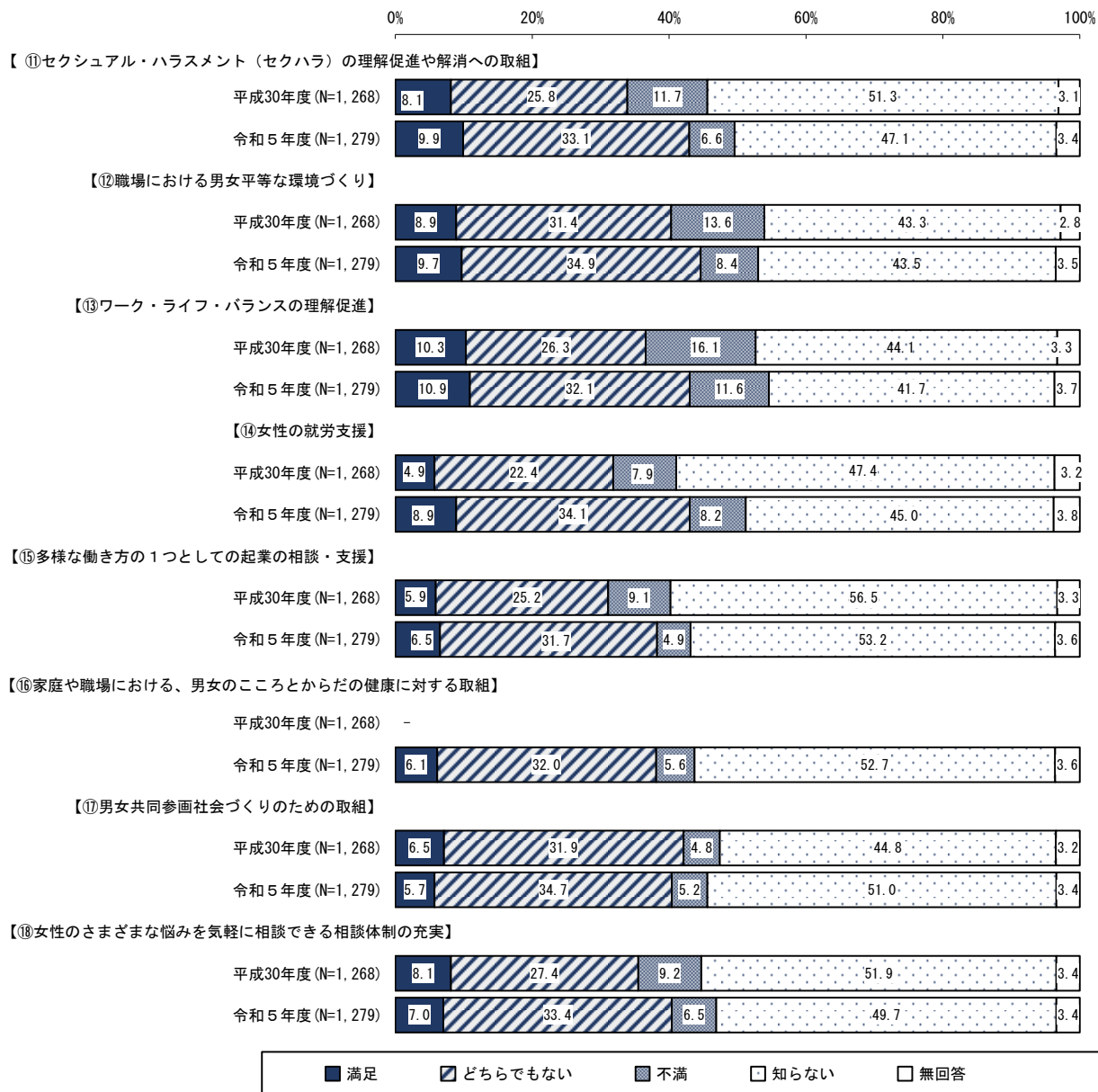
- 豊田市が実施している取組(事業)について、満足だと感じている取組は「①妊婦の健康に対する取組」の24.4%が最も多く、次いで「③保育サービスなど子育て支援の充実」(16.7%)、「⑩高齢者の健康やいきがいづくりへの取組」(14.4%)となっている。不満だと感じている取組は「⑬ワーク・ライフ・バランスの理解促進」(11.6%)が最も多く、次いで「④家庭における男性の家事・育児参加の促進」(10.8%)、「③保育サービスなど子育て支援の充実」(10.1%)となっている。
- 経年比較をみると、「④家庭における男性の家事・育児参加の促進」「④家庭における男性の家事・育児参加の促進」について不満と感じる人が減少している。

図表 127 豊田市が実施している取組（事業）について



図表 128 豊田市が実施している取組（事業）について（経年比較）



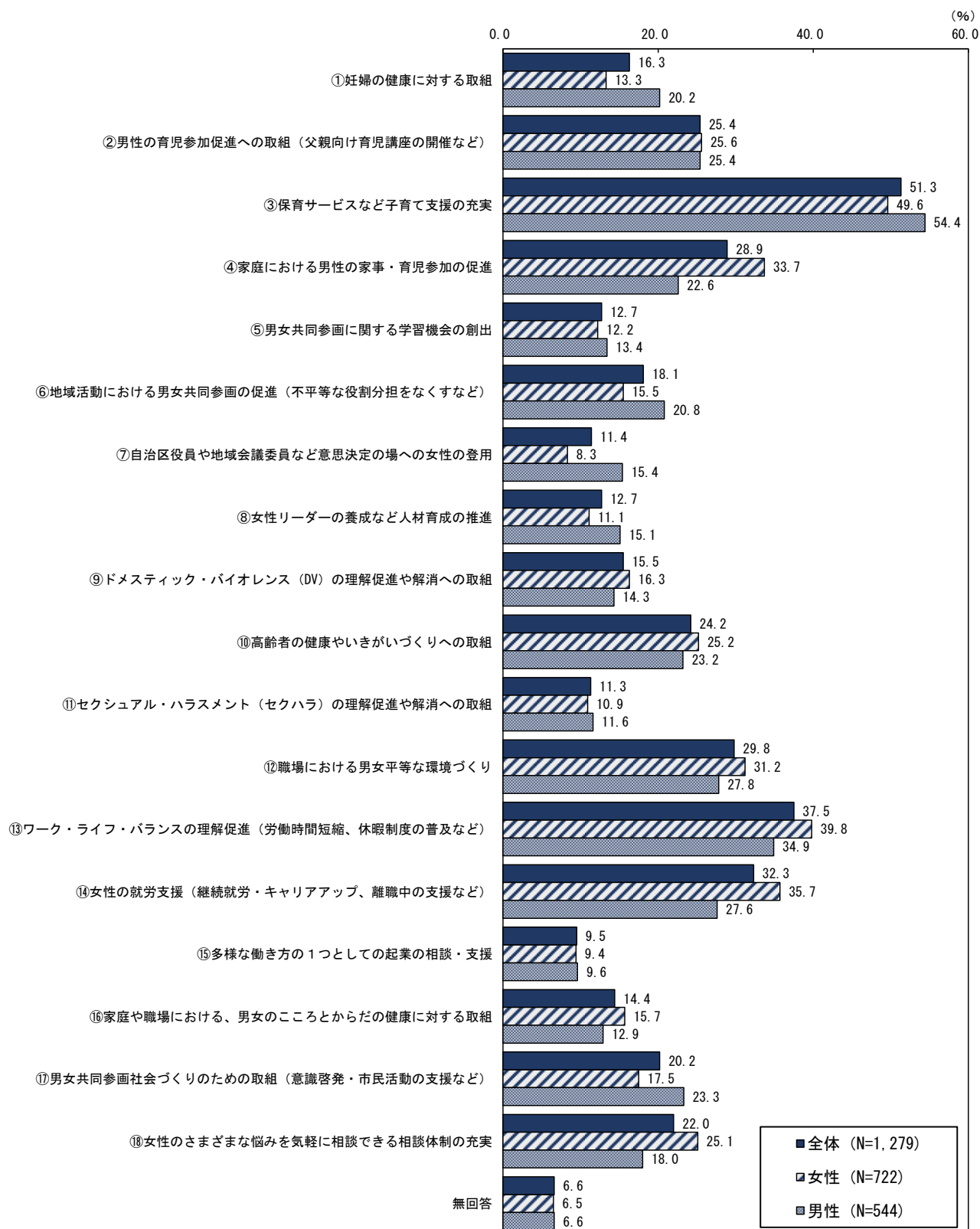


問 30-2 問 30 の①～⑱の取組のうち、豊田市の男女共同参画社会の実現において重要だと思うものを5つ以内で選び、①～⑱の番号をご記入ください。

豊田市が実施している取組で重要なものは「保育サービスなど子育て支援の充実」

- 豊田市が実施している取組(事業)について、重要だと思う取組は「③保育サービスなど子育て支援の充実」の51.3%が最も多く、次いで「⑬ワーク・ライフ・バランスの理解促進(労働時間短縮、休暇制度の普及など)」(37.5%)、「⑭女性の就労支援(継続就労・キャリアアップ、離職中の支援など)」(32.3%)となっている。
- 性別でみると、女性は「④家庭における男性の家事・育児参加の促進」が多く、男性は「⑦自治区役員や地域会議委員など意思決定の場への女性の登用」が多くなっている。
- 年代別でみると、「①妊婦の健康に対する取組」は18～30歳代の若い世代で2割以上、「②男性の育児参加促進への取組(父親向け育児講座の開催など)」は18・19歳で5割以上、「⑩高齢者の健康やいきがいづくりへの取組」は50歳代以上で3割以上となっている。
- 経年比較をみると、「③保育サービスなど子育て支援の充実」「④家庭における男性の家事・育児参加の促進」「⑥地域活動における男女共同参画の促進(不平等な役割分担をなくすなど)」が多くなっている。

図表 129 豊田市が実施している取組(事業)について重要だと思うもの

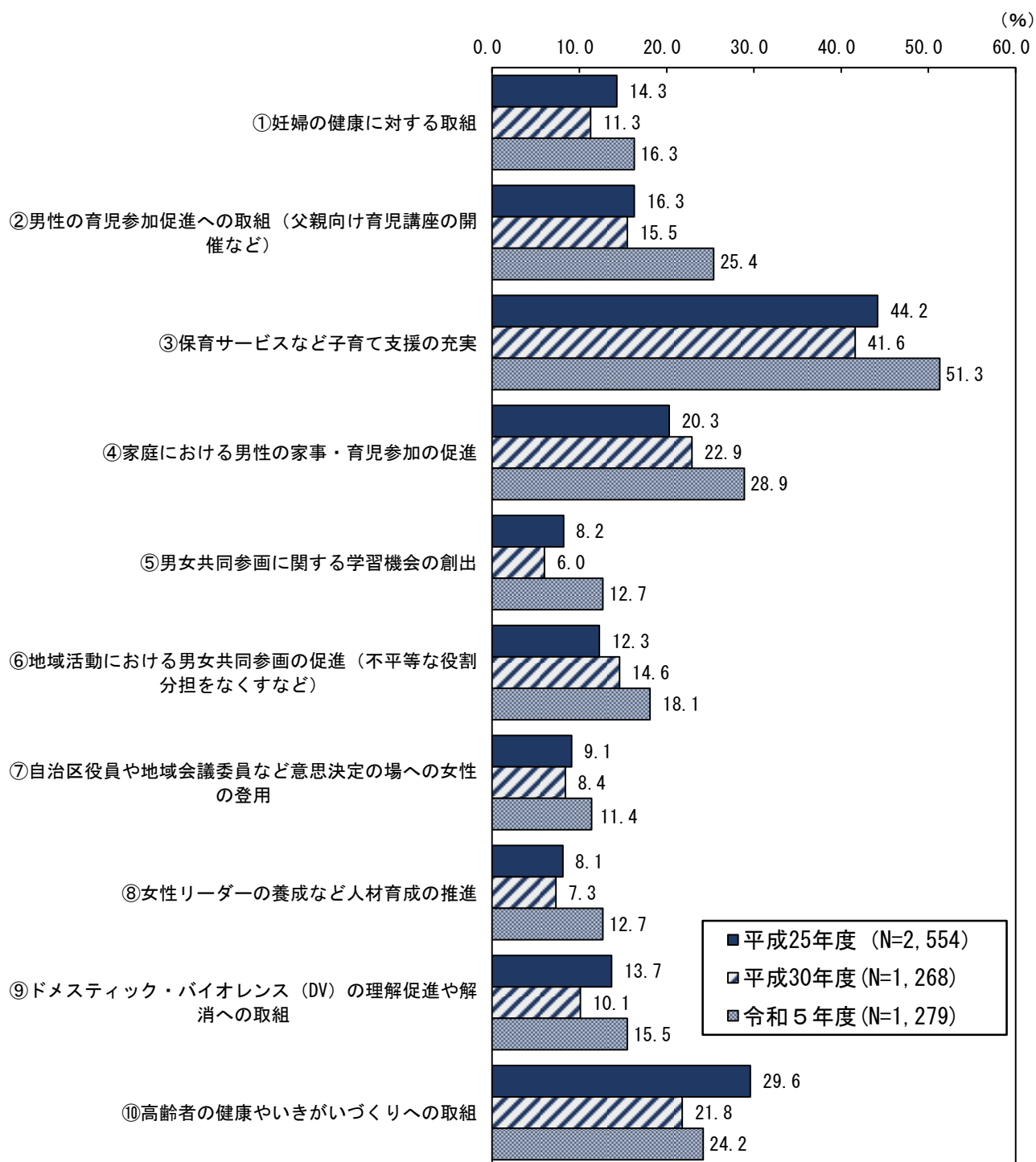


図表 130 豊田市が実施している取組(事業)について重要だと思うもの(年代別)

	妊婦の健康に対する取組	男性の育児参加促進への取組(父親向け育児講座の開催など)	保育サービスなど子育て支援の充実	家庭における男性の家事・育児参加の促進	男女共同参画に関する学習機会の創出	地域活動における男女共同参画の促進(不平等な役割分担をなくすなど)	自治区役員や地域会議委員など意思決定の場への女性の登用	女性リーダーの養成など人材育成の推進	ドメスティック・バイオレンス(DV)の理解促進や解消への取組	高齢者の健康やいきがいづくりへの取組	セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)の理解促進や解消への取組
年代別											
18・19歳 (N=24)	33.3	54.2	45.8	33.3	4.2	12.5	4.2	25.0	25.0	12.5	12.5
20歳代 (N=137)	29.9	32.1	60.6	32.1	7.3	14.6	5.8	8.0	19.0	10.2	12.4
30歳代 (N=234)	21.8	27.8	59.4	30.3	12.0	16.2	9.8	9.0	12.0	9.4	9.4
40歳代 (N=245)	10.2	23.3	48.2	36.3	14.3	22.0	11.4	13.9	18.8	21.6	13.5
50歳代 (N=262)	11.8	21.4	51.9	29.0	10.7	16.0	9.5	11.5	21.4	30.5	13.7
60歳代 (N=161)	14.9	23.0	55.9	28.6	16.8	19.3	12.4	16.1	12.4	35.4	13.7
70歳以上 (N=213)	13.1	24.4	36.6	15.5	15.5	19.2	18.3	16.4	7.0	37.6	5.6

	職場における男女平等な環境づくり	ワーク・ライフ・バランスの理解促進(労働時間短縮、休暇制度の普及など)	女性の就労支援(継続就労・キャリアアップ、離職中の支援など)	多様な働き方の1つとしての起業の相談・支援	家庭や職場における、男女のここから健康に対する取組	男女共同参画社会づくりのための取組(意識啓発・市民活動の支援など)	女性のさまざまな悩みを気軽に相談できる相談体制の充実	無回答
年代別								
18・19歳 (N=24)	33.3	41.7	12.5	4.2	16.7	20.8	20.8	-
20歳代 (N=137)	27.7	54.0	27.0	10.2	10.2	10.2	12.4	1.5
30歳代 (N=234)	26.9	44.0	34.2	10.3	12.8	17.5	17.9	3.4
40歳代 (N=245)	33.9	38.4	31.0	8.2	12.2	17.1	22.4	2.4
50歳代 (N=262)	27.9	35.9	34.4	13.4	16.8	19.5	17.9	7.3
60歳代 (N=161)	26.7	28.6	35.4	7.5	17.4	23.6	29.8	6.8
70歳以上 (N=213)	33.3	27.7	31.9	7.0	16.0	31.0	31.5	17.8

図表 131 豊田市が実施している取組(事業)について重要だと思うもの(経年比較)

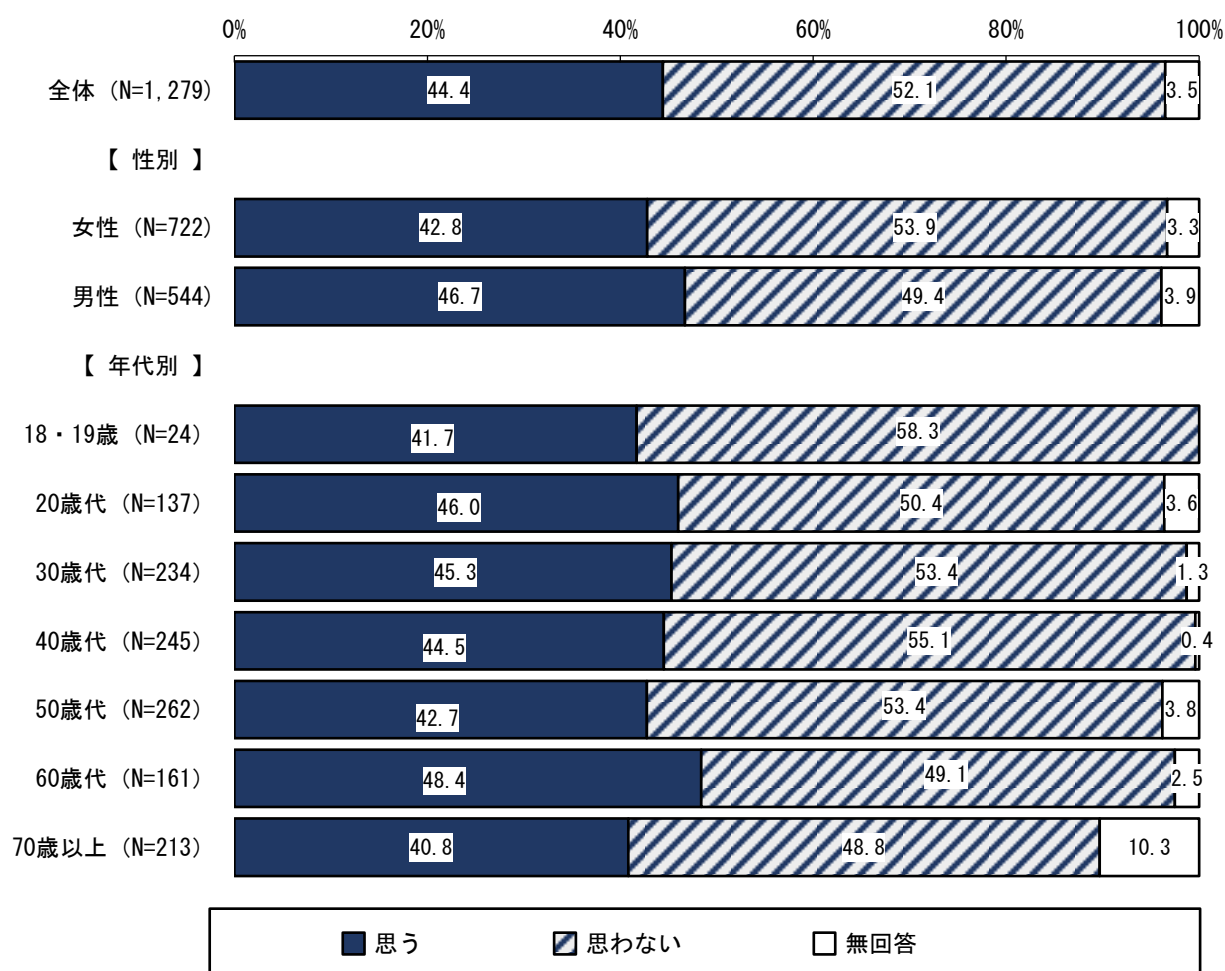


問 31 5年前と比べて、世の中の変化や豊田市の取組などによって、あなたご自身や家族の男女共同参画に関する理解が深まったと思いますか。(〇は1つ)

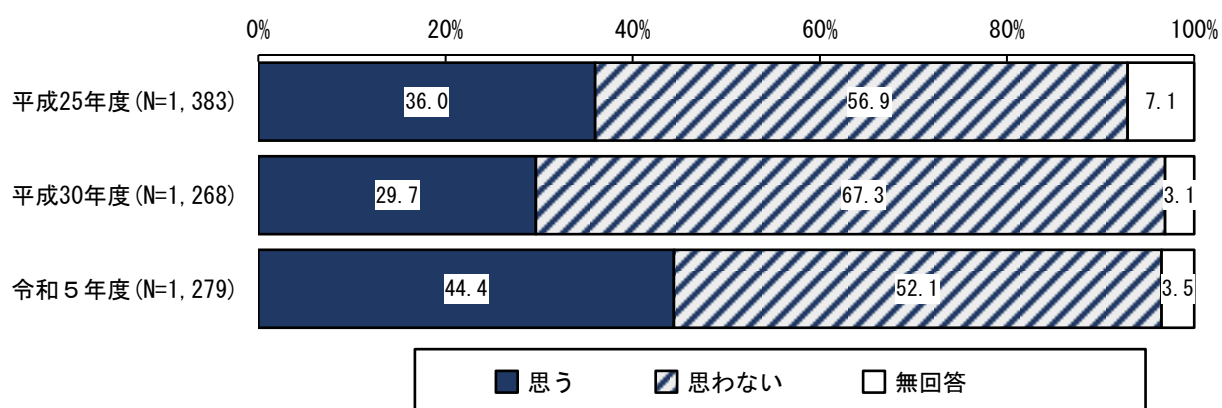
「思う」44.4%、「思わない」52.1%

- 5年前と比べて男女共同参画に関する理解が深まったと思うかについて、「思う」が44.4%、「思わない」が52.1%であり理解が深まっていないと感じる人が半数以上となっている。
- 性別でみると、「思う」は男性の方がやや多い。
- 年代別でみると、「思う」は60歳代で最も多く、70歳以上で最も少ない。また、全ての年代で4割～5割となっている。
- 経年比較をみると、「思う」は令和5年度で初めて4割まで増加したものの、半数以上が「思わない」と感じている。

図表 132 5年前と比べて男女共同参画に関する理解が深まったか(全体・性別・年代別)



図表 133 5年前と比べて男女共同参画に関する理解が深まったか（経年比較）



13 その他・自由回答

F 3 現在結婚しているか

回答内容	件数
死別後再婚	1

F 5 回答者の職業

回答内容	件数
団体職員	3
年金生活者	2
ボランティア・福祉施設で働いている。	1
不動産賃貸業	1
寺院の寺族	1
自治区役員	1
主婦・農業・社会活動三昧	1
障害者雇用	1
個人事業主とパート社員の兼業	1
保育士	1
看護師	1
会社役員	1
市会計年度任用職員	1
業務委託	1
ヘルニアにより失業中	1
個人事業主	1
医療職	1

F 5-3 将来どのように働きたいか

回答内容	件数
ボランティアをやりたい	2
農業	2
今のままでよい	1
今後検討中	1
シルバー人材	1
働きたいが孫の子守のため	1
子どもが小さな時は3, 大きくなれば1	1
高齢の為	1
経験した事をいかせる仕事がしたい	1
もう、還暦なのでこれから働くという気持ちはない	1

F 6 夫婦の働き方

回答内容	件数
2人とも高齢のため無職/年金生活	31
配偶者給与所得者	1
妻のみ	1
育休中なので今年度は共働きではない	1
随時共働き	1

問6 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

意識や考え方を変える			8
女性	70歳以上	男性が家事・育児をするにあたり、女性側の理解も必要	1
男性	20歳代	仕事で収入を得ること自体が当たり前という感覚をなくすこと	1
女性	30歳代	本人の意識 当事者意識 全体を見て名もなき家事のような+αのことにも気付く力 思いやり	1
男性	20歳代	不参加を反社会的な行動という印象を作る。	1
女性	40歳代	男性自身がその意識を持って動かないとどんな施策も無意味。	1
女性	40歳代	男性に対しての考え方を改める。子どもを授かるには女性だけの力ではない。性教育(子供を授かるには)を早くから学んでもらうこと。家事・育児は参加して普通だと知ってもらうこと。	1
男性	30歳代	そもそも男性が、女性が、という考え方が良くないと思います。	1
女性	30歳代	男性が育児や家事、介護に携われるような時間を日常生活の中に作る。社会全体での働き方の多様化と、意識の変革。	1
夫婦間で改善する			2
男性	60歳代	何故、必要なのか理解できない。夫婦で考えれば良い。	1
男性	70歳以上	夫婦がお互い助け合い支え合う心があればそれでいい	1
収入の向上			4
女性	30歳代	共働きしなくても生活できる豊かさがあれば、どちらかが稼ぐ、どちらかが家事・育児を中心に行うという分担でも差別とは思わない。	1
男性	70歳以上	社会全体として女性の収入が男性の収入を上回ること	1
男性	50歳代	収入の確保	1
男性	40歳代	世帯収入の夫婦間、割合差によると思われる為、その改善策が必要。	1
企業努力			8
男性	60歳代	労働者の負担を減らす	1
女性	30歳代	給料や賃金を上げ、休んでも心配のない様にする。	1
女性	70歳以上	会社が組織でその仕組みをつくり、男性社員が休みを取りやすい様にすること。良い子供を地域で育てることは必ず会社にもいずれ良き社員が集まる事が可能です。	1
女性	40歳代	家事・育児の為に仕事をはやく切り上げて帰っても給料は減らさない様にしたい。	1
女性	50歳代	勤め先の理解と対応	1
男性	30歳代	育休等の人員減少に対して会社から人員補填がない 上司や同僚の理解を得られないのは人員補填がないから	1
男性	30歳代	女性が産休、育休を取れない職場も多くあり、そういう所で働く女性は出産後再就職が難しく、女性が家事中心の家庭が出来ると感じる。 また、育休が取れる職場では女性は育休を長く取る傾向にあるが、女性の方が育休を取りやすく、給料面では男性の方が高い事が多いので、自然と仕事は男性、家事は女性と役割が決まってくると思う。 なので、まずは女性が産休を必ず取れる様にして仕事を辞めないで良い様にする事、そして、男女共に同じ様に育休を取りやすくし、男女の給料の格差を無くしていく事で家事育児に対しての格差が無くなるのかと思う。 また、再就職する時に時短が出来る、年休が取れると言った会社が増える事で女性の社会進出が増え、男性の家事育児の参加率が上がっていくと思います。	1
男性	40歳代	職業、正規非正規立場によらず、8時間程度の労働時間で真っ当な収入を得ることができる社会への変革	1
子どものころからの教育			5
女性	50歳代	学校教育の中でも行うことが望ましい。	1
女性	20歳代	男女問わず、世の中の全員が子育ての知識を身に付ける事	1
-	60歳代	子どもの時からそういう教育をしていく	1
女性	40歳代	男性の出来ていない事を女性が負担している現状で、女性の時間が男性より少ない。小学校の教育の場より男女共に自立出来るよう教育していく。	1
女性	30歳代	子どものうちから、学校などの家庭科の授業等で、男女差のある役割について学習する機会を設ける。	1

その他			12
女性	60歳代	育った環境や経験で各々の男性の能力を見極め、自己分析が必要。	1
女性	50歳代	男性女性それぞれの自分だけの楽しい時間が持て、ストレス解消しながら生活できるといいかなと思います。	1
男性	30歳代	男女間での仕事の区別を無くす。例えば肉体労働でも同じだけ働かせる。10kgを動かすのが男、軽いのは女となっていたりする。	1
女性	70歳以上	私達の時代と違うので、今子供を育てている人の意見を参考にした方が良いでしょう。	1
女性	50歳代	男性が参加するには…経済や時間が持てなければ余裕がないと思う。	1
女性	50歳代	向き不向きや上手下手があるので、したい人がすればいいというのが基本的考え方で、あとはサポートする思いやりが互いにあればいいと思っている。	1
女性	40歳代	家庭ごとに決めたやりやすい方法に外野があればこれ言わない意識を持つこと。	1
女性	40歳代	義務にする	1
女性	40歳代	男性の仕事の負荷の一部を女性が担う	1
女性	30歳代	育児休暇などの制度の取得を促すだけではなく、具体的何をどうするべきかを指示し、及び女性の本音を知ってもらう機会を作る。	1
男性	50歳代	空いた教室や公共公民館などを活用した託児所や介護所の併設し、シルバー人材をそこで活用。	1
女性	20歳代	幼稚園や介護施設等、設備面の充実	1

問 9 防災における男女共同参画を進めるため、防災に関する女性の参画について、どのようなことが必要だと思いますか。

性別関係なく個人の能力を尊重する			5
女性	30歳代	男・女関係なく、年齢や家族構成等を考え、一人一人が可能な(得意な)所で参画すべきと思う。	1
男性	30歳代	個々能力による	1
女性	20歳代	性別に関わらず個人が得意な場面で活躍すること、そのために日頃からその人を知る機会をつくる。	1
男性	40歳代	性別関係なく、興味関心がある人がやれば良い	1
女性	50歳代	性別を選択しなくて良い	1
その他			8
男性	70歳以上	女性の地位を認める	1
男性	50歳代	地域に任せず自治体が行う	1
男性	40歳代	質問の意図が不明。現状の割合がわからない。場所、場面で割合は様々では？	1
女性	30歳代	今まで男性主導だったので、どうやっていいか想像がつかない。	1
男性	60歳代	無理に女性を参画させる必要はないと思う。	1
男性	50歳代	設定の内容が理解しづらい。分からない場に何でも参加するのがいい訳ではない。	1
男性	30歳代	必要がないとは思わないが女性の負担が増えない様に考えないといけない	1
男性	30歳代	全体的に女性の参画を増やした方がいい	1

問 10 災害時の避難所運営について、男女共同参画の視点からあなたはどのようなことが必要だと思いますか。

避難所運営について必要なこと			5
女性	50歳代	男女共同と考えるより緊急時個人の出来る事をしっかりすること、出来ない人にやらせても出来ないものは出来ないから。	1
女性	70歳以上	災害時はなにが起きるか分からない為、難しい。	1
男性	50歳代	避難所へ行かないと思う	1
女性	40歳代	当事者の意見を大切にする姿勢。	1
女性	50歳代	障がい者や高齢者のケアを周知させてほしい	1

問 11 一般的に、女性が仕事を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。

個人の自由			59
男性	20歳代	個人の意見を尊重するべき。型にはめない。	1
男性	50歳代	個々の考えで判断すればよい	1
女性	30歳代	やりたければやればいい	1
女性	30歳代	本人のしたいようにしたら良い	1
女性	30歳代	本人の生活に必要ななら仕事を持ち、不要なら仕事を持たなくて良い	1
男性	20歳代	個人の自由であり、こうあるべきと言う必要はない	1
女性	20歳代	自分の好きにすれば良いと思う。子どもは関係なくやりたければやれば良いのでは。	1
男性	60歳代	その人の考え方による。	1
女性	50歳代	個人の自由、家庭での話し合い	1
男性	30歳代	好きなようにすればいい	1
男性	40歳代	人によると思うのでその女性の考え方しだい	1
女性	30歳代	自分が好きな様に生きれば良い。	1
女性	40歳代	人に迷惑をかけなければ、自分の好きにすればいい	1
女性	40歳代	その人がしたいようにすればいいと思います。	1
女性	30歳代	個人の考えで決定すればよい。	1
女性	30歳代	子どもができて、自分は続けたいと思うが、他人から口を出されたくないし、私も他人に口出しをしたくない。	1
女性	30歳代	男女問わず、人生の色々な場面で誰もが多様な働き方を選択できるように今後なっていくといい。	1
女性	40歳代	その人が選んだことに外野が文句を言ったり、さも女性全体が仕事をしたいんだ！というような流れに勝手に持って行かない様に、本当の意味で個々が尊重できると良い。	1
女性	40歳代	本人が決める事なので、いざという時に手を貸す事などサポートをして欲しい。	1
女性	50歳代	本人の価値観・希望を大切にできる多様な選択肢	1
女性	40歳代	個人や家庭の考えや事情で決めればよい	1
女性	60歳代	仕事を持つ持たないはその人の考えで良い	1
女性	30歳代	本人の好きな様にすればよい	1
男性	20歳代	女性の意思を尊重する	1
男性	40歳代	何も思わない、性別関係なく個人が好きな事をすれば良い	1
男性	30歳代	個人の判断を尊重すべき	1
女性	18・19歳	個人の意見で決める	1
男性	20歳代	個人がどうのよりも仕事をしたいというのならそれを尊重すべきだと思う。	1
男性	30歳代	本人の意志による	1
男性	40歳代	個人が自由に選択出来るのが良い。	1
男性	50歳代	女性が自由に決める	1
男性	30歳代	自由にすれば良い	1
その他	30歳代	働きたければ仕事すればいい	1
男性	40歳代	本人の意思を尊重する方がよい	1
女性	30歳代	個人、各家庭の自由	1
女性	40歳代	仕事を持つかどうかは本人の自由	1
男性	40歳代	本人の自由 他人が決める事ではない	1
男性	30歳代	その女性の意見を尊重する	1
男性	50歳代	個人で選択	1
男性	20歳代	本人の好きにすればよい	1
女性	20歳代	それぞれが自身の生活に合った選び方ができると良い	1
女性	50歳代	個の適性に応じて	1
男性	50歳代	個人の考えの尊重が大切	1
女性	30歳代	それぞれ希望する働き方を、障壁なく選択できる方がよい	1
女性	30歳代	個人それぞれの希望のとおりになれるのがよい	1
女性	20歳代	やめたいときに辞めればいいと思う	1

個人の自由			59
女性	40歳代	人それぞれ	1
男性	60歳代	各人の人生観による	1
女性	30歳代	仕事を持つか持たないか、自由に選択すべき	1
男性	40歳代	個人の自由を尊重するのがよいかと。働き手の現象の問題があるのなら環境整備が必要かと思います。	1
男性	18・19歳	個人の自由	1
男性	30歳代	話し合って決めれば良い	1
男性	40歳代	個人の自由	1
女性	40歳代	その人の自由だと思う	1
女性	30歳代	個人の希望通りにすれば良い	1
男性	40歳代	本人が働きたいのであれば機会を奪うことは好ましくない	1
男性	20歳代	その人ごとに考えが違うので、それぞれの考えを尊重する	1
女性	20歳代	人それぞれの考えを尊重されるべき	1
女性	20歳代	その人の好きにしたらいい	1
家庭での話し合いや事情を考慮して決める			14
-	-	子育て中でも働ける時は働く、無理な時は働かないなど自由に選択できるとよい。4の反対で、子どもが小さい時は仕事をして、大きくなってからは辞める等もありだと思う。	1
男性	40歳代	どうしたいか本人の意思を尊重し、夫婦間で話し合う	1
男性	40歳代	それぞれの家族で考えがあると思う	1
女性	60歳代	家庭のニーズに合った働き方をすれば良いと思います。	1
女性	50歳代	パートナーにもよりけりで、経済状態はそれぞれ違うから。	1
男性	60歳代	それぞれの家庭の事情で決めるべき事。	1
男性	60歳代	家庭の生活スタイルによる	1
男性	50歳代	家庭ごとに話し合いをして、その時々に応じた仕事のしかたをすれば良い。こうあるべきは、押し付けになります。	1
男性	30歳代	各家庭が、状況に応じて決めれば良い	1
女性	40歳代	結婚したら夫婦で相談して決めれば良い	1
女性	50歳代	家庭によりけり	1
女性	40歳代	それぞれの家庭にあっていればどちらでも良いと思う。	1
女性	30歳代	夫婦それぞれの考え方でよい	1
男性	20歳代	家庭環境次第なので決められない	1
その時の状況によって対応する			11
女性	30歳代	家事負担が大きく働き続けられないのであれば仕事をやめ、働き続けたいのであれば家事分担する等個々に応じた柔軟性のある方法。	1
女性	20歳代	できる時に仕事すればいいのでは。	1
男性	20歳代	時、場合、人、環境による	1
女性	50歳代	その時に合った働き方にシフトして働く	1
女性	40歳代	生活状況に合わせ女性の仕事を持つ有無を決めれば良いと思う。	1
男性	30歳代	ライフスタイル(状況)に合わせればよい。	1
女性	30歳代	家庭環境・状況によるものであり、他者がどちらである方が良いという考えはやめるべき	1
女性	30歳代	状況に応じてベストな選択をすればよい	1
女性	40歳代	子どもができてずっと仕事を続ける環境であれば続ける方がいい	1
女性	30歳代	働きたくなったらすぐ働ける状況にあると良い	1
男性	20歳代	夫の収入に依存する。夫の収入の方が高ければ、仕事を辞め家事育児に専念し、夫の収入の方が低ければ、働き続けると良い	1
仕事をもつ必要はない			2
男性	50歳代	子供が「カギっ子」となるとさびしい思いをさせ好ましくないため	1
男性	30歳代	収入や生活に余裕があるなら必要ない	1

その他				8
女性	40歳代	働きたくても男性が家事育児をしないせいで、働けなかったり、働きたくなくても働かないと生活できない為に働いている人もいると思うので、何とも言えない。		1
女性	40歳代	色々な事情があるからこれとはいえない。		1
女性	50歳代	サポートがあれば仕事を続けられる		1
女性	50歳代	子供が大きくなるまでは働かないとやっていけない。		1
その他	30歳代	そもそも、女性は、で始める設問を設定することも考え付かない社会にすべきだと思う		1
男性	40歳代	女性が結婚して働かなくてもいいように男性の収入を上げることが少子化対策にもつながると考えます。		1
男性	40歳代	選択肢がゴミすぎる		1
男性	30歳代	尊敬する		1

問 12 仕事をしない方がよいと考える理由は何ですか。

子どもとの時間を大切にする				24
女性	50歳代	子どもの成長を近くで見られる期間は短いから		1
女性	70歳以上	しっかり大人が愛情を持って子育てをする		1
女性	20歳代	小さい頃から親元を離れて過ごさせる必要がない。		1
女性	30歳代	子どもを時間・精神面ゆとりを持ってしっかり見ていたい。		1
女性	50歳代	子供が幼い頃は、一緒に過ごす時間が大切		1
男性	60歳代	子どもの成長を見守ることが大切だから。		1
女性	50歳代	子供との時間は大切にすべきだと。		1
女性	20歳代	子どもと一対一の関わりは、疲れるとは思いますが、仕事で忙しくするよりも、子どもとの関わりの時間を持つことで子供が自分の事をしっかり見てくれているという満足感・安心感につながると思う。→子どもとのよりよい関係づくり。		1
女性	60歳代	子どものためには、親は子育てに集中できて良いと思う。		1
男性	60歳代	子育て期は子供に愛を集中する		1
女性	30歳代	子どもとの時間を大切にしたい		1
女性	70歳以上	可能ならばママが子どもとゆっくり向き合う時間が取れるから		1
女性	40歳代	子どもに寂しい思いをさせるから。		1
女性	30歳代	産まれたばかりの子どもの成長は、近くで見た方が良いと思う。その時間は一生に一度だから。		1
女性	50歳代	子どもの成長を見たい		1
男性	40歳代	子供のそばにいた方が良いと思うから		1
男性	50歳代	母親と子どもが一緒にいる時間が多い方がよい		1
男性	20歳代	子供のため。		1
女性	40歳代	子供がまだ幼い時期は、常に側にいて成長を感じたいから。		1
男性	50歳代	子供の近くに母親がいた方がよい		1
女性	30歳代	子供が小さい頃はずっと傍に親がいた方がよいと思うから		1
男性	50歳代	子どもに寂しい思いをさせたくないから		1
男性	40歳代	子供が小さい内は家に親がいる方が子供が安心できる、経済的に女性の方が上でない場合が多いので女性にいてもらう方が妥当だと思う		1
女性	18・19歳	夫婦共に産休を取り子どもに愛情を注いで欲しい		1
子どもの教育・人格形成等への影響				5
女性	50歳代	乳幼児期の子育てはとても大切なので父母でしっかり育てる方が望ましいから		1
女性	40歳代	子どもは親のスキンシップや愛情が必要不可欠であるが働いて園に預けることで9割がた子どもは愛情不足となる。保育士が愛情をそそいだとしても、やはり親とはちがう。男・女の前に子どもを立派に育てる社会が必要。		1
女性	40歳代	子育ては貴重な時間。愛情をそそぐかそそがないかで子供の性格人格がかわる		1
男性	30歳代	子どもの成長に寄り添っていた方が、良好な子供が育つ。		1
男性	30歳代	仕事をしていると子供への時間が取れない。仕事をしてない人は習い事も沢山させれるが仕事をしていると時間が限られるので子供の教育の差も出る気がする		1

子どもの病気など非常時に対応するため			3
女性	70歳以上	子どもによっても違うと思うが、幼い頃はよく病気をするから。	1
男性	70歳以上	子どもが小さい時は異常時に即対応出来ない	1
女性	40歳代	出産後一年くらいは重病人と思って下さいと言っていた方がいたので。	1
母親の身体・精神への負担が大きいため			5
女性	18・19歳	夫婦で話し合い負担がないようにできれば良い。	1
男性	60歳代	出産後の生活は、育児、健康、体力、精神面共に負担が大きく配慮すべき	1
女性	50歳代	子供が小さいうちの子育てで後悔したくないから。夫に経済力があるなら、子育てに専念した方がよい。ただし夫の育児制度があたり前になるなら、母親の仕事も出来るのだと思う。やはり育児と仕事の両立は大変。	1
女性	50歳代	家事、育児、介護って専門家がいる職種をワンオペで行うのにこれ以上仕事までというのは体力がもたない。	1
女性	18・19歳	上手く両立出来ないと精神的につらくなってしまうと思うから。	1
その他			4
女性	20歳代	会社の制度や上司の理解を得るのが難しい。	1
男性	60歳代	子供が母親が必要な家に、そうでなければ仕事もOK	1
女性	40歳代	子供ができてからどうするか自分に合った生き方を考えたら良いと思う。	1
男性	60歳代	子どもにとって母親の愛情が大切な存在だから。	1

問 13 結婚・出産後に女性が仕事をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

結婚・出産後に女性が仕事をするために必要なこと			8
男性	40歳代	柔軟な働き方を行うのは良いが、職場のスタッフにも考慮が必要と思う。取得しにくくなる。	1
女性	30歳代	産休(特に産前)期間の延長、結婚したばかりの女性でも雇用を控えられないように会社、社会全体の意識、制度の変化、保障	1
女性	20歳代	仕事をしていないと保育園に預けられない(3才以下)という制度をなくしてほしい。	1
男性	30歳代	安易に辞めさせない	1
女性	30歳代	子供が体調を崩して休んでも嫌な顔されない	1
女性	40歳代	復職後の家事・育児サポート、家事代行(ベビーシッター等)への経済的支援	1
女性	60歳代	再就職でも正社員での雇用。	1
女性	20歳代	育児休業中の手当を早く配布した方がよいそれまでお金がない	1

問 14 あなたの職場では、性別によって、どのような違いがありますか。

力仕事は男性、事務や雑用は女性といった違い			6
男性	20歳代	体力が必要な仕事は男性。事務方は女性が多い。	1
女性	40歳代	男性が気付かない雑用がある。仕事多い。	1
男性	60歳代	出来る仕事が、かたよっている！！	1
女性	30歳代	力仕事は積極的に男性社員が割りふられる。	1
女性	30歳代	男性が重量物を運ぶなど、男女による力の差に関する仕事に違いが多く、負の意味ではなく良い意味合いで違いがある	1
男性	50歳代	重量物など女性との制限の差は存在する	1
年代による考え方			2
男性	40歳代	特にないが、あるとしたら年代が上の方が考えに差がある。	1
女性	30歳代	年配の男性は女性を下に見る人が多い気がします(社外の人も)。口に出さなくても表情で読み取れる。	1
女性のみの職場のため違いはない			3
女性	70歳以上	女性ばかりの職場の為、平等である。	1
女性	60歳代	女性のみの職場である、比較できない。	1
女性	50歳代	女性ばかりの職場なので、違いはないです。	1
その他			8
-	-	更衣室がない	1
女性	30歳代	女性には月に一度生理があり、その前後体調が悪く辛い。家事も、子育ても女性中心。性別による差がなく働くことがむしろ苦しい。	1
女性	18・19歳	パート・社員その人の希望する時間帯で働いている	1
男性	60歳代	男性は育休とりにくい	1
女性	30歳代	雇用主は男性、その他スタッフは女性。	1
女性	40歳代	一家の主として家族を養える賃金が支払われないので、女性しか成り手がいない。(学校図書館司書)	1
女性	20歳代	設計はそもそも女性が少ない	1
男性	20歳代	男性の方が労働時間が長い。	1

問 18 あなたが働いている（いた）職場では、ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）について、どのような雰囲気がありますか。

支援していく雰囲気がある			5
女性	18・19歳	私の働いていた頃よりだいぶ変わったみたい。	1
男性	40歳代	自由時間が多い	1
女性	30歳代	支援の雰囲気はとともあるが、業務内容自体がそもそも過酷	1
女性	30歳代	現場の人間は理解があり協力的だが、会社として制度が確立されていないので、現在とても困っています。	1
女性	60歳代	パートなので都合に合わせて休みやすい雰囲気である。	1
支援の雰囲気はない			5
女性	30歳代	邪魔者扱い。	1
女性	50歳代	介護への理解を得られず退職させられました	1
男性	30歳代	現場仕事であり、緊急の対応などがあるため、仕事に重きをおいている感じがする。	1
男性	50歳代	そんなものは存在しない	1
女性	40歳代	育児中のスタッフの補充がないから、正直言って妊娠報告しにくいし、産休とり辛い。妊娠してすぐに報告して十分に時間はあったはずなのに。パート募集広告を載せるだけ。上司に真剣味が感じられない。「この日は休まないで」と言われるが子供の病欠は私の意思どうこうで決まるものではない。小さな子供抱えて正規職員は辛い。主人もよく子供の病欠で休んでくれているからまだ、患われているのだろうけど。産休のスタッフの補充は社員の事を考えたら急務のはず。パートになるべきかいつも考えている。	1
状況による			2
女性	30歳代	女性は家庭生活を考慮されているが、男性は残業や長時間労働を自ら受け入れている傾向がある。周りに家庭を優先する上司が少ないためと思われる。	1
女性	40歳代	要望があれば対応積極的ではない	1
自営業なので分からない			4
男性	70歳以上	自営なので仲良くやっています	1
男性	30歳代	自営で一人なのでわからない	1
女性	70歳以上	現場で一人なのでわからない	1
女性	40歳代	自営業だからわからない	1
分からない(上記以外)			6
女性	70歳以上	退職してからが長いので元の会社状況はわからない	1
男性	70歳以上	わからない	1
男性	70歳以上	無職なので	1
女性	70歳以上	今現在の状況はわからない(ずいぶんと前のことなので)	1
女性	70歳以上	働いていない	1
男性	70歳以上	アルバイトなのでわからない	1

問 19 今後、女性が政策や方針を決定していくような場へもっと参画していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。

性別ではなく個人の能力を尊重する			6
男性	20歳代	男女関係なく能力のみで登用する	1
男性	30歳代	本当に平等にすれば良い	1
女性	60歳代	根本的に先ず平等にして、その上で男女問わず支援のネットワークを充実させる。	1
女性	30歳代	身体的特徴で人を区分することを辞める。	1
男性	40歳代	性別関係なく、個人の意思を尊重すべき。子育てしたい人もいるので、その人にまで過剰な社会復帰を求めない。働きたい人には存分に働いて貰えば良い。	1
女性	20歳代	性別に関わらず能力で人材を判断して確保する	1
女性の意識を変える			2
男性	50歳代	女性も積極的に参画する意識改革	1
男性	60歳代	女性の意識を変える	1
参加しやすい雰囲気を作る			2
女性	40歳代	参加しやすい雰囲気にする。男女関係なく意見を伝え、検討も男女関係なく行うこと。	1
女性	40歳代	政策や方針を決定する場を、一からやり直す。 女性自身が参画したいと思えるような場にする。	1
その他			11
女性	50歳代	学校教育の段階から「7」をしていくこと。	1
女性	18・19歳	同性(女性)同士の足の引っ張り合いもある。中立で会社をみてくれる人がいるとよい。	1
女性	20歳代	自分は何が出来なくて、何を女性に補ってもらっているか？考える様にする。	1
男性	60歳代	少なくとも自治体内への女性の配置を考えるべき。	1
男性	50歳代	女性男性と議論することがナンセンス	1
男性	40歳代	アパルトヘイト、黒人差別問題と同じ。ビコの黒人の意識改革へのアピールと同様。	1
女性	50歳代	そもそも大半の女性は、活躍推進を望んでいないし望んでいる方を応援する体制がいいと思う。	1
女性	30歳代	そもそも、やりたいと思っている女性に会った事がない。	1
男性	30歳代	任期年数を短くする。	1
男性	50歳代	女性は政策に口を出さなくて良い	1
男性	50歳代	個人や地域の困りごとを閲覧、相談、助言がもらえるアプリやチャットの場を提供。ただし個人を攻撃するような言動や追い詰めるようなワードは制限すること。	1

問 20 企業において、一般的には女性管理職が少ないと言われていますが、その理由は何だと思えますか。(〇はいくつでも)

結婚・出産・育休などで辞める／ブランクが空くため			4
女性	20歳代	産休・育休・時短勤務で経験不足と判断されるため、管理職登用の条件を考慮すべき。	1
女性	30歳代	直ぐに結婚や出産で辞めると思われてしまうため。	1
男性	30歳代	出産	1
女性	40歳代	育児でスキルの時間が取れない、乗り遅れる。	1
家庭の理解が必要			2
女性	70歳以上	家族、夫や親たちの理解が足りない。「時間外労働・深夜業・出張・転勤等に対応できない」・「家庭で果たす役割が依然として大きく、責任のある仕事が難しい」を同じか？「時間外労働・深夜業・出張・転勤等に対応できない」に対応できる制度がない。	1
女性	50歳代	結婚している場合、両立は難しい。家庭の理解・協力が必要になると思います。職種によっては女性が管理職である。	1
男性の固定観念によるもの			3
女性	20歳代	女性が昇給する、又はしそうになると、イジメが起こる。	1
女性	60歳代	男は女の下で働くのが屈辱だと考えているから。	1
男性	30歳代	男性上位社会のため女性が上司になることでパワハラが起こる。昭和時代の男性にありがち。	1
管理職に向いていないため			2
女性	20歳代	実力の問題。若しくは元来の性が持つ能力値の違い。	1
女性	40歳代	「1 知識や経験・判断力があっても適正な評価がされていない」の反対で、単純に管理職のできる能力がある女性が少ない。	1
その他			8
女性	30歳代	男女問わず時間外労働・深夜業・出張・転勤等に対応出来ないと管理職につけないことがあるせい。	1
女性	30歳代	妊娠・出産・育児は女性の負担がそもそも大きい(身体的に)が、どうすることも出来ない。その中で、仕事の負担も負う事が厳しい。そもそも、働きたくても時間と精神的にいっぱいになる働き方をしたい訳ではないが、なってしまう。子どもを預ける時間が長くなるのも悩む。時期が早くなり過ぎる事(1才2才で預けることへのハードル)預け先の充実がされても預けてまで働くべきか悩むのが本音にもなる。子供が病気の時に仕事に行くつらさ。働いている意味が分からなくなる。	1
男性	20歳代	女性に管理職を望む人が少ない	1
男性	60歳代	管理職になる環境になっていない。	1
男性	30歳代	能力がなくても管理職にしようという動きがあり、周囲からの評価を得られない。	1
女性	30歳代	女性管理職が身近にいないと、目標やイメージが分からないのでは？	1
女性	40歳代	育児や介護などは嫁(女性)の役目という考え方を無くしていく。男性は家事、育児、介護に積極的に参加する事をあたり前として行動できる社会基盤づくりをしていく。	1
女性	50歳代	管理職となっても「広告塔」扱いで正當に評価されない	1

問 24-2 実際にだれ(どこ)に打ち明けたり相談したりしましたか。

DV被害の打ち明け、相談先			1
男性	40歳代	職場上司	1

問 24-3 相談をしなかった理由は何ですか。

相談をしなかった理由			4
女性	60歳代	元夫の性格で、自分のやりたい事を阻止されると手が出る事はわかっていたから。子供が結婚するまでは我慢したが、落ち着いたら私が家を出ました。普段は暴力を行わない人だったから今でも交際はあります。	1
男性	40歳代	自分で対処できた	1
女性	30歳代	相談しても変わらないと思ったから	1
女性	40歳代	相談する心の余裕がなかったから	1

問 25	あなたは、配偶者や恋人からの暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。
------	---

きちんと話を聞くこと			4
男性	30歳代	まともに回答くれる。たらい回しにしない。	1
女性	20歳代	加害者側の言い分に流されないで欲しい。	1
男性	60歳代	相談内容に対する相談者が納得するアウトプットを示す。	1
女性	50歳代	共依存という事もあるので、相談者が最終的に望むことは何かが大切だと思う。	1
情報を保護すること			1
男性	40歳代	守秘義務の遵守	1
職員の教育			2
女性	70歳以上	以前市役所の弁護士さんに相談に行ったけど、男のおじいちゃんで全く話がかみ合わなかった。役に立たなかった。	1
女性	30歳代	見下さない人、自分の話にすり替えない人が相談員であること。	1
避難できる場所の確保			3
女性	50歳代	すぐに避難できる安全な場所	1
女性	40歳代	相手の表と裏の顔があるので、相談できない人もいる。危険と感じたら、一時避難などを考えられるような社会の仕組みが欲しい。	1
男性	50歳代	第一報で関連部署が連携し、相談者が信頼出来る、安心出来る環境を整える事。最初に適正な対応が出来なかったら、相談者は次回以降、相談する場所がなくなり追い込まれてしまう可能性が高くなります。	1
相談しやすい窓口			2
女性	30歳代	相談先、窓口が簡素で、すぐに問い合わせができる。	1
男性	20歳代	男女で区別することなく(受付時間・規模等)同等のDV窓口等の相談窓口を作る	1
警察との連携			2
男性	70歳以上	暴力に関しては犯罪と扱うとしたら、窓口は警察と繋がるため、一声窓口は警察としたいです。	1
男性	30歳代	暴力は犯罪なので警察とも情報共有を行い、繰り返し相談された場合、公権力として動けるような仕組みを作り、それを周知して欲しい。	1
その他			6
男性	60歳代	本件は命に関わる問題であり、限りなく全方位での対応が必要と思う。	1
女性	50歳代	今の所どこにTELした方がいいか分かりません。	1
女性	70歳以上	相手だけ悪いと考えず、反省するうちに心が落ち着く。	1
男性	50歳代	女性が女性らしく男の前に出なければ必要が無い	1
女性	40歳代	友達で解決できる	1
女性	40歳代	上記すべて必要	1

問 29-2 性的マイノリティ（または LGBTQ）の方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。（〇は3つまで）

特別視しない			1
女性	40歳代	性的マイノリティなどとカテゴリを設けている時点で偏見や差別をなくすのは難しいと感じる。「その人」がどのようなマイノリティであれ、そのままを受け入れられる感覚が大切だと思う。	1
意識を変える			2
男性	60歳代	一人一人の意識の改善	1
女性	40歳代	他人と違って当たり前という事を、社会全体で受け止められる雰囲気作り。まずは大人が学び子ども達へと伝えていく。	1
法律・制度改善			4
女性	70歳以上	同性婚などの制度の充実	1
女性	30歳代	中学などの制服をなくす	1
女性	50歳代	環境の整備	1
女性	20歳代	国自体が同性婚や同性同士の生活をまず認める。それ自体の偏見がありすぎる。	1
認知度を高める			3
女性	30歳代	田舎の人の方が多様性に対して偏見が強い。メディアで取り上げても他人事のよう。そういう人たちに何か考えた方がいい。	1
男性	60歳代	性的マイノリティ症候群等の名称として社会認知させる。LGBT(レズ、ゲイ、バイセク…)では過去のイメージがあり、はなから偏見感が生じる。	1
男性	30歳代	「男性」「女性」という2つの性別の分け方だけでなく「LGBTQ」という性別を公に認めることが重要。その際に「その他」と曖昧にしないことがそれらの人にとってのアイデンティティに繋がるものと考えている。	1
差別は無くならない			1
男性	40歳代	元々男・女と区別している。急に偏見や差別はなくならないと思う。時間は必要かと。	1
その他			4
女性	18・19歳	両者の思いがあるので、時間がかかるし理解することに時間がかかる。	1
男性	20歳代	一部の過激的な性的マイノリティの活動者を規制する	1
女性	20歳代	LGBTQに過度に声を上げるのを止めるべきだと思う。今の社会は取り上げ過ぎている。	1
女性	40歳代	自分自身が幸せで自己肯定感が強くあること	1

豊田市が進める男女共同参画社会づくりの取組についてご意見等がございましたらご記入ください。

市の取組を知らなかった				15
男性	40歳代	今回のアンケートで、いかに自分が豊田市がしてくれていることを知らないのかが分かった。		1
女性	20歳代	今回のアンケートの中で、豊田市が実施している素晴らしい取組があるにも関わらず、知らないものが多かったため、多くの方が目に止まるような方法でお知らせするのがいいかと思います。また現在、一人暮らしで派遣で働いているため、生活費がギリギリなこともあり、男女平等に正社員で働けるような環境を整えていただけると有難いです。(または住宅費補助・生活費補助等で補填する)		1
女性	50歳代	男女共同参画のアンケートを記入する中で、知らない事が多いと実感しました。		1
男性	70歳以上	自分はまだまだわからない事が多いですが、男女共同参画社会づくりの取組みに対してがんばって下さい		1
女性	40歳代	豊田市が男女共同参画社会づくりを進めていたことを知りませんでした。それともこれから行うつもりなのでしょう		1
男性	70歳以上	夫婦二人で生活しているので、社会の事はあまりわかりません。広報とよた、新聞はよく読んでいます。		1
男性	60歳代	今回この様なアンケートは初めての為、豊田市で行っている事をよく知らないのが現状です。もっと身近に感じる情報が必要だと思えます。		1
女性	70歳以上	まだまだ知らないことがたくさんあるので、もっと積極的に取組をお願いします。		1
女性	50歳代	高齢の母が精神的な病気で、数年前から生活が母の事中心で、豊田市の広報などを読む事が無くなってしまいました。今回のアンケートも他人事できちんと答えられていない部分があります。これを機会に母のごことだけでなく、周りに目を向けていきたいです。「参画」の意味も分からずにいました。自分の意見が持てる様に、広報なども読んで豊田市の取組に興味を持てたらと思います。ありがとうございます。		1
女性	20歳代	普通に生活しているだけでは知る機会がありません。		1
女性	60歳代	豊田市がどのような事をどのように行っているのかがよくわからないので、まず何を行っているのかを豊田市民に伝える事が大事だと思うし、悩んでいる人がどうしたらよいのか具体的にわかるようにする事がだいじなのかなと思う。女性が女性として大切にされることが大事だと思う。身体的には男女差がある事をふまえた上での平等ではないかと思われる。		1
女性	50歳代	このアンケートに回答するまで、意識をしたことがなかったです。もう少しアンテナを張り、自分の家族やまわりにできる事がなか、気にして行きたい。		1
男性	40歳代	これらの「豊田市の取組」が行われている事を知らない。つまり周知が足りていないのでは？困った時に探したら、見つかる制度や取組みではなく、周知やアピールを改善し、困った時に「思い出せる」制度や取組みであると理想的に思う。		1
男性	60歳代	豊田市が取り組みを承知していない(残念ながら)。		1
男性	60歳代	市の取組みに対して自分で見に行かなければまったくわからない。		1
男女平等観について				10
女性	60歳代	若者も高齢者も、皆が楽しんで関わっているような機会や場所が沢山あったら、又、小学生でも、企画に参加したり、教えたり、教えられる、世代関係なく友達になれたらいいな。		1
男性	70歳以上	世の中が男女参画づくりをもっと発展させた方がよい		1
女性	70歳以上	豊田市に生まれて70数年！若い頃に比べて男女の意識の違いはずいぶん無くなり、平等になった気がします。今後も住み良い町になるよう願っています。どうぞ宜しくお願い致します。		1
男性	40歳代	共用トイレなど衛生面において男女差別をなくし、各業種において賃上げをフリータイム・フリーワークを認めてほしい。共働、家事のすばらしさと便利さを初等教育から習得科目として取り組んでほしい。		1
女性	30歳代	家庭、地域、社会の中で、男性、女性また障害のある方々含め、差別や区別、またいじめ等なく、安心・安全・心豊かに生活できる事があるべき姿と考えますが、現実問題として、性別に「男・女」が存在する以上、常に全く平等とはならない事も多々あり、男性が女性に、また女性が男性に精神的にも救われる助けられる事も多くあります。何でも全てが「平等」とらわれる事なく、互いの性によるメリット・デメリット等も生かされる社会環境の実現に期待したいもので		1
女性	30歳代	色々な人、性格や性別の方がいる中「平等にしよう！」とかかかげている時点で遅いと思いました。色々な人を受け入れ、好きな事が好きな様にできる世の中こそ平等…(男女関係なくの)…になるのだと感じました。個人的に考えるのですが…男性も女性も半分の確率で妊娠する世界ならどうなっていたらうな…と。		1
女性	50歳代	男性女性の性別にこだわらない。男性が社会的に優位に立っていることを自覚を促して欲しい。女性は社会に出て初めてこんなに性差があると気付くのではないのでしょうか。女性だからと無理に登用することも間違っている。社会のお金も地位もある高齢者の考え(男性優位)を改めることも必要。		1
女性	50歳代	年々徐々に男女について平等になりつつありますが、時代も大いに関係するかと思いますが、少しずつ皆さんの意見を取り入れて(聞き入れて)変えて行けばよいと思います。回覧板にちょっとしたアンケートでも入れたら、地域の声聞けるのでは？(あまり長いものだとやる気をなくすので)		1
女性	30歳代	自分が結婚も出産もしていないので、男性と大差なく生きている感覚が強く、そんなに女性って苦しんでいるのかと実感なくアンケートに答えました。女性に対して、接し方を改めようかなと私もアンケートを通して思いました。		1
女性	40歳代	年齢の問題もあると思う(若い人達には浸透しつつあると思う)		1
ワーク・ライフ・バランスについて				5
男性	20歳代	結婚しても保証が少ない。子供の支援。だから結婚しても子供はいらないとかになる。親が介護になったら働けなくなる。低い所得でも使える支援とかないの？		1
女性	30歳代	男性も女性も気軽に育休をとれる社会づくりをし、育休中のハンデもないようにすること。私の働いていた頃(10年ほど前)うちの会社で育休をとったのは私からはじめてでした。時短などもなく子育てしながらは到底難しく、保育料も高く、なんのために働いているかと悩みました…5人目がおなかにいますが、また働きたいとは思っています。育児手当の充実、大学費免除や補助を強く望みます！車校に5人通うのも考えると…お金は必要ですね。		1
女性	20歳代	男側が育児協力しようとしてくれても給料への影響が出る。税金などを改善してほしい。		1
女性	30歳代	仕事と育児の両立がしやすいよう、小学5年生、6年生も夏休み・冬休み・春休みの学童保育の利用ができるようになってほしい。一日中家を留守にしないといけなく心配ですし、何日も休みはとれず困っています。		1
女性	50歳代	市民として豊田市の取組みが全く不明。一個人としての思いですが、豊田市内…(又は全国的かもしれませんが)は女性がフルタイムで働いている人が少なく(女性が)扶養の範囲内で働いている人が多いためなのか、フルタイムで働いている者の大変さが理解されにくく、住みづらいところがあります。		1

広報・啓発について			12
女性	70歳以上	74才という歳のせいか、豊田市が取り組んでいるという男女共同参画の活動について、知らないことが多く、申し訳ないです。この活動はこれから活躍される若い人にこそ意識改革してもらわなければならないと思います。なので男性(産後パパとか?)への家事・育児の研修時に、男女共同参画の概念を身に付けてもらっては？豊田市の定数枠の一部を女性にする。	1
女性	30歳代	豊田市で生まれ育った夫です。キラッ☆とよた(を含む男女共同参画社会づくりという言葉自体)を見聞きしたことがないと言っているのが、一般的にまだ知られていないんだと思いました。知名度が上がれば、活動を市民が広く知っていただくことがまず重要だと思いました。(私自身、キラッ☆とよたの名前は見聞きしたことがあってもそれがとよた男女共同参画センターとむすびついていませんでした。)	1
男性	40歳代	私はボランティアに積極的なので男女共同参画社会づくりを実行していければと思う。	1
男性	40歳代	男女問題は本能的な事や、身体的な事なので、いきなりの変化は難しいと思う。小さな子供たちから教育としてやっていく事が必要と思う。	1
男性	70歳以上	特にはありませんが、体系的とかどうしようとしているかがよくわからない。もっと情報を流す機会を設ける場づくりが必要ではないか？やっているといってみるがよく見えない。	1
男性	40歳代	会社員なので一日のほとんどを会社で過ごしている。よって豊田市が企業とコラボして進めることが浸透させる早道なのでは…と思った。個人的には地域活動のイベントなどに参加していないが、最も古風な風習が残っている感じがする。そこを変えたと変わった感が出ると思う。全体的に豊田市は良い自治体だと思う。妻も神奈川から来たが帰りがたくならしいです。	1
男性	60歳代	豊田市が進めているこの活動は、非常に期待しているが、あまり声として聞こえてこない。	1
女性	60歳代	ネットの整備 見やすい 分かりやすい 正しい情報 古すぎる法の改正	1
男性	60歳代	皆さんの活動をTV(ひまわりも含む)ネットで特集を要アピール。	1
男性	30歳代	広報とよたを男性が読む機会は少ないと思います。もう少し、情報発信の仕方を工夫してみたいかでしょうか？	1
女性	60歳代	問1～31迄、全体的に市民へのPRがまだまだ不足と思う。	1
男性	30歳代	男女共同参画社会づくりに関心をもっている人以外にも市の取組みが伝わるような情報発信をした方がいいと思います。	1
家庭や地域における男女の役割分担や考え方について			9
女性	30歳代	子育て世帯について「男女平等」というのはなかなか難しいと思う。母親は会社で働き、家事・子育てをして肉体的疲労。父親は会社での難しい立ち位置の年齢であることが多いこと、家でなかなか休まらないことで精神的疲労で悩むことが多い。男性も女性もギリギリの状態なのでは？と思います。私にはこうすれば良いという対策はわかりませんが、社会に平等になるためどちらかの負担が増えるというのは避けて欲しい。今ある「疲労」をどうにかしないとその他への改善へ力は向けられないかと思っています。	1
女性	70歳以上	年齢的なものもあると思うが結婚した以上夫婦で協力し、助けあう気持ちが大切だと思う。結婚しない人も男性女性という思いが強く、それぞれが自分を中心にしていて全ての事が何か欠けるのではないかと思う。あたり前の事をあたり前のように協調したいと思う。	1
男性	70歳以上	42万都市として高齢者率が高くなるうえにも、現在の若者で結婚とか育児とか携わる人が増えてほしい。少子化対策も進めてほしい。コロナに関して中止されてきた子供神輿も再開される今年は例大祭も行われ、地域ごとのつながって来た文化として引き継いで行く事業があってもよいですね。そうした支援は続けていきたい。そういった中で男女社会づくりの足場としてはと思っています。	1
女性	70歳以上	全く関係無い意見かもしれませんが、私の住んでいる自治区では区長のなり手がいなく苦労しています。ある年齢の人全員(男性のみ)対象にして話を持ちかけていますが、あくまで男性で女性の話はありません。まだまだ男社会です。と言うものの、自分達の年代の集まりだと男性がみえると男性に長をお願いする事が多いのも事実です。出来る出来ない関係なく男性を立てているのかな。	1
女性	30歳代	地域活動において、女性会はあるのに、男性会がないのはなぜでしょう？	1
女性	60歳代	若い方達に地域活動に興味をもってもらえるような活動をしていければいいのではないのでしょうか？地域の活動は(役員等)高齢者が多くなっています。	1
女性	50歳代	出産、子育てばかりでなく、家庭における介護において男性参加を促してほしい。5年前より介護を受ける人口は増えている。	1
女性	30歳代	20年以上(学生時代のバイトから)小売業で働いていました。大きなカバンを肩にかけ、子供の手をひき、買い物かごを持つ母親の後ろを、腕組みしながらついて歩くだけの父親は、若い世代にもそこそこ上の世代にも多くいます。男女の立場の問題というよりは、脳の作りの差なのかなと考えたりします。この差が根本にある事を大方の性が意識していく事が、目指す社会の第一歩なのかなと感じます。	1
女性	30歳代	選挙活動で女性がお茶くみをすると言う時代錯誤な考えがなくなる世の中になる事を切に願います。女性だから、男性だから、という事が少しでもなくなる世の中であって欲しいです。もう少し生保についても、見直して欲しいです。封筒のサイズ感がおかしいです！！	1
職場における男女の役割分担や考え方について			3
男性	30歳代	そもそも同じであることに意味がない。なぜならば男が力がありそういった職も多い。それに女性が入った所で労働者はいるが労働者になりえない。目指す具体的なものがないものに平等や耳障りのいい言葉をいっても意味がない。仕事を知らない者が何かを言っても通じえない。理解というものもそもそも論間違っている。出来る出来ないは個々の能力。そこに無理くりイレギュラーを入れてもただの迷惑。分かっているからやってほしい。	1
女性	50歳代	大手企業は育児制度(男性)が整っていますが、中小企業ではまだまだ全然だと思います。そのためどうしても女性が休んで看病や病院への受診などで仕事先に迷惑をかける方が多くなります。どんな会社でも子供や家族が急に体調悪くなった時に休んで家族で協力し合えると不公平ないように思います。自分が子育てしていた時にすごく思ったことです。	1
女性	70歳以上	豊田市は産業構造の成り立ち等からも、男性社会のイメージが強い都市だと思う。例えばトヨタ自動車の経営陣に女性が居ないなど。	1

高齢者について			6
女性	30歳代	大変時間がかかると思います。個人個人の意識を変えないといけないと思うので、いくら社会づくりに取り組んでも高齢者など考え方が硬い人がいるので…。	1
女性	50歳代	この取組を知らなかったなのでこのアンケートの内容も難しい。男女共に能力のある方は関心のあることだと思うし、ぜひ色々に参加してほしいと思う。地域のことは70、80代の古い考え方、おしつけ、がんこさなどが若い人の意見をつぶしていると思う。良い点もあると思うが、70.80代の上から目線に態度に色んな事に参加したいと思う気持ちが萎える。性的マイノリティについては、近くにいないので、まったくわからない。経験したことは答えが出るが仕事の内容や置かれた立場でまったくわからない内容の質問もありました。困った事、相談したい事を問い合わせた時にスムーズに案内してもらえる市役所であってほしい。	1
女性	18・19歳	年齢が上の人の女性に対する考え方や発言について改善していくことが大切だと考えます。なぜなら年齢が上の方は上司であることが多くそのような人達が変わらなければ社会も会社も変わる事が出来ないと考えるから。	1
女性	50歳代	豊田市が男女共同参画社会づくりを取組みしていたとしても、地域の年配者の考え方が変わらなければ、結局同じこと。若い方達の考えは、聞く耳を持たないので、今すぐには変わらない。	1
女性	70歳以上	まだまだ昭和世代の考え方が多い。つい先日、自治会に出席し意見を言ったら私より若い男性に「生意気だ」と言われビックリ。個人で考え方は変えられない。	1
男性	30歳代	全国的に少子高齢化が進み、高齢者の方の人口の割合が多く、いわゆる「社会の雰囲気」や「地域社会」というのはそのような方々が醸成していると受け止めている。社会として「女性の平等さが足りない」と感じるのとはそのようなマジョリティが理解をしていない為だと思う。現役世代(20～50代)への男女共同参画の啓蒙活動は素晴らしいと思うが、それよりも上の世代の理解が進まない事には「男女平等」や「男女共同参画」は叶わないだろうと考える。そこへの周知や教育、啓蒙活動に重きを置いて活動して頂きたい。	1
性的マイノリティについて			2
女性	30歳代	様々なマイノリティに関して、親が子供にどう話せばよいか、悩んでいます。(2才、4才の男児×2人) 自分(親)が学校で学んで来なかったことなので、親が学ぶ機会があれば時間を作って行きたいと思います。学校の授業で今後、あるかもしれないですが、家庭でも話せるようにになりたいです。	1
女性	50歳代	性的マイノリティが認められるようになるに従って、逆に女性の立場が危うくされ始めているのも皮肉な時代になってきているように思います。言葉は悪いですが、心は女で体が男の人が普通に女性専用のトイレや温泉を使用され始めた…などと聞いたこともあります。(大阪や東京で)。(それだったら性的マイノリティ専用のトイレや温泉を作って欲しいと思ったり…)それから思う事は多様性を認めようという世の流れであれば、その人らしくいられることが何より大事なことなんじゃないかと思っています。)その上で皆が楽しく幸せに生きて過ごせれば、とても素晴らしいと思います。	1
保育について			8
男性	60歳代	保育サービスは非常に良いと思います。岡崎・安城と比較してもいいと思います。孫もお世話になっています。病児システムは子育てに大変良いと思います。もっと充実して欲しい。	1
男性	20歳代	子育て支援に関わるものに重点を置いてほしい。	1
女性	70歳以上	老若男女とにかく未来を背負う子供を健全に育てる事。	1
女性	30歳代	豊田市のこども園について 乳児についても育休中に退園しなくてよかったという制度は子育てする親にとってもありがたいことだと思います。生まれた子の世話をしながら、未就学児の兄弟の相手をするのはとても大変なので、親の負担軽減になります。しかし一方で、年度途中からの入園を希望した際に(復職のため)園に空きがわずに入園ができない点を改善してほしいと思いました。3番目の入園待ち順位でも半年入れず、兄弟で別の所に預けて出勤するのはとても負担でした。送迎の為勤務もフルタイムから時短に変更が必要で、上の子が子ども園、下の子を託児施設にあずけることで復帰したのに育休手当よりも受け取る給料の方が少なくなるという残念な結果でした。園に通うことが出来たらフルタイム勤務継続。保育料も二人目半額などの優遇も受けられるため、経済的負担もだいぶ変わると思います。	1
女性	30歳代	年金問題で退職年齢が上がったことで、親に頼る子育て世代が増えたのにフォローするサービスが少ない！！子育て=母(女)に対しての葛藤より一人でやらなきゃいけない環境に問題がある。男女では、子育てしやすく、一人一人の負担を削減できるサービスはないのか？未就学は子ども園7:30～だが、時短制度は3歳まで、小学生の朝は誰が出すの？女はそのために仕事を辞める！！男女じゃなくて環境を変えてほしい！！	1
女性	70歳以上	東京都は子供1人に5000円と言うけど、お金より安心して預けられる保育所が身近にあった方が良い。保育士をたくさん教育した方が良いと思う。3年前前、全国民に10万円頂いたけど、大人は自分勝手に使って、家族のためという人は少なかった(私の周りでは)。私は防犯カメラを取り付けた。	1
女性	40歳代	県外出身者ですが、地元と比べても子育てしやすい町だと感じています。	1
女性	30歳代	市として取り組み、市民がしっかり実感できるよう各々の会社に制度として取り入れていけるようにしてほしい。よく子育てとして目を向けられるのは、妊娠の時～保育園の時ですが、一年先の小学生(一年生など)でも、まだまだ小さな子供なので、長い目で子育てとして制度・政策を考えてほしい。時短などの措置も、3才(乳児)、6才(園児)、12才(小学生)というように考えて、作ってもらわないと、結果働く母親が、胸を張って正社員として働いていない。園や小学校に上がったタイミングで離職したり、パートに落ちざるをえなくなる。	1

介護について			2
女性	40歳代	父親の事で福祉、介護の支援や補助、相談がとても充実していて、老々介護の疲れや苦しみからお互いが赤信号を渡らなくて済む方法の知恵は相談したら沢山教えてもらえるけれど、助けを求めている人のところへ届いていないような気がするので、しっかりと欲しい人のところまで届けられて広める方法が無いのだろうか？たぶんそれは子供や子育て問題も一緒なのだと思うけど、今、自分が介護に直面しているから介護問題だけで、本当に困っている人のところへなんとか届く方法がないもんかと…買い物途中で知り合いと立ち話で仕入れる情報のようにもっと簡単に耳に入る方法がないもんだろうか？	1
女性	50歳代	育児と仕事の両立や育児支援などは十分ですが、介護を担う年代向けの支援が足りないと感じます。介護離職をはじめ、社会から孤立していても相談に応じてもえる窓口がないと感じます。50代以上の復職は難点が多く、相談もしづらいです。育児支援はこの市町村でもやってます。介護に対する理解や支援にもっと力を入れてもらいたいです。シニア世代、シルバー世代にも未来があるのです。	1
共働きについて			4
男性	70歳以上	各々仕事や時間の作り方が難しく、土日休日などに気軽に参加出来る柔軟な体制作りが必要。ある意味役所によびつけるような感じがする(区長会・自治会等の会議がその現状)	1
女性	20歳代	子どもの為の制度をもっとしてほしい。時短勤務の延長。子ども産まれたらBOXじゃなくてポイントとかで自分のほしいものを買いたい。オムツ券(刈谷や名古屋がしているみたいに)トワイライトみたいにお金がありませんから学校でみてくれたり…。働いていない母でも保育園に入れるようにしてほしい。(いつかは働きたい)育休中で復帰する予定だったのに保育園に入れなくて幼稚園になった。でも入って一年後には仕事に復帰したい…。でも預かってくれる時間が短くて預けられない→辞めるしかない。保育園に途中から入れるのも子供からしたらとても大変な環境の変化。難しいのはとてもよく分かるけど、今の時代共働きじゃないと生活していけないと思います(みんな)。苦しくなく共働きできるようにしてほしい。	1
男性	50歳代	共働きの家庭への支援を充実してもらいたい。	1
女性	30歳代	豊田市は共働き+祖父母の助けなしの親に対する支援・配慮がないと感じる。保育園(子ども園)は開所が7:30～であるし、共働きの親に負担が大きい(水筒の持参、箸ケースに箸・フォーク・スプーンを持参させる等)→県内の他どの市も、箸ケースを子供に持参させる市町村はありません。フルタイムで働いて、帰宅後に子ども複数人分もの箸ケースセットを洗い、家事、宿題、子供の寝かしつけ等、負担(親の)以外の何物でもありません。学童保育(小学生)は、指導員はただ立っているだけ、宿題を見てくれる訳でもありません。(そのような権限がない)追加でお金を払っても、もっとちゃんと見て頂きたい。ただの預かりになっているのでは子の為にならない。PTA不要。外注出来ないか？フルタイム共働きには参加は無理。以上の事から、豊田市で共働きで子育てはかなり続けることは難しく、女性の離職を進めているのではないかと。私たち夫婦は正社員の仕事を手放すことは考えられず、他市に転居も考えている。もう少し共働き、祖父母の助けなしで頑張っている親に配慮して頂きたい。宜しくお願いします。	1
アンケートについて			11
女性	40歳代	アンケートをとってすぐに変わりますか？アンケートをとったのなら市役所としてすぐに行動にうつして下さい。まずは、学校(幼稚園・こども園・小学校・中学校・高校)教員含む。の性教育を充実させて下さい。教育委員会と協力して豊田市をよくしてほしいと思います。まずは子ども達を良くして下さい。もう大人は頭が固いので後からでいいので、子どもに正しい性の知識を！守ってあげて下さい。お願いします。	1
男性	50歳代	世間の流れに乗らないといけないとは思いますが、本当に必要なことを見極め実施して頂きたいと思います。アンケートの内容も少し定型的な感じがします。例えば、市長が女性に代わったら何が変わるかと思いますが？など。少し突拍子もない質問の方が本当の市民の声が聞こえるのではないのでしょうか？	1
男性	70歳以上	1.行政の使命は？ 2.1.の使命を達成し得るビジョンの明確化 3.プラン(具体的な)4.チェック・アクション 5.市民への開示 6.安易なアンケート調査は”やった気がする””マスターベーション”になる恐れがある。	1
女性	50歳代	問30総合⑨「女性のさまざまな悩みを気軽に相談できる相談体制の充実」特に、将来女性一人で生活する事になった時に、色々な不安があります。悩みを相談する場所、一緒に話せるネットワークがあると安心して暮らせる気がします。	1
女性	50歳代	豊田市がこの調査でジェンダーギャップ指数を知り、ジェンダー平等実現出来ることを願っています。	1
女性	70歳以上	若い方の意見を聞いて下さい。老人には答えにくい部分が多くありました。	1
男性	70歳以上	高齢者用のアンケートに不向きと思われる。	1
女性	40歳代	この質問の内容が女性をバカにしているように感じます。不愉快です。こんな質問を作っている方が施策に参加していて改善されるとは思えません。	1
男性	60歳代	今回のアンケート、女性へのアンケートが多かったと思います。送られて来たのが世帯主なので、男性が多いと思います。出来れば妻にアンケートに対して回答する様にすれば良いと思います。	1
女性	70歳以上	実際の取組みに参加していないので、特別な意見は無し。今後に期待しています。アンケートの設問づくりについて、高齢の者には答えにくい設問(F5,F7)該当する答えがない所がありますね。こうした全年齢対象のものは難しいとは思いますが、事前に色々な世代の方にチェック等してもらう必要では。	1
女性	40歳代	このアンケートの意図が良く分かりませんでした。全ての事柄において、男性がするべき、女性がするべきというような性別で分けて考えるのはとても難しいです。私は、その分野が得意な人がやれば良いと思っています。ただそうすると、必然的に家事・育児は女性が得意とする割合が高く、労働は男性が得意とする割合が多くなるのだと思います。ですがそんな中でももっと社会に参画したいという女性も多くなるはずなので、そういう人が参画すれば良いのではないのでしょうか？なぜこんなに無理矢理増やそうとするのか疑問です。先進国の中で遅れているからでしょうか…。	1

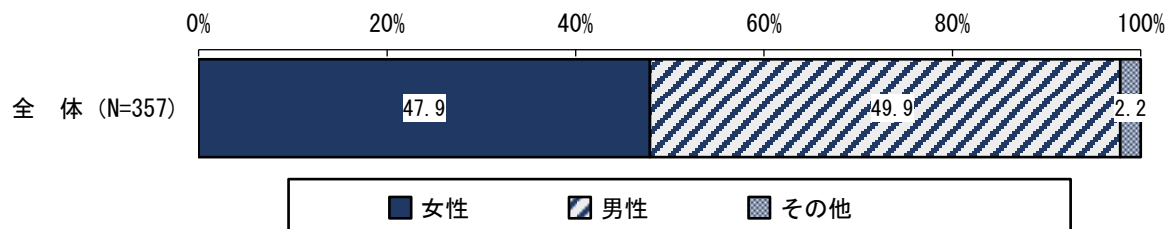
その他			22
女性	60歳代	若い人達が頑張っていると感じます。少しでも手助けできると良いなあと感じます。	1
女性	70歳以上	一人一人の人間の成長がとても大切なことで、現在の日本の社会のように上から下へ伝えて社会の形を作っていくものでは実現不可能な私達の本当に望んでいるものとはほど遠く、コロナパンデミックのおかげで誰にでも分かる姿が現れて来ました。私達はとても大きな成長の機会を自分達で選んで進んで行くことができますと思います。	1
女性	50歳代	昭和・平成・令和と時代が過ぎて、男女と考えると良い時代に年々なっている様には感じますが、一人の人間として何かできるのかを考え、出会った人に対して丁寧な対応をしていれればいいかなあと思っています。色々な人がいて、色々な状態で立ち位置が違おうと意見も違うので、難しい事が多いですが、何もしなければ何もおきないので、良くしようと思うならなにかしら行動しないと良くならないわけで、アンケートを答えながら色々考えるキッカケになりました。	1
女性	50歳代	とても内容の濃い取組みが行われており、すばらしいことだと思います。	1
女性	30歳代	アンケートと関係ないのですが、愛環の各駅にエレベータを設置してほしいです。ベビーカー大変なので。	1
男性	70歳以上	退職をし、年金生活者の為よく分かりませんが最近、豊田市として共同参画社会づくりを進めようとする努力は様々な処で感じています。(10年以上前に比べて)難しい問題が出てくるとは思いますが、これからもコツコツと取り組んで下さい。	1
男性	60歳代	男女共同参画社会づくりは大変だと思いますが、良くなる事を願ってます。	1
男性	50歳代	組長の仕事が多い。共働き世帯のことを考えていない。平日の朝にゴミステーションの見張り(必要か?)広報とよたの配布(郵便等にして欲しい)	1
男性	60歳代	相手の気持ちになって、SPEEDYな対応対策を規制をもってやって頂きたい。	1
男性	70歳以上	ご苦勞様。頑張ってください。	1
女性	60歳代	お金があれば便利で豊かな楽しい世の中になっております。お金の為に色々な犯罪が増すばかりです。男女共同参画社会づくりよりも、もっと大変な状況になって来ると思いますので…。男女共同参画社会は理想ですが、すでに遅いと思います。異常気象から自然災害など問題山積みとなります。できることでしたら早急に対応して下さい。(ただし、ずるいパバが登場する可能性も)母子家庭、父子家庭も、家庭崩壊も珍しくないですし。	1
女性	50歳代	高齢の家族・休職中の子、自分が50代で、若い時に体をこわし、今は無職。体力にも自信が持てない現状の中で、頭では仕事が短時間ならできるのではないかと、もっと地域に貢献できるのではないかと考えていても、なかなか現実には厳しく、家の中のことをこなすことではないでしょうか。でも私が働いていた30代の頃と比べると男女に対する考え方はずっと良い方になりました。変わってきたのではないのでしょうか。むずかしい用語もたくさん出てきているので(英語も含め)、もう少しわかりやすい言葉で簡潔に教えて頂けるとより、分かりやすいのかなと思います。ありがとうございました。	1
女性	30歳代	男女の体の違いや仕組みについて、大人でも知らない人が多いので、大人になってからも教育の場がほしい。ひとりひとりに違いがあることも(生理で休む方が、男性から舌打ちされていたので)。女性の体のことについて、男性から間違った知識を言われて傷付いたことがある。女性も休む予定があるなら、事前に仕事を終わらせてほしい。自分も休んでいたのだから、別の女性が休む時に嫌な顔をしないでほしい(女性同士)。	1
男性	30歳代	議会で話し合うのではなく、実際の市民(若い人から高齢者まで)無作為に呼んで話し合う事が大切。	1
女性	30歳代	他県に比べて遅れていると思う	1
男性	30歳代	未就労の高齢者と子育て世帯を結び付け、多数の大人で子どもを見守れる社会をつくる、市民同士の声掛けができる環境作り。	1
男性	70歳以上	自治区執行役員への参加者がいない！	1
女性	70歳以上	男女共同参画社会の取組みで、女性の働き方や社会への明るさ、豊田市そのものの発展にもつながるので、この変化を楽しみにし、期待しています。	1
男性	50歳代	ホームページ当には表現があるが、実際に豊田市内が変わってきたという実感がわからない。	1
男性	70歳以上	様々な場面において、女性個人個人の意思を無視してまで、社会に参画させないといけないという価値観について違和感がある。日本古来の家族に対する価値観を、欧米の価値観で塗り替える様な社会に未来はない。真に日本や豊田に住む人々が望む協働参画の有り方を、改めて問い直すべきである。	1
女性	40歳代	人間の個性を認め合う事の出来る市になって欲しいです。社会的な個性、車いす、耳、目、など不自由な方がいるから、点字ブロックや白杖、手話などが必要であること。を全ての人に学んで欲しい。助け合える世の中、感謝し合える世の中に少しずつでも向かって欲しいです。困っている人の声や思いが届きやすいようにして欲しいです。	1
女性	50歳代	男女共同参画社会づくりの取組みと表に出て、イベントだの法人だの団体を作って、そこへ税金をつぎ込むようなことはしないで欲しいと思います。男女平等は成り立たないと考えます。多様性を認める社会になってほしい。	1

IV. 調査結果（中学生調査）

1 回答者の属性

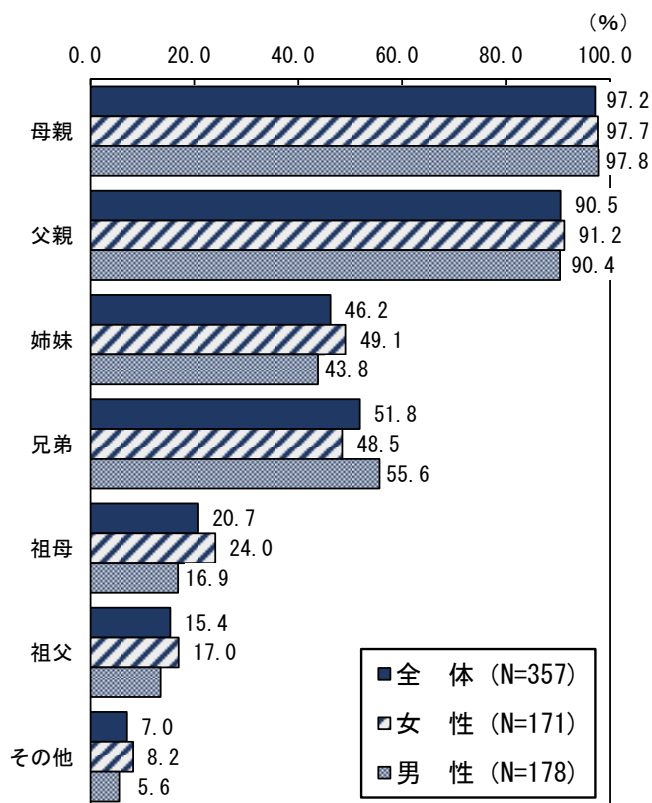
問1 あなたの性別をお答えください。

図表 134 性別



問2 現在、だれと一緒に住んでいますか。仕事の関係等で、一時的に離れて暮らしている人も含みます。

図表 135 一緒に住んでいる人



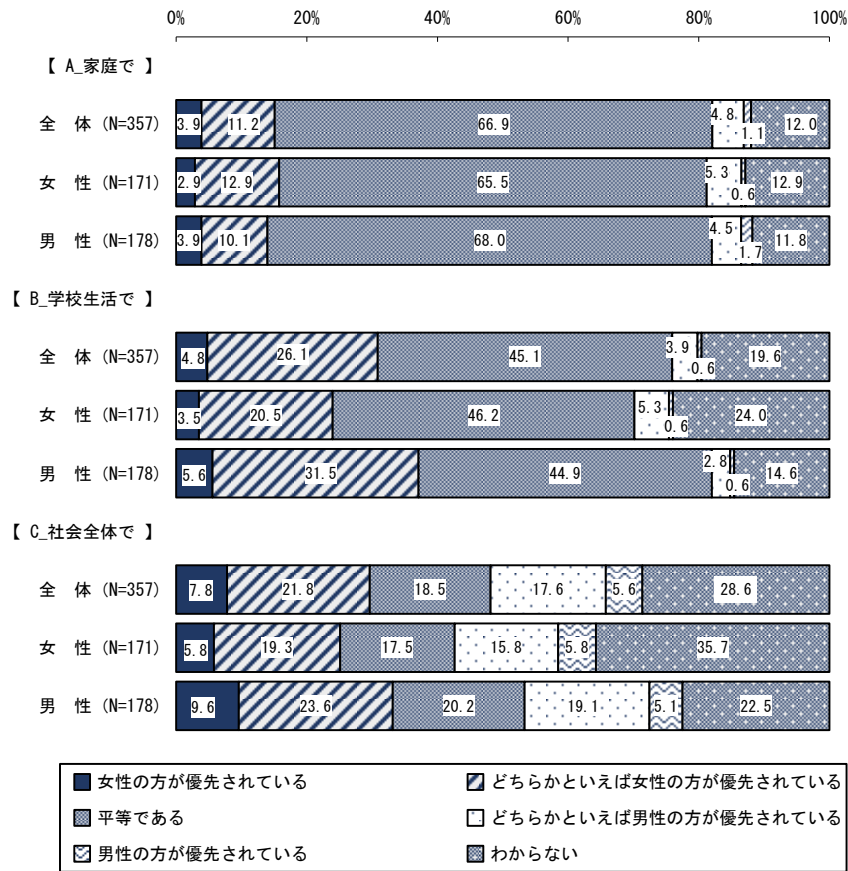
2 男女共同参画社会について

問3 あなたは、次の場面で男女は平等になっていると思いますか。

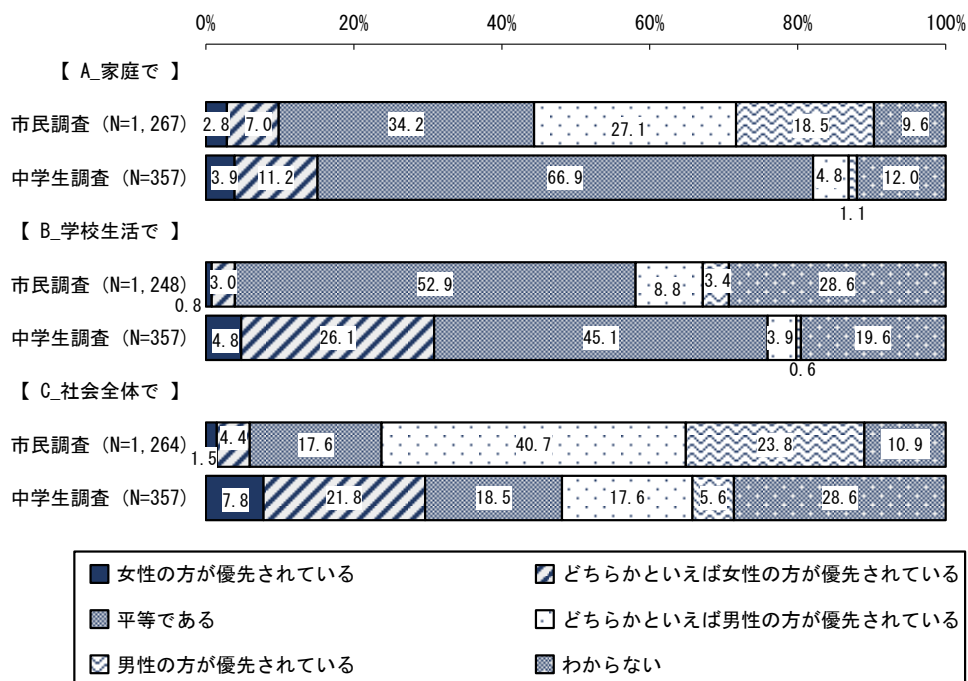
中学生と市民で各分野における平等観に大きな差がみられる

- 【A_家庭で】では、性別に関わらず「平等である」が6割半ば～7割弱と多くなっている。
- 【B_学校生活で】では、性別に関わらず「平等である」が4割半ばであるものの、男性で『女性優遇』（「女性の方が優遇されている」）+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と感じている人が 37.1%となっている。
- 【C_社会全体で】で『女性優遇』と感じている人は、女性で 25.1%、男性で 33.2%と男性に多くなっている。一方で、『男性優遇』（「どちらかといえば男性の方が優遇されている」+「男性の方が優遇されている」）と感じている人は、女性で 21.6%、男性で 24.2%となっており、意見が分かれている。
- 市民調査との比較をみると、【A_家庭で】において『男性優遇』は市民調査で 45.5%であるのに対し、中学生調査では 5.9%にとどまっており、かつ「平等である」が6割半ばと平等観に大きな差がみられる。【B_学校生活で】（市民調査では「学校教育の場」）においては「平等である」が最も多いことは共通しているものの、『女性優遇』と感じている人について市民調査では 3.8%であるのに対し、中学生では3割となっており、市民調査との乖離がある。【C_社会全体で】では、市民調査では『男性優遇』が 64.5%であるのに対し、中学生では 23.2%と大きな差が出来ている。また、中学生では『女性優遇』と感じている人の方が多くなっている。

図表 136 男女平等観について(全体・性別)



図表 137 男女平等観について(市民調査との比較)

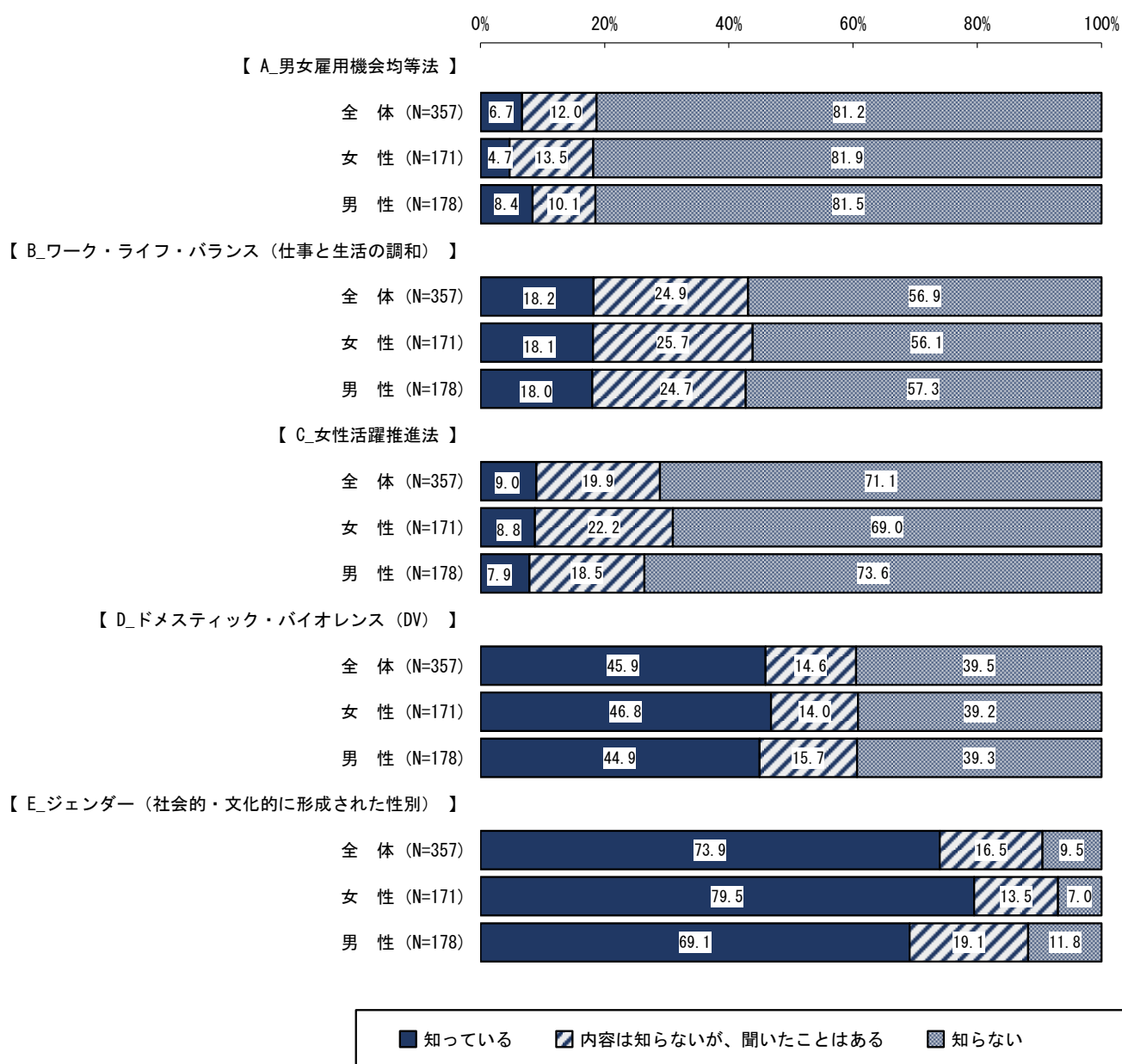


問4 あなたは、次にあげる言葉を知っていますか。

【E_ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】の認知度が7割以上

- 男女共同参画に関する言葉の認知度について、「知っている」と回答した人は、【E_ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】が73.9%と最も多く、次いで【D_ドメスティック・バイオレンス(DV)】(45.9%)、【B_ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調査)】(18.2%)となっている。一方で、【A_男女雇用機会均等法】(6.7%)や【C_女性活躍推進法】(9.0%)は認知度が1割以下となっている。
- 性別で見ると、女性は【E_ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】を知っている人が男性よりも10ポイント以上多くなっている。

図表 138 言葉の認知度（全体・性別）



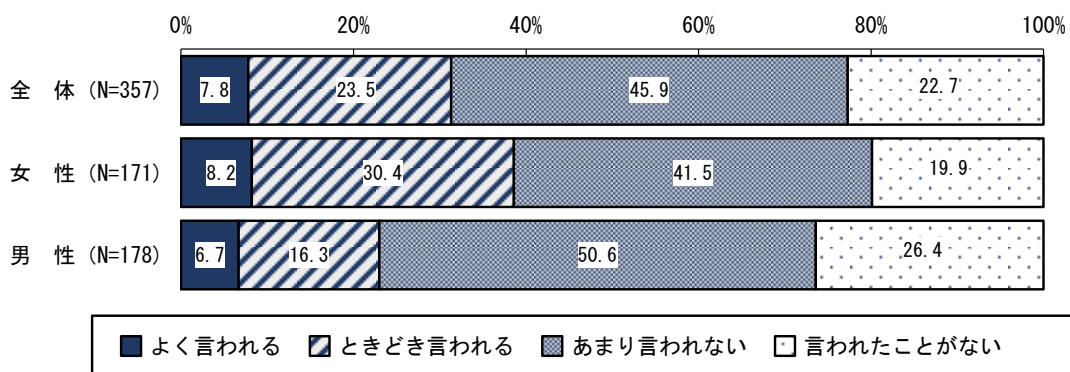
3 普段の生活について

問5 あなたは、「女だから〇〇しなさい」や「男だから〇〇しなさい」と言われたことがありますか。

「あまり言われない」が4割半ば

- 「女だから〇〇しなさい」や「男だから〇〇しなさい」と言われた経験について、「あまり言われない」が45.9%と最も多くなっている。一方で、『言われる』（「よく言われる」+「ときどき言われる」）は31.3%となっている。
- 性別でみると、女性は『言われる』と回答した人が男性よりも15.6ポイント多くなっている。

図表 139 女だから、男だからと言われたこと（全体・性別）



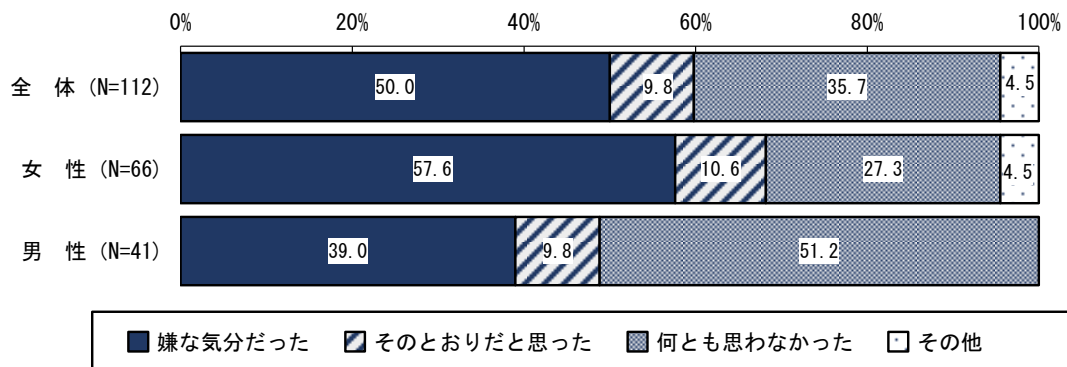
<問5 で「1 よく言われる」・「2 ときどき言われる」を選んだ人>

問5-2 その時、どんな気分でしたか。

「嫌な気分だった」が半数

- 「女だから〇〇しなさい」や「男だから〇〇しなさい」と言われた時の気分について、「嫌な気分だった」が50.0%と最も多く、次いで「何とも思わなかった」(35.7%)となっている。
- 性別でみると、女性は「嫌な気分だった」と回答した人が男性よりも18.6ポイント多くなっている。

図表 140 言われた時の気分（全体・性別）



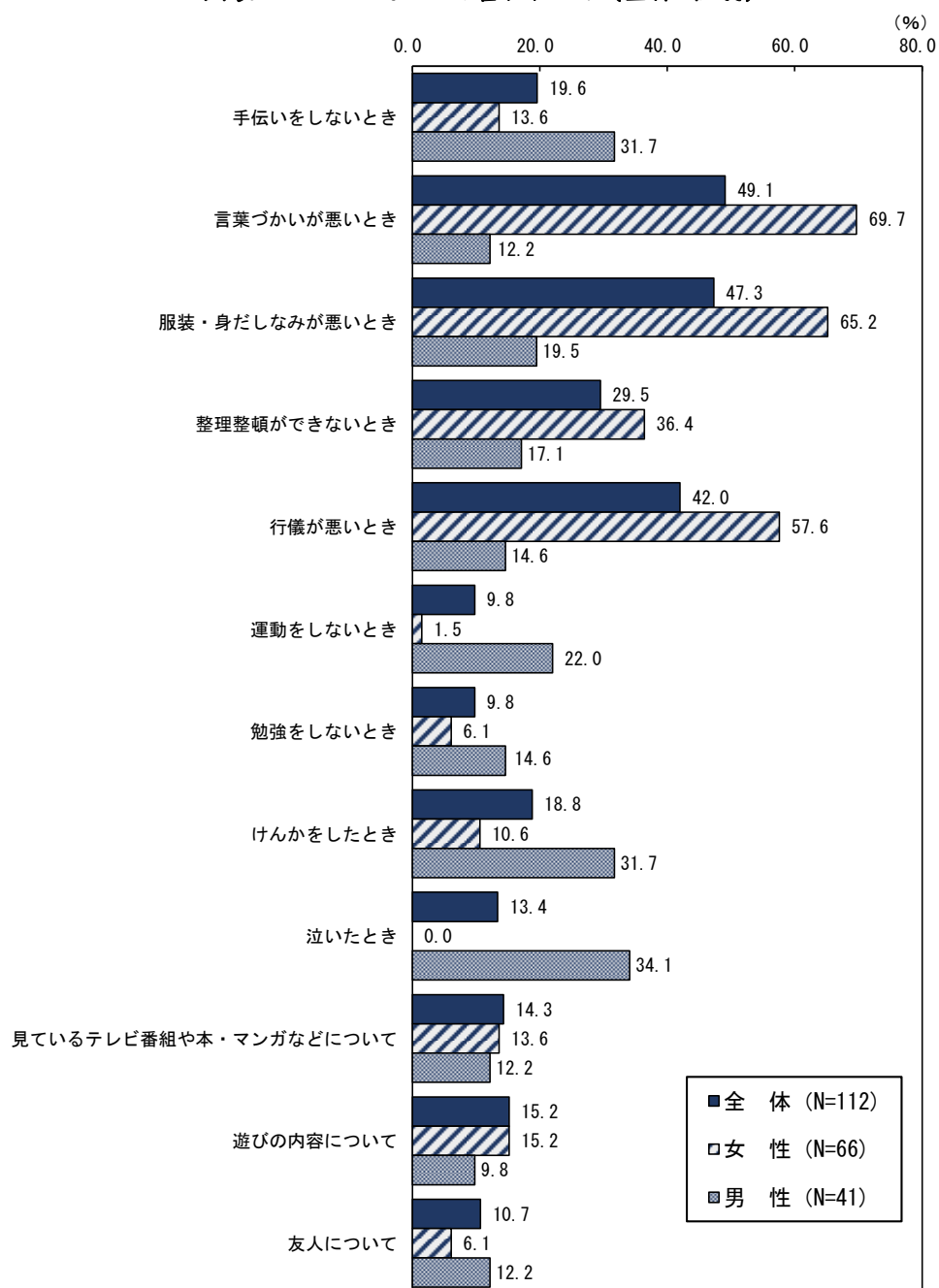
<問5 で「1 よく言われる」・「2 ときどき言われる」を選んだ人>

問5-3 どんなことで言われましたか。

女性は「言葉づかいが悪いとき」「服装・身だしなみが悪いとき」「行儀が悪いとき」、
男性は「泣いたとき」「手伝いをしないとき」「けんかをしたとき」が多い

- どんなことで言われたかについて、「言葉づかいが悪いとき」が 49.1%と最も多く、次いで「服装・身だしなみが悪いとき」(47.3%)、「行儀が悪いとき」(42.0%)となっている。
- 性別でみると、女性は「言葉づかいが悪いとき」「服装・身だしなみが悪いとき」「行儀が悪いとき」が多く、男性は「泣いたとき」「手伝いをしないとき」「けんかをしたとき」が多くなっている。

図表 141 どんなことで言われたか(全体・性別)



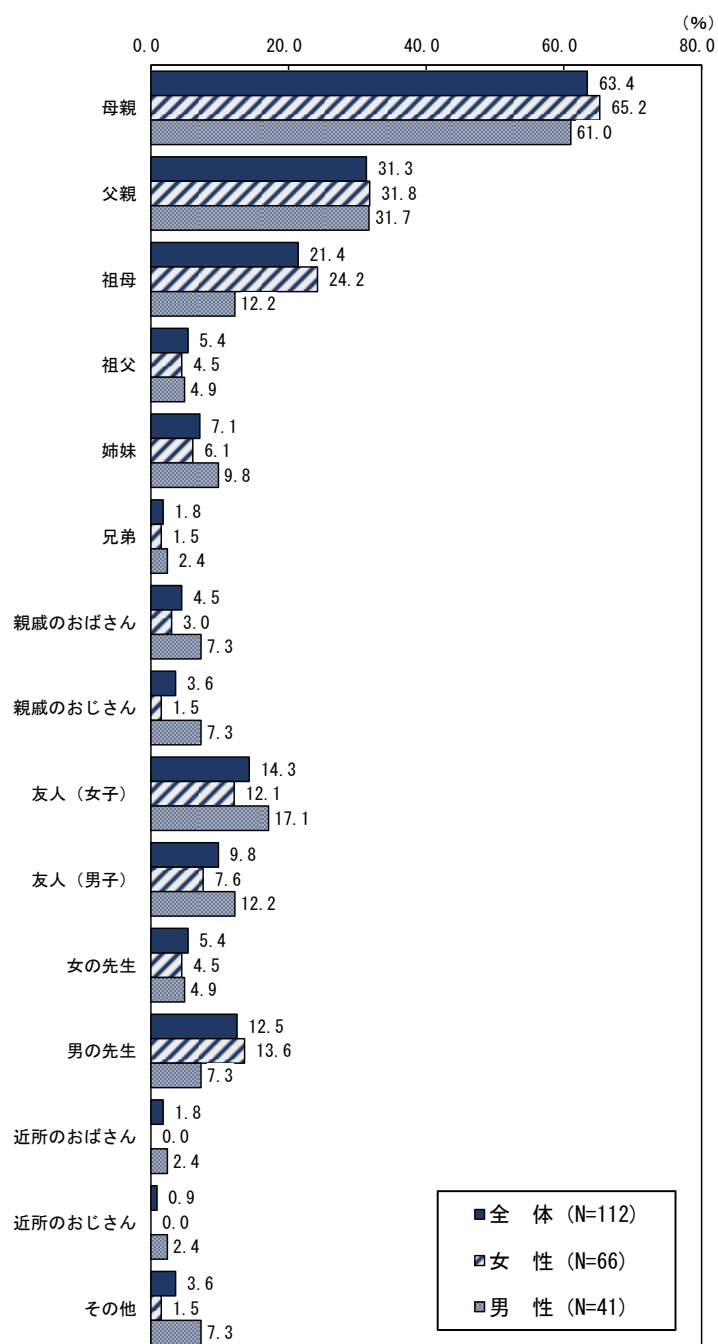
<問5 で「1 よく言われる」・「2 とときどき言われる」を選んだ人>

問5-4 あなたにそれを言ったのはだれですか。

「母親」6割、「父親」3割、「祖母」2割

- 誰に言われたかについて、「母親」が63.4%と最も多く、次いで「父親」(31.3%)、「祖母」(21.4%)、「友人(女子)」(14.3%)、「男の先生」(12.5%)となっている。
- 性別でみると、女性は「祖母」「男の先生」、男性は「姉妹」「親戚のおばさん」「友人(女子)」「友人(男子)」がそれぞれ異性に比べて多くなっている。

図表 142 誰に言われたか(全体・性別)

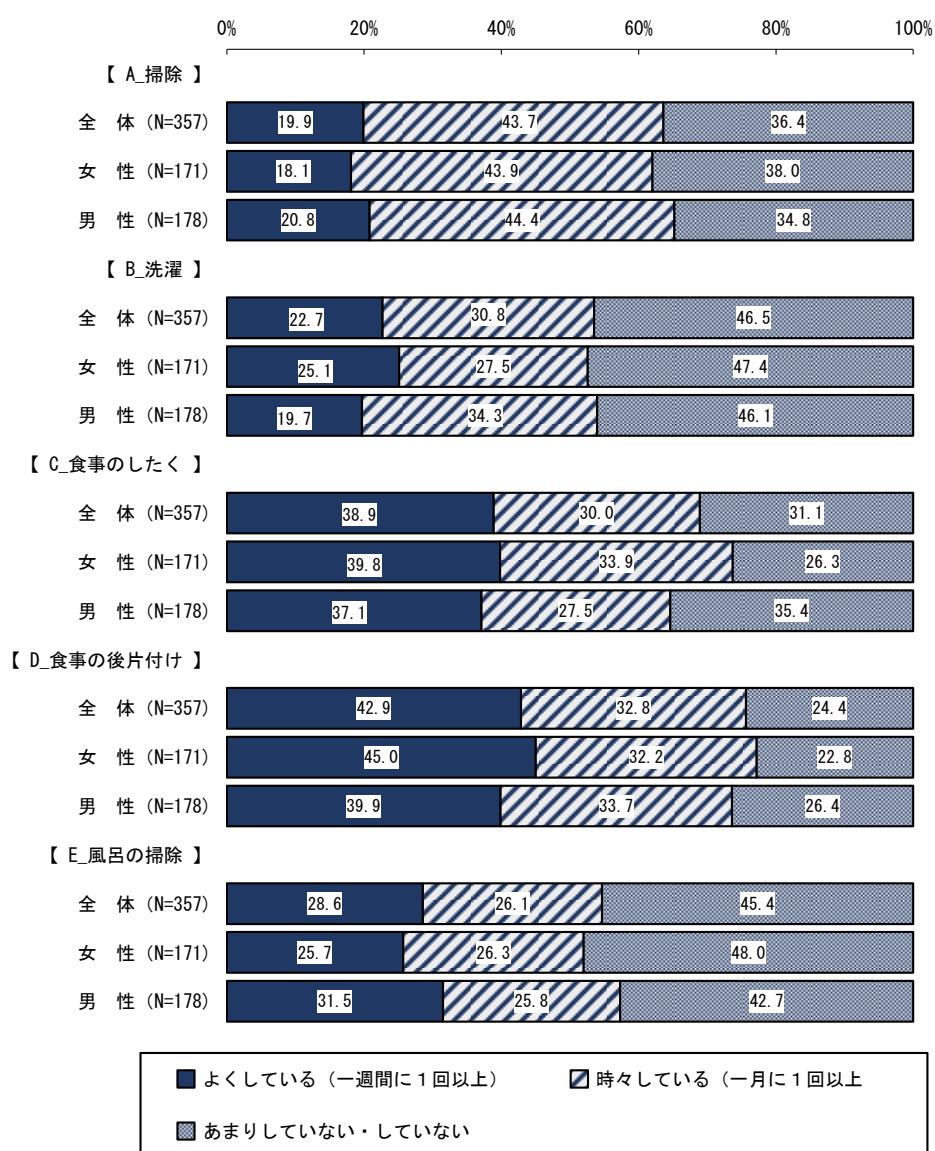


問6 あなたは家の中の手伝いをどれくらいしていますか。

【D_食事の後片付け】【C_食事のしたく】が約4割

- 家の中の手伝いについて、「よくしている」が多いのは【D_食事の後片付け】(42.9%)、【C_食事のしたく】(38.9%)となっている。「時々している」は【A_掃除】が43.7%と多くなっている。一方で「あまりしていない・していない」が多いのは【B_洗濯】(46.5%)、【E_風呂の掃除】(45.4%)となっている。
- 性別でみると、【D_食事の後片付け】は女性、【E_風呂の掃除】は男性が多くなっている。

図表 143 家の手伝い(全体・性別)

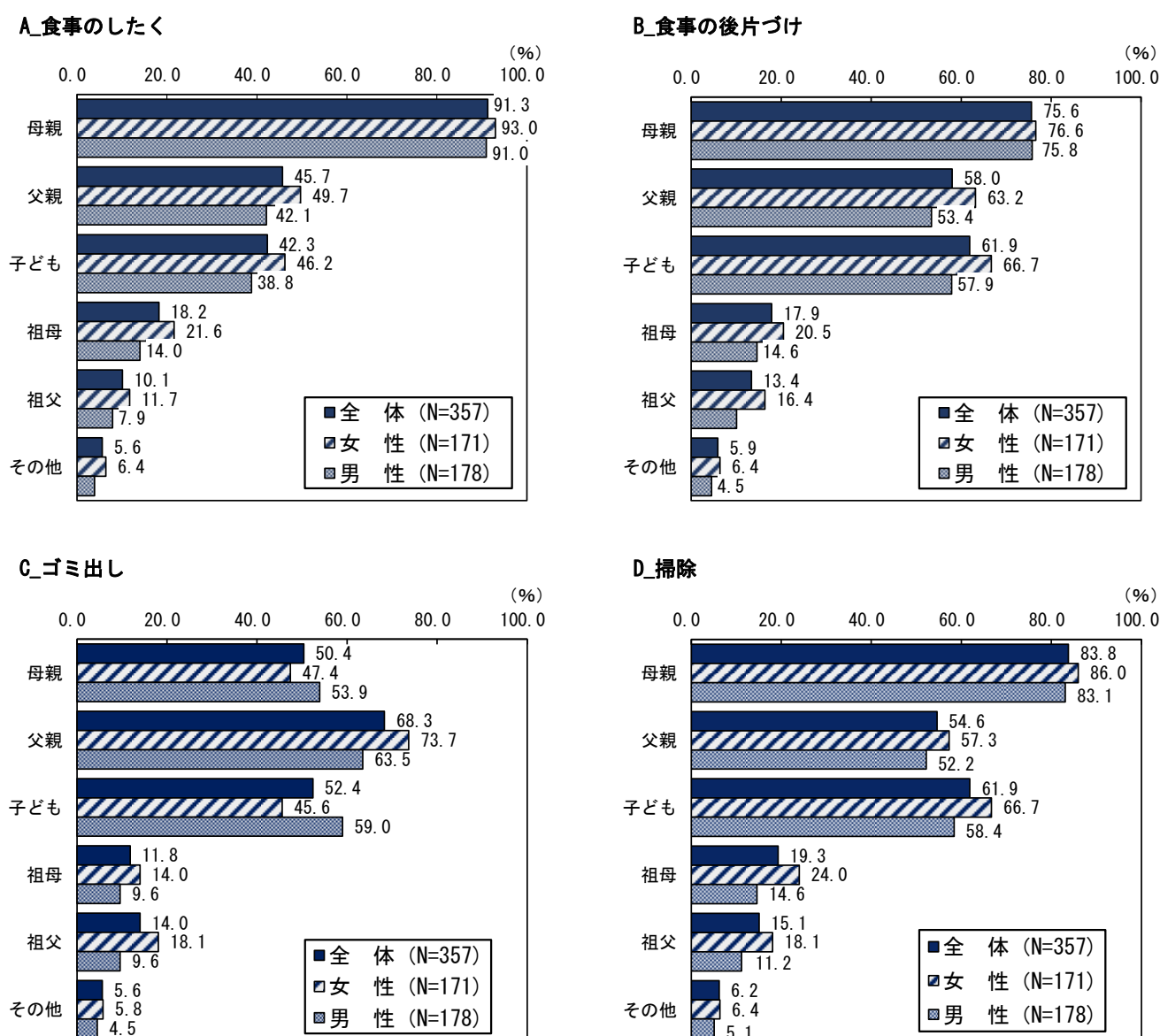


問7 あなたは家の中で、次のようなことはだれがやるのがいいと思いますか。

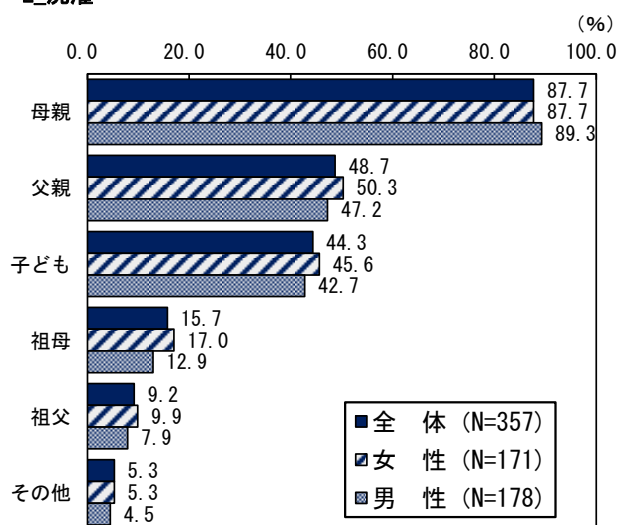
【A_食事のしたく】【B_食事の後片付け】【D_掃除】【E_洗濯】【G_子どもの世話をする】は「母親」、【C_ゴミ出し】【F_お金を稼ぐ】は父親

- 家の中のことを誰が行うのがいいと思うのかについて、【A_食事のしたく】【B_食事の後片付け】【D_掃除】【E_洗濯】【G_子どもの世話をする】は「母親」が最も多く、【C_ゴミ出し】【F_お金を稼ぐ】は「父親」が最も多くなっています。また、【B_食事の後片付け】は「父親」より「子ども」が多くなっている。
- 性別でみると、【B_食事の後片付け】【C_ゴミ出し】について、女性は「父親」が男性よりも約 10 ポイント多く、男性は「子ども」が女性よりも 13 ポイント多くなっている。

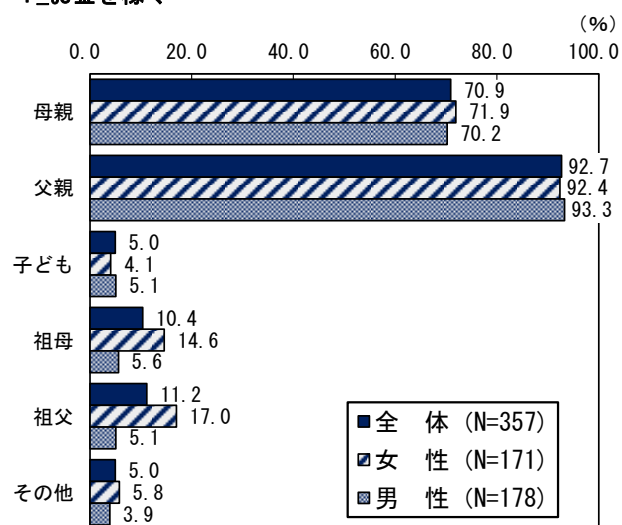
図表 144 誰がするのがいいか(全体・性別)



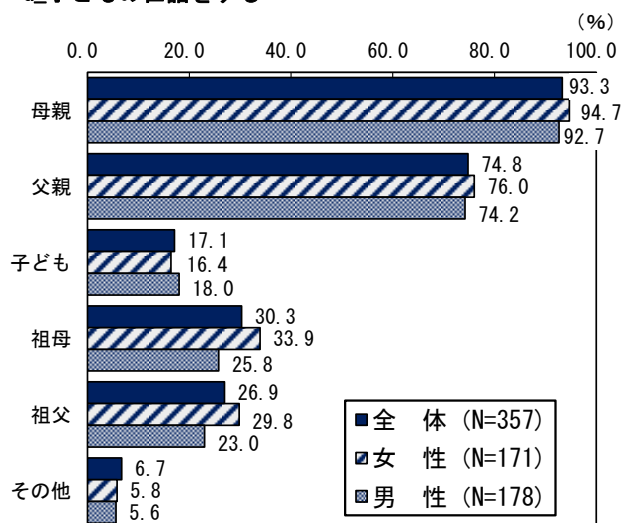
E_洗濯



F_お金を稼ぐ



G_子どもの世話をする

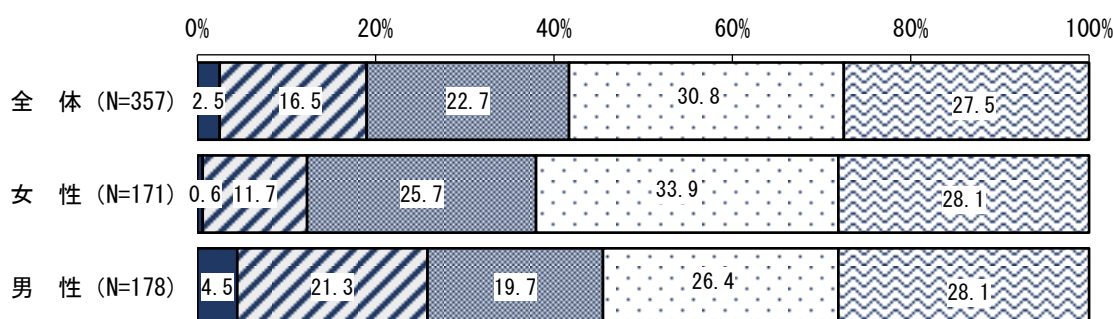


問8 あなたは、「女は家庭を守り、男は仕事をするべきだ」という考え方について、どう思いますか。

『賛成』19.0%、『反対』53.5%

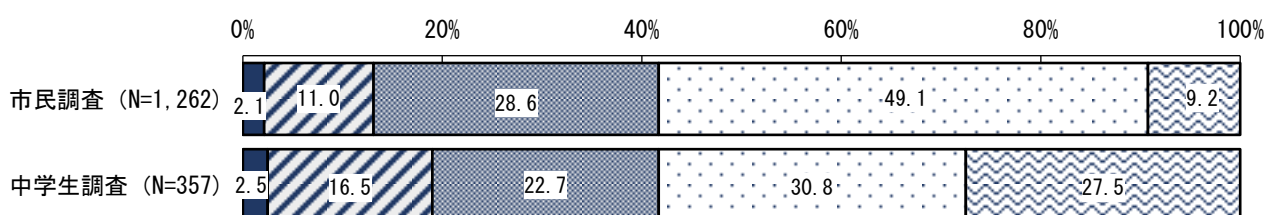
- 「女は家庭を守り、男は仕事をするべきだ」という考え方について、『賛成』（「賛成」+「どちらかといえば賛成」）が19.0%、『反対』（「どちらかといえば反対」+「反対」）が53.5%となっている。
- 性別でみると、『賛成』は男性の方が女性より13.5ポイント多くなっている。
- 市民調査との比較をみると、市民調査では『反対』が77.7%であるのに対し、中学生調査では53.5%となっている。また、市民調査では「わからない」が9.2%であるのに対し、中学生調査では27.5%と多くっており、中学生はまだ判断がついていない人が多いことが分かる。

図表 145 「女は家庭を守り、男は仕事をするべきだ」という考え方（全体・性別）



■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 ■ どちらかといえば反対 □ 反対 ■ わからない

図表 146 「女は家庭を守り、男は仕事をするべきだ」という考え方（市民調査との比較）



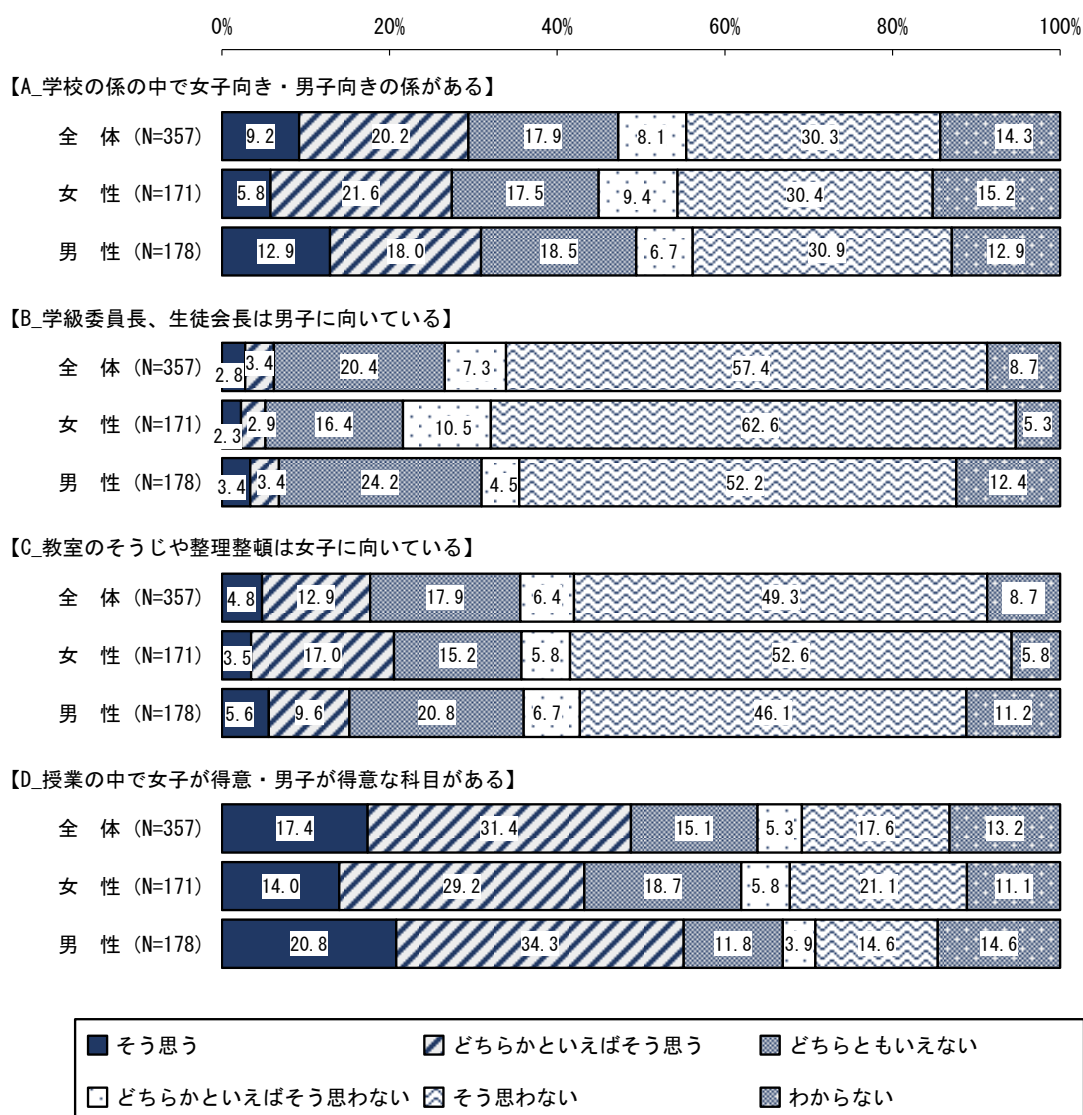
■ 賛成 ■ どちらかといえば賛成 ■ どちらかといえば反対 □ 反対 ■ わからない

問9 あなたは、次のことについてどう思いますか。

「授業の中で女子が得意・男子が得意な科目がある」は『そう思う』が5割弱

- 各項目において『そう思う』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)ことは、「授業の中で女子が得意・男子が得意な科目がある」が48.8%、「学校の係の中で女子向き・男子向きの係がある」が29.4%となっている。『そう思わない』(「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」)ことは、「学級委員長、生徒会長は男子に向いている」が64.7%、「教室のそうじや整理整頓は女子に向いている」が55.7%と多くなっている。
- 性別でみると、「学級委員長、生徒会長は男子に向いている」について『そう思わない』と回答した人は、女性で7割以上だが、男性では5割半ばとなっている。また、「授業の中で女子が得意・男子が得意な科目がある」について『そう思う』と回答した人は、女性で4割超、男性で5割半ばとなっており、やや性別によって認識に差が出来ている。

図表 147 各項目についての考え方(全体・性別)



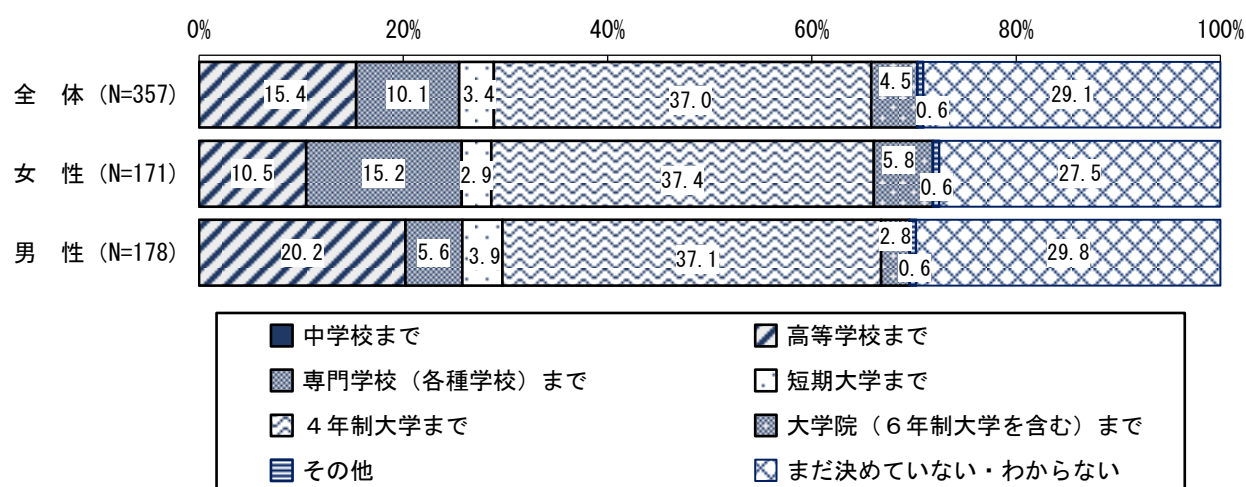
4 仕事・将来について

問 10 あなたは、将来どの学校まで行きたいと思いますか。

「4年制大学まで」が37.0%

- 将来行きたい学校について、「4年制大学まで」が37.0%と最も多く、次いで「まだ決めていない・わからない」(29.1%)となっている。
- 性別でみると、女性は「専門学校(各種学校)まで」、男性は「高等学校まで」が全体より多くなっている。

図表 148 将来どの学校まで行きたいか(全体・性別)

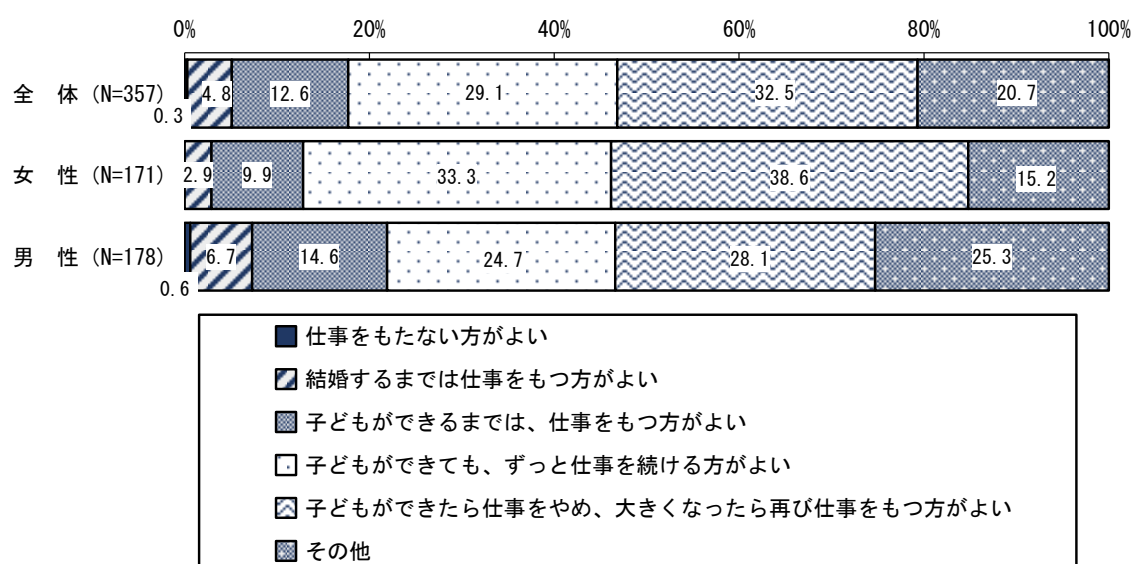


問 11 あなたは、女性が仕事をするについてどう思いますか。

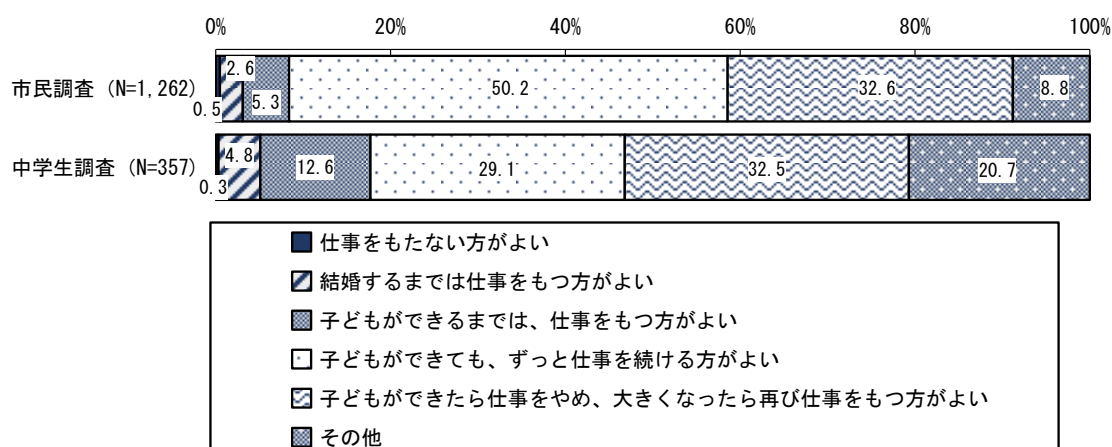
「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が 32.5%で最多

- 女性が仕事をするについて、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が 32.5%と最も多く、次いで「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」(29.1%)、「子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい」(12.6%)となっている。
- 性別でみると、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」は女性、「子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい」は男性が多くなっている。
- 市民調査との比較をみると、「子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい」は、市民調査では1割以下だったが中学生調査では1割を超えている。また、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」は市民調査では5割だが、中学生調査では3割弱にとどまっている。

図表 149 女性が仕事をするについて(全体・性別)



図表 150 女性が仕事をするについて(市民調査との比較)

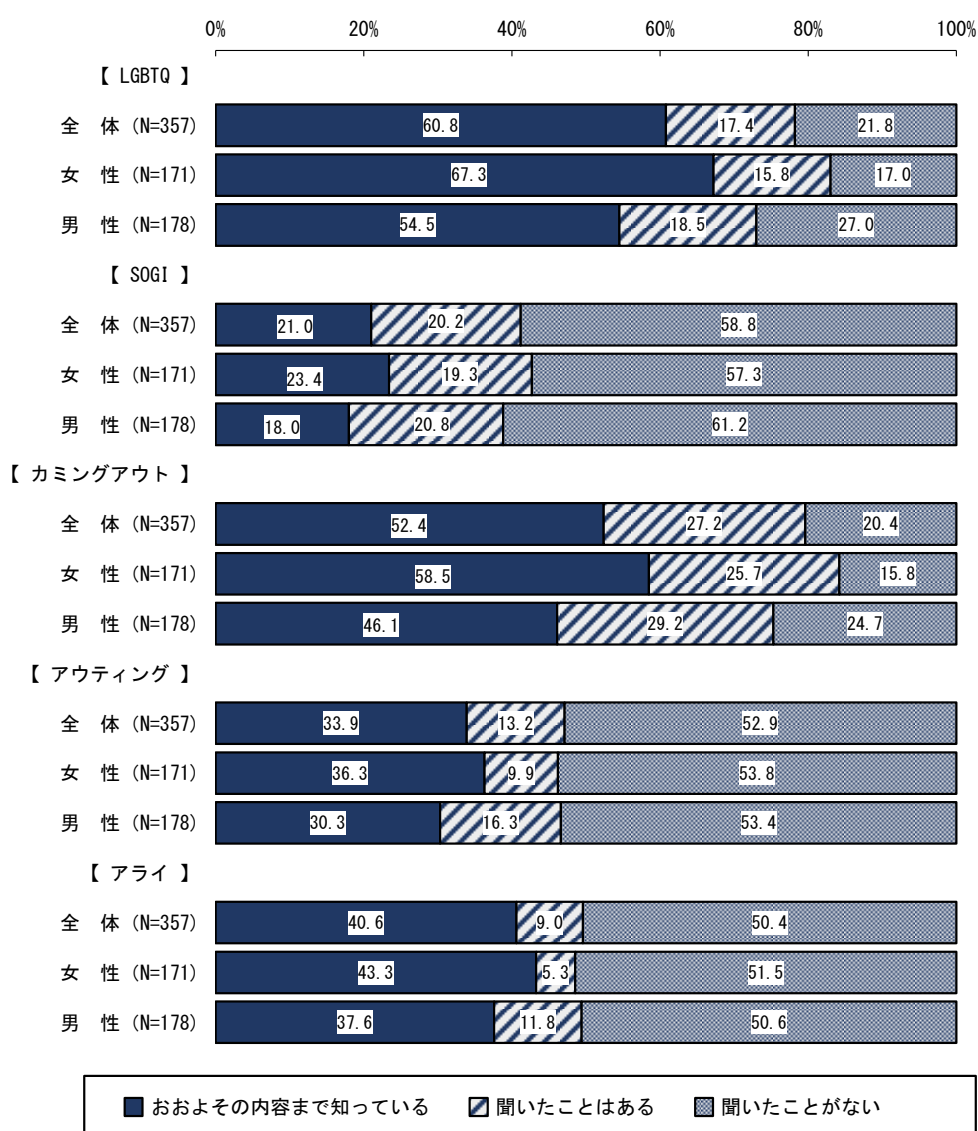


問 12 あなたは、多様性に関する次の言葉を知っていますか。

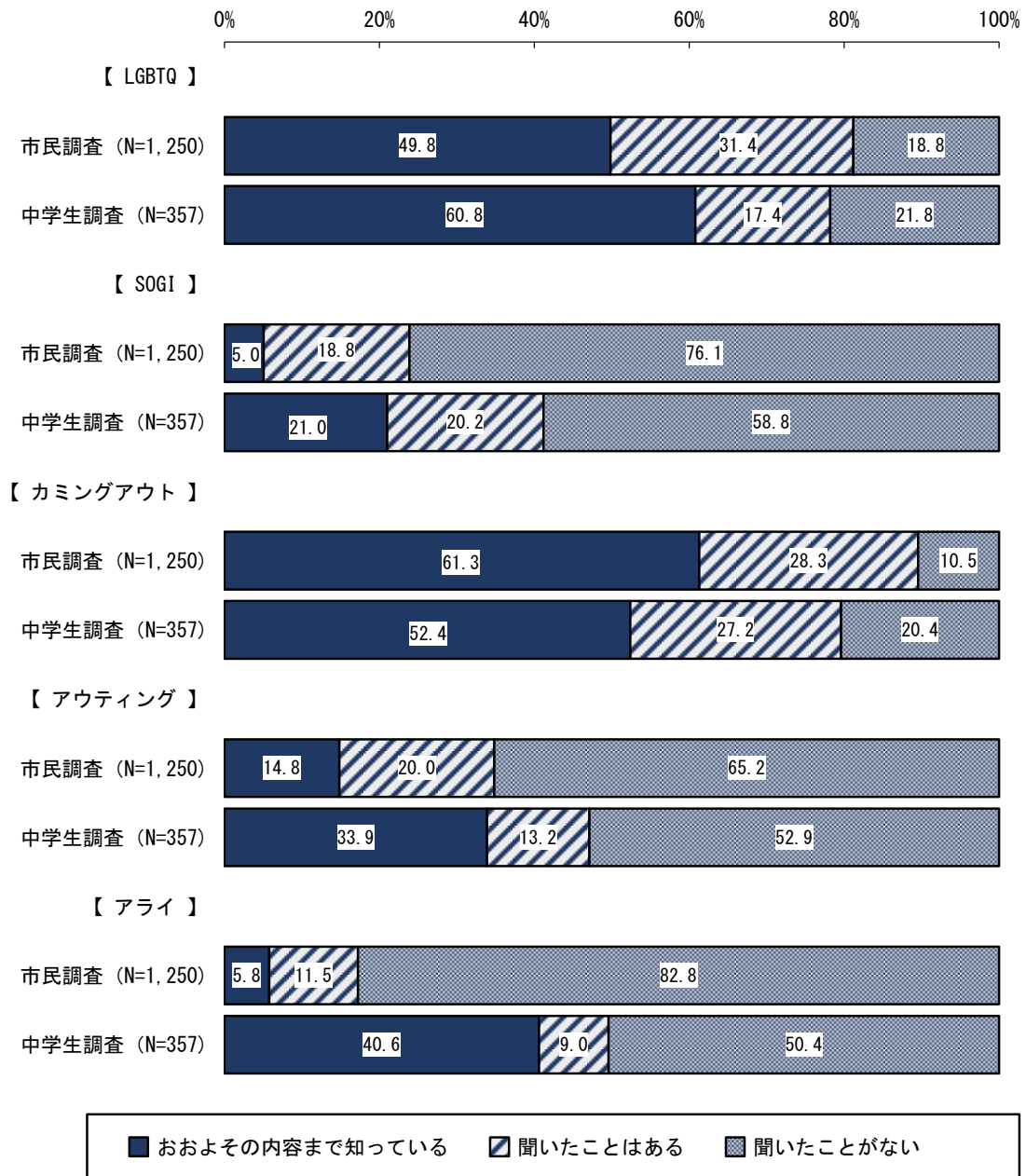
【カミングアウト】【LGBTQ】の認知度が高い

- 多様性に関する言葉の認知度について、『認知している』(「おおよその内容まで知っている」+「聞いたことはある」)と回答した人は、【カミングアウト】が 79.6%と最も多く、次いで【LGBTQ】(78.2%)となっている。一方で【SOGI】【アウティング】【アライ】については、「聞いたことが無い」が5割を超えている。
- 性別でみると、【LGBTQ】や【カミングアウト】は女性の認知度が高い。
- 市民調査との比較をみると、【SOGI】を『認知している』人は市民調査で 23.8%、中学生調査で 41.2%となっている。【アライ】を『認知している』人は市民調査で 17.3%、中学生調査で 49.6%となっており、これらの言葉については中学生の方が認知度が高い。

図表 151 多様性に関する言葉の認知度(全体・性別)



図表 152 多様性に関する言葉の認知度（市民調査との比較）

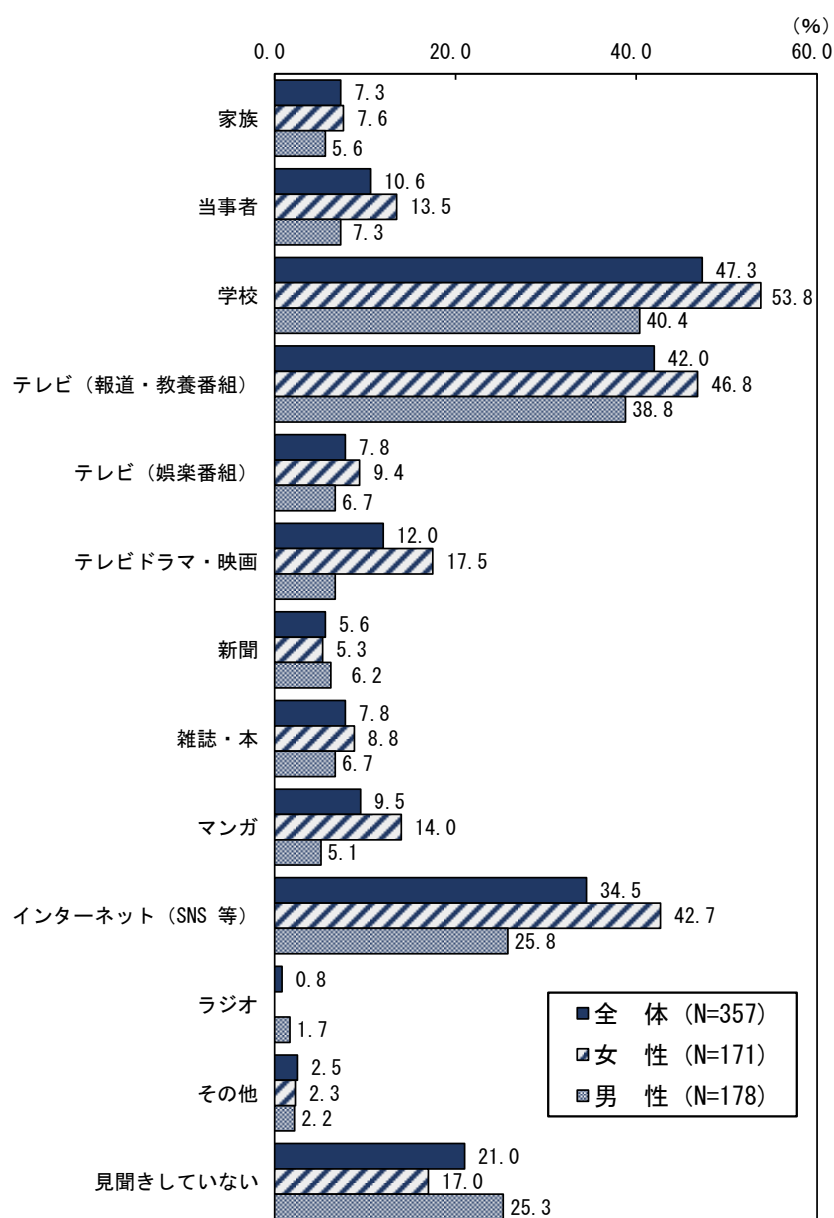


問 13 あなたが最近、性的少数者（L G B T Q）に関して情報を見聞きしたのはどこですか。

「学校」、「テレビ（報道・教養番組）」、「インターネット（SNS 等）」が多い

- 性的少数者(LGBTQ)に関して情報を見聞きしたのは、「学校」が 47.3%と最も多く、次いで「テレビ(報道・教養番組)」(42.0%)、「インターネット(SNS 等)」(34.5%)となっている。また、「見聞きしていない」は 21.0%となっている。
- 性別でみると、女性は「テレビドラマ・映画」や「マンガ」が多く、男性は「見聞きしていない」が多くなっている。

図表 153 性的少数者(LGBTQ)に関して情報を見聞きした所(全体・性別)

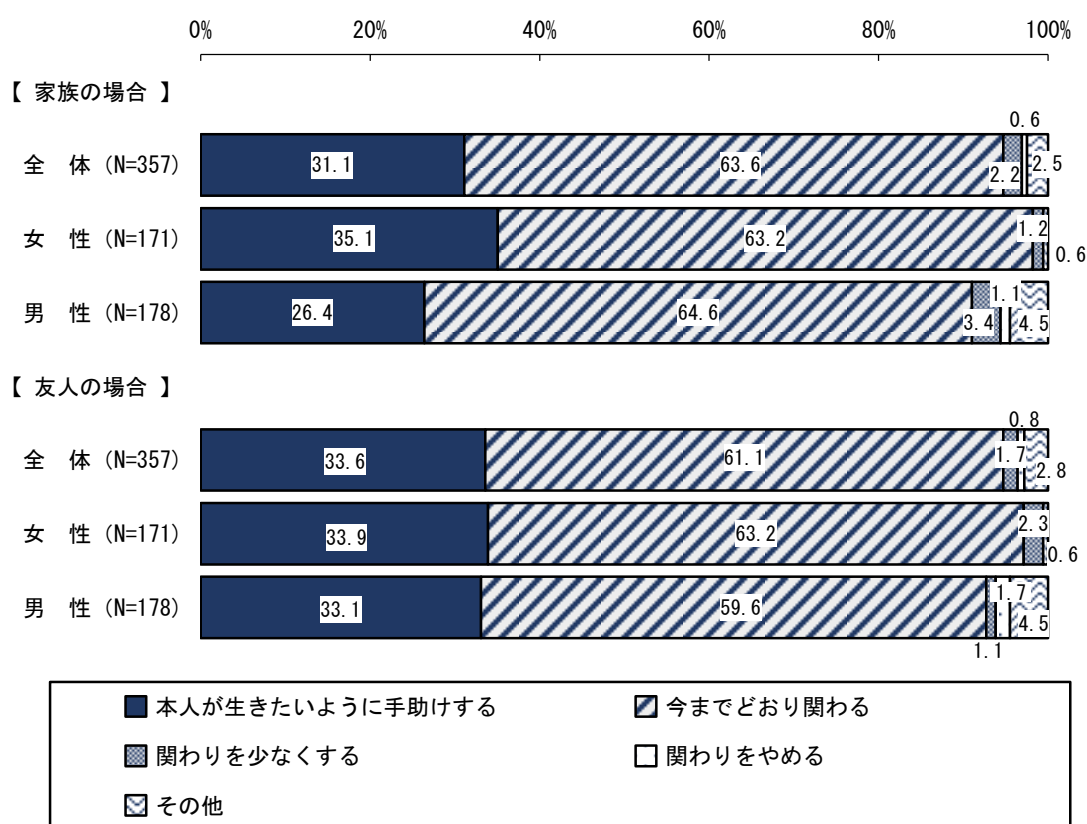


問 14 あなたは、身近な人（家族、友人）から性的少数者（L G B T Q）であることを打ち明けられたらどうしますか。

家族の場合、友人の場合ともに「今までどおり関わる」が6割以上

- 身近な人から性的少数者であることを打ち明けられた時について、家族の場合、友人の場合どちらも「今までどおり関わる」が最も多く6割を超えている。
- 性別でみると、男性は「本人が生きたいように手助けする」が家族の場合よりも友人の場合の方が多くなっている。

図表 154 身近な人から性的少数者であることを打ち明けられたら（全体・性別）



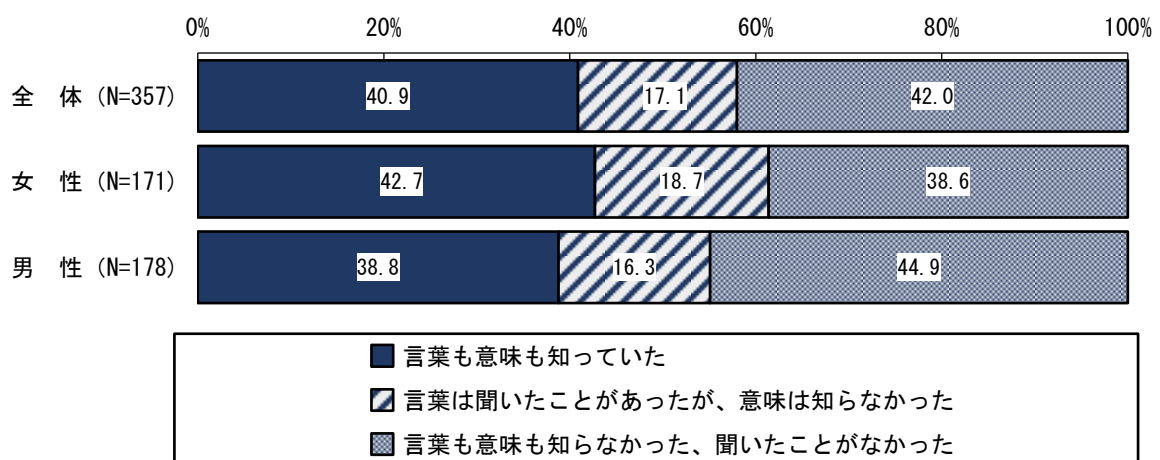
5 デートDVについて

問 15 あなたは、「デートDV」という言葉を知っていましたか。

「言葉も意味も知らなかった、聞いたことがなかった」が4割

- デートDVの認知度について、「言葉も意味も知らなかった、聞いたことがなかった」が 42.0%と最も多く、次いで「言葉も意味も知っていた」(40.9%)となっている。『言葉を認知している』(「言葉も意味も知っていた」+「言葉は聞いたことがあったが、意味は知らなかった」)割合は 58.0%となっている。
- 性別でみると、女性の方がやや認知度は高くなっている。

図表 155 「デートDV」という言葉の認知度(全体・性別)



6 その他・自由回答

問2 現在、だれと一緒に住んでいますか。仕事の関係等で、一時的に離れて暮らしている人も含みます。

一緒に住んでいる人		24
	ペット	23
女性	養護施設	1

問5 あなたは、「女だから〇〇しなさい」や「男だから〇〇しなさい」と言われたことがありますか。

→「1 よく言われる」・「2 ときどき言われる」と回答

問5-2 その時、どんな気分でしたか。

「女だから〇〇しなさい」や「男だから〇〇しなさい」と言われたとき		5
その他	ほっとけよって思った	1
女性	うざいと思った	1
女性	わからない	1
女性	めんどくさいなと思った	1
その他	とても不快で泣きたくなった	1

問5-4 あなたにそれを言ったのはだれですか。

「女だから〇〇しなさい」や「男だから〇〇しなさい」と誰に言われたか		3
男性	覚えていない	1
男性	野球のコーチ	1
女性	複数人にいわれたが、そこまで覚えていない	1

問10 あなたは、将来どの学校まで行きたいと思いますか。

将来どの学校まで行きたいか		1
男性	大学には行きたいが、どんな大学があるのかわからない	1

問 11 あなたは、女性が仕事をするということについてどう思いますか。

女性が仕事をするということについて		74
	自分のやりたいようにすればいい・本人の自由・好きにすればいい	62
	知らない・分らない	4
男性	父親が仕事をしているなら就かない方がよく、父が家にいるなら就いたほうが良い。(共働きは子供が幸せにならないから)	1
男性	関係ない人がとやかく言うことはない	1
その他	自分と周りが賛成できる範囲で	1
女性	子供ができて、ずっと仕事を続ける方が良いと思うけど、それで子供を悲しませてしまうんだったら時間を考えたり、夫に仕事は任せるとかしたほうが良いと思う	1
男性	誰が仕事をやっても変わらない	1
女性	子供ができたならその人が働く余裕があれば働くとうい	1
男性	仕事をしている暇がない時はそっちを優先した方がよいと思う 自分が大丈夫だと思ったらやってもいいと思う	1
男性	パートナーと話し合って決めるべき	1

問 14 あなたは、身近な人（家族、友人）から性的少数者（L G B T Q）であることを打ち明けられたらどうしますか。

家族の場合		8
	わからない	6
男性	質問が悪い	1
女性	その人が今まで自分らしく生きてきたのなら普段通り接するけど、偽って生きていて接し方を変えて欲しいっていうんだったら接し方を変えて本人が生きたいように手助けしたい	1
男性	今まで通り関わりながら手助けする	
友人の場合		10
	わからない	6
男性	質問が悪い	1
女性	その人が今まで自分らしく生きてきたのなら普段通り接するけど、偽って生きていて接し方を変えて欲しいっていうんだったら接し方を変えて本人が生きたいように手助けしたい	1
男性	今まで通り関わりながら手助けする	1
その他	打ち明けられたことがある。	1

男女共同参画に関連して、あなたの身近なこと、将来のことなど自由に書いてください。

男女平等の世の中になるといい		12
女性	男女平等に自由でいいと思います	1
男性	男女平等になることで幅も色々広がっていくと思うから良いと思う	1
男性	将来今より男女差別が少なくなると僕は思うのでいいのかなと思います。	1
男性	男女が平等に暮らせる社会になってほしいし安心して暮らせる家庭をこれから作ってほしいと思います	1
女性	家族内の女がやること、男がやることをなくして全員が参加できるようにして欲しい。 男女平等をもっとおじいちゃん世代にも知って欲しい	1
男性	みんな平等に生きていける社会を！	1
女性	共同	1
女性	男女関係なく生きやすい社会にしたい	1
男性	差別とかをしないようにする	1
男性	今は男性と女性の差別はあまり無いけどまだ自分が知らないだけであるかも知れないので自分はそういうことはやらないで男女差別がなくなったらいいかなと思いました。	1
女性	男女関係なく過ごせるといいなと思っていました	1
その他	誰もが生きやすい世界になりますように。	1
男女平等に関する意見		10
男性	結局男女で、仕事を分けると言う建設業を女がやると思えないから。	1
女性	「男」「女」というのは、一つの区別だけであって、この人はこうだからこう！みたいに決めつけるのは良くないと思います。	1
男性	めんどい 男が男らしくて何が悪いんだよ 女も同じ	1
男性	テレビなどで男女平等を取り扱う時に女子の話題が多いと思っていて男女平等を唱えるなら男子のこともやればもっと賛成の人が増えると思う	1
女性	身近にも、将来にも、いろんな人に会うだろうから自分自身、もしくは当事者がやりたいことをやればいいと思います。	1
女性	お父さんももっと家事をした方がいいと思う お母さんにまかせたくない	1
男性	男女で完全に違うものだとは思わずに区切った方がよいものはしっかり区切ったり、別の性別として扱われないと思っている人に対する配慮をもちろん学校でも将来様々な人と関わる時も自分は弱いからシステムを変える！とまではいかないとと思うけどその人が苦しんでいたら心の拠り所くらいならできると思うからちゃんと相手のことを肯定して個人に対して自由と感ぜられるようにしたい	1
男性	1人1人の人生と個性があり自分も他人も将来のことについて突き進んでいけたらいい	1
男性	誰もが人間らしく生きていく事が大切だと思います。自分の悩んでいる事を相談したり目指したい夢に向かって頑張っていくことも大切だと思います。	1
男性	未だに学校の名簿などで男子が青、女子が赤という考え方は古いと思う。身体測定や、更衣室まで同じにする必要は無いと思うが並び方などは男女平等であるべきだと思う。戸籍は個人の意識や物心がはっきりつくまで、男女で分けるべきでないと思う。	1

性的少数者(LGBTQ)について		8
その他	私はLesbianで、これまで隠そうと頑張っていたので住みやすい世界になってほしい	1
女性	友人に同性との恋愛を好んでいる人が少数いて、それをカミングアウトされた時は正直驚いたけど、そこまで気にする事なくすごせています。人それぞれだし、好きならしょーがないよね～！て感じで今まで通りにすごせています！	1
男性	正義が一番の悪になりかねない。LGBTQの人も男女同じトイレとかを押し付けるのはダメ。それが嫌な人もいる。 だからみんなの意見を尊重して、決して押し付けることもなく生きていけば、苦しむことはない。 女性差別だって言ってる人もフェミニストも結局自分のいい方に解釈して勘違いする人がいる。しっかりしている人もいるけどその人たちがその人たちと一緒にされて、肩身の狭い思いもしてほしくないから。しっかり調べて、自分勝手なことを言うてはいけないと思いました。	1
女性	私がよく知っているのは性同一とかそういう性別についてのことで、結構受け入れているつもりだし、ある程度理解している気ではいるけど、まだまだ知らないこともあるだろうからもっと沢山知りたいと思った。私が知っている人の話を聞いてみると、そういう事を発表していても心は男でも体は女なんですよ？とか気持ち悪いとかそういう心ない言葉をかけられて、その人は性別適合手術もしていても戸籍上でしっかり男性なのに、でも生まれてきた性別は女だね？とか何を言ってもいろんな事を言ってくる人たちがいるというのが現状で、その人たちに何を言っても変わらないと思うけど、その中には性同一とかそういう事を知らずに心ない事を言うてしまうって人も少なからず居ると思うからもっとこういう事をたくさんの人に知ってもらうことが大切だなと思ったし知ってもらいたいと思いました。もっとそういう教育？を増やして欲しい。将来こういうことの仕事につくかは分からないけど、どこかで助けられる人になりたい。	1
女性	自分が好きなようにやる事が大切で周りはその人の事を尊重した方がいいと思う カミングアウトをされても、普段通り接するのが1番だと思う	1
男性	アライになることが大切	1
女性	好きなように生きればいいと思う。自分自身LGBTには属さないからあまり関心や思うことがないが、それに属す人は好きなように生きていい。	1
その他	私は、男ですが、正直今の学校生活が好きではないです。昔に比べたらLGBTQが認められてはいるけど、私たちの辛さも分からない人たちに陰口などを言われまだ完全には認められていないからです。私が望むのは、私や僕などの一人称の自由、服や、好きな色などの自由、これが少しずつ認められるそんな世界が望ましいです。でも、みんな考え方は違います。否定するなどは言いませんが口にするなど言いたいです。今も性別で悩む人生を断とうとする人だっています。私も一時期みんなとの違いで命を断とうとしたことがあります。生まれてきて、みんなに人権があります。どうかこの人権を否定するな、と言いたいです。	1
その他		19
男性	楽しくいきましょー	1
男性	プロバスケット選手に俺はなる！	1
男性	金を稼ぐ	1
男性	そんな世の中になったのが残念でもあるし、いいこともある。どちらにせよいいことも悪いこともたくさん。でもその中で無理がある主張を出すのは違うと思ってる。	1
女性	女の子らしくしてると、男子からは高評価だが、女子からはぶりっ子などと思われるので自分の性格を隠さないといけないということが正直辛い。無理をしないといけないから。	1
男性	将来なりたいものになれるかちょっと心配です	1
男性	笑顔をつくり合う。	1
男性	弟を幸せにしたい	1
女性	私は、将来、幼稚園教諭になって結婚して子供を産みたいです。その為、友達などコミュニケーション能力が必要なんですが今のクラスは普通に「死ぬ」「殺すぞ」「黙れ」「ゴミ」「バカ」「アホ」などの暴言が多い為私は日々権利を侵害されております。そして彼らはいじめられたことがないので普通に「いじめられた方が悪い」と言います。このままでいいのでしょうか。	1
男性	家事育児は男である自分が全てやっていきたい	1
男性	男性と女性の進路はどうするべきか	1
男性	テニスをしたい。	1
男性	将来は、ユウチュウバーになること	1
女性	誰を好きになって、誰から好かれるのは自由だと思う。周りにも自分の好きな人と好きなように関わっている人は決して少ないわけではないから	1
男性	ありがとうございました。	1
女性	どうしても、男性と女性で違うイメージがあった	1
その他	女か男か決めつけんなー！	1
男性	野球選手	1
男性	将来の夢は店を建てること。パティシエがいいなー。自分の行きたいように生きるそれが大事	1

豊田市男女共同参画社会に関する意識調査のお願い

日ごろは、市政にご理解とご協力をいただきありがとうございます。
本調査は、市民の皆様のお考えや日常生活における状況をお聞きし、今後の男女共同参画施策の基礎資料とするものです。
つきましては、市内にお住いの18歳以上の方の中から4,000人を無作為に選ばせていただき、調査票を送らせていただきます。調査票に個人のお名前を記入いただく項目は一切ありません。また、ご回答については統計のみに活用し、調査目的以外に使用することはありません。
お忙しいところ大変恐縮ですが、ご協力をお願い申し上げます。

令和5年9月

豊田市長 太田 稔彦

回答方法について

- ◆アンケートは、封筒の宛名のご本人がお答えください。
- ◆ご本人が長期で不在の場合や、その他の事情（病気など）で回答できない場合は、お手数ですが調査票を廃棄していただきますようお願いいたします。
- ◆回答は、アンケート用紙のあてはまる番号を○で囲んでください。設問ごとに「○は1つ」「○は3つまで」など指定しておりますので、その数に応じてご回答ください。
- ◆その他にあてはまる場合は、（ ）の部分に具体的な内容をご記入ください。

＜回答方法① 郵送での回答の場合＞

- ・ご回答いただいたアンケート用紙を同封の返信用封筒に入れ、回答期限までに郵便ポストへ投函してください（切手は不要です）。

＜回答方法② Webでの回答の場合＞

- ・この調査はパソコンやスマートフォンでも回答することができます。
- ・URLまたは二次元コードからWebページにアクセスしてください。
- ・下記IDとパスワードを入力し、回答期限までにご回答ください。
- ・回答を途中で中断して一時保存し、続きから再開することも可能です。

URL: <https://src.webcas.net/form/pub/src/23211d1>

ID	gt0001	パスワード	x8wj2n
----	--------	-------	--------

＜回答期限＞ 令和5年 10月 20日(金)



豊田市の男女共同参画施策について詳しく知りたい方は

豊田市 クローバープラザ	検索
--------------	----

【お問い合わせ先】

とよた男女共同参画センター（キラリ☆とよた）
豊田市小坂本町 1-25 豊田産業文化センター2階
電話：0565-31-7780
FAX：0565-31-3270

V. アンケート調査票（市民）

あなたが自身のことについてご記入ください。

※9月27日現在の状況をお答えください

F1 あなたの性別（○は1つ）

1 女性	2 男性	3 その他
------	------	-------

F2 あなたの年齢（○は1つ）

1 18・19歳	2 20歳代	3 30歳代	4 40歳代
5 50歳代	6 60歳代	7 70歳以上	

F3 あなたは現在結婚していますか。（○は1つ）

1 結婚している（内縁を含む）	2 結婚していない
3 結婚していたが、離婚・死別した	4 その他（ ）

F4 家族構成（○は1つ）

1 1人暮らし	2 夫婦・パートナーのみ
3 2世代家族（親とその子ども（未婚）の世帯）	4 2世代家族（親と子ども夫婦の世帯）
5 3世代家族（親とその子ども（既婚）と孫の世帯）	6 その他の世帯（1～5いずれにも該当しない）

F5 あなたの職業（○は1つ）

1 会社員	F5-2 職場におけるあなたの立場（○は1つ）		
2 公務員	1 経営者・役員	2 部長・課長級管理職	3 一般職
3 自営業・家業（農業含む）			
4 派遣・請負社員	F5-3 将来どのように働きたいですか。（○は1つ）		
5 パート・アルバイト・嘱託など	1 正社員	2 契約社員や派遣	3 パート・アルバイト
6 専業主婦・専業主夫	4 自営業（家業）	5 その他（ ）	
7 学生	6 働くつもりはない	7 わからない	
8 無職			
9 その他（ ）			

【F3で「結婚している（内縁を含む）」と回答された方にお伺いします】

F6 夫婦の働き方（○は1つ）

1 共働き	2 共働きでない	3 その他（ ）
-------	----------	----------

F7 あなたと同居しているお子さんはいいますか。（○は1つ）

1 い	2 いない
-----	-------

【お子さんの方にお伺いします】

F7-2 一番下のお子さんの年代（○は1つ）

⇒ 1 未就学児	2 小学生	3 中学生	4 高校生以上
----------	-------	-------	---------

あなたご自身の日常生活や考え方などをお伺いします。日頃、感じているままにご回答ください。

男女平等観について

問1 ①～⑧の分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。(○はそれぞれ1つ)

	優越している	女性の方が優越している	平等である	男性の方が優越している	男性の方が優越している	わからない
① 家庭生活	1	2	3	4	5	6
② 職場	1	2	3	4	5	6
③ 学校教育の場*	1	2	3	4	5	6
④ 政治の場	1	2	3	4	5	6
⑤ 法律や制度	1	2	3	4	5	6
⑥ 社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6
⑦ 地域活動の場	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体	1	2	3	4	5	6

*「③ 学校教育の場」とは、授業や学校生活など学校の環境全体とお考えください。

子どもの育て方について

問2 「女の子は女らしく、男の子は男らしく」という子どもの育て方について、あなたはどのように考えますか。(○は1つ)*お子様がいなくても回答してください。

- 1 女らしさ、男らしさととらわれず、育てた方がよい
- 2 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい
- 3 どちらともいえない

問3 あなたは、これからの子どもに対し、どのようなことを身につけてほしいと思いますか。
(お子様がいなくても回答は、いると仮定して <女の子の場合> <男の子の場合>について、それぞれあてはまる番号3つまで○をつけてください。男女同じ番号を選んで構いません。)

<女の子の場合>

1 コミュニケーション力	2 決断力・課題解決力	3 教養・知性
4 優しさ・思いやり	5 豊かな感性	6 礼儀・道徳心
7 自立心・独立心	8 経済力	9 明るさ・素直さ
10 国際感覚	11 責任感	12 学歴

<男の子の場合>

1 コミュニケーション力	2 決断力・課題解決力	3 教養・知性
4 優しさ・思いやり	5 豊かな感性	6 礼儀・道徳心
7 自立心・独立心	8 経済力	9 明るさ・素直さ
10 国際感覚	11 責任感	12 学歴

男女の関わりについて

問4 男女の関わりに関する以下の考え方や行動について、あなたはどのように考えますか。

- (1) ①～⑪について、あなたはどのように考えますか。((1)考え方)欄から、○はそれぞれ1つ)
- (2) ①～⑪について、あなたは実際にどのように行動していますか。((2)実際の行動)欄から、○はそれぞれ1つ)

	【(1)考え方】				【(2)実際の行動】					
	賛成	賛成からかといえ	反対からかといえ	わからない	そうしている	そうしかないとはいえない	そうしかないとはいえない	そうしない		
① 結婚をしてもそれぞれ自分名義の財産を持つ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
② 子育ては女性も男性も協力して行う	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
③ 男性も家事をきちんとする	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
④ 「女は家庭・男は仕事」という考えをもつ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑤ 「女は女らしく、男は男らしく」にする	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑥ 女性は仕事を持っても家事・育児もきちんとする	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑦ 女性は自分のことより家族のことを優先する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑧ 男性は家庭や地域のことより仕事を優先する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑨ 老親などの介護は男性より女性がする	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑩ 女性も積極的な仕事をする	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑪ 女性も積極的に地域活動に参加する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

家庭や地域における男女の役割分担や考え方について

問5 家庭における夫婦の役割分担について、お伺いします。

- (1) 【全ての方にお伺いします】①～⑥に示す各場面、夫婦のどちらが役割を担う方がいいと思いますか。((1)理想)欄から、○はそれぞれ1つ)
- (2) 【結婚している方にお伺いします】あなたの家庭では、①～⑥に示す各場面、実際に夫婦のどちらが役割を担っていますか。((2)現状)欄から、○はそれぞれ1つ)

	全ての方 【(1)理想】						結婚している方 【(2)現状】					
	行走の事がよい	行走の事がよい	行走の事がよい	その他	主には妻が行う	主には夫が行う	行走の事がよい	行走の事がよい	行走の事がよい	その他	主には妻が行う	主には夫が行う
① 家事全般 (食事、洗濯、掃除等)	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
② 家計の管理	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
③ 子育て全般	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
④ 老親などの世話・介護	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
⑤ 地域活動への参加	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
⑥ 生活費を稼ぐ	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4

【全ての方にお伺いします】

問6 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- 男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすること
- 男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすること
- 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
- 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
- 社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高めること
- 男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
- 労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及すること、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
- 男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと
- 男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）づくりを進めること
- その他（ ）
- 特に必要なことはない

問7 あなたは現在、家庭の外で（仕事以外に）何か活動をしていますか。(○はいくつでも)

- グループや団体に属して、ボランティア活動やまちづくり活動を行っている
- 個人でボランティア活動やまちづくり活動を行っている
- P T Aの役員・委員を行っている
- 自治会、女性団体などの地域活動を行っている
- スポーツサークル活動を行っている
- スポーツ以外の趣味活動、文化・教養・学習活動を行っている
- 活動していない

問8 地域活動における男女の役割分担についてお伺いします。

- (1) ①～③について、地域活動の現状はどのようになっていると思いますか。
- (2) 今後のあり方をどのように考えますか。((1)(2)ともに○はそれぞれ1つずつ)

	【(1)現状】				【(2)今後のあり方】			
	そうしている	そうしていない	どちらでもない	わからない	当然だと思う	仕方ない	改善すべき	わからない
① 催し物の企画などは主に男性が決定する	1	2	3	4	1	2	3	4
② 地域活動は男性が取り仕切る	1	2	3	4	1	2	3	4
③ 自治会の集会の時には、女性がお茶くみや片づけをしている	1	2	3	4	1	2	3	4
④ 女性は役職につきながらいない	1	2	3	4	1	2	3	4
⑤ 自治会の集会では、男性が上座に座る	1	2	3	4	1	2	3	4
⑥ 女性が発言することは少ない	1	2	3	4	1	2	3	4
⑦ 自治会の組長などの登壇は男性(夫)だが、実際は女性(妻)が出席することが多い	1	2	3	4	1	2	3	4
⑧ 実質的な活動はほとんど女性が参加する	1	2	3	4	1	2	3	4

防災における男女共同参画について

問9 防災における男女共同参画を進めるため、防災に関する女性の参画について、どのようなことが必要だと思いますか。(○は1つ)

- 1 防災の政策・方針決定の場での女性の参画
- 2 避難所の運営など、防災の現場での女性の参画
- 3 防災の政策・方針決定の場及び避難所運営などの現場での女性の参画
- 4 防災に関する女性の参画は必要ない
- 5 その他 ()

問10 災害時の避難所運営について、男女共同参画の観点からあなたはどのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

- 1 避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること
- 2 男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること
- 3 生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること
- 4 女性は炊き出し、男性は力仕事といった固定的な性別役割分担意識を解消すること
- 5 女性及び男性が抱えた悩みや避難所生活上の問題を受け付ける窓口を設置すること
- 6 性暴力等の被害を発生させないための取組及び被害者へのケア体制を充実させること
- 7 その他 (具体的に：)
- 8 避難所運営は緊急時なので男女共同参画の観点での配慮は難しい
- 9 わからない

職場における男女の役割分担や考え方について

問11 一般的に、女性が仕事を持つことについて、あなたはどのようなことを考えますか。(○は1つ)

1 女性は仕事を持たなくてもよい	} 問12,14へ
2 結婚するまでは仕事を持つ方がよい	
3 子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい	} 問12,13,14へ
4 子どもができた後仕事をやめ、大きくなくたら再び仕事を持つ方がよい	
5 子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい	→ 問13,14へ
6 その他 (具体的に)	→ 問14へ

【問11で1～4と回答された方にお伺いします】

問12 仕事をしない方がよいと考える理由は何ですか。(○は3つまで)

- 1 結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がよいと思うから
- 2 結婚・出産後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから
- 3 仕事することについて家族の理解が得られないと思うから
- 4 子育て期は、会社に負担をかけることが多いと思うから
- 5 経済的な理由がなければ、働く必要はないと思うから
- 6 パートナーの勤務形態 (夜勤・変則勤務) により、家庭と仕事を両立させるのは困難だと思うから
- 7 自分の親や周囲の人がそうしているから
- 8 特に考えたことはない
- 9 その他 ()

【問11で3～5と回答された方にお伺いします】

問13 結婚・出産後に女性が仕事をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

- 1 育児職者の再雇用制度
- 2 育児休業制度の充実 (育児休業期間の延長、休業中の社会保障、経済保障など)
- 3 柔軟な働き方ができる制度の導入 (在宅勤務や短時間労働など)
- 4 就学前の子どもの対象とした保育の充実 (保育施設の増設や開設時間の延長など)
- 5 小学生を対象とした保育の充実 (放課後児童クラブの増設や対象年齢の上限引き上げなど)
- 6 男性の育児休業取得の普及・促進
- 7 家庭における男性の家事・育児参加の促進
- 8 その他 ()

【現在働いている方にお伺いします】⇒それ以外の方は、問15にお進みください。

問14 あなたの職場では、性別によって、どのような違いがありますか。(○はいくつでも)

- 1 賃金に格差がある
- 2 昇進・昇格に差がある
- 3 お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る
- 4 トイレ、更衣室などの社内設備に差がある
- 5 セクシュアル・ハラスメント (セクハラ) を受けやすい
- 6 教育訓練の機会に差がある
- 7 雇用形態に差がある (女性はパートのみ・正社員採用が少ないなど)
- 8 その他 ()
- 9 性別による違いはない
- 10 わからない

ワーク・ライフ・バランスについて

問 15 育児・介護休業法の改正により、令和4年10月に「産後/育児（出生時育児休業）制度」が創設されました。あなたはこのことをご存知ですか。（○は1つ）

1 制度の内容まで知っている
2 名前は知っている
3 知らない

問 16 あなたは、仕事と育児の両立、仕事と介護の両立について、どのように考えますか。

(1)育児 と(2)介護 のそれぞれについて、○は1つ
*仕事や育児・介護をしていない人は、そのような状況に直面した場合を想定してお答えください。

	(1)育児	(2)介護
1 できるだけ両立したい	1	1
2 配偶者・親族に任せて、仕事を続けたい	2	2
3 仕事は続けたいが、直面する状況になったら仕事を辞めるしかない	3	3
4 仕事より優先するので、仕事を辞める	4	4
5 わからない	5	5

問 17 あなたは、育児休業制度、介護休業制度の利用について、どのように考えますか。

(1)育児 と(2)介護 のそれぞれについて、○は1つ

	(1)育児	(2)介護
1 必要とする機会があれば利用したい・利用すればよい	1	1
2 給与や昇進・昇格等に影響しない程度なら利用したい・利用すればよい	2	2
3 必要とする機会があっても利用しない・利用しないほうがよい	3	3

問 18 あなたが働いている（いた）職場では、ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）について、どのような雰囲気がありますか。（○は1つ）

1 積極的に支援する雰囲気がある
2 大変だが支援しているという雰囲気がある
3 特に支援しているという雰囲気はない
4 その他（
5 今までに就労経験がないので、わからない

女性の活躍推進について

問 19 今後、女性に政策や方針を決定していくような場へもっと参画していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。（○はいくつでも）

1 家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識を改める
2 男性優位の組織運営を改める
3 女性に対して、家族の支援・協力が得られるようにする
4 女性の能力を向上させる機会を増やす
5 女性の活動を支援するネットワークをつくる
6 女性の参画を積極的に進めようと考えようとする人を増やす
7 女性・男性両方の意識を高め、偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改善する
8 法律、制度を見直す
9 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させる
10 一定の割合で女性を登用するような制度を導入する
11 特にない
12 その他（
13 わからない

問 20 企業において、一般的には女性管理職が少ないと言われていますが、その理由は何だと思われますか。（○はいくつでも）

1 知識や経験・判断力があっても適正な評価がされていない
2 能力開発・研修機会が男女平等でない
3 女性を管理職にする社風がない
4 役職者になるまでに退職してしまう
5 時間外労働・深夜業・出張・転勤等に対応できない
6 一般的に社会が女性管理職を嫌がる風潮がある
7 家庭で果たす役割が依然として大きく、責任のある仕事が多い
8 評価されていていても本人が管理職（責任ある立場、決定する立場）になることを希望しない
9 わからない
10 その他（

DVについて

問 21 あなたは、豊田市に配偶者などからの暴力や、夫婦間・恋人間の問題について相談できる窓口があることを知っていますか。(○は1つ)

1 知っている	2 知らない
---------	--------

問 22 あなたがドメスティック・バイオレンス（配偶者・同居人からの暴力）だと思うものはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

1 身体的なもの (なぐる、ける、髪をひっぱる、物を投げつける など)
2 精神的なもの (大声でどなる、無視する、人と付き合うのを制限する、大切なものを壊す など)
3 性的なもの (性行為を強要する、避妊に協力しない、見たくないポルノビデオ等をみせる など)
4 経済的なもの (生活費を渡さない、外で働くことを妨害する など)
5 どれも知らない・わからない

問 23 あなたはこれまでに、配偶者（事実婚や別居を含む）や恋人から次のようなことをされたことがありますか。(○はそれぞれ1つ)

項目	何度も あった	1、2度 あった	まった くない
① なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり するなどの身体に対する暴力を受けた	1	2	3
② 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなど の精神的な嫌がらせを受けた あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられる のではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	1	2	3
③ 生活費を渡さない、給料や貯金を勝手に使われる、外で働く ことを妨害されるなどの経済的圧迫を受けた	1	2	3
④ いやがっているのに性的な行為を強要された、見たくない ポルノ映像等を見せられた、避妊に協力してもらえなかった	1	2	3

【問 23①～④のいずれかで「何度もあった」もしくは「1、2度あった」と回答した方にお伺いします。】

問 24 あなたが受けた行為について、だれ（どこ）かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○は1つ)

1 相談した
2 だれ（どこ）にも相談しなかった ⇒ 問 24-3へ

【問 24で「1 相談した」と回答した方にお伺いします。】

問 24-2 実際にだれ（どこ）に打ち明けたり相談したりしましたか。(○はいくつでも)

1 警察
2 愛知県女性相談センター
3 市役所
4 女性のための電話相談室クローバーコール・男性のための電話相談室メンズコールとよた
5 民間の専門家（弁護士・カウンセラーなど）や専門機関、相談機関
6 医療関係者（医師・看護師など）
7 学校関係者（教職員、養護教諭、スクールカウンセラーなど）
8 友人・知人
9 家族・親戚
10 その他（具体的に)

⇒ 問 25へ

【問 24で「2 だれ（どこ）にも相談しなかった」と回答した方にお伺いします。】

問 24-3 相談をしなかった理由は何ですか。(○はいくつでも)

1 だれ（どこ）に相談してよいか分からなかったから
2 世間体が悪い（恥ずかしくてだれにも言えなかった）から
3 相談しても分かってもらえないと思ったから
4 相談したことが分かると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
5 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
6 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
7 家族に心配をかけたため、他人を巻き込みたくなかったから
8 そのことについて悪い出し出たくなかったから
9 自分にも悪いところがあると思ったから
10 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
11 相手が反省をしていたから
12 相談するほどのことではないと思ったから
13 その他（具体的に)

【全ての方にお伺いします】

問 25 あなたは、配偶者や恋人からの暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。(○はいくつでも)

1	メールによる相談ができる
2	チャット、SNS などによる相談ができる
3	電話による相談ができる
4	通話料が無料
5	24 時間相談ができる
6	医療費、カウンセリング費用、弁護士費用などについて、無料で支援が受けられる
7	相談内容に関する、他の窓口との連携が行われる
8	同性の相談員がいる
9	匿名で相談ができる
10	弁護士など、法的知識のある相談員がいる
11	臨床心理士、公認心理士など、心理専門職の相談員がいる
12	DV や性暴力に関する専門の相談員がいる
13	その他 (具体的に)

問 26 女性に対する暴力の根絶を図るため、あなたが対策が必要だと考えるのはどれですか。

(○はいくつでも)	
1	配偶者や元配偶者などからの暴力、いわゆる DV
2	交際相手からの暴力、いわゆるデート DV
3	つきまといや待ち伏せなどのストーカー行為
4	強制的性交等や強制わいせつ、痴漢、盗撮などの、性犯罪や性暴力
5	児童買春や性的虐待、児童ポルノなど、こどもに対する性犯罪や性暴力
6	売春や買春
7	暴力や脅迫などの手段で売春や労働を強要される、人身取引
8	セクシュアルハラスメント、いわゆるセクハラ
9	テレビや雑誌、ゲーム、ビデオ、インターネットなどの性表現や暴力表現
10	インターネットや SNS を介した出会いをきっかけとした性被害
11	アダルトビデオ出演被害やリベンジポルノなど、本人の意に反した性的な映像の流布

性的マイノリティについて

問 27 次の言葉の中で、あなたが知っている、または聞いたことがあるものはどれですか。
(①～⑤についてそれぞれ○を 1 つ)

	おおよその 内容まで 知っている	聞いたことは ある	聞いたこと がない	
①	LGBTQ (性的少数者の総称のひとつ)	1	2	3
②	SOGI (性的指向、性自認の英訳の頭文字を取った、人の属性を表す略称。すべての人が対象)	1	2	3
③	カミングアウト (本人が自分の性的指向や性自認を表明すること)	1	2	3
④	アウトティング (本人の同意を得ずに、公にしていない本人の性的指向や性自認の秘密を第三者に話してしまうこと)	1	2	3
⑤	アライ (多様な性のあり方を理解し応援する人)	1	2	3

問 28 あなたは今までに自分の身体の性、心の性または性的指向 (同性愛など) に悩んだことはありますか。(○は 1 つ)

1	はい
2	いいえ

問 29 現在、性的マイノリティ (または LGBTQ) の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いませんか。(○は 1 つ)

1	思う
2	どちらかと言えば思う
3	どちらかと言えば思わない
4	思わない
5	わからない

【問 29 で「1 思う」「2 どちらかと言えば思う」と回答された方にお伺いします】

問 29-2 性的マイノリティ (または LGBTQ) の方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。(○は 3 つまで)

1	行政による市民への周知啓発活動の実施
2	行政職員や小中高校などの教職員に対する研修の実施
3	相談窓口や当事者同士が話せる場所の充実
4	児童・生徒に対する教育の充実
5	偏見や差別解消等を目的とする、法律や条例等の整備
6	誰もが働きやすい職場環境づくりの取り組み
7	活動団体の支援
8	その他 (具体的に :)
9	わからない

男女共同参画社会実現に向けた豊田市の取組について

問 30 下の ①～⑯ におけた豊田市の実施している取組（事業）について、あなたはどのようなに感じますか。①～⑯について、○はそれぞれ1つ）

	満足	どちらか	不満	知らない
出産・子育て	1	2	3	4
① 妊婦の健康に対する取組	1	2	3	4
② 男性の育児参加促進への取組（父親向け育児講座の開催など）	1	2	3	4
③ 保育サービスなど子育て支援の充実	1	2	3	4
④ 家庭における男性の家事・育児参加の促進	1	2	3	4
⑤ 男女共同参画に関する学習機会の創出	1	2	3	4
⑥ 地域活動における男女共同参画の促進（不平等な役割分担をなくすなど）	1	2	3	4
⑦ 自治区役員や地域会議委員など意思決定の場への女性の登用	1	2	3	4
⑧ 女性リーダーの養成など人材育成の推進	1	2	3	4
⑨ ドメスティック・バイオレンス（DV）の理解促進や解消への取組	1	2	3	4
⑩ 高齢者の健康やいきがいくくりへの取組	1	2	3	4
⑪ セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）の理解促進や解消への取組	1	2	3	4
⑫ 職場における男女平等な環境づくり	1	2	3	4
⑬ ワーク・ライフ・バランスの理解促進（労働時間短縮、休暇制度の普及など）	1	2	3	4
⑭ 女性の就労支援（継続就労・キャリアアップ、離職中の支援など）	1	2	3	4
⑮ 多様な働き方の1つとしての起業の相談・支援	1	2	3	4
⑯ 家庭や職場における、男女のこころとからだの健康に対する取組	1	2	3	4
総合	1	2	3	4
① 男女共同参画社会づくりのための取組（意識啓発・市民活動の支援など）	1	2	3	4
② 女性のさまざまな悩みを気軽に相談できる相談体制の充実	1	2	3	4

問 30-2 問 30 の ①～⑯ の取組のうち、豊田市の男女共同参画社会の実現において重要だと思うものを5つ以内で選び、①～⑯ の番号をご記入ください。

記入欄					
-----	--	--	--	--	--

問 31 5年前と比べて、世の中の変化や豊田市の取組などによって、あなたご自身や家族の男女共同参画に関する理解が深まったと思いますか。（○は1つ）

1 思う	2 思わない
------	--------

豊田市が進める男女共同参画社会づくりの取組についてご意見等がございましたらご記入ください。

男女共同参画に関する施策に関心を持たれた方は、とよた男女共同参画センター（キラックとよた）のホームページをご覧ください。（<https://clover-toyota.jp/>）

これでアンケートは終了です。ご協力いただきありがとうございました。

本アンケート用紙は、同封の返信用封筒に入れて 10月20日(金)までに切手をはらずに投函ください。

VI. アンケート調査票（中学生）

男女共同参画に関する中学生意識調査
《アンケートご協力をお願いします》

中学2年生の皆さん、こんにちは。
豊田市では、だれもが性別に関わらず、いきいきと輝いて暮らすことのできるまちをめざして、「とよた男女共同参画プラン」をつくっています。
今回、豊田市内の中学校に通う皆さんに、普段の生活や将来のことなどをお聞きし、計画をより良いものにするための資料にしたいと考えています。
ぜひ、アンケートにご協力をお願いします。

令和5年12月

- 1 このアンケートはテストではありません。
2 あなたの名前を書く必要はありません。
3 あなたの個人の名前が出たり、意見が洩れたりすることは決してありませんので、安心してお答えください。
4 質問に対しては、それぞれの説明にしたがって、あてはまる項目の番号を選んでください。
5 「その他」を選んだ場合は、() の中に自分の考えを書いてください。
6 質問によっては、回答者が限られる場合がありますので、矢印や説明にしたがって最後までお読みください。
7 意味のわからない質問や答えたくない質問があったときは、その質問をとばして先に進んでください。

あなた自身のことについて

問1 あなたの性別をお答えください。(1つだけ選んでください)

1 女	2 男	3 その他
-----	-----	-------

問2 現在、だれと一緒に住んでいますか。仕事の関係等で、一時的に離れて暮らしている人も含みます。(あてはまるもの全てを選んでください)

1 母親	2 父親	3 姉妹	4 兄弟
5 祖母	6 祖父	7 その他 ()	

男女共同参画社会について

問3 あなたは、次の場面で男女は平等になっていると思いますか。

((1) から (3) について、それぞれ1つずつ選んでください)

	優女 先性 されて いる	優女 と 先性 の か い え ば	平 等	優男 と 先性 の か い え ば	優男 先性 され て い る	わ か ら な い
(1) 家庭で	1	2	3	4	5	6
(2) 学校生活で	1	2	3	4	5	6
(3) 社会全体で	1	2	3	4	5	6

問4 あなたは、次にあげる言葉を知っていますか。

((1) から (5) について、それぞれ1つずつ選んでください)

	知っている	内容は知らないが、聞いたことはある	知らない
(1) 男女雇用機会均等法	1	2	3
(2) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3
(3) 女性活躍推進法	1	2	3
(4) ドメスティック・バイオレンス（DV）	1	2	3
(5) ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）	1	2	3

普段の生活について

問5 あなたは、「女だから〇〇しないさ」や「男だから〇〇しないさ」と言われたことがありますか。(1つだけ選んでください)

- 1 よく言われる
2 ときどき言われる
3 あまり言われない
4 言われたことがない

＜問5で「1 よく言われる」「2 ときどき言われる」を選んだ人だけ答えてください。＞

問5-2 その時、どんな気分でしたか。(1つだけ選んでください)

- 1 嫌な気分だった
2 そのとおりだと思った
3 何とも思わなかった
4 その他(具体的に)

＜引き続き問5で「1 よく言われる」「2 ときどき言われる」を選んだ人だけ答えてください。＞

問5-3 どんなことで言われましたか。(あてはまるものを全てを選んでください)

- 1 手伝いをしないとき
2 言葉づかいが悪いとき
3 服装・身だしなみが悪いとき
4 整理整頓ができていないとき
5 行儀が悪いとき
6 運動をしないとき
7 勉強をしないとき
8 げんかをしたとき
9 泣いたとき
10 見ているテレビ番組や本・マンガなどについて
11 遊びの内容について
12 友人について

＜引き続き問5で「1 よく言われる」「2 ときどき言われる」を選んだ人だけ答えてください。＞

問5-4 あなたにそれと言ったのはだれですか。(あてはまるものを全てを選んでください)

- 1 母親
2 父親
3 祖母
4 祖父
5 姉妹
6 兄弟
7 親戚のおばさん
8 親戚のおじさん
9 友人(女子)
10 友人(男子)
11 女の先生
12 男の先生
13 近所のおばさん
14 近所のおじさん
15 その他の人(だれ)

※全ての人にお聞きします。

問6 あなたは家の中の手伝いをどれくらいしていますか。(①～⑤について、それぞれ1つずつ選んでください)

	よくしている (一週間に1回以上)	時々している (一月に1回以上)	あまりしていない・ していない
① 掃除	1	2	3
② 洗濯	1	2	3
③ 食事のしたく	1	2	3
④ 食事の後片づけ	1	2	3
⑤ 風呂の掃除	1	2	3

問7 あなたは家の中で、次のようなことはだれがやるのがいいと思いますか。

(①～⑦について、それぞれあてはまるものを全て選んでください)

	母親	父親	子ども	祖母	祖父	その他
① 食事のしたく	1	2	3	4	5	6
② 食事の後片づけ	1	2	3	4	5	6
③ ゴミ出し	1	2	3	4	5	6
④ 掃除	1	2	3	4	5	6
⑤ 洗濯	1	2	3	4	5	6
⑥ お金を稼ぐ	1	2	3	4	5	6
⑦ 子どもの世話をする	1	2	3	4	5	6

問8 あなたは、「女は家庭を守り、男は仕事をすべきだ」という考え方について、どう思いますか。(ひとつだけ選んでください)

- 1 賛成
2 どちらかといえば賛成
3 どちらかといえば反対
4 反対
5 わからない

問9 あなたは、次のことについてどう思いますか。

((1) から (4) について、それぞれ1つずつ選んでください)

	そう 思う	そう 思うか いえない	どちら かわか らない	そう 思う	そう 思うか いえない	どちら かわか らない	分 か ら な い
(1) 学校の係の中で女子向き・男子向きの 係がある	1	2	3	4	5	6	6
(2) 学級委員長、生徒会長は男子に向いて いる	1	2	3	4	5	6	6
(3) 教室のそうじや整理整頓は女子に向 いている	1	2	3	4	5	6	6
(4) 授業の中で女子が得意・男子が得意な 科目がある	1	2	3	4	5	6	6

仕事・将来について

問10 あなたは、将来どの学校まで行きたいと思いますか。(1つだけ選んでください)

1 中学校まで	2 高等学校まで
3 専門学校(各種学校)まで	4 短期大学まで
5 4年制大学まで	6 大学院(6年制大学をふくむ)まで
7 その他()	8 まだ決めていない・わからない

問11 あなたは、女性が仕事をすることについてどう思いますか。(1つだけ選んでくだ
さい)

1 仕事をもたない方がよい	2 結婚するまでは仕事をもつ方がよい
3 子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい	4 子どもができても、ずっと仕事を続ける方がよい
5 子どもができたら仕事をやめ、大きくなくなったら再び仕事をもつ方がよい	
6 その他()	

問12 あなたは、多様性に関する次の言葉を知っていますか。(それぞれ1つずつ選んでください)

	おおよそ 内容まで 知っている	聞いたこと はある	聞いたこと はない
① L G B T Q (性的少数者の総称のひとつ)	1	2	3
② S O G I (性的指向、性自認の英語の頭文字を 取った、人の属性を表す略称。全ての人が対象)	1	2	3
③ カミングアウト(本人が自分の性的指向や 性自認を表明すること)	1	2	3
④ アウティング(本人の同意を得ずに、公にしていな い本人の性的指向や性自認の秘密を第三者に話し てしまうこと)	1	2	3
⑤ アライ(多様な性のあり方を理解し応援する人)	1	2	3

問13 あなたが最近、性的少数者(LGBTQ)に関して情報を見聞きしたのはどこですか。
(あてはまるものを全てを選んでください)

1 家族	2 当事者	3 学校
4 テレビ(報道・教養番組)	5 テレビ(娯楽番組)	6 テレビドラマ・映画
7 新聞	8 雑誌・本	9 マンガ
10 インターネット(SNS等)	11 ラジオ	12 見聞きしていない
13 その他(具体的に:)		

問14 あなたは、身近な人(家族、友人)から性的少数者(LGBTQ)であることを打ち明け
られたらどうしますか。(それぞれ1つずつ選んでください)

家族の場合 (○は1つ)	友人の場合 (○は1つ)
1 本人が生きたいように手助けする	1 本人が生きたいように手助けする
2 今までどおり関わる	2 今までどおり関わる
3 関わりを少なくする	3 関わりを少なくする
4 関わりをやめる	4 関わりをやめる
5 その他(具体的に:)	5 その他(具体的に:)

デートDV※について

※デートDVとは、付き合っている相手からの暴力行為のことです。

ただいたり蹴ったりすることだけでなく、無視をすること、友達との関係を制限するこ
と、勝手にメールやSNSでのやり取りをチェックすること、嫌がっているのに体にさ
わったりすることなども含まれます。

問15 あなたは、「デートDV」という言葉を知っていましたか。(1つだけ選んでください)

1 言葉も意味も知っていた
2 言葉は聞いたことがあったが、意味は知らなかった
3 言葉も意味も知らなかった、聞いたことがなかった

男女共同参画に関連して、あなたの身近なこと、将来のことなど自由に書いてください。

これでアンケートは終わりです。
ご協力ありがとうございました。

令和5年度
豊田市男女共同参画社会に関する市民意識調査
報告書
令和 6 年 3 月発行

発行 豊田市役所 生涯活躍部 市民活躍支援課
とよた男女共同参画センター
〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町 1-25
豊田産業文化センター2階
TEL:0565-31-7780
FAX:0565-31-3270